



iVMS-4200 クライアントソフトウェア

法律情報

ユーザーマニュアル

©2018 Hangzhou Hikvision Digital Technology Co., Ltd.

本マニュアルについて

本マニュアルは、国内外の著作権法により保護されています。Hangzhou Hikvision Digital Technology Co., Ltd（以下、「Hikvision」という）は、本マニュアルのすべての著作権を保有します。Hikvision の事前の書面による許可なしに、本マニュアルの一部または全部を複製、改変、翻訳、配布することはできません。

このユーザーズマニュアルは、専門家の指導の下で使用してください。

商標

HIKVISION 商標ならびにその他の Hikvision のマークなどは、Hikvision の財産であり、登録商標もしくは同様に Hikvision またはその関連企業専用です。本マニュアルに記載されているその他の商標はすべて各社の登録商標です。明確な許可なしに、このような商標にライセンス権を与えることはできません。

免責事項

適用する法律により許容される最大限の範囲において、HIKVISION は、本マニュアルに関して、商品性と特定の目的への適合性を含むがそれらに限定されず、明示または黙示を問わず、すべての保証を否認します。HIKVISION は、本マニュアルの用途、またはその中に含まれる情報の正確性、精度、信頼性について、保証したり、表明することはありません。本マニュアルの使用やその信頼性については、使用者の責任で行う必要があります。

インターネットアクセスを使用する製品については、その製品の使用は利用者自身がすべてのリスクを負います。HIKVISION はサイバー攻撃、ハッカーによる攻撃、ウイルス検査、その他インターネットリスクによる以上な動作、個人情報の漏洩、その他の損害に対して責任を負いません。しかし、HIKVISION は必要に応じて迅速な技術サポートを提供します。

監視についての法律は地域によって異なります。この製品を使用する前に、製品の使用が法律に準拠していることを確認するために、地域の関連法規をすべてご確認ください。

HIKVISION は本製品が違法な目的のために使用された場合でも、その責任を負いません。本マニュアルと適用される法律の間に矛盾がある場合には、法律が優先されます。

記号の規約

本説明書に使用されている記号は、次のとおりに定義されます。

記号	説明
 危険	回避しないと、死亡または重傷を招くおそれがある危険な状況を示します。
 注意	回避しないと、機器の損傷、データ損失、パフォーマンスの低下、または予期しない結果につながるおそれがある、潜在的に危険な状況を示します。
 注記	本文の重要な点を強調または補足するための追加情報を提供します。

目次

第 1 章 はじめにと概要	1
1.1 実行環境.....	1
1.2 コントロールパネルに表示されるモジュールをカスタマイズする	3
1.3 変更の概要	3
第 2 章 ユーザー登録とログイン	4
2.1 ユーザーの登録.....	4
2.2 ログイン.....	5
第 3 章 リソース管理.....	6
3.1 デバイスの追加.....	6
3.1.1 デバイスの有効化	6
3.1.2 オンラインデバイスの追加.....	8
3.1.3 IP アドレスまたはドメイン名によるデバイスの追加	12
3.1.4 IP セグメントでデバイスを追加する	13
3.1.5 Hik-Connect でデバイスを追加する	15
3.1.6 EHome アカウントでデバイスを追加する	16
3.1.7 シリアルポートでデバイスを追加する	17
3.1.8 IP サーバーでデバイスを追加する.....	17
3.1.9 HiDDNS でデバイスを追加する	19
3.2 デバイスのネットワーク情報の編集.....	20
3.3 デバイスのパスワードの復元/リセット	20
3.3.1 デバイスのパスワードのリセット	20
3.3.2 デバイスのデフォルトパスワードの復元	21
3.4 デバイスのオンラインユーザーを確認する	23
3.5 デバイスの QR コードを確認する	23
3.6 デバイスの一括インポート	24

3.7 デバイスのファームウェアバージョンのアップグレード.....	26
第4章 グループ管理.....	28
4.1 グループを追加する.....	28
4.2 リソースをグループにインポートする.....	28
4.3 チャンネルパラメータを編集する.....	30
4.4 チャンネルをグループから削除する.....	33
4.5 グループを削除する.....	33
第5章 ライブビュー.....	34
5.1 ライブビューの開始と停止.....	34
5.1.1 1台のカメラのライブビューの開始.....	34
5.1.2 カメラグループのライブビューを起動する.....	35
5.1.3 デフォルトビューモードでのライブビューの開始.....	36
5.1.4 カスタムビューの追加.....	37
5.1.5 カスタムビューモードでのライブビューの開始.....	37
5.1.6 ライブビューの停止.....	38
5.2 ライブビューでの自動切替.....	39
5.2.1 デフォルトビューでのすべてのカメラの自動切替.....	39
5.2.2 グループ内のカメラの自動切替.....	39
5.2.3 カスタムビューの自動切替.....	40
5.3 PTZ コントロール.....	40
5.3.1 プリセットの設定.....	41
5.3.2 巡回の設定.....	42
5.3.3 パターンの設定.....	43
5.4 手動による録画とキャプチャー.....	43
5.4.1 手動によるビデオ録画.....	43
5.4.2 ローカルビデオの表示.....	44

5.4.3 画像のキャプチャー.....	45
5.4.4 キャプチャー画像の表示	45
5.5 簡易再生.....	47
5.6 ウィンドウ分割のカスタマイズ.....	48
5.7 魚眼カメラのライブビュー.....	48
5.7.1 魚眼レンズモードでライブビューを実行する	49
5.7.2 魚眼レンズモードでの PTZ コントロール	49
5.8 マスタースレーブのリンケージを行う	51
5.8.1 マスタースレーブトラッキングルールを設定する	52
5.8.2 マスタースレーブトラッキングを有効にする	57
5.9 サーマルカメラのライブビュー.....	59
5.9.1 ライブビュー中に火源情報を表示する	59
5.9.2 ライブビュー画像に温度情報を表示する	60
5.9.3 手動で温度を測定する	60
5.10 その他の機能	64
第 6 章 リモートストレージ設定.....	65
6.1 DVR、NVR、またはネットワークカメラに画像とビデオを保存する	65
6.2 画像とビデオをストレージデバイスに保存する	67
6.2.1 ストレージサーバーを起動する	68
6.2.2 クライアントにストレージサーバーを追加する	68
6.2.3 ストレージサーバーの HDD をフォーマットする	69
6.2.4 ストレージ設定を構成する	70
6.3 録画スケジュールテンプレートを設定する	71
6.4 キャプチャースケジュールテンプレートを設定する.....	72
第 7 章 リモート再生.....	74
7.1 通常再生.....	74

7.1.1 再生用のビデオストリームに切り替える	76
7.1.2 ビデオファイルの検索	77
7.1.3 ビデオファイルを再生	78
7.2 アラーム入力の再生	78
7.2.1 ビデオファイルの検索	78
7.2.2 ビデオファイルを再生	79
7.3 イベント再生	80
7.3.1 ビデオファイルの検索	80
7.3.2 ビデオファイルを再生	81
7.4 ATM 再生	81
7.4.1 ビデオファイルの検索	81
7.4.2 ビデオファイルを再生	82
7.5 POS 再生	83
7.5.1 ビデオファイルの検索	83
7.5.2 ビデオファイルを再生	84
7.6 VCA 再生	85
7.7 同期再生	86
7.8 魚眼レンズの再生	87
第 8 章 ビデオファイルのダウンロード	89
8.1 ファイル別にダウンロードする	89
8.2 日付別にダウンロードする	89
8.3 タグ別にダウンロードする	91
8.4 日付別に複数のカメラをダウンロードする	92
第 9 章 イベントとアラーム	93
9.1 アラームの設定	93
9.1.1 モーション検知アラームを設定する	93

9.1.2	ビデオタンパリングアラームを設定する	95
9.1.3	ビデオロスアラームを設定する	97
9.1.4	異常音声アラームを設定する	99
9.1.5	顔検出アラームを設定する	101
9.1.6	ラインクロス検知アラームを設定する	103
9.1.7	警報入力アラームを設定する	105
9.1.8	デバイス異常アラームを設定する	107
9.1.9	警備スケジュールを設定する	108
9.1.10	カスタム警備スケジュールを設定する	108
9.2	アラームとイベント情報を表示する	110
9.2.1	デバイスからのアラーム受信を有効にする	110
9.2.2	アラーム情報を表示する	111
9.2.3	イベント情報を表示する	112
9.2.4	ポップアップアラーム情報を表示する	112
9.2.5	火元検知アラームを確定する	114
第 10 章	マップの管理	117
10.1	マップを追加する	117
10.2	ホットスポットを管理する	117
10.2.1	ホットスポットとしてカメラを追加する	118
10.2.2	ホットスポットとしてアラーム入力を追加する	118
10.2.3	ホットスポットとして警報出力を追加する	120
10.2.4	ホットスポットを編集する	120
10.2.5	ホットスポットをプレビューする	101
10.3	ホット領域を管理する	102
10.3.1	ホット領域の追加	102
10.3.2	ホット領域を編集する	103

10.3.3 ホット領域をプレビューする	103
第 11 章 Hik-Connect	105
11.1 Hik-Connect アカウントを登録する	105
11.2 Hik-Connect アカウントにログインする	106
11.3 デバイス管理	106
11.3.1 Hik-Connect アカウントにデバイスを追加する	107
11.3.2 カメラのパラメータを編集する	109
第 12 章 ストリームメディアサーバーを介したビデオストリームの転送	110
12.1 証明書をストリームメディアサーバーにインポートする	110
12.2 ストリームメディアサーバーを追加する	111
12.2.1 IP アドレスでストリームメディアサーバーを追加する	111
12.2.2 IP セグメントでストリームメディアサーバーを追加する	113
12.3 カメラをストリームメディアサーバーに追加して、ビデオストリームを転送する	114
第 13 章 ビデオウォール	115
13.1 エンコーディングデバイスを管理する	115
13.1.1 エンコーディングデバイスを追加する	115
13.1.2 他社製のエンコーディングデバイスを追加する	115
13.2 デコード装置を管理する	117
13.2.1 デコード装置を追加する	117
13.2.2 デコード装置の出力を編集する	118
13.3 ビデオウォール設定を構成する	119
13.3.1 ビデオウォールを追加する	119
13.3.2 ビデオウォールでデコーダ出力を連動する	120
13.4 ビデオウォールにビデオを表示する	121
13.4.1 デコードと表示	121
13.4.2 ウィンドウイングとローミングを実行する	123

13.4.3	ビデオウォールに再生を表示する	126
13.4.4	自動切替デコーディングを設定する	127
第 14 章	セキュリティコントロールパネル	129
14.1	ゾーンイベント用クライアントリンケージを設定する	129
14.2	セキュリティコントロールパネルをリモート制御する	130
14.2.1	パーティションをリモート制御する	130
14.2.2	ゾーンをリモート制御する	131
14.3	マップ上にゾーンを表示する	132
14.4	アラームを処理する	133
14.4.1	リアルタイムアラームを表示する	133
14.4.2	履歴アラームを検索する	134
14.4.3	パニックアラームを処理する	135
第 15 章	Pyronix コントロールパネル	137
15.1	Pyronix コントロールパネルを追加する	137
15.2	PyronicCloud を介してクライアントを認証する	139
15.2.1	PyronixCloud アカウントを作成する	139
15.2.2	デバイスを PyronixCloud に接続する	140
15.2.3	クライアントを認証する	141
15.3	Pyronix コントロールパネルイベント用のクライアントリンケージを設定する ..	142
15.4	Pyronix コントロールパネルをリモート制御する	144
15.4.1	パーティションをリモート制御する	144
15.4.2	ゾーンをリモート制御する	144
15.4.3	接続済み警報出力をリモート制御する	145
第 16 章	アクセスコントロール	146
16.1	アプリケーションシナリオを選択する	146
16.2	デバイスパラメータを設定する	147

16.2.1 ネットワークパラメータを設定する.....	147
16.2.2 デバイスキャプチャーパラメータを設定する	149
16.2.3 RS-485 パラメータを設定する	152
16.2.4 Weigand パラメータを設定する	152
16.2.5 M1 カード暗号化を認証する.....	153
16.3組織を管理する.....	153
16.4個人情報を管理する.....	154
16.4.1 個人を追加する.....	154
16.4.2 個人情報を一括でインポートおよびエクスポートする	168
16.4.3 アクセスコントロールデバイスから個人情報を取得する	170
16.4.4 個人に複数のカードをまとめて発行する	171
16.4.5 個人情報を検索する.....	173
16.4.6 カード紛失をレポートする	174
16.5スケジュールとテンプレートを設定する.....	175
16.5.1 週間スケジュールを追加する	175
16.5.2 休日スケジュールを追加する	176
16.5.3 テンプレートを追加する	177
16.6権限を管理する.....	179
16.6.1 個人に権限を割り当てる	179
16.6.2 割り当てられた権限を検索する.....	180
16.7高度な機能を設定する	181
16.7.1 アクセスコントロールパラメータを設定する	181
16.7.2 カードリーダーの認証モードとスケジュールを設定する	189
16.7.3 複数の認証を設定する	190
16.7.4 ファーストカードでドア解錠を設定する	192
16.7.5 アンチパスバックを設定する	194

16.7.6	クロスコントローラーアンチパスバックを設定する.....	195
16.7.7	マルチドアインターロックを設定する	199
16.7.8	認証パスワードを設定する	200
16.7.9	エレベーターコントローラー用のリレーを設定する.....	201
16.7.10	カスタム Wiegand ルールを設定する	203
16.7.11	ブラックリストの個人を設定する	204
16.8	アクセスコントロールイベントを検索する	207
16.8.1	ローカルのアクセスコントロールイベントを検索する	207
16.8.2	リモートアクセスコントロールイベントを検索する.....	208
16.9	アクセスコントロールアラームのリンケージを設定する.....	209
16.9.1	アクセスコントロールアラームのクライアントリンケージを設定する	209
16.9.2	アクセスコントロールアラームのデバイスリンケージを設定する	210
16.9.3	カードスワイプに対してデバイス連動アクションを設定する	212
16.9.4	携帯端末の MAC アドレスに対してデバイスリンケージを設定する.....	213
16.9.5	デバイス間リンケージを設定する	215
16.10	アクセスコントロールポイントのステータスを管理する	201
16.10.1	アクセスコントロールポイントをグループ化する	201
16.10.2	ドアのステータスを制御する	201
16.10.3	エレベーターのステータスを制御する	202
16.10.4	リアルタイムカードスワイプ記録を確認する	203
16.10.5	リアルタイムアクセスコントロールアラームを確認する	203
16.11	ライブビュー中にドアを制御する	204
16.12	E マップ上にアクセスコントロールポイントを表示する	205
第 17 章	勤怠管理	207
17.1	シフトスケジュールを管理する	207
17.1.1	時間帯を追加する	207

17.1.2 シフトを追加する	208
17.1.3 部署のスケジュールを設定する	208
17.1.4 個人のスケジュールを設定する	209
17.1.5 一時的なスケジュールを設定する	210
17.1.6 シフトスケジュールを確認および編集する	211
17.2 チェックイン/アウトの記録を手動で修正する	212
17.3 休暇と出張の追加	212
17.4 出勤データを計算する	213
17.4.1 出勤データを自動で計算する	214
17.4.2 出勤データを手動で計算する	214
17.5 高度な設定を構成する	214
17.5.1 基本パラメータを設定する	215
17.5.2 出勤ルールを設定する	215
17.5.3 出勤チェックポイントを設定する	216
17.5.4 休日を設定する	217
17.5.5 休暇のタイプを設定する	219
17.6 出勤レポートを表示する	220
17.6.1 従業員の出勤データの概要を把握する	220
17.6.2 従業員の詳細な出勤データを検索する	221
17.6.3 従業員の変則出勤データを検索する	222
17.6.4 従業員の時間外勤務データを検索する	222
17.6.5 従業員のカードスワイプログを確認する	223
17.6.6 出勤レポートを生成する	224
第 18 章 ビデオインターコム	227
18.1 クライアントソフトウェアと屋内ステーション/ドアステーション間の通話を管理 する	227
18.1.1 クライアントから屋内ステーションに電話をかける	227

18.1.2 屋内ステーション/ドアステーションからクライアントに電話をかける	229
18.1.3 ドアステーションおよび屋外ドアステーションのライブビデオを表示する	231
18.2 リアルタイム通話ログを表示する	231
18.3 居住者へ通知を出す	232
18.4 ビデオインターコム情報を検索する	232
18.4.1 通話ログを検索する	234
18.4.2 ロック解除ログを検索する	234
18.4.3 通知を検索する	235
第 19 章 顔画像比較アラームの表示	236
19.1 キャプチャーした顔画像を表示する	236
19.2 一致した顔画像を表示する	238
19.3 顔画像比較アラームログを表示する	238
19.3.1 顔画像比較アラームログを検索する	239
19.3.2 顔画像比較アラームログを開く	240
第 20 章 ターゲットキャプチャーアラームの表示	241
第 21 章 統計	243
21.1 ヒートマップレポート	243
21.2 人数カウントレポート	244
21.3 カウントレポート	245
21.4 道路交通レポート	247
21.5 顔画像の検索	248
21.5.1 アップロードした画像で顔画像を検索する	248
21.5.2 イベントで顔画像を検索する	250
21.5.3 個人名で顔画像を検索する	253
21.6 ナンバープレートの検索	255
21.7 画像とビデオに関連する行動分析を表示する	256

21.8	キャプチャーした顔画像のレポートを表示する	257
21.9	人体画像の検索	259
21.9.1	アップロードした画像で人体画像を検索する	259
21.9.2	個人の特徴で人体画像を検索する	261
21.10	車両の検索	264
第 22 章	ログの管理.....	266
22.1	ログを検索する	266
22.1.1	クライアントログを検索する	266
22.1.2	接続デバイスのログを検索する.....	266
22.2	ログをフィルタリングする	267
22.3	ログをバックアップする.....	268
22.4	画像をエクスポートする.....	268
第 23 章	アカウントの管理.....	270
第 24 章	システム設定	272
24.1	一般パラメータの設定	272
24.2	ライブビューおよび再生パラメータの設定	273
24.3	画像のパラメータを設定する	274
24.4	ファイルの保存パスの設定	276
24.5	ツールバーで表示されるアイコンの設定.....	276
24.6	キーボードとジョイスティックのショートカットを設定する	277
24.7	アラーム音を設定する	278
24.8	メールのパラメータを設定する	279
24.9	ビデオインターコムのパラメータを設定する	280
24.10	アクセスコントロールのパラメータを設定する	280
24.11	セキュリティ証明書を管理する	281
24.11.1	クライアントから証明書をエクスポートする	281

24.11.2 クライアントへ証明書をインポートする	281
付録 A カスタム Wiegand ルールの説明	283
付録 B トラブルシューティング	285
B.1 特定のデバイスのライブビューを取得できませんでした。	285
B.2 ローカル記録とリモート記録が混同しています。	285
B.3 ビデオファイルのダウンロードに失敗したか、ダウンロード速度が遅すぎます。	285
付録 C FAQ（よくある質問）	287
C.1 ライブビュー中に、エラーコード 91 のエラーメッセージが表示されるのはなぜで すか？	287
C.2 ライブビュー中に、なぜ画像がぼやけていたり、滑らかではないのでしょうか？	287
C.3 しばらく実行した後に、なぜメモリがリークしてクライアントがクラッシュしたの でしょうか？	287
C.4 ライブ中にストリームメディアサーバーを介してストリームを得る際、エラーコー ド 17 のメッセージが表示されるのはなぜですか？	288
付録 D エラーコード	289

第 1 章 はじめにと概要

iVMS-4200 クライアントソフトウェアは、DVR、NVR、IP カメラ、エンコーダー、デコーダ、セキュリティコントロールパネル、ビデオインターコムデバイス、アクセスコントロールデバイスなどに関する多目的なセキュリティ管理ソフトウェアです。

このソフトウェアは、リアルタイムのライブビュー、ビデオ記録、リモート検索と再生、ファイルのバックアップ、アラーム受信など、監視業務のニーズを満たすために複数の機能を提供します。柔軟な分配構造と使いやすい操作により、クライアントソフトウェアは中小規模の監視プロジェクトに広く適用されます。

本ユーザーマニュアルでは、クライアントソフトウェアの機能、設定、操作手順について説明しています。ソフトウェアの使用法および安定性を適切に保つため、インストールおよび操作の前に、以下の内容を参照してマニュアルをよくお読みください。

1.1 実行環境

以下は、クライアントソフトウェアをインストールするための推奨実行環境です。

オペレーティングシステム

Microsoft Windows 7/Windows 8.1/Windows 10（32 ビットまたは
64 ビット） Microsoft Windows XP SP3（32 ビット）
Microsoft Windows 2008 R2/Windows Server 2012（64 ビット）

CPU

Intel Pentium IV 3.0 GHz 以上

メモリ

2 GB 以上

ビデオカード

RADEON X700 シリーズ以上

GPU

256 MB 以上

注記

- 高い安定性と優れた性能を実現するには、上記のシステム要件を満たす必要があります。
- 本ソフトウェアは 64 ビットオペレーティングシステムに対応していません。上記の 64 ビットオペレーティングシステムは、
32 ビットアプリケーションにも対応するシステムを指します。
- ハードウェアデコーディング機能は、Windows XP 以降のバージョンのオペレーティン

iVMS-4200 クライアン

グシステムでのみ
対応しています。

1.2 コントロールパネルに表示されるモジュールをカスタマイズする

ソフトウェアを初めて実行するときは、コントロールパネルの操作と制御領域に表示されるモジュールをカスタマイズできます。

コントロールパネルに表示されているモジュールをカスタマイズする必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. コントロールパネルの**[モジュールのカスタマイズ]**をクリックして、モジュールのカスタマイズページを開きます。
2. 実際の必要に応じてモジュールをチェックし、それらをコントロールパネルに表示させます。
3. **[OK]**をクリックします。

注記

- ・ デバイス管理モジュールにアクセスコントロールデバイスを追加すると、アクセスコントロール、ステータスマonitor、勤怠管理モジュールが自動的にコントロールパネルに表示されます。
 - ・ デバイス管理モジュールにセキュリティコントロールパネルを追加すると、セキュリティコントロールパネルとリアルタイムアラームモジュールが自動でコントロールパネル上に表示されます。
-

1.3 変更の概要

以下は、このバージョンと以前のバージョンとの間の変更点です。

- ・ デバイス追加時に時刻の同期を提供。
- ・ 顔画像の検索において、人名による検索を追加。
- ・ アクセスコントロールにおいて、カード紛失のレポート機能とカード紛失の取り消し機能を追加。
- ・ 人物画像と指紋データのエクスポートとインポートを追加。
- ・ レーンコントローラーパラメータ、警報出力パラメータ、ゾーンパラメータ設定を追加。
- ・ 勤怠管理モジュールにおいて、スケジュールをレポートして対象の受信者に送信する機能を追加。
- ・ 勤怠管理モジュールにおいて、出勤データの自動計算を追加。
- ・ 勤怠管理モジュールにおいて、さまざまなタイプの休日を追加。

第2章 ユーザー登録とログイン

スーパーユーザーを登録すると、スーパーユーザーアカウントを管理者としてクライアントにログインすることができます。

2.1 ユーザーの登録

クライアントソフトウェアを初めて使用する場合は、ログイン用のスーパーユーザーを登録する必要があります。スーパーユーザーをログイン用に登録するには、次の手順を実行します。

手順

1. クライアントのインストール後、をダブルクリックしてソフトウェアを実行します。



The image shows a 'Register Administrator' dialog box. It has a title bar with the text 'Register Administrator' and a close button. The main area contains the text 'Please create a super user before proceeding.' in green. Below this are three input fields: 'Super User:', 'Password:', and 'Confirm Password:'. There is also a checkbox labeled 'Enable Auto-login'. At the bottom right, there are two buttons: 'Register' (highlighted in red) and 'Cancel'.

図 2-1 ユーザーの登録

2. スーパーユーザーのユーザー名とパスワードを作成します。

注記

- ユーザー名には、以下の記号は使えません。/:*? "<>|. また、パスワードの長さは、6文字未満とすることもできません。
- このソフトウェアは自動的にパスワードの強度を判断します。プライバシーと製品のセキュリティを高めるため、パスワード（大文字、小文字、数字、特殊文字を含める8文字以上を使用）をユーザー自身で変更することを強くお勧めします。
- すべてのパスワード設定やその他のセキュリティ設定は、インストール実行者とエンドユーザーの責任です。

3. パスワードを確認します。
4. オプション：ソフトウェアに自動的にログインするには、**[自動ログインを有効にする]** チェックボックスを選択します。
5. 4. **[登録]** をクリックして、スーパーユーザーを登録します。
スーパーユーザーとしてソフトウェアにログインできます。

次にすること

クライアントにログインします。詳細については「**ログイン**」を参照してください。

2.2 ログイン

クライアントソフトウェアにログインして、ライブビュー、再生などの操作を実行できます。

クライアントソフトウェアにログインする場合は、この作業を実行してください。

手順

1. クライアントソフトウェアを実行してログインダイアログを開きます。

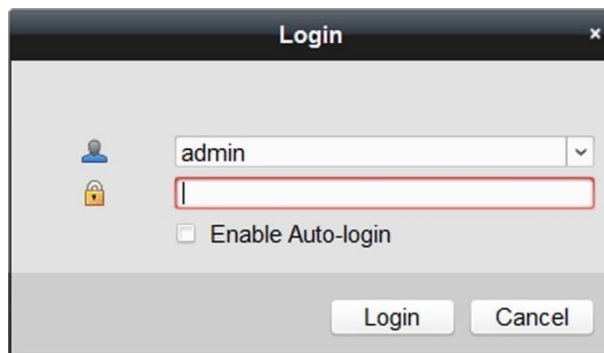


図 2-2 ログイン

2. 自分が登録したユーザー名とパスワードを入力します。
3. オプション：次回の実行に対してソフトウェアに自動的にログインするには、**[自動ログインを有効にする]**チェックボックスを選択します。
4. **[ログイン]**をクリックしてクライアントソフトウェアにログインします。

クライアントソフトウェアにログインした後、ウィザード（ビデオウィザード、ビデオウォールウィザード、セキュリティコントロールパネルウィザード、アクセスコントロールとビデオインターコムウィザード、出勤ウィザードを含む）を開いてデバイスの追加およびその他の設定や操作を行うことができます。

第3章 リソース管理

このクライアントでは、デバイスの追加、編集、削除など、デバイスの管理を行うことができます。また、デバイスのオンラインユーザーの確認やデバイスの QR コードの確認などの操作もできます。

3.1 デバイスの追加

クライアントを実行した後、ネットワークカメラ、ビデオエンコーダー、DVR、NVR、デコーダ、セキュリティコントロールパネル、ビデオインターコムデバイス、アクセスコントロールデバイスなどを含むデバイスを、リモート設定およびライブビュー、再生、アラーム設定などの管理に対してクライアントに追加する必要があります。

デバイスを追加した後、デバイスを選択して**[リモート設定]**をクリックし、必要に応じて選択したデバイスのその他のパラメータを設定できます。また以下の機能も可能です。

注記

- 一部のモデルのデバイスでは、その通常または**[詳細パラメータ設定]**ウィンドウを開くことができます。元のリモート設定ウィンドウを開くには、**CTRL** キーを押しながら**[リモート設定]**をクリックします。
- 設定の詳細については、デバイスのユーザーマニュアルを参照してください。

アクセスコントロールデバイスと **CVR** を追加した後、リストからアクセスコントロールデバイスと **CVR** を選択して**[デバイス状態]**をクリックすると、録画状態、信号ステータス、ハードウェアステータスなどのデバイス状態を表示できます。

注記

CVR の場合、**[デバイス状態]**をクリックして録画状態と **ANR**（自動ネットワーク補充）録画状態を表示できます。

3.1.1 デバイスの有効化

一部のデバイスについては、ソフトウェアに追加して正しく機能させる前に、パスワードを作成してデバイスを有効化する必要があります。

デバイスを有効化する場合は、次のタスクを実行します。

手順

注記

この機能はデバイスに対応していなければなりません。

1. デバイス管理ページに入ります。

2. デバイスのステータス（セキュリティ列に表示）を確認し、**管理対象デバイス**または**オンラインデバイス**領域で無効なデバイスを選択します。



IP	Device Type	Firmware Version	Security	Server Port	Device Serial No.	Start Time
192.0.0.64			Active	8000		2017-01
192.168.1.64			Inactive	8000		2017-01

図 3-1 オンラインデバイス

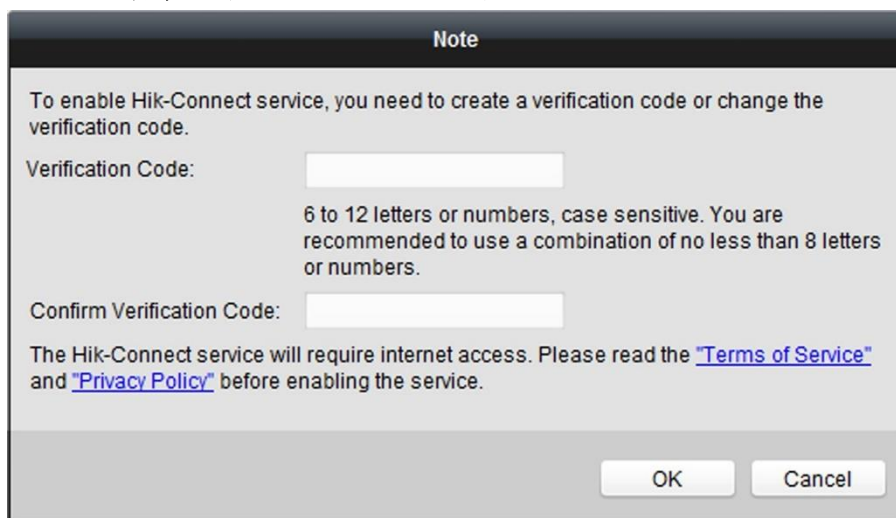
3. **[有効化]**をクリックして**[有効化]**ダイアログを開きます。
 4. **[パスワード]**フィールドでパスワードを作成し、パスワードを確認します。



注意

デバイスのパスワードの強度は、自動的に確認されます。製品のセキュリティを高めるため、パスワード（大文字、小文字、数字、特殊文字の中の最低でも 3 種類を含む 8 文字以上を使用）をユーザー自身で変更することを強くお勧めします。また、高度なセキュリティシステムでは特に、定期的にパスワードをリセットすることをお勧めします。パスワードを月次または週次でリセットすると、製品をより安全に保護できます。すべてのパスワード設定やその他のセキュリティ設定は、インストール実行者とエンドユーザーの責任です。

5. オプション：デバイスに対応している場合は、デバイスをアクティブにする際に Hik-Connect サービスを有効にします。
 1) **Hik-Connect を有効にする**をオンにして、ノートダイアログを開きます。



Note

To enable Hik-Connect service, you need to create a verification code or change the verification code.

Verification Code:

6 to 12 letters or numbers, case sensitive. You are recommended to use a combination of no less than 8 letters or numbers.

Confirm Verification Code:

The Hik-Connect service will require internet access. Please read the ["Terms of Service"](#) and ["Privacy Policy"](#) before enabling the service.

OK Cancel

図 3-2 Hik-Connect サービスのノート

- 2) 確認コードを作成します。
 3) 確認コードを確認します。
 4) **[サービス条件]**と**[プライバシーポリシー]**をクリックして要件を読みます。

- 5) [OK]をクリックして、Hik-Connect サービスを有効にします。
6. [OK]をクリックして、デバイスを有効にします。
パスワードが正常に設定されると、「デバイスが起動しています。」のウィンドウがポップアップされます。

3.1.2 オンラインデバイスの追加

クライアントソフトウェアと同じローカルサブネットにある有効なオンラインデバイスが、**オンラインデバイス**領域に表示されます。**[60 秒ごとに更新]**をクリックすることで、オンラインデバイスの情報を更新できます。

単一のオンラインデバイスの追加

クライアントソフトウェアに単一のオンラインデバイスを追加することができます。

クライアントソフトウェアに単一のオンラインデバイスを追加するには、このタスクを実行します。

手順

1. デバイス管理モジュールにアクセスします。
2. **[デバイス]**タブをクリックし、デバイスタイプとして**[Hikvision デバイス]**を選択し、**オンラインデバイス**領域を表示します。



IP	Device Type	Firmware Version	Security	Server Port	Device Serial No.	Start Time
10.16.6.236	D		Active	8000	D	2017-01
10.16.6.92	D		Active	8000	D	2017-01
192.0.0.64	D		Active	8000	D	2017-01

図 3-3 オンラインデバイス

3. **オンラインデバイス**領域からオンラインデバイスを選択します。

注記

非アクティブなデバイスについては、デバイスを適切に追加するために、パスワードを作成する必要があります。詳細な手順については、「**デバイスの有効化**」を参照してください。

4. クライアントに**追加**をクリックして、デバイス追加ウィンドウを開きます。
5. 必要な情報を入力します。

アドレス

デバイスの IP アドレスを入力します。デバイスの IP アドレスは、この追加モードで自動的に取得されます。

ポート

デフォルト値は 8000 です。

ユーザー名

デフォルトでは、ユーザー名は「admin」です。

パスワード

デバイスのパスワードを入力します。



注意

デバイスのパスワードの強度は、自動的に確認されます。製品のセキュリティを高めるため、パスワード（大文字、小文字、数字、特殊文字の中の最低でも 3 種類を含む 8 文字以上を使用）をユーザー自身で変更することを強くお勧めします。また、高度なセキュリティシステムでは特に、定期的にパスワードをリセットすることをお勧めします。パスワードを月次または週次でリセットすると、製品をより安全に保護できます。

すべてのパスワード設定やその他のセキュリティ設定は、インストール実行者とエンドユーザーの責任です。

-
6. オプション：デバイスをクライアントに追加した後、デバイス時間をクライアントの PC と同期させるには、**[デバイス時間を同期する]**にチェックを入れます
 7. オプション：デバイス名でグループを作成するには、**[グループにエクスポート]**にチェックを入れます。



注記

デフォルトでは、デバイスのすべてのチャンネルを関連するグループにインポートできます。

-
8. オプション：オフラインデバイスを追加します。
 - 1) **[オフラインデバイスを追加]**にチェックを入れます。
 - 2) デバイスのチャンネル番号やアラーム入力番号など必要な情報を入力します。
 - 3) **[追加]**をクリックします。オフラインデバイスがオンラインになると、ソフトウェアが自動的にそれを接続します。
 9. **[追加]**をクリックしてデバイスを追加します。

複数のオンラインデバイスの追加

クライアントソフトウェアに複数のオンラインデバイスを追加できます。

次のタスクは、複数のオンラインデバイスをクライアントソフトウェアに追加する必要がある場合に実行します。

手順

1. デバイス管理モジュールにアクセスします。
2. **[デバイス]**タブをクリックし、デバイスタイプとして**[Hikvision デバイス]**を選択し、オンラインデバイス領域を表示します。
3. **Ctrl** キーを押しながら複数のデバイスを選択します。

注記

非アクティブなデバイスについては、デバイスを適切に追加するために、パスワードを作成する必要があります。詳細な手順については、「**デバイスの有効化**」を参照してください。

4. **クライアントに追加**をクリックして、デバイス追加ウィンドウを開きます。
5. 必要な情報を入力します。

ユーザー名

デフォルトでは、ユーザー名は「**admin**」です。

パスワード

デバイスのパスワードを入力します。

注意

デバイスのパスワードの強度は、自動的に確認されます。製品のセキュリティを高めるため、パスワード（大文字、小文字、数字、特殊文字の中の最低でも **3** 種類を含む **8** 文字以上を使用）をユーザー自身で変更することを強くお勧めします。また、高度なセキュリティシステムでは特に、定期的にパスワードをリセットすることをお勧めします。パスワードを月次または週次でリセットすると、製品をより安全に保護できます。

すべてのパスワード設定やその他のセキュリティ設定は、インストール実行者とエンドユーザーの責任です。

6. **オプション**：デバイスをクライアントに追加した後、デバイスの時間をクライアントの PC と同期させるには、**[デバイス時間を同期する]**にチェックを入れます
 7. **オプション**：デバイス名でグループを作成するには、**[グループにエクスポート]**にチェックを入れます。
-

注記

デフォルトでは、デバイスのすべてのチャンネルを関連するグループにインポートできます。

8. **[追加]**をクリックしてデバイスを追加します。

すべてのオンラインデバイスを追加する

クライアントソフトウェアにすべてのオンラインデバイスを追加できます。

すべてのオンラインデバイスをクライアントソフトウェアに追加する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. デバイス管理ページに入ります。
2. **[デバイス]**タブをクリックし、デバイスタイプとして**[Hikvision デバイス]**を選択し、オンラインデバイス領域を表示します。
3. **[すべて追加]**をクリックして、デバイス追加ウィンドウを開きます。

注記

非アクティブなデバイスについては、デバイスを適切に追加するために、パスワードを作成する必要があります。詳細な手順については、「**デバイスの有効化**」を参照してください。

4. ユーザー名とパスワードを入力
します。

ユーザー名

デフォルトでは、ユーザー名は「**admin**」です。

パスワード

デバイスのパスワードを入力します。

注意

デバイスのパスワードの強度は、自動的に確認されます。製品のセキュリティを高めるため、パスワード（大文字、小文字、数字、特殊文字の中の最低でも **3 種類**を含む **8 文字**以上を使用）をユーザー自身で変更することを強くお勧めします。また、高度なセキュリティシステムでは特に、定期的にパスワードをリセットすることをお勧めします。パスワードを月次または週次でリセットすると、製品をより安全に保護できます。すべてのパスワード設定やその他のセキュリティ設定は、インストール実行者とエンドユーザーの責任です。

5. **オプション**：デバイスをクライアントに追加した後、デバイスの時間をクライアントの PC と同期させるには、**[デバイス時間を同期する]**にチェックを入れます
 6. **オプション**：デバイス名でグループを作成するには、**[グループにエクスポート]**にチェックを入れます。
-

注記

デフォルトでは、デバイスのすべてのチャンネルを関連するグループにインポートできます。

7. **[追加]**をクリックしてデバイスを追加します。

3.1.3 IP アドレスまたはドメイン名によるデバイスの追加

デバイスは、IP アドレスまたはドメイン名で追加できます。

IP アドレスまたはドメイン名でデバイスを追加する場合は、次のタスクを実行します。

手順

1. デバイス管理モジュールを開きます。
2. **[デバイス]**タブをクリックし、デバイスタイプとして**[Hikvision デバイス]**を選択します。
3. **[追加]**をクリックして**[追加]**ウィンドウを開きます。
4. 追加モードに従い、**[IP/ドメイン]**を選択します。
5. ニックネーム、IP アドレス、ポート番号、ユーザー名、パスワードを含む必要な情報を入力必要な情報を入力します。

アドレス

デバイス IP アドレスまたはドメイン名を入力します。

ポート

デバイスのポート番号を入力します。デフォルト値は **8000** です。

ユーザー名

デバイスのユーザー名を入力します。デフォルトでは、ユーザー名は「**admin**」です。

パスワード

デバイスのパスワードを入力します。



注意

デバイスのパスワードの強度は、自動的に確認されます。製品のセキュリティを高めるため、パスワード（大文字、小文字、数字、特殊文字の中の最低でも **3 種類**を含む **8 文字以上**を使用）をユーザー自身で変更することを強くお勧めします。また、高度なセキュリティシステムでは特に、定期的にパスワードをリセットすることをお勧めします。パスワードを月次または週次でリセットすると、製品をより安全に保護できます。

すべてのパスワード設定やその他のセキュリティ設定は、インストール実行者とエンドユーザーの責任です。

-
6. **オプション**：デバイスをクライアントに追加した後、デバイス時間をクライアントの PC と同期させるには、**[デバイス時間を同期する]**にチェックを入れます
 7. **オプション**：デバイス名でグループを作成するには、**[グループにエクスポート]**にチェックを入れます。



注記

デフォルトでは、デバイスのすべてのチャンネルを関連するグループにインポートできます。

-
8. **オプション**：オフラインデバイスを追加します。

- 1) [オフラインデバイスを追加]にチェックを入れます。
- 2) デバイスのチャンネル番号やアラーム入力番号など必要な情報を入力します。
- 3) [追加]をクリックします。

オフラインデバイスがオンラインになると、ソフトウェアが自動的にそれを接続します。

9. [追加]をクリックしてデバイスを追加します。

3.1.4 IP セグメントでデバイスを追加する

IP アドレスが IP セグメント内にあるデバイスを追加したい場合は、開始 IP アドレスと終了 IP アドレス、ユーザー名、パスワード、その他のパラメータを指定してそれらを追加することができます。

IP セグメントでデバイスをクライアントに追加する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. デバイス管理モジュールにアクセスします。
2. [デバイス]タブをクリックし、デバイスタイプとして[Hikvision デバイス]を選択します。
3. [追加]をクリックして[追加]ウィンドウを開きます。
4. 追加モードとして[IP セグメント]を選択します。
5. 必要な情報を入力します。

開始 IP

開始 IP アドレスを入力します。

終了 IP

開始 IP と同じネットワークセグメント内にある IP アドレスを入力します。

ポート

デバイスのポート番号を入力します。デフォルト値は 8000 です。

ユーザー名

デフォルトでは、ユーザー名は「admin」です。

パスワード

デバイスのパスワードを入力します。



注意

デバイスのパスワードの強度は、自動的に確認されます。製品のセキュリティを高めるため、パスワード（大文字、小文字、数字、特殊文字の中の最低でも 3 種類を含む 8 文字以上を使用）をユーザー自身で変更することを強くお勧めします。また、高度なセキュリティシステムでは特に、定期的にパスワードをリセットすることをお勧めします。パスワードを月次または週次でリセットすると、製品をより安全に保護できます。

すべてのパスワード設定やその他のセキュリティ設定は、インストール実行者とエ

ンドユーザーの責任です。

6. オプション：デバイスをクライアントに追加した後、デバイス時間をクライアントの PC と同期させるには、**[デバイス時間を同期する]**にチェックを入れます
7. オプション：デバイス名でグループを作成するには、**[グループにエクスポート]**にチェックを入れます。

 注記

デフォルトでは、デバイスのすべてのチャンネルを関連するグループにインポートできます。

8. オプション：オフラインデバイスをクライアントに追加します。
 - 1) **[オフラインデバイスを追加]**にチェックを入れます。
 - 2) デバイスのチャンネル番号やアラーム入力番号など必要な情報を入力します。
 - 3) **[追加]**をクリックします。

オフラインデバイスがオンラインになると、ソフトウェアが自動的にそれを接続します。
9. **[追加]**をクリックしてデバイスを追加します。

3.1.5 Hik-Connect でデバイスを追加する

Hik-Connect ドメインを介してデバイスをクライアントに追加することができます。

開始前

最初に Hik-Connect アカウントにデバイスを追加します。

Hik-Connect ドメインでデバイスを追加する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. Hik-Connect アカウントにログインします。
2. デバイス管理モジュールを開きます。
3. **[デバイス]**タブをクリックし、デバイスタイプとして**[Hikvision デバイス]**を選択します。
4. **[追加]**をクリックして**[追加]**ウィンドウを開きます。
5. 追加モードとして **Hik-Connect ドメイン**を選択します。

Hik-Connect アカウントのデバイスが表示されます。
6. デバイスを選択します。
7. デバイスのユーザー名とパスワードを入力します。

 注記

デフォルトでは、デバイスのユーザー名は **admin**、パスワードはデバイスを有効にしたときに作成されます。

-
8. オプション：デバイスをクライアントに追加した後、デバイス時間をクライアントの PC と同期させるには、**[デバイス時間を同期する]**にチェックを入れます
-

9. オプション：デバイス名でグループを作成するには、**[グループにエクスポート]**にチェックを入れます。



デフォルトでは、デバイスのすべてのチャンネルを関連するグループにインポートできます。

10. **[追加]**をクリックしてデバイスを追加します。

3.1.6 EHome アカウントでデバイスを追加する

EHome アカウントを入力して、EHome プロトコルを介して接続されているアクセスコントロールデバイスを追加できます。

開始前

最初にネットワークセンターパラメータを設定します。詳細については、「**ネットワークパラメータを設定する**」を参照してください。

EHome アカウントでデバイスを追加する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. デバイス管理モジュールにアクセスします。
2. **[デバイス]**タブをクリックし、デバイスタイプとして**[Hikvision デバイス]**を選択します。
3. **[追加]**をクリックして**[追加]**ウィンドウを開きます。
4. 追加モードとして **EHome** を選択します。
5. 必要な情報を入力します。

アカウント

EHome プロトコル上に登録されているアカウント名を入力します。

6. オプション：デバイスをクライアントに追加した後、デバイス時間をクライアントの PC と同期させるには、**[デバイス時間を同期する]**にチェックを入れます
 7. オプション：デバイス名でグループを作成するには、**[グループにエクスポート]**にチェックを入れます。
 8. オプション：オフラインデバイスを追加します。
 - 1) **[オフラインデバイスを追加]**にチェックを入れます。
 - 2) デバイスのチャンネル番号やアラーム入力番号など必要な情報を入力します。
 - 3) **[追加]**をクリックします。
-



オフラインデバイスがオンラインになると、ソフトウェアが自動的にそれを接続します。

9. **[追加]**をクリックしてデバイスを追加します。

3.1.7 シリアルポートでデバイスを追加する

シリアルポート経由で接続されているアクセスコントロールデバイスを追加できます。

シリアルポートでアクセスコントロールデバイスを追加する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. デバイス管理モジュールを開きます。
2. **[デバイス]**タブをクリックし、デバイスタイプとして**[Hikvision デバイス]**を選択します。
3. **[追加]**をクリックして**[追加]**ウィンドウを開きます。
4. 追加モードとして**シリアルポート**を選択します。
5. 必要な情報を入力します。

シリアルポート番号

デバイスの接続シリアルポート番号を選択します。

ボーレート

アクセスコントロールデバイスのボーレートを入力します。

DIP

デバイスの DIP アドレスを入力します。

6. **オプション**：デバイスをクライアントに追加した後、デバイス時間をクライアントの PC と同期させるには、**[デバイスを同期する]**にチェックを入れます
7. **オプション**：デバイス名でグループを作成するには、**[グループにエクスポート]**にチェックを入れます。

注記

デフォルトでは、デバイスのすべてのチャンネルを関連するグループにインポートできます。

8. **オプション**：オフラインデバイスをクライアントに追加します。
 - 1) **[オフラインデバイスを追加]**にチェックを入れます。
 - 2) デバイスのチャンネル番号やアラーム入力番号など必要な情報を入力します。
 - 3) **[追加]**をクリックします。オフラインデバイスがオンラインになると、ソフトウェアが自動的にそれを接続します。
9. **[追加]**をクリックしてデバイスを追加します。

3.1.8 IP サーバーでデバイスを追加する

IP サーバーでデバイスを追加できます。

IP サーバーでデバイスを追加するには、次の手順を実行します。

手順

1. デバイス管理モジュールを開きます。
2. **[デバイス]**タブをクリックし、デバイスタイプとして**[Hikvision デバイス]**を選択します。
3. **[追加]**をクリックして**[追加]**ウィンドウを開きます。
4. 追加モードとして **IP サーバー**を選択します。
5. 必要な情報を入力します。

サーバーアドレス

IP サーバーをインストールする PC の IP アドレスを入力します。

ユーザー名

デバイスのユーザー名を入力します。デフォルトでは、ユーザー名は「admin」です。

パスワード

デバイスのパスワードを入力します。



注意

デバイスのパスワードの強度は、自動的に確認されます。製品のセキュリティを高めるため、パスワード（大文字、小文字、数字、特殊文字の中の最低でも 3 種類を含む 8 文字以上を使用）をユーザー自身で変更することを強くお勧めします。また、高度なセキュリティシステムでは特に、定期的にパスワードをリセットすることをお勧めします。パスワードを月次または週次でリセットすると、製品をより安全に保護できます。

すべてのパスワード設定やその他のセキュリティ設定は、インストール実行者とエンドユーザーの責任です。

-
6. オプション：デバイスをクライアントに追加した後、デバイス時間をクライアントの PC と同期させるには、**[デバイス時間を同期する]**にチェックを入れます
 7. オプション：デバイス名でグループを作成するには、**[グループにエクスポート]**にチェックを入れます。



注記

デフォルトでは、デバイスのすべてのチャンネルを関連するグループにインポートできます。

-
8. オプション：オフラインデバイスを追加します。
 - 1) **[オフラインデバイスを追加]**にチェックを入れます。
 - 2) デバイスのチャンネル番号やアラーム入力番号など必要な情報を入力します。
 - 3) **[追加]**をクリックします。

オフラインデバイスがオンラインになると、ソフトウェアが自動的にそれを接続します。
 9. **[追加]**をクリックしてデバイスを追加します。

3.1.9 HiDDNS でデバイスを追加する

HiDDNS でデバイスを追加できます。

HiDDNS でデバイスを追加するには、この作業を実行してください。

手順

1. デバイス管理モジュールを開きます。
2. **[デバイス]**タブをクリックし、デバイスタイプとして**[Hikvision デバイス]**を選択します。
3. **[追加]**をクリックして**[追加]**ウィンドウを開きます。
4. 追加モードとして **HiDDNS** を選択します。
5. 必要な情報を入力します。

サーバーアドレス

www.hik-online.com

デバイスのドメイン名

HiDDNS サーバーに登録されているデバイスのドメイン名を入力します。

ユーザー名

デバイスのユーザー名を入力します。

パスワード

デバイスのパスワードを入力します。



注意

デバイスのパスワードの強度は、自動的に確認されます。製品のセキュリティを高めるため、パスワード（大文字、小文字、数字、特殊文字の中の最低でも 3 種類を含む 8 文字以上を使用）をユーザー自身で変更することを強くお勧めします。また、高度なセキュリティシステムでは特に、定期的にパスワードをリセットすることをお勧めします。パスワードを月次または週次でリセットすると、製品をより安全に保護できます。

すべてのパスワード設定やその他のセキュリティ設定は、インストール実行者とエンドユーザーの責任です。

-
6. オプション：デバイスをクライアントに追加した後、デバイス時間をクライアントの PC と同期させるには、**[デバイスを同期する]**にチェックを入れます
 7. オプション：デバイス名でグループを作成するには、**[グループにエクスポート]**にチェックを入れます。



注記

デフォルトでは、デバイスのすべてのチャンネルを関連するグループにインポートできません。

-
8. オプション：オフラインデバイスを追加します。
 - 1) **[オフラインデバイスを追加]**にチェックを入れます。
 - 2) デバイスのチャンネル番号やアラーム入力番号など必要な情報を入力します。
 - 3) **[追加]**をクリックします。
-

オフラインデバイスがオンラインになると、ソフトウェアが自動的にそれを接続します。

9. **[追加]**をクリックしてデバイスを追加します。

3.2 デバイスのネットワーク情報の編集

デバイスを有効化すると、オンラインデバイスのネットワーク情報を編集できます。

開始前

デバイス状態が非アクティブの場合は、デバイスを有効化してください。

有効化したオンラインデバイスのネットワーク情報を編集する必要がある場合は、次のタスクを実行します。

手順

1. デバイスの管理ページにアクセスします。
2. オンラインデバイス領域で有効になっているデバイスを選択します。
3. **[ネットワーク情報の変更]**をクリックし、**[ネットワークパラメータの変更]**ウィンドウを開きます。

注記

この機能は、**オンラインデバイス領域**でのみ利用可能です。ソフトウェアにデバイスを追加する必要がある場合は、デバイス IP アドレスをコンピューターと同じサブネットに変更できます。

4. デバイス IP アドレスをコンピューターと同じサブネットに変更します。
 - IP アドレスを手動で編集します。
 - **DHCP**を確認します。
5. デバイスの起動時に作成したパスワードを入力します。
6. **[OK]**をクリックし、ネットワークの設定を完了します。

3.3 デバイスのパスワードの復元/リセット

検出されたオンラインデバイスのパスワードを忘れた場合は、デバイスのデフォルトのパスワードに復元するか、デバイスのパスワードをクライアントからリセットすることができます。

3.3.1 デバイスのパスワードのリセット

検出されたオンラインデバイスのパスワードを忘れた場合は、デバイスのパスワードをクライアントからリセットすることができます。

デバイスのパスワードをリセットする必要がある場合は、次のタスクを実行します。

手順

1. デバイス管理モジュールにアクセスします。

同じサブネット内のすべてのオンラインデバイスが、オンラインデバイスリストに表示されます。

2. リストからデバイスを選択し、**[パスワードのリセット]**をクリックします。
3. デバイスのパスワードをリセットします。
 - エクスポートボタン、パスワードとパスワードの確認フィールドのあるウィンドウが開いた場合は、**[エクスポート]**をクリックし、お使いの PC にデバイスファイルを保存して、弊社のテクニカルサポートまでファイルを送信します。

注記

パスワードのリセットを行うための以下の操作については、弊社のテクニカルサポートまでご連絡ください。

- **[エクスポート]**と**[生成]**ボタン、パスワードとパスワードの確認フィールドのあるウィンドウが開いた場合、QR コードウィンドウを表示するには、**[生成]**をクリックし、お使いの PC に QR コードを保存するには、**[ダウンロード]**をクリックします。QR コードの写真を撮ることで、お使いの携帯電話に保存できます。弊社のテクニカルサポートまで画像を送信してください。

注記

パスワードのリセットを行うための以下の操作については、弊社のテクニカルサポートまでご連絡ください。

- 選択可能なセーフモードがあるウィンドウが開いた場合は、必要に応じてセーフモードを選択します。

注記

パスワードのリセットを行うための以下の操作については、弊社のテクニカルサポートまでご連絡ください。

注意

デバイスのパスワードの強度は、自動的に確認されます。製品のセキュリティを高めるため、パスワード（大文字、小文字、数字、特殊文字の中の最低でも **3 種類**を含む **8 文字**以上を使用）をユーザー自身で変更することを強くお勧めします。また、高度なセキュリティシステムでは特に、定期的にパスワードをリセットすることをお勧めします。パスワードを月次または週次でリセットすると、製品をより安全に保護できます。すべてのパスワード設定やその他のセキュリティ設定は、インストール実行者とエンドユーザーの責任です。

3.3.2 デバイスのデフォルトパスワードの復元

一部の旧バージョンのデバイスについて、検出されたオンラインデバイスのパスワードを忘れた場合は、デバイスのデフォルトのパスワードをクライアントからリセットすることができます。

デバイスのパスワードを旧バージョンのデバイスのデフォルトのパスワードに復元する必要がある場合に次のタスクを実行します。

手順

1. デバイス管理モジュールにアクセスします。

同じサブネット内のすべてのオンラインデバイスが、オンラインデバイスリストに表示されます。

2. リストからデバイスを選択し、**[パスワードのリセット]**をクリックします。

3. デバイスのパスワードを復元します。

- セキュリティコードフィールドの付いたウィンドウがポップアップされた場合は、セキュリティコードを入力すれば、選択されたデバイスのデフォルトパスワードを復元することができます。



注記

セキュリティコードの取得については、弊社のテクニカルサポートまでご連絡ください。

- **[インポート]**と**[エクスポート]**ボタンのあるウィンドウがポップアップした場合、**[エクスポート]**をクリックしてお使いの PC にデバイスファイルを保存し、弊社のテクニカルサポートまでファイルを送信します。



注記

パスワードのリセットを行うための以下の操作については、弊社のテクニカルサポートまでご連絡ください。

次にすること

管理者 (admin) アカountのデフォルトパスワード (12345) は、初回ログイン専用です。他人による製品への不正アクセスなど、製品の正常な機能を妨げたり、その他の望ましくない結果を招いたりするセキュリティリスクに対する保護を高めるために、このデフォルトのパスワードを変更する必要があります。

不正アクセスといったセキュリティリスクを避けるためにも、このデフォルトパスワードを変更する必要があります。

例えば、他人が許可なく製品にアクセスした場合、本製品が適切に動作しなくなったり、その他の望ましくない結果を招く可能性があります。



注意

デバイスのパスワードの強度は、自動的に確認されます。製品のセキュリティを高めるため、パスワード（大文字、小文字、数字、特殊文字の中の最低でも 3 種類を含む 8 文字以上を使用）をユーザー自身で変更することを強くお勧めします。また、高度なセキュリティシステムでは特に、定期的にパスワードをリセットすることをお勧めします。パスワードを月次または週次でリセットすると、製品をより安全に保護できます。

すべてのパスワード設定やその他のセキュリティ設定は、インストール実行者とエンドユーザーの責任です。

3.4 デバイスのオンラインユーザーを確認する

ユーザーがデバイスにアクセスすると、クライアントはユーザー名、ユーザーのタイプ、ユーザーの IP アドレス、ログイン時間などの接続情報を記録して表示できます。

デバイスのオンラインユーザーを確認する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順



注記

この機能はデバイスに対応していなければなりません。

1. デバイス管理ページに入ります。
2. **[デバイス→Hikvision デバイス]**の順にクリックして、デバイスリストを表示します。
3. 追加されたオンラインデバイスを選択します。
4. **[オンラインユーザー]**をクリックして、オンラインユーザーウィンドウを開きます。
5. デバイスにログインしているユーザーの情報を表示します。
6. **[OK]**をクリックしてウィンドウを閉じます。

3.5 デバイスの QR コードを確認する

クライアントは追加したデバイスの QR コードを生成することができます。モバイルクライアントのソフトウェアを使用して QR コードをスキャンすることで、モバイルクライアントのソフトウェアにデバイスを追加できます。モバイルクライアントのソフトウェアにデバイスを追加する場合は、モバイルクライアントのソフトウェアのユーザーマニュアルを参照してください。

この作業を実行してデバイスの QR コードを確認します。

手順

1. デバイス管理ページを開きます。
2. **[デバイス→Hikvision デバイス]**の順にクリックして、デバイスリストを表示します。
3. 単一のデバイスの QR コードを表示します。
 - デバイスリスト内のデバイスをダブルクリックするか、またはデバイスを選択して**[変更]**をクリックすると、デバイス情報と QR コードが表示されます。
 - デバイスを選択し、**[QR コード]**をクリックして QR コードウィンドウを開きます。

4. オプション : **Ctrl** キーを押しながら複数のデバイスを選択し、**[QR コード]**をクリックして複数のデバイス QR コードをポップアップ表示させます。

次にすること

モバイルクライアントのソフトウェアを使用して QR コードをスキャンし、モバイルクライアントのソフトウェアにデバイスを追加します。モバイルクライアントのソフトウェアにデバイスを追加する場合は、モバイルクライアントのソフトウェアのユーザーマニュアルを参照してください。

3.6 デバイスの一括インポート

デバイスは、事前に定義した CSV ファイルにデバイス情報を入力することで一括してソフトウェアに追加できます。

デバイスを一括してインポートするには、次のタスクを実行します。

手順

1. デバイスの管理ページにアクセスします。
2. **[デバイス→Hikvision デバイス→追加]**の順にクリックして、デバイス追加ウィンドウを開きます。
3. 追加モードに従い、一括インポートを選択します。
4. **[テンプレートのエクスポート]**をクリックし、事前に定義したテンプレート（CSV ファイル）をお使いの PC に保存します。
5. エクスポートしたテンプレートファイルを開き、対応する列に追加する必要なデバイスの情報を入力します。

追加モード

異なる追加モードを示す **0**、**2**、**3**、**4**、**5**、または **6** を入力できます。**0** はデバイスが IP アドレスまたはドメイン名で追加されていることを示します。**2** はデバイスが IP サーバーを介して追加されたことを示します。**3** はデバイスが HiDDNS を介して追加されたことを示します。**4** はデバイスが EHome プロトコルを介して追加されたことを示します。**5** はデバイスがシリアルポートによって追加されたことを示します。**6** はデバイスが Hik-Connect を介して追加されたことを示します。

アドレス

デバイスのアドレスを編集します。追加モードとして **0** を設定した場合は、デバイスの IP アドレスまたはドメイン名を入力する必要があります。追加モードとして **2** を設定した場合は、IP サーバーをインストールする PC の IP アドレスを入力する必要があります。追加モードとして **3** を設定した場合は、**www.hik-online.com** と入力してください。

ポート

デバイスのポート番号を入力します。デフォルト値は **8000** です。

デバイス情報

追加モードとして **0** を設定した場合は、このフィールドは必須ではありません。追加モードとして **2** を設定した場合は、IP サーバーに登録されているデバイス ID を入力してください。追加モードとして **3** を設定した場合は、HiDDNS サーバーに登録されているデバイスのドメイン名を入力してください。追加モードとして **4** を設定した場合は、EHome アカウントを入力してください。追加モードとして **6** を設定した場合は、デバイスのシリアル番号を入力してください。

ユーザー名

デバイスのユーザー名を入力します。デフォルトでは、ユーザー名は「admin」です。

パスワード

デバイスのパスワードを入力します。



注意

デバイスのパスワードの強度は、自動的に確認されます。製品のセキュリティを高めるため、パスワード（大文字、小文字、数字、特殊文字の中の最低でも 3 種類を含む 8 文字以上を使用）をユーザー自身で変更することを強くお勧めします。また、高度なセキュリティシステムでは特に、定期的にパスワードをリセットすることをお勧めします。パスワードを月次または週次でリセットすると、製品をより安全に保護できます。

すべてのパスワード設定やその他のセキュリティ設定は、インストール実行者とエンドユーザーの責任です。

オフラインデバイスの追加

オフラインデバイスの追加を有効にするために **1** を入力すると、オフラインデバイスがオンラインになった際、ソフトウェアによって自動的に接続されます。**0** はこの機能を無効にすることを示します。

グループへのエクスポート

デバイス名（ニックネーム）でグループを作成するために **1** を入力することができます。デフォルトでは、デバイスのすべてのチャンネルは対応するグループにインポートされます。**0** はこの機能を無効にすることを示します。

チャンネル番号

オフラインデバイス追加に **1** を設定した場合は、デバイスのチャンネル番号を入力します。オフラインデバイス追加に **0** を設定した場合は、このフィールドは必須ではありません。

アラーム入力番号

オフラインデバイス追加に **1** を設定した場合は、デバイスのアラーム入力番号を入力します。オフラインデバイス追加に **0** を設定した場合は、このフィールドは必須ではありません。

シリアルポート番号

追加モードとして **5** を設定した場合は、アクセスコントロールデバイスのシリアルポート番号を入力します。

ボーレート

追加モードとして **5** を設定した場合は、アクセスコントロールデバイスのボーレートを入力します。

DIP

追加モードとして **5** を設定した場合は、アクセスコントロールデバイスの DIP アドレスを入力します。

Hik-Connect のアカウント

追加モードとして **6** を設定した場合は、Hik-Connect のアカウントを入力します。

Hik-Connect のパスワード

追加モードとして **6** を設定した場合は、Hik-Connect のパスワードを入力します。

6.  をクリックしてテンプレートファイルを選択します。
7. **[追加]** をクリックしてデバイスをインポートします。

3.7 デバイスのファームウェアバージョンのアップグレード

追加したネットワークカメラに対して新しいファームウェアバージョンがある場合は、クライアントからファームウェアバージョンをアップグレードできます。

次のタスクは、追加したデバイスのファームウェアバージョンをアップグレードする必要がある場合に実行します。

手順

1. デバイス管理インターフェイスにアクセスし、**[デバイス]** タブをクリックします。
2. 管理用デバイスパネルで、新しいファームウェアのバージョンが利用可能な場合は、デバイスのファームウェアのアップグレード列のステータスが **アップグレード可** に切り替わります。



Device Type	Nickname	Connect...	Network Para...	Device Serial ...	Security	Net Status	Firmware Upgrade	Refresh
Encoding Device		TCP/IP	1	...	Weak	🟢	Upgradeable ⓘ	🔄
Encoding Device		TCP/IP	1	2...	Weak	🟢	Upgradeable ⓘ	🔄

図 3-4 デバイスのファームウェアバージョンのアップグレード

注記

ファームウェアアップグレードの列のステータス：なし（クライアントにアップグレードサーバーが追加されていない状態）、ネットワーク切断（アップグレードサーバーに接続不可）、アップグレード可（新しいファームウェアのバージョンが利用可）、アップグレード不可（利用可能なファームウェアのバージョンがない）、待機中（アップグレードの待機）、アップグレード済み、アップグレードに失敗。

3. オプション：カーソルを  まで移動すると、ファームウェアの現在バージョン、最新バージョン、アップグレード内容が表示されます。
4. **[アップグレード]** 可能なデバイスを選択し、**[アップグレード]** をクリックしてデバイスのファームウェアのアップグレードを開始します。
アップグレードの進行状況が表示されます。アップグレードが完了すると、そのデバイスのファームウェアアップグレードの列のステータスが **アップグレード済み** に変わります。

第4章 グループ管理

追加したリソースは、エンコーディングチャンネル、アラーム入力、警報出力、ゾーン、アクセスコントロールポイントおよびレーンコントローラーなど、便利な管理に対してグループに編成する必要があります。グループを通してライブビューを取得したり、ビデオファイルを再生したり、その他のデバイス操作を実行したりできます。

4.1 グループを追加する

便利な管理に対して追加したデバイスを整理するためにグループを追加することができます。デバイスを管理するためにグループを追加する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. **[デバイス管理→グループ]**の順にクリックして、グループ管理ページにアクセスします。
2. をクリックして、グループの追加ダイアログを開きます。
3. グループ名を設定します。
 - 必要に応じて、**[グループ名]**フィールドにグループ名を作成します。
 - 選択したデバイスの名前で新しいグループを作成するには、**[デバイス名でグループを作成]**にチェックを入れます。
4. **[OK]**をクリックして新しいグループをグループリストに追加します。

4.2 リソースをグループにインポートする

追加したグループにデバイスリソース（エンコーディングチャンネル、アラーム入力、警報出力など）を一括してインポートできます。

開始前

デバイスを管理するためのグループを追加します。「**グループの追加**」を参照してください。

デバイスリソースをグループにインポートする場合は、この作業を実行してください。ここでは、例として、グループ化するためにデバイスのエンコーディングチャンネルをインポートします。

手順

注記

1つのグループに最大 256 のエンコーディングチャンネルを追加できます。

1. **[デバイス管理→グループ]**の順にクリックして、グループ管理ページにアクセスします。
 2. **[インポート]**をクリックします。
-

3. **[エンコーディングチャンネル]**タブをクリックして、エンコーディングチャンネルのインポートページに進みます。
4. サムネイル/リスト一覧でカメラのサムネイル/名称を選択します。



注記

または をクリックして、カメラの表示モードをサムネイル表示またはリスト表示に切り替えることができます。

5. グループリストからグループを選択します。
-



注記

リストに必要なグループがない場合は、 をクリックして新しいグループを追加できます。

6. グループにエンコーディングチャンネルをインポートします。
- **[インポート]** をクリックして、選択したエンコーディングチャンネルを選択したグループにインポートします。
 - **[すべてインポート]** をクリックして、すべてのエンコーディングチャンネルを選択したグループにインポートします。
 - をクリックすると、デバイス名という名前の新しいグループが作成され、対応するエンコーディングチャンネルが直接グループにインポートされます。

4.3 チャンネルパラメータ を編集する

チャンネルをグループにインポートした後、チャンネルパラメータを編集できます。エンコーディングチャンネルの場合は、チャンネル名、ストリームタイプ、プロトコルタイプなどを編集できます。アラーム入力、ゾーン、その他のタイプのチャンネルの場合は、チャンネル名を編集できます。

開始前

グループにチャンネルをインポートします。「**リソースをグループにインポートする**」を参照してください。

グループにインポートしたチャンネルパラメータを編集するには、次の手順を実行してください。ここでは、エンコーディングチャンネルパラメータを変更することを例とします。

手順



注記

Hik-Connect デバイスのカメラを変更するには、「**カメラのパラメータを編集する**」を参照してください。

1. **[デバイス管理→グループ]** の順にクリックして、グループ管理ページにアクセスします。
追加したすべてのグループが左側に表示されます。
 2. グループの**[エンコーディングチャンネル]** をクリックします。
グループにインポートされたエンコーディングチャンネルが表示されます。
-

3. カメラの修正ダイアログを開きます。

- [エンコーディングチャンネル]をダブルクリックします。
- [エンコーディングチャンネル]を選択して、[変更]をクリックします。

4. カメラ名、ストリームタイプなどのカメラ情報を編集します。

ビデオストリーム

必要に応じて、カメラのライブビュー用のストリームを選択します。

再生ストリームタイプ

必要に応じて、カメラの再生用のストリームを選択します。

注記

デバイスがデュアルストリームに対応している場合、再生ストリームタイプフィールドが表示されます。

回転タイプ

必要に応じて、ライブビューの回転タイプまたはカメラの再生を選択します。

プロトコルタイプ

カメラの送信プロトコルを選択します。

ストリーミングプロトコル

ライブビュー時にストリームを取得するには、プロトコルを RTSP またはプライベートとして選択します。

注記

有効にするにはもう一度ストリームを取得する必要があります。

ストリームメディアサーバー

ストリームメディアサーバーを介してカメラのストリームを取得します。利用可能なストリームメディアサーバーを選択して管理できます。

コピー先

設定したパラメータを他のカメラにコピーします。

更新

カメラのライブビュー用に新たにキャプチャーした画像を取得します。

注記

ビデオストリームとプロトコルタイプについては、カメラのライブビューを再度開いた後に新しい設定が有効になります。

5. [OK]をクリックして新しい設定を保存します。

 注記

デコーディング機能をサポートする NVR の IP チャンネルの場合：

- ・ ビデオウォールでデコーディングして表示すると、そのプロトコルタイプがビデオウォールでデコーディングしている新しいチャンネルが、エンコードチャンネルのリソースリストに表示されます。
 - ・ 対応するローミングウィンドウを閉じた後、新しいチャンネルはエンコードチャンネルのリソースリストから削除されます。
-

4.4 チャンネルをグループから削除する

追加したチャンネルをグループから削除することができます。

追加したチャンネルをグループから削除するには、次の手順を実行します。ここでは、エンコーディングチャンネルを例とします。

手順

1. **[デバイス管理→グループ]**の順にクリックして、グループ管理ページにアクセスします。
追加したすべてのグループが左側に表示されます。
2. グループの**[エンコーディングチャンネル]**をクリックします。
グループにインポートされたエンコーディングチャンネルが表示されます。
3. **[エンコーディングチャンネル]**を選択し、**[削除]**をクリックしてカメラをグループから削除します。
4. **オプション：**グループからすべてのエンコーディングチャンネルを削除します。
 - 1) **[インポート]**をクリックします。
すべてのグループとそのグループ内のエンコーディングチャンネルが表示されます。
 - 2) マウスをグループに移動させます。
 - 3) グループからすべてのカメラを削除するには、グループ名の近くにある  をクリックします。

4.5 グループを削除する

必要に応じて、グループを削除できます。

グループを削除するには、次の手順を実行します。

手順

1. **[デバイス管理→グループ]**の順にクリックして、グループ管理ページにアクセスします。
 2. グループを削除します。
 - ・ グループを選択して  をクリックします。
 - ・ マウスをグループに移動させ、 をクリックします。選択したグループとその中のリソースが削除されます。
-

第5章 ライブビュー

監視作業では、追加したネットワークカメラ、ビデオエンコーダー、ビデオインターコムデバイスのライブビデオをメインビューページで表示できます。また、画像のキャプチャー、マニュアル録画、PTZ コントロールなど、一部の基本操作もサポートされています。

以下のアイコンは、カメラの各種ステータスを示します。

	カメラはオンラインで、適切に動作します。
	カメラはライブビューに切り替わっています。
	カメラは録画ステータスに切り替わっています。
	カメラがオフラインです。
	カメラに対してイベント（例えば、モーション検知）が検出されます。グループアイコンが  に変わります。
	カメラはオフラインです。ストリームメディアサーバーが設定されている場合、クライアントはストリームメディアサーバーを介してライブビデオを取得できます。 カメラのストリームメディアサーバーの設定については、「 ストリームメディアサーバーを介したビデオストリームの転送 」を参照してください。

5.1 ライブビューの開始と停止

1 台のカメラまたはグループ内のすべてのカメラのライブビューを起動することができます。デフォルトまたはカスタムビューモードで、ライブビューを開始することも可能です。

5.1.11 台のカメラのライブビューの開始

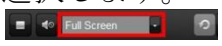
単一のカメラのみのライブビューを開始できます。

開始前

カメラグループをライブビュー用に定義する必要があります。

単一のカメラのライブビューを開始する必要がある場合は、次のタスクを実行します。

手順

1. メインビューページを開きます。
2. オプション：ライブビューツールバーのをクリックして、ライブビューのウィンドウ分割モードを選択します。
3. オプション：をクリックして、ライブビューウィンドウの表示スケールを設定します。
フルスクリーン、4:3、16:9、またはオリジナル解像度の設定が可能です。

注記

システム設定でライブビューと再生ウィンドウの両方の表示スケールを設定することもできます。詳細については、「**画像のパラメータを設定する**」を参照してください。

4. 以下のいずれかの操作を行い、単一のカメラのライブビューを開始します。
 - グループ内のカメラをカメラリストからディスプレイウィンドウにドラッグしてライブビューを起動します。
 - ライブビューを開始するには、表示ウィンドウを選択してカメラ名をダブルクリックします。
-

注記

Hik-Connect デバイスの場合、カメラのライブビューまたはビデオファイルが暗号化されている場合は、ストリームキーを入力する必要があります。

5. オプション：ライブビューのカメラのビデオを別のウィンドウにドラッグして、ライブビューの表示ウィンドウを変更します。
 6. オプション：カメラリストのカメラ名を右クリックして、必要に応じてストリームタイプを切り替えます。
-

注記

[すべてのストリームタイプ]をクリックすることで、頻繁に使用するストリームタイプを選択して、右クリックメニューで表示させることができます。

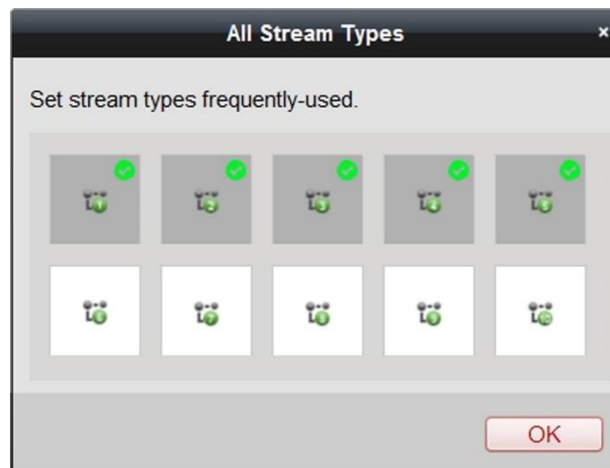


図 5-1 頻繁に使用されるストリームタイプの選択

5.1.2 カメラグループのライブビューを起動する

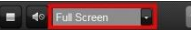
1 つのグループ内のすべてのカメラのライブビューを同時に起動することができます。

開始前

カメラグループをライブビュー用に定義する必要があります。

カメラグループのライブビューを起動する場合は、この作業を実行してください。

手順

1. メインビューページを開きます。
2. オプション：  をクリックして、ライブビューウィンドウの表示スケールを設定します。
フルスクリーン、4:3、16:9、またはオリジナル解像度の設定が可能です。

 注記

システム設定でライブビューと再生ウィンドウの両方の表示スケールを設定することもできます。詳細については、「[画像のパラメータを設定する](#)」を参照してください。

3. 次の操作のいずれかを実行して、グループ内のすべてのカメラのライブビューを起動します。
 - カメラリストからカメラグループをディスプレイウィンドウにドラッグしてライブビューを起動します。
 - グループ名をダブルクリックしてライブビューを起動します。

 注記

ディスプレイウィンドウ番号は、グループのカメラ番号に対して自動調整されます。

4. オプション：カメラリストのグループ名を右クリックして、グループ内のカメラのストリームタイプを切り替えます。

 注記

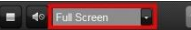
6、7、8、9、10 番目のストリームに切り替える前に、デバイスのウェブ設定ページでこれらのストリームタイプを設定する必要があります。詳細については、デバイスのユーザーマニュアルを参照してください。

5.1.3 デフォルトビューモードでのライブビューの開始

追加したカメラのビデオは、各種ビューモードで表示できます。頻繁に使用するデフォルトのビューモードは以下の 4 つまで選択できます。1 分割、4 分割、9 分割および 16 分割。

次のタスクは、デフォルトのビューモードライブビューを開始するときに実行します。

手順

1. メインビューページを開きます。
2. ビューパネルでデフォルトビューリストを展開するには、 をクリックします。
3. デフォルトビューモードを選択します。
追加したカメラのビデオは選択したビューに、一定の順番で表示されます。
4. オプション：  をクリックして、ライブビューウィンドウの表示スケールを設定します。
フルスクリーン、4:3、16:9、またはオリジナル解像度の設定が可能です。

 注記

システム設定でライブビューと再生ウィンドウの両方の表示スケールを設定することもできます。詳細については、「**画像のパラメータを設定する**」を参照してください。

5. オプション：デフォルトモードでライブビューを開始して、以下の操作を行います。

インスタント再生の開始	カーソルをビューの上に移動して  をクリックすると、ビューのインスタント再生が開始されます。詳細については、「 インスタント再生 」を参照してください。
自動切替の開始	ビューにカーソルを移動させ、  をクリックし、ビューの自動切替を開始します。詳細については、「 ライブビューの自動切替 」を参照してください。

5.1.4 カスタムビューの追加

ライブビューのビューモードをカスタマイズできます。

次のタスクは、ライブビューのカスタムビューを追加する際に実行します。

手順

1. メインビューページを開きます。
2. ビューパネルでをクリックして新しいビューを作成します。
3. ビューに希望の名前を入力します。
4. **[追加]**をクリックしてビューを追加します。
5. オプション：ライブビューツールバーのをクリックして、新しいビューのウィンドウ分割モードを設定します。

 注記

デフォルトでは、新しいビューは 4 ウィンドウ分割です。

6. 新しいビュー設定を保存するには、以下の操作のいずれかを行います。
 - をクリックして直接ビューを保存します。
 - をクリックして、別のカスタムビューとしてビューを保存します。
7. オプション：カスタムビューを追加してから、以下の操作を実行します。

ビュー名の編集	新しいビューにカーソルを移動させ、  をクリックして	 ビュー名を編集します。
ビューの削除	新しいビューにカーソルを移動させ、  をクリックして	 ビューを削除します。

5.1.5 カスタムビューモードでのライブビューの開始

追加したカメラのビデオは、カスタムビューモードで表示できます。

開始前

ビューモードをカスタマイズしてクライアントソフトウェアに追加します。詳細については、「**カスタムビューを追加する**」を参照してください。

次のタスクは、カスタムビューモードライブビューを開始するときに実行します。

手順

1. メインビューページを開きます。
2. オプション：  をクリックして、ライブビューウィンドウの表示スケールを設定します。
フルスクリーン、4:3、16:9、またはオリジナル解像度の設定が可能です。

注記

システム設定でライブビューと再生ウィンドウの両方の表示スケールを設定することもできます。詳細については、「**画像のパラメータを設定する**」を参照してください。

3. ビューパネルでカスタムビューリストを展開するには、 をクリックします。
4. カスタムビューを選択します。
5. カスタムビューモードでライブビューを起動するには、以下のいずれかの操作を実行してください。
 - カメラまたはカメラグループをドラッグしてウィンドウを表示し、選択したカスタムビューモードでライブビューを起動します。
 - カメラ名またはカメラグループ名をダブルクリックして、選択したカスタムビューモードでライブビューを起動します。
6. オプション：カーソルをビューに移動させ、 をクリックしてビューのインスタント再生を開始します。

5.1.6 ライブビューの停止

ライブビューを開始した後は、必要に応じて停止することができます。

開始前

ライブビューを開始します。

次のタスクは、ライブビューを停止する際に実行します。

手順

1. メインビューページでライブビューの表示ウィンドウを選択します。
2. ライブビューを停止するには、以下の操作のいずれかを行います。
 - 表示ウィンドウにカーソルを移動させ、右上隅に表示される  をクリックし、この表示ウィンドウのライブビューを停止します。
 - 表示ウィンドウを右クリックして右クリックメニューを開き、メニューの**[ライブビューの停止]**をクリックしてライブビューを停止します。
 - すべてのライブビューを停止するには、ライブビューツールバーの  をクリックします。

5.2 ライブビューでの自動切替

ライブビューでカメラやビューを自動で切り替えることができます。

ライブビューで自動切替を行う際には、以下の 3 つのモードを利用できます。

- デフォルトビューでのすべてのカメラの自動切替
- グループ内のカメラの自動切替
- カスタムビューの自動切替

5.2.1 デフォルトビューでのすべてのカメラの自動切替

カメラリストのすべてのカメラのビデオは、選択したデフォルトのビューに自動的に切り替えることができます。

このタスクは、デフォルトビューですべてのカメラの自動切替を行う必要があるときに実行します。

手順

1. メインビューページを開きます。
2. ツールバーのをクリックして、切替間隔の選択またはカスタマイズを行います。
3. デフォルトビューを選択して、選択したビューノードのをクリックします。
カメラリストのすべてのカメラは、選択したデフォルトビューで自動切替を開始します。
4. オプション：デフォルトビューですべてのカメラの自動切替を開始した後に、以下の操作を行います。

自動切替の一時停止/再開

をクリックして、デフォルトビューでのすべてのカメラの自動切替の一時停止/再開を行います。

前/次のビデオの表示

をクリックして、前後のカメラのライブビデオを表示します。

5.2.2 グループ内のカメラの自動切替

同じグループのカメラのビデオストリームは、選択した表示ウィンドウで自動的に切り替わります。

グループ内でカメラを自動切替する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. メインビューページを開きます。
2. 自動切替の表示ウィンドウを選択します。
3. ツールバーのをクリックして、切替間隔の選択またはカスタマイズを行います。
4. グループを選択してグループノードのをクリックします。
選択したグループのカメラがディスプレイウィンドウで自動切替を開始します。

 注記

自動切替が開始すると、オーディオはデフォルトでオフに切り替わります。

5. オプション：グループでカメラの自動切替を開始してから、次の操作を行います。

自動切替の一時停止/再開

 をクリックして、グループ内のカメラの自動切替を一時停止/再開します。

前/次のビデオの表示

 をクリックして、前後のカメラのライブビデオを表示します。

5.2.3 カスタムビューの自動切替

設定したカスタムビューは、1 つずつ自動的に切り替えることができます。

開始前

カスタムビューを追加します。詳細については、「[カスタムビューの追加](#)」を参照してください。

このタスクは、カスタムビューの自動切替を行う必要があるときに実行します。

手順

1. メインビューページを開きます。
2. ツールバーの  をクリックして、切替間隔の選択またはカスタマイズを行います。
3. カスタムビューノードの  をクリックします。

設定したすべてのカスタムビューが自動切替を開始します。

4. オプション：カスタムビューの自動切替を開始した後で、以下の操作を行います。

自動切替の一時停止/再開 クリック  をクリックしてカスタムビューの自動切替の一時停止/再開を行います。

前/次のビデオの表示 クリック  をクリックして、前後のカメラのライブビデオを表示します。

5.3 PTZ コントロール

本ソフトウェアでは、パン/チルト/ズーム機能を備えたカメラに PTZ コントロールを利用できます。PTZ コントロール中に、プリセット、巡回、パターンを設定できます。また、PTZ を制御するための新しいウィンドウを開くこともできます。

 注記

Hik-Connect デバイスは、上下左右の方向への PTZ の移動にのみ対応しています。

PTZ コントロールパネルには、次のアイコンがあります。

アイコン	名称	説明
	手動トラッキング	自動トラッキング機能付きスピードドームの場合、自動トラッキングを有効にします（右クリックメニューから）。ビデオをクリックしてターゲットを手動でトラッキングするには、アイコンをクリックします。
	メニュー	アナログスピードドームの場合は、アイコンをクリックしてローカルメニューを表示します。メニューの詳しい操作については、スピードドームのユーザーマニュアルを参照してください。
	ワンタッチ巡回	ワンタッチ巡回機能付きスピードドームの場合、アイコンをクリックすると、スピードドームが事前に定義されたプリセット番号 1 からプリセット番号 32 まで順に巡回を開始します（パーク時間）。パーク時間の設定については、スピードドームのユーザーマニュアルを参照してください。
	ワンタッチパーク	ワンタッチパーク機能付きスピードドームの場合、アイコンをクリックすると、スピードドームが現在のビューをプリセット番号 32 に保存します。デバイスは、一定時間操作がないと自動的にプリセット番号 32 でパークを開始します（パーク時間）。パーク時間の設定については、スピードドームのユーザーマニュアルを参照してください。

5.3.1 プリセットの設定

プリセットは事前に定義された画像位置です。これには、パン、チルト、フォーカス、その他パラメータの情報が含まれます。

このタスクは、PTZ カメラのプリセットを追加する必要がある場合に実行します。

手順

1. メインビューページを開き、PTZ カメラのライブビューを開始します。
2.  をクリックして、PTZ コントロールパネルを展開します。
3. **[プリセット]** をクリックして、**[PTZ プリセット設定]** パネルに移動します。
4. PTZ コントロールパネルの方向ボタンとその他のボタンをクリックして、希望のビューにカメラを動かします。
5. プリセットリストから PTZ プリセット番号を選択し、 をクリックしてダイアログを開きます。
6. ダイアログでプリセット名を入力します。
7. **[OK]** をクリックします。

8. オプション：プリセットを設定した後に、以下の操作を行います。

プリセットの呼び出し リスト内の設定済みプリセットをダブルクリックするか、プリセットを選択して  をクリックし、プリセットを呼び出します。キーボードの数字キー（**4** など）を押して、プリセット **1**～**9** を呼び出し、キーボードの **[数字キー（124 など）]** を押して他のプリセットを呼び出すこともできます。



注記

プリセット番号は **1**～**256** です。

プリセットの編集 リストから設定済みのプリセットを選択し、 をクリックして編集します。

プリセットの削除 リストから設定済みのプリセットを選択し、 をクリックして削除します。

5.3.2 巡回の設定

巡回は、ユーザーが定義した一連のプリセットで指定されているスキャントラックで、2つのプリセット間のスキャン速度と、別々にプログラム可能なプリセットでの滞在時間が含まれます。

開始前

1つのPTZカメラに、2つ以上のプリセットを追加します。

このタスクは、PTZカメラの巡回を追加する必要がある場合に実行します。

手順

1. メインビューページを開き、PTZカメラのライブビューを開始します。
2.  をクリックして、PTZコントロールパネルを展開します。
3. **[巡回]** をクリックして、**[PTZ巡回設定]** パネルに移動します。
4. ドロップダウンリストからパス **No.** を選択します。
5.  をクリックして、巡回番号の追加ダイアログを開きます。
6. ダイアログで、プリセットの滞在時間と巡回速度を設定します。



注記

プリセットの滞留時間は **1** 秒から **30** 秒の間で設定でき、巡回速度はレベル **1** からレベル **40** の間で設定できます。

7. **[OK]** をクリックします。

8. その他のプリセットを巡回に追加するには、手順 **5**、**6**、**7** を繰り返します。

9. オプション：巡回を設定した後に、以下の操作を行います。

巡回の呼び出し	 をクリックして巡回を呼び出します。
巡回の停止	 をクリックして巡回の呼び出しを停止します。
巡回のプリセットの編集	巡回パスのプリセットを選択し、  をクリックしてプリセットを編集します。
巡回からのプリセットの削除	巡回パスのプリセットを選択し、  をクリックして巡回からプリセットを削除します。

5.3.3 パターンの設定

パターンは、記憶した一連のパン、チルト、ズーム、プリセット機能です。このタスクは、PTZ カメラのパターンを追加する必要がある場合に実行します。

手順

1. メインビューページを開き、PTZ カメラのライブビューを開始します。
2. をクリックして、PTZ コントロールパネルを展開します。
3. [パターン]をクリックして、[PTZ パターン設定]パネルに移動します。
4. をクリックして、このパターンパスの記録を開始します。
5. 方向ボタンを使用して、PTZ の動作を制御します。
6. をクリックして、記録を停止し、記録したパターンを保存します。

7. オプション：パターンを設定した後に、以下の操作を行います。

パターンの呼び出し	クリック  パターンを呼び出します。
パターンの呼び出しの停止	クリック  パターンの呼び出しを停止します。
パターンの削除	1つのパターンを選択し、  をクリックしてパターンを削除します。
すべてのパターンの削除	 をクリックして、すべてのパターンを削除します。

5.4 手動による録画とキャプチャー

ライブビューを行っている際は、手動によるビデオの録画と画像のキャプチャーを行うことができます。そして、ローカル PC で録画したビデオファイルやキャプチャー画像を表示できます。

5.4.1 手動によるビデオ録画

マニュアル録画機能では、メインビューページにおいてマニュアルでライブビデオを録画できます。また、ローカル PC にビデオファイルを保存できます。

このタスクは、手動でビデオを録画する必要がある場合に実行します。

手順



注記

ライブビュー中の手動記録は、Hik-Connect デバイスに対応していません。

1. メインビューページを開きます。
2. ライブビューの開始
3. マニュアル録画を開始するには、以下の操作のいずれかを実行します。
 - ライブビューの表示ウィンドウにカーソルを移動させ、ツールバーを表示し、ツールバーのをクリックします。
 - 表示ウィンドウを右クリックし、右クリックメニューの[録画の開始]をクリックします。アイコンがに変わります。インジケーターが表示ウィンドウの右上隅に表示されます。
4. マニュアル録画を停止するには、をクリックします。

録画したビデオファイルは自動的にローカル PC に保存されます。また、保存パス情報が記載された小さなウィンドウがデスクトップの右下隅に表示されます。



注記

録画したビデオファイルの保存パスは、システム設定ページで設定できます。詳細については、「[ファイルの保存パスの設定](#)」を参照してください。

5.4.2 ローカルビデオの表示

ローカル PC に保存されている記録済みビデオファイルを見ることができます。

開始前

ライブビデオを記録します。

ローカルビデオファイルを表示する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. 左上の[ファイル→ビデオファイルを開く]の順にクリックして、ビデオファイルページを開きます。
2. カメラグループリストから検索するカメラを選択します。
3. をクリックして、検索の開始時間と終了時間を指定します。
4. [検索]をクリックします。

開始時間と終了時間の間に録画されたビデオファイルは、サムネイル形式でページに表示されます。

5. オプション：検索後に、以下の操作を行います。

ビデオファイルの削除

ビデオファイルを選択し、[削除]をクリックしてビデオファイルを削除します。

メールの送信 ビデオファイルを選択し、**[メールの送信]**をクリックして、選択したビデオファイルを添付したメール通知を送信します。



注記

メール通知を送信するには、続行する前にメール設定を構成する必要があります。詳細については、「**メールのパラメータを設定する**」を参照してください。

ローカルビデオの保存 ビデオファイルを選択し、**[名前を付けて保存]**をクリックしてビデオファイルの新しいコピーを保存します。

再生 ビデオファイルをダブルクリックして、ローカル再生を開始します。

5.4.3 画像のキャプチャー

ライブビュー中に画像をキャプチャーすることができます。

このタスクは、ライブビューの際に画像をキャプチャーする必要がある場合に実行します。

手順

1. メインビューページを開き、カメラのライブビューを開始します。
2. 画像をキャプチャーするには、以下の操作のいずれかを行います。
 - ライブビューの表示ウィンドウにカーソルを移動させ、ツールバーを表示し、ツールバーのをクリックします。
 - 表示ウィンドウを右クリックし、右クリックメニューの**[キャプチャー]**をクリックします。

キャプチャー画像は、ローカル **PC** に自動的に保存されます。ピクチャーレビューと保存パス情報の含まれた小さなウィンドウがデスクトップの右下隅に表示されます。



注記

キャプチャー画像の保存パスは、システム設定ページで設定できます。詳細については、「**ファイルの保存パスの設定**」を参照してください。

5.4.4 キャプチャー画像の表示

ライブビューでキャプチャーした画像は、ソフトウェアを実行している **PC** に保存されます。必要であれば、キャプチャー画像を表示できます。

開始前

ライブビューで画像をキャプチャーします。

iVMS-4200 クライアン

キャプチャーした画像を表示する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. 左上の**[ファイル→画像ファイルを開く]**の順にクリックして、ビデオファイルページを開きます。
2. カメラグループリストから検索するカメラを選択します。
3. をクリックして、検索の開始時間と終了時間を指定します。
4. **[検索]**をクリックします。
開始時間と終了時間の間にキャプチャー画像は、サムネイル形式でページに表示されます。
5. **オプション**：検索後に、以下の操作を行います。

画像の拡大	画像のサムネイルをダブルクリックして拡大し、見やすくします。
画像の印刷	キャプチャー画像を選択し、 [印刷] をクリックして、選択した画像をプリントアウトします。
画像の削除	キャプチャー画像を選択して、 [削除] をクリックして、選択した画像を削除します。
メールの送信	キャプチャーした画像を選択し、 [メールの送信] をクリックして、選択した画像を添付したメール通知を送信します。
画像の保存	キャプチャー画像を選択して、 [名前を付けて保存する] をクリックし、選択した画像の新しいコピーを保存します。

5.5 簡易再生

インスタント再生では、注目に値する、あるいは一見して不明確なビデオのあるセクションを表示します。そのため、メインビューページでビデオファイルを即座に再生し、必要に応じてすぐにレビューを得ることができます。

開始前

ビデオファイルを記録し、それらを **DVR**、**NVR**、ネットワークカメラなどの **SD/SDHC** カードや **HDD** などのストレージデバイスに保存します。

ストレージデバイス、またはストレージサーバーに保存します。

このタスクは、インスタント再生を開始する必要がある場合に実行します。

手順

1. メインビューページを開き、ライブビューを開始します。
 2. インスタント再生のプリプレイ期間リストを表示するには、以下の操作のいずれかを行います。
 - 表示ウィンドウにカーソルを移動させ、ツールバーを表示して  をクリックします。
 - 表示ウィンドウを右クリックし、右クリックメニューの**[インスタント再生に切り替える]**を選択します。
 - ビューパネルのデフォルトビューまたはカスタムビューノードにカーソルを移動させ、 をクリックします。
- 30 秒、1 分、3 分、5 分、8 分、10 分のプリプレイ期間リストが表示されます。

3. 表示されたリストから期間を選択し、インスタント再生を開始します。

例

3分を選択すると、ライブビューの現在の時間が 09:30:00 である場合は、インスタント再生が 09:27:00 から開始されます。

インスタント再生中に、インジケータが表示ウィンドウの右上隅に表示されます。

4. **オプション**：インスタント再生を停止してライブビューに戻るには、を再びクリックします。

5.6 ウィンドウ分割のカスタマイズ

このクライアントソフトウェアでは、事前に定義されている複数のタイプのウィンドウ分割を利用できます。また、必要に応じてカスタマイズしたウィンドウ分割を設定することもできます。

このタスクは、ウィンドウ分割のカスタマイズを行う必要がある場合に実行します。

手順

注記

最大 5 つのウィンドウ分割をカスタマイズできます。

1. メインビューまたはリモート再生ページを開きます。
 2. ライブビューまたは再生ツールバーのをクリックします。
 3. **[編集]**を選択してカスタムウィンドウ分割ページを開きます。
 4. **[追加]**をクリックして[カスタムウィンドウ分割の追加]ダイアログを開きます。
 5. 新しいウィンドウ分割に希望の名前を設定し、**[OK]**をクリックします。
 6. ウィンドウ分割は 3x3、4x4、5x5、または 6x6 として選択します。
-

注記

リモート再生については、最大 16 個のウィンドウを同時に再生できます。そのため、16 個を超えるウィンドウのあるカスタムウィンドウ分割は無効となります。

7. **オプション**：マウスをドラッグして調整ウィンドウを選択し、**[結合]**をクリックしてウィンドウ全体として結合します。
8. **[保存]**をクリックします。

次にすること

をクリックすると、メインビューまたはリモート再生ページに戻ります。

5.7 魚眼カメラのライブビュー

魚眼カメラの場合、魚眼レンズモードでライブビューを開始したり、プリセットや巡回を設定したり、PTZ コントロールを実行したりできます。

5.7.1 魚眼レンズモードでライブビューを実行する

魚眼レンズ拡張モードでカメラのライブビデオを再生することができます。

魚眼カメラの魚眼モードでライブビューを起動する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. メインビューページを開き、魚眼カメラのライブビューを起動します。
2. ビデオを右クリックして**[魚眼レンズ拡張]**を選択し、魚眼レンズ拡張ウィンドウにアクセスします。
3. 実際の取り付け位置に応じて魚眼カメラの取り付けタイプを選択します。
4. 必要に応じてライブビューの拡張モードを選択します。

魚眼レンズ

魚眼ビューモードでは、カメラの広角ビュー全体が表示されます。このビューモードは、魚の凸状の目の視界に近いので魚眼レンズと呼ばれています。レンズは広い範囲の曲線状の画像を生成する一方、画像内のオブジェクトの遠近感と角度を歪めます。

パノラマ

パノラマビューモードでは、いくつかのキャリブレーション方法により歪んだ魚眼画像が通常の透視画像に変換されます。

PTZ

PTZ ビューは、魚眼ビューまたはパノラマビューで定義された領域のクローズアップビューであり、**e-PTZ** とも呼ばれる電子 **PTZ** 機能に対応しています。

注記

各 PTZ ビューは、魚眼ビューとパノラマビューにおいて特定のナビゲーションボックスでマークされています。魚眼ビューまたはパノラマビューのナビゲーションボックスをドラッグして PTZ ビューを調整するか、または PTZ ビューをドラッグしてビューを目的の角度に調整できます。

5. オプション：魚眼レンズモードでライブビューを開始した後、以下の操作を行ってください。

キャプチャー ウィンドウを右クリックして**[キャプチャー]**を選択し、ライブビュープロセスで画像をキャプチャーします。

全画面表示 再生中のウィンドウを右クリックして、選択したウィンドウを全画面モードに切り替えます。

5.7.2 魚眼レンズモードでの PTZ コントロール

魚眼レンズモードでは、PTZ を制御して PTZ ウィンドウを調整できます。



注記

PTZ パネルはデバイスによって異なります。

PTZ コントロールパネルでは、以下の機能を利用できます。

- PTZ ウィンドウを選択し、方向ボタンをクリックして視野角を調整します。もしくは、魚眼レンズまたはパノラマウィンドウの番号ラベルをドラッグして、PTZ ウィンドウの視野角を変更します。
- PTZ ウィンドウを選択し、をクリックしてオートスキャンを開始し、もう一度クリックしてオートスキャンを停止します。
- のスライダーをドラッグして、PTZ の移動速度を調整します。
- **+**または**-**をクリックするか、マウスホイールをスクロールして、選択した PTZ ウィンドウを拡大または縮小します。

プリセットの設定

魚眼レンズモードでは、ユーザー定義のモニター位置/ポイントであるプリセットを設定し、プリセット番号を呼び出すだけで監視シーンを定義した位置に変更できます。

魚眼レンズモードでプリセットを設定する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順



注記

特定の魚眼カメラのみがプリセットの設定をサポートし、最大 **256** のプリセットを魚眼モードで設定できます。

1. メインビューページを開き、魚眼カメラのライブビューを起動します。
2. ビデオを右クリックして**[魚眼レンズ拡張]**を選択し、魚眼レンズ拡張ウィンドウにアクセスします。
3. **[プリセット]**タブをクリックして、プリセット設定パネルにアクセスします。
4. PTZ ウィンドウを選択し、プリセットとしてマークしたい場所にシーンを調整します。
5. をクリックしてプリセットの追加ウィンドウを開きます。
6. プリセット名を入力します。
7. **[OK]**をクリックします。
8. オプション：プリセットを設定したら、次の操作を実行します。

プリセットの呼び出し	プリセットを選択してクリックし、	 設定したプリセットを呼び出します。
プリセットの削除	プリセットを選択してクリックし、	 設定したプリセットを削除します。

巡回の設定

魚眼レンズモードでは、2つのプリセット間のスキャン速度とプリセットでの滞留時間を別々にプログラム可能にして、ユーザー定義のプリセットのグループで指定されたスキャントラックである巡回を設定できます。

開始前

2つ以上のプリセットを設定します。

魚眼レンズモードで巡回を設定する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

注記

特定の魚眼カメラのみが巡回の設定をサポートし、最大 **32** の巡回を魚眼レンズモードで設定できます。

1. メインビューページを開き、魚眼カメラのライブビューを起動します。
 2. ビデオを右クリックして**[魚眼レンズ拡張]**を選択し、魚眼レンズ拡張ウィンドウにアクセスします。
 3. **[巡回]**タブをクリックして、巡回設定パネルにアクセスします。
 4. ドロップダウンリストからパス **No.**を選択します。
 5.  をクリックして巡回番号の追加ウィンドウを開きます。
 6. プリセットの滞留時間と巡回速度を設定します。
-

注記

滞留時間は **1 秒** から **120 秒** の範囲であり、巡回速度の範囲は **1~40** です。

7. **[OK]**をクリックします。
8. その他のプリセットを巡回に追加するには、手順 **5**、**6**、**7** を繰り返します。
9. **オプション**：巡回を設定したら、次の操作を実行します。

巡回のプリセット の編集	巡回パスのプリセットを選択し、  をクリックしてプリセットを編集します。
巡回からのプリセ ットの削除	巡回パスのプリセットを選択し、  をクリックして巡回からプリセットを削除します。
巡回の呼び出し	 をクリックして巡回を呼び出します。
巡回の停止	 をクリックして巡回の呼び出しを停止します。

5.8 マスタースレーブのリンケージを行う

マスタースレーブのトラッキング機能に対応しているボックスまたはバレットカメラは、ユーザーの要求に応じてターゲットを見つけるか、トラッキングすることができます。

注記

- この機能は特定のボックスカメラまたはバレットカメラにのみ対応しています。
- 自動トラッキング機能付きスピードドームは、ボックスカメラまたはバレットカメラの近くで取り付ける必要があります。

5.8.1 マスタースレーブトラッキングルールを設定する

ライブビュー中にマスタースレーブトラッキングを実行する前に、VCA 検出ルールの設定、スピードドームへのリンク、カメラとスピードドームのキャリブレーションなど、ボックスカメラまたはバレットカメラのマスタースレーブのトラッキングルールを設定する必要があります。

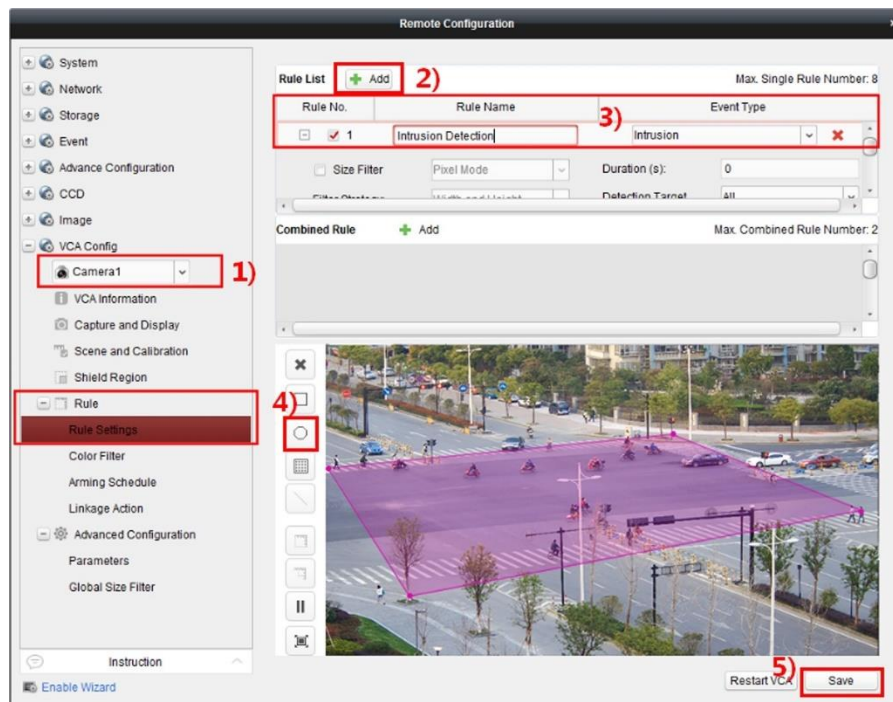
侵入検知ルールを設定する

バレットボックスまたはボックスカメラの VCA 検出ルールを設定する必要があります。VCA イベントがトリガーすると、クライアントはスピードドームをトリガーさせてターゲットのトラッキングを可能にします。ここでは、侵入検知を例とします。

バレットカメラまたはボックスカメラの侵入検知ルールを設定するには、この作業を実行してください。

手順

1. デバイス管理ページを開き、ボックスカメラまたはバレットカメラを選択します。
2. [リモート設定→VCA 設定→ルール→ルール設定]の順にクリックして、ルール設定ページにアクセスします。



3. ルールを追加するには、ルールリストパネルで**[追加]**をクリックします。
4. イベントタイプとして**侵入**を選択します。
5. ☐をクリックすると、ライブビデオに検出領域が描画されます。
6. **[保存]**をクリックします。

スピードドームを連動する

ボックスカメラまたはバレットカメラのマスタースレーブトラッキングを設定するときは、カメラをスピードドームに連動し、トラッキング用のスピードドームの**PTZ** 位置を設定できます。

この作業を実行して、ボックスカメラまたはバレットカメラをマスタースレーブトラッキングのスピードドームに連動します。

手順

1. デバイス管理ページを開き、ボックスカメラまたはバレットカメラを選択します。
2. **[リモート設定]**→**[高度な設定]**→**[マスタースレーブトラッキング]**の順にクリックして、マスタースレーブトラッキングの設定ページにアクセスします。
3. スピードドームログインウィンドウを開くには、表示ウィンドウで**[ログイン]**をクリックします。

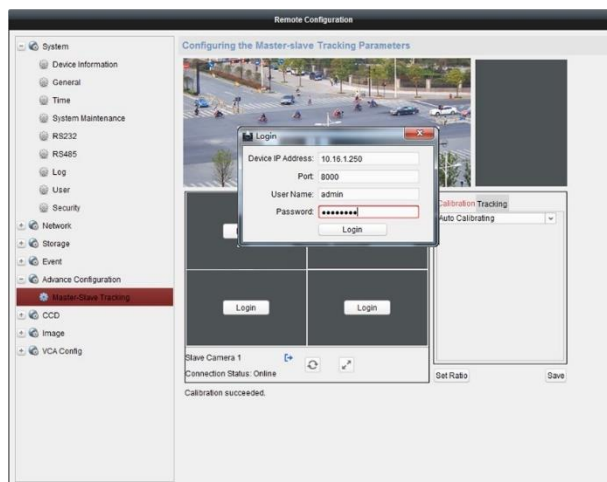


図 5-3 スピードドームのログインウィンドウ

4. スピードドームの IP アドレス、ポート番号、ユーザー名、パスワードを入力します。
5. **[ログイン]**をクリックしてスピードドームにログインします。
6. **[PTZ]**をクリックし、方向矢印を使用してスピードドームを水平位置に調整します。

次にすること

ボックスカメラまたはバレットカメラ、リンクされたスピードドームをキャリブレートします。詳細については「**カメラとスピードドームを自動でキャリブレートする**」または「**カメラとスピードドームを手動でキャリブレートする**」を参照してください。

カメラとスピードドームを自動でキャリブレートする

バレットカメラまたはボックスカメラのマスタースレーブトラッキングルールを設定するときは、カメラとスピードドームをキャリブレートする必要があります。自動と手動を含む2つのキャリブレーションモードが利用可能です。ここでは自動キャリブレーションについて紹介します。

開始前

カメラをスピードドームにリンクします。詳細については「**スピードドームを連動する**」を参照してください。

カメラとスピードドームを自動でキャリブレートするには、この作業を実行してください。

手順

1. デバイス管理ページを開き、ボックスカメラまたはバレットカメラを選択します。
2. **[リモート設定]→[高度な設定]→[マスタースレーブトラッキング]**の順にクリックして、マスタースレーブトラッキングの設定ページにアクセスします。
3. キャリブレーションパネルの右下にあるキャリブレーションモードを、**自動キャリブレーション**に設定します。
4. ドームとカメラのライブビューがほぼ同じになるように、スピードドームのビューを拡大/縮小します。
5. **[保存]**をクリックします。

カメラとスピードドームを手動でキャリブレートする

バレットカメラまたはボックスカメラのマスタースレーブトラッキングルールを設定するときは、カメラとスピードドームをキャリブレートする必要があります。自動と手動を含む2つのキャリブレーションモードが利用可能です。ここでは手動キャリブレーションについて紹介します。

開始前

カメラをスピードドームにリンクします。詳細については「**スピードドームを連動する**」を参照してください。

カメラとスピードドームを手動でキャリブレートするには、この作業を実行してください。

手順

1. デバイス管理ページを開き、ボックスカメラまたはバレットカメラを選択します。
2. **[リモート設定]→[高度な設定]→[マスタースレーブトラッキング]**の順にクリックして、マスタースレーブトラッキングの設定ページにアクセスします。
3. キャリブレーションパネルの右下にあるキャリブレーションモードを、**手動キャリブレーション**に設定します。
4. リストから1番目のサイトを選択して**+**をクリックします。
ライブビューページの中央に青い十字が表示され、選択したサイトのデジタルズームビューが右側に表示されます。

5. 他の手動キャリブレーションサイトを追加するには、手順 4 を繰り返します。

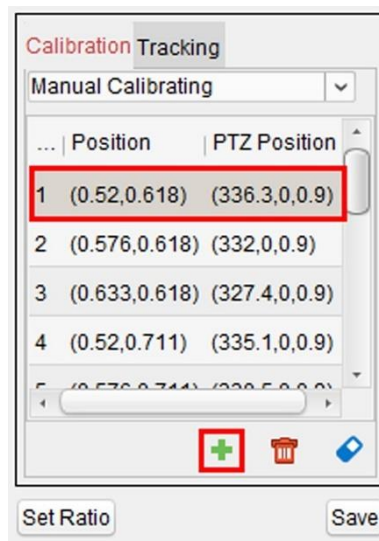


図 5-4 キャリブレーションサイト

6. ライブビューページで 4 つのキャリブレーションサイト間の距離を均等に調整します。
7. 1 番目のキャリブレーションサイトを選択します。
右側に 1 番目のサイトのデジタルズームビューが表示されます。
8. スピードドームのライブビューと選択したサイトのデジタルズームビューがほぼ同じであることを確認するために、スピードドームのビューを移動または拡大/縮小します。
9. 罫をクリックして現在のサイト位置情報を保存します。
10. 他のサイトの位置を設定するには、手順 7、8、9 を繰り返します。
11. [保存]をクリックします。

5.8.2 マスタースレーブトラッキングを有効にする

ライブビュー中に、マスタースレーブトラッキングを有効にして、スピードドーム付きのバレットカメラまたはボックスカメラのビューに表示されるターゲットを特定またはトラッキングできます。

開始前

ボックスカメラまたはバレットカメラのマスタースレーブトラッキングルールを設定します。

ボックスカメラまたはバレットカメラのマスタースレーブトラッキングを有効にする必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. メインビューページにアクセスし、ボックスカメラまたはバレットカメラのライブビューを起動します。
2. ライブビューウィンドウを右クリックし、[マスタースレーブトラッキングを有効にする]をクリックします。

設定された VCA ルールがターゲットによってトリガーすると、連動されたスピードドームが自動マスタースレーブトラッキングを実行し、ターゲットフレームが緑色から

赤色に変わります。

5.9 サーマルカメラのライブビュー

サーマルカメラの場合は、ライブビュー中に火源情報と温度を表示できます。手動で温度を測定して、ライブビュー画像の温度情報を取得することもできます。

5.9.1 ライブビュー中に火源情報を表示する

ライブビュー中に、検出された火源情報を見ることができます。

開始前

サーマルデバイスのアラームルールを設定します。詳細はデバイスのユーザーマニュアルを参照してください。

ライブビュー中に火源情報を表示する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. メインビューページにアクセスし、サーマルカメラのライブビューを起動します。

注記

ライブビューの起動と停止については、「**1 台のカメラのライブビューを起動する**」と「**ライブビューを停止する**」を参照してください。

2. ライブビュー画像を右クリックし、右クリックメニューの**[火源情報]**を選択して情報タイプのリストを表示します。
3. リストから情報のタイプを選択して情報を表示します。

火源領域

設定されたアラーム閾値よりも温度が高い領域。

最高温度領域

火源領域で最も気温が高い領域をマークします。緑色で表示されています。

火源ターゲット

目的地情報を表示します。

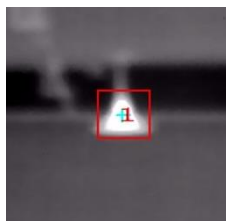


図 5-5 ライブビュー画像上の火源情報

5.9.2 ライブビュー画像に温度情報を表示する

ライブビデオを表示しているときに、監視シーンのリアルタイムの温度情報を表示または非表示にすることができます。

開始前

- デバイスの VCA ソースタイプを、**温度測定 + 行動分析**として切り替えます。
- デバイス温度測定機能を有効にして温度測定ルールを設定します。
詳細については、デバイスのユーザーマニュアルを参照してください。

ライブビュー画像に温度情報を表示する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. メインビューページにアクセスし、サーマルカメラのライブビューを起動します。



注記

ライブビューの起動と停止については、「**1 台のカメラのライブビューを起動する**」と「**ライブビューを停止する**」を参照してください。

2. 温度測定ルールで設定された領域にシーンを調整します。
3. ライブビュー画像を右クリックして、右クリックメニューの**[温度情報を表示する]**を選択します。
ライブビュー画像に温度が表示されます。
4. 詳細な温度情報を表示するには、画像をクリックしてください。



図 5-6 ライブビュー画像の温度情報

5. オプション: ライブビュー画像を右クリックして、**[温度情報を非表示にする]**を選択して温度情報を非表示にします。

5.9.3 手動で温度を測定する

サーマルカメラのライブビュー中に、特定箇所または領域の温度を取得するためにライ

iVMS-4200 クライアン

ビュー画像上に点または枠を描画することができます。

注記

- 1 台のカメラに最大 10 個の測定ルール（点と枠）を描画することができます。
 - 複数のクライアントが 1 台のカメラのライブビデオを取得しているときに、1 つのクライアントが測定ルール（点と枠）を追加または削除すると、他のクライアントのライブビューも影響を受けます。すべてのユーザーがカメラのライブビューを停止すると、測定ルールが消去されます。
-

点の温度を手動で測定する

サーマルカメラのライブビュー中に、ライブビュー画像に点を描画して、さまざまな点の温度を測定できます。

手動で点の温度を測定する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. メインビューページにアクセスし、サーマルカメラのライブビューを起動します。

注記

ライブビューの起動と停止については、「**1 台のカメラのライブビューを起動する**」と「**ライブビューを停止する**」を参照してください。

2. 温度測定の種類を選択するには、次の操作のいずれかを実行します。
 - ライブビュー画像を右クリックして、**[手動温度測定→点別]**の順に選択します。
 - ライブビューツールバーのをクリックして、**[点別]**を選択します。
3. ライブビュー画像をクリックして点を描きます。



図 5-7 点の温度測定

設定された点の温度は、点の横にある画像に表示されます。

4. オプション：手動で点の温度を測定した後、次の操作を実行してください。

点の削除

[キャンセル]をクリックし、削除するライブビュー画像上の描画点をクリックします。

温度の非表示

ライブビュー画像を右クリックして、右クリックメニューの**[手動温度表示を無効にする]**を選択します。

領域内の温度を手動で測定する

サーマルカメラのライブビュー中に、ライブビュー画像に枠を描画して、さまざまな領域内の温度を測定できます。

手動で領域内の温度を測定する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. メインビューページにアクセスし、サーマルカメラのライブビューを起動します。

注記

ライブビューの起動と停止については、「**1 台のカメラのライブビューを起動する**」と「**ライブビューを停止する**」を参照してください。

2. 温度測定の種類を選択するには、次の操作のいずれかを実行します。
 - ライブビュー画像を右クリックして、**[手動温度測定]**→**[枠別]**の順に選択します。
 - ライブビューツールバーのをクリックして、**[枠別]**を選択します。
3. ライブビュー画像をクリックして、領域枠を描画します。

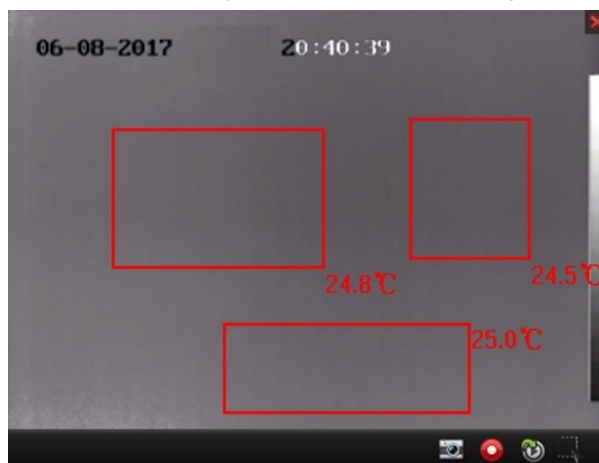


図 5-8 領域内の温度測定

描画された領域の平均気温は、領域の横にあるライブビュー画像に表示されます。

4. オプション：手動で領域内の温度を測定した後、次の操作を実行してください。

点の削除

[キャンセル]をクリックし、削除するライブビュー画像上の描画領域をクリックします。

温度の非表示

ライブビュー画像を右クリックして、右クリックメニューの**[手動温度表示を無効にする]**を選択します。

5.10 その他の機能

補助画面プレビュー、デジタルズーム、チャンネルゼロ、双方向オーディオ、カメラステータス、同期など、ライブビューで対応している機能は他にもいくつかあります。

補助スクリーンプレビュー

複数の監視シーンを簡単にプレビューするため、異なる補助画面にライブビデオを表示します。



注記

最大 3 つの補助画面がサポートされています。

デジタルズーム

マウスをドラッグして、右下/左下向きの矩形を描き、この領域のズームインまたはアウトを行います。あるいは、マウスホイールを使用して、デジタルズームモードで表示のズームインまたはズームアウトを行います。

チャンネルゼロ

デバイスがチャンネルゼロの場合は、**Ctrl** キーを押しながらダブルクリックして特定のチャンネルを表示します。復元するには、**Ctrl** キーを押した状態でダブルクリックします。

双方向音声

双方向音声機能を使用すると、カメラの音声トークを有効化できます。これにより、ライブビデオを取得できるだけでなく、カメラからリアルタイムのオーディオを得ることができますようになります。デバイスに複数の双方向音声チャンネルがある場合は、チャンネルを選択すると双方向音声を開始できます。



注記

- 双方向音声は、1 度に 1 つのカメラのみに使用できます。
 - Hik-Connect デバイスは、双方向オーディオ中のチャンネル選択に対応していません。
-

カメラステータス

録画ステータス、信号状態、接続番号などのカメラステータスは検出でき、確認用途で表示できます。状況情報は、10 秒ごとに更新されます。

同期化

同期化機能では、このクライアントソフトウェアを動作させている PC とデバイスの時計を同期化する方法を提供します。

第6章 リモートストレージ設定

ビデオファイルとキャプチャーした画像は、ローカルデバイスの HDD、Net HDD、SD/SDHC カード、または接続されているストレージサーバーに保存することができます。

6.1 DVR、NVR、またはネットワークカメラに画像とビデオを保存する

DVR、NVR、ネットワークカメラなどの一部のローカルデバイスは、ビデオファイルや画像ファイル用の HDD、Net HDD、SD/SDHC カードなどのストレージデバイスを提供します。ローカルデバイスのチャンネルに録画スケジュールまたはキャプチャスケジュールを設定できます。

開始前

新しく取り付けたストレージデバイスをフォーマットする必要があります。デバイスのリモート設定ページに移動し、

[ストレージ]→[一般]の順にクリックし、HDD または SD/SDHC カードを選択し、[フォーマット]をクリックして選択した

ストレージデバイスをフォーマットします。

DVR、NVR、またはネットワークカメラなどのエンコーディングデバイスに画像ファイルとビデオファイルを保存する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

注記

キャプチャスケジュールでキャプチャーされた画像はローカルデバイスに保存され、デバイスのリモート設定ページで検索できます。

1. ストレージスケジュールページを開きます。
2. カメラグループリストでカメラを選択します。
3. デバイスのローカル記録またはキャプチャーを有効にするには、[エンコーディングサーバーのストレージ]下の[録画スケジュール]または[キャプチャスケジュール]にチェックを入れます。

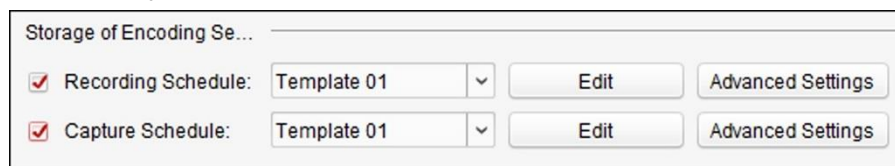


図 6-1 ローカル記録またはキャプチャーを有効にする

4. ドロップダウンリストから記録またはキャプチャスケジュールテンプレートを選択します。

全日テンプレート

全日の連続記録。

平日テンプレート

午前 8 時から午後 8 時までの勤務時間の連続記録。

イベントテンプレート

全日のイベントトリガー録画。

テンプレート 01~08

特定のスケジュール用の固定テンプレート。必要に応じて、テンプレートを編集できます。

カスタム

必要に応じてテンプレートをカスタマイズします。



テンプレートを編集またはカスタマイズする必要がある場合は、「**録画スケジュールテンプレートを設定する**」または「**キャプチャスケジュールテンプレートを設定する**」を参照してください。

5. 録画スケジュールの**[高度な設定]**をクリックして、記録の詳細パラメータを設定します。



表示される項目はデバイスによって異なります。

プレ録画

通常、イベントが発生する前に記録したい場合に、イベントトリガー記録用に使用されます。

ポスト録画

イベント終了後、ビデオを一定期間記録することもできます。

ビデオファイルの保存期間

ビデオファイルをストレージデバイスに保存する時間は、期限切れになると削除されます。値が 0 に設定されている場合、ファイルは永久に保存されます。

冗長記録

ビデオファイルを R/W HDD だけでなく、冗長 HDD にも保存します。

録音

ビデオファイルを音声ありもしくはなしで録画します。

ビデオストリーム

録画するストリームタイプを選択します。

注記

特定のタイプのデバイスでは、カメラのメインストリームとサブストリームの両方を記録するためにデュアルストリームを選択できます。このモードでは、リモート再生中にストリームタイプの切り替えができます。再生中のストリーム切り替えについては、「**通常の再生**」を参照してください。

6. キャプチャスケジュールの**[高度な設定]**をクリックして、キャプチャーの詳細パラメータを設定します。

解像度

連続画像またはイベントでキャプチャーした画像の解像度を選択します。

画質

連続画像またはイベントでキャプチャーした画像の品質を設定します。

間隔

2つのキャプチャーアクション間の期間を指す間隔を選択します。

キャプチャーした画像番号

イベントでキャプチャーする画像番号を設定します。

7. オプション：**[コピー先]**をクリックして、録画スケジュール設定を他のチャンネルにコピーします。
8. **[保存]**をクリックして設定を保存します。

6.2 画像とビデオをストレージデバイスに保存する

追加したエンコーディングデバイスのビデオファイルと画像をストレージデバイスに保存することができます。追加したエンコーディングデバイスのビデオファイルや画像を保存するためのストレージデバイスをクライアントに追加したり、リモート再生用にファイルを検索したりできます。ストレージデバイスは、iVMS-4200 ストレージサーバー、CVR（センタービデオレコーダー）、またはその他のNVRです。

ここでは、iVMS-4200 ストレージサーバーの設定を例とします。

注記

iVMS-4200 ストレージサーバーのアプリケーションソフトウェアをインストールする必要があります、これはクライアントインストールパッケージに含まれています。インストールパッケージを実行したら、**ストレージサーバー**を選択して iVMS-4200 ストレージサーバーのインストールを有効にします。

6.2.1 ストレージサーバーを起動する

初めて iVMS-4200 ストレージサーバーを実行する場合は、ストレージサーバーを起動する必要があります。ストレージサーバーを起動する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. デスクトップのをクリックして iVMS-4200 ストレージサーバーを実行します。



図 6-2 ストレージサーバーのパスワード再設定

注記

- ・ ストレージサーバーのポート（値：8000）が他のサービスによって占有されている場合は、ダイアログが提示します。ストレージサーバーが正しく動作するように、ポート番号を他の値に変更する必要があります。
- ・ 他の PC にインストールされている iVMS-4200 ストレージサーバーにビデオファイルを記録することもできます。

-
2. 新しいパスワードを入力して、パスワードを確定します。

注意

デバイスのパスワードの強度は、自動的に確認されます。製品のセキュリティを高めるため、パスワード（大文字、小文字、数字、特殊文字の中の最低でも 3 種類を含む 8 文字以上を使用）をユーザー自身で変更することを強くお勧めします。また、高度なセキュリティシステムでは特に、定期的にパスワードをリセットすることをお勧めします。パスワードを月次または週次でリセットすると、製品をより安全に保護できます。すべてのパスワード設定やその他のセキュリティ設定は、インストール実行者とエンドユーザーの責任です。

-
3. [OK]をクリックしてパスワードを変更します。

パスワードを変更すると、ストレージサーバーが自動的に起動します。

6.2.2 クライアントにストレージサーバーを追加する

追加したエンコーディングデバイスのビデオファイルと画像を保存するために、クライアントにストレージサーバーを追加できます。

ストレージサーバーを追加する必要がある場合、この作業を実行してください。

手順

1. デバイス管理ページを開きます。
2. [デバイス]をクリックします。
3. [Hikvision デバイス]をクリックしてデバイスリストを表示します。
4. iVMS-4200 ストレージサーバーを追加します。
 - オンラインストレージサーバーを追加できます。詳細については「**単一のオンラインデバイスを追加する**」を参照してください。
 - IP アドレスまたはドメイン名でストレージサーバーを追加できます。詳細については「**IP アドレスまたはドメイン名でデバイスを追加する**」を参照してください。

6.2.3 ストレージサーバーの HDD をフォーマットする

ビデオファイルと画像の保存に対して、ストレージサーバーの HDD をフォーマットする必要があります。この作業を実行して、ストレージサーバーの HDD をフォーマットします。

手順

 注記

HDD のフォーマットは保存用にディスクスペースを事前に割り当てることであり、フォーマットされた HDD の元のデータは削除されません。

1. デバイス管理ページを開きます。
2. [デバイス]をクリックします。
3. リストから追加したストレージサーバーを選択します。
4. [リモート設定]をクリックします。
5. [ストレージ]→[一般]の順にクリックして HDD フォーマットウィンドウを開きます。

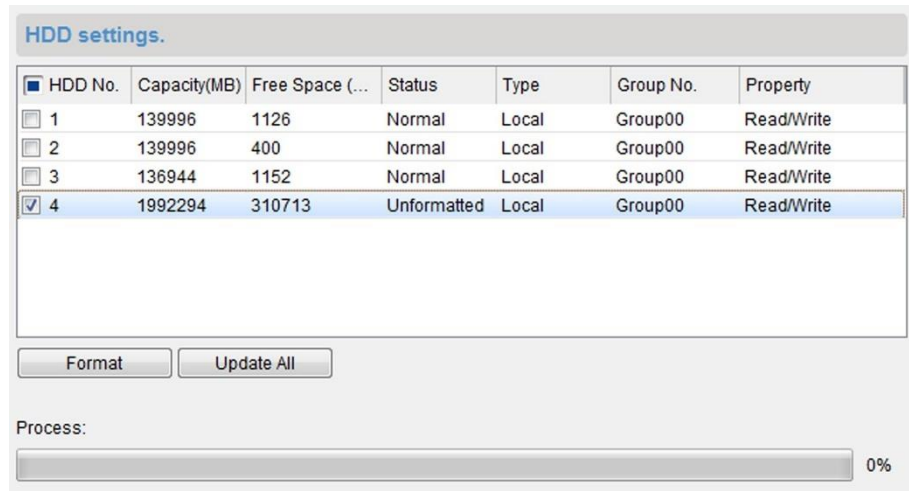


図 6-3 HDD のフォーマット

6. リストから HDD を選択し、**[フォーマット]**をクリックします。

プロセスバーからフォーマットプロセスを確認でき、フォーマット済み HDD のステータスが**未フォーマット**から**通常ステータス**に変わります。

6.2.4 ストレージ設定を構成する

ストレージサーバーが使用可能になったら、カメラの録画スケジュールまたはキャプチャースケジュールを設定できます。

開始前

新しく取り付けたストレージデバイスはフォーマットが必要です。

ストレージ設定を構成する必要がある場合は、この作業を実行します。

手順

1. コントロールパネルの**[ストレージスケジュール]**をクリックして、ストレージスケジュールのページを開きます。
2. カメラグループリストでカメラを選択します。
3. **[ストレージサーバー]**ドロップダウンリストから、ストレージサーバーを選択します。

注記

[ストレージサーバーの管理]をクリックして、ストレージサーバーを追加、編集、または削除できます。

4. **[録画スケジュール]**または**[画像の保存]**にチェックを入れて、イベント発生時のビデオファイルまたはカメラのアラーム画像の保存を有効にします。
5. オプション：ヒートマップ機能または人数カウント機能を備えたネットワークカメラの場合は、**[追加情報の保存]**にチェックを入れ、**[VCA 設定]**をクリックしてカメラの VCA ルールを設定します。

注記

VCA ルールの設定に関する詳細な設定については、カメラのユーザーマニュアルを参照してください。

ヒートマップ、人数カウントデータ、道路交通データをストレージサーバーにアップロードできます。

6. ドロップダウンリストから記録またはキャプチャー用のスケジュールテンプレートを選択します。

注記

テンプレートを編集またはカスタマイズする必要がある場合は、「**録画スケジュールテンプレートを設定する**」

または「**キャプチャースケジュールテンプレートを設定する**」を参照してください。

7. オプション：録画スケジュールの場合、**【詳細設定】**をクリックして、記録前の時間、記録後の時間、ビデオストリームおよびその他のパラメータを設定します。



iVMS-4200 ストレージサーバーはメインストリームにのみ対応します。

8. **【クォータの設定】**をクリックして、記録、画像、追加情報に対応するクォータを設定します。

例

記録用のクォータを 60% に設定した場合、最大 60% のストレージスペースをビデオファイルの保存に使用できます。

9. **【保存】**をクリックして設定を保存します。

6.3 録画スケジュールテンプレートを設定する

特定の録画スケジュールテンプレートを編集したり、1 つの録画スケジュールテンプレートをカスタマイズしたりできます。録画スケジュールテンプレートを設定する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. ストレージスケジュールモジュールにアクセスします。
2. テンプレート設定ウィンドウを開きます。
 - ドロップダウンリストから**テンプレート 01**～**テンプレート 08**を選択し、**【編集】**をクリックします。
 - ドロップダウンリストから**【カスタム】**を選択します。
3. タイムラインをドラッグして、カーソルがに変わったときに選択したテンプレートの期間を設定します。

連続

通常および連続記録。スケジュール時刻バーは、でマークされます。

イベント記録

記録はイベントによってトリガーされます。スケジュール時刻バーは、でマークされます。

コマンド

記録はコマンドによってトリガーされます。スケジュール時刻バーは、でマークされます。



ATM DVR がクライアントに追加されている場合、コマンドによってトリガーした記録は ATM トランザクションでのみ使用可能です。



注記

録画スケジュールでは、1日に最大8つの期間を設定できます。

4. オプション：期間を設定した後、次のうち1つ以上を実行できます。

- | | |
|---------|---|
| 移動 | カーソルが  に変わったら、期間をドラッグして移動させます。 |
| 延長または短縮 | カーソルが  に変わったら、期間を選択してから延長または短縮します。 |
| 削除 | 設定したスケジュール期間を選択し、  をクリックして削除します。 |
| すべて削除 |  をクリックして、設定されているすべての期間を削除します。 |
| コピー先 | 1つの日付を選択して  をクリックすると、その日付の期間設定が他の日付にコピーされます。 |

5. オプション：テンプレート 01 から 08 の場合は、必要に応じてテンプレート名を編集できます。

6. [OK]をクリックして設定を保存します。



注記

[カスタム]を選択してテンプレートをカスタマイズする場合は、[スケジュールテンプレートとして保存]をクリックして、カスタムテンプレートをテンプレート 01 から 08 として保存できます。

6.4 キャプチャスケジュールテンプレートを設定する

特定のキャプチャスケジュールテンプレートを編集したり、1つのキャプチャスケジュールテンプレートをカスタマイズしたりできます。キャプチャスケジュールテンプレートを設定する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. ストレージスケジュールモジュールにアクセスします。
2. テンプレート設定ウィンドウを開きます。
 - ドロップダウンリストからテンプレート 01～テンプレート 08 を選択し、[編集]をクリックします。
 - ドロップダウンリストから[カスタム]を選択します。
3. タイムラインをドラッグして、カーソルがに変わったら、選択したテンプレートの期間を設定します。

連続キャプチャ

通常および連続キャプチャ。スケジュール時刻バーは、でマークされます。

イベントキャプチャー

キャプチャーがイベントによってトリガーされます。スケジュール時刻バーは、でマークされます。

4. オプション：期間を設定した後、次のうち1つ以上を実行できます。

- | | |
|---------|---|
| 移動 | カーソルが  に変わったら、編集した期間を移動できます。また、画面に表示されているタイムポイントを編集して正確な日時の期間を設定することも可能です。 |
| 延長または短縮 | カーソルが  に変わったら、選択した期間を延長したり短縮したりできます。 |
| 削除 | 1つの期間を選択し、  をクリックして削除します。 |
| すべて削除 |  をクリックして、設定されているすべての期間を削除します。 |
| コピー先 | 1つの日付を選択して  をクリックすると、その日付の期間設定が他の日付にコピーされます。 |

5. オプション：テンプレート 01 から 08 の場合は、必要に応じてテンプレート名を編集できます。

6. [OK]をクリックして設定を保存します。

注記

[カスタム]を選択してテンプレートをカスタマイズする場合は、[スケジュールテンプレートとして保存]をクリックして、カスタムテンプレートをテンプレート 01 から 08 として保存できます。

第 7 章 リモート再生

ローカルデバイスまたはストレージサーバーに保存されているビデオファイルを、カメラまたはトリガーイベントで検索してからリモートで再生できます。

注記

ローカルデバイス、ストレージサーバー、またはストレージサーバーとローカルデバイスの両方に保存されているビデオファイルを再生するように設定できます。詳細については、「**ライブビューおよび再生パラメータ**」を参照してください。

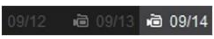
7.1 通常再生

通常の再生では、ビデオファイルをカメラまたはグループで検索できます。



図 7-1 通常の再生ツールバー

アイコン	名称	説明
	シングルフレーム（リバース）	ビデオファイルをフレームごとに再生します（リバース）。また、マウスホイールを下にスクロールすることで、フレームごとにビデオファイルフレームを再生できます（リバース）。
	イベント再生	モーション検知、ビデオロス、ビデオタンパリングなどのイベントに基づいて記録されたビデオファイルを検索します。
	ATM 再生	ATM デバイスのビデオファイルを検索します。
	POS 再生	POS 情報を含むビデオファイルを検索します。
	VCA 再生	モーション検知、侵入、ラインクロスなど、VCA イベントが発生する検索済みビデオファイルの VCA ルールを設定します。
	複数カメラのダウンロード	複数のカメラのビデオファイルを同時にダウンロードします。
	ダウンロード	カメラのビデオファイルをダウンロードし、ローカルの PC に保存します。ファイル、日付またはタグによるダウンロードを選択できます。

アイコン	名称	説明
	タグ	ビデオファイルのデフォルトタグを追加し、重要なビデオポイントをマークします。このタグは編集したり、右クリックメニューからタグ位置に行くことができます。
	正確なポジショニング	ビデオファイルを再生する正確な時点を設定します。
	日付	ビデオファイルのある日付は、  でマークされます。

注記

Hik-Connect デバイスは通常の再生にのみ対応しています。また、逆再生、スロー再生または早送り、タグの追加の機能には対応していません。

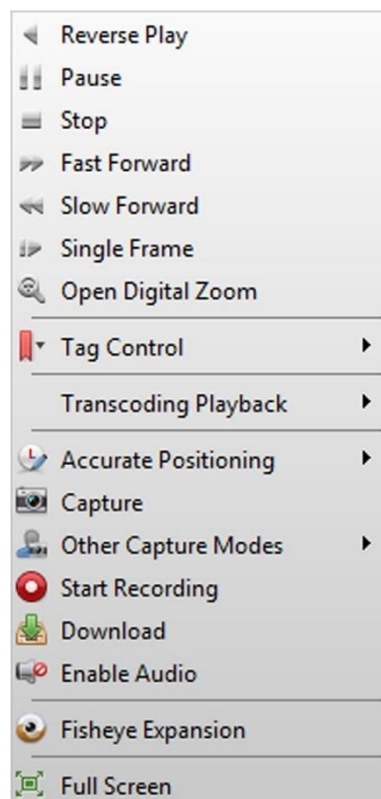


図 7-2 通常再生表示ウィンドウの右クリックメニュー

アイコン	名称	説明
	温度情報の表示/非表示	再生画像の温度情報オーバーレイを有効または無効にします。

アイコン	名称	説明
		 注記 温度情報オーバーレイはサーマルカメラにのみ対応しています。
	タグ管理	重要なビデオポイントをマークするため、ビデオファイルのデフォルト（デフォルトのタグ名は TAG ）またはカスタムタグ（タグ名はカスタマイズされたもの）を追加します。タグを編集したり、都合よくタグの位置に移動したりすることもできます。
	その他のキャプチャーモード	キャプチャー画像を印刷します 画像をキャプチャーして印刷します。 E メール送信 現在の画像をキャプチャーしてから、1人以上の受信者にメール通知を送信します。キャプチャーした画像を添付することができます。 カスタムキャプチャー
	魚眼レンズの拡張	魚眼レンズ再生モードにアクセスします。詳細については、「 魚眼レンズ再生 」を参照してください。

7.1.1再生用のビデオストリームに切り替える

オプションで、再生用にメインストリームとサブストリームの間でストリームタイプを切り替えることができます。

開始前

記録用のビデオストリームをデュアルストリームとして設定します。

注記

詳細については、「**DVR、NVR、またはネットワークカメラに画像とビデオを保存する**」を参照してください。再生用にビデオストリームを切り替えたい場合は、この作業を実行してください。

手順

注記

この機能はデバイスに対応していなければなりません。

1. グループ管理ページを開きます。



注記

詳細については、「**グループ管理**」を参照してください。

2. カメラの修正ウィンドウを開きます。



注記

詳細については、「**チャンネルパラメータを編集する**」を参照してください。

3. **[ビデオストリーム]**フィールドでビデオストリームをメインストリームまたはサブストリームとして選択します。
4. **[OK]**をクリックします。

7.1.2 ビデオファイルの検索

日付でビデオファイルを検索することができ、通常の再生に対して一致した結果をフィルタリングするためにキーワードを入力することもできます。

通常の再生に対してビデオファイルを検索する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. リモート再生ページを開きます。
2. **オプション**：をクリックして、検索期間の開始日と終了日を設定します。



注記

カレンダーのスケジュールで録画されたビデオファイルのある日付は、でマークされます。また、イベントに基づいて録画したビデオファイルのある日付は、でマークされます。

3. カメラの再生を開始し、選択したカメラのビデオファイルを検索します。再生を開始するには、次のいずれかを実行します。



注記

最大 **16** 台のカメラを同時に検索できます。

- カメラまたはグループを表示ウィンドウにドラッグします。
- 表示ウィンドウを選択して、開始するカメラまたはグループをダブルクリックします。

選択したグループまたはカメラの一致したビデオファイルが、リモート再生ページの右側に時系列順に表示されます。デフォルトでは、最初のビデオファイルが自動的に再生されます。

4. **オプション**：結果をフィルタリングするには、**[フィルター]**フィールドにキーワードを入力します。

7.1.3 ビデオファイルを再生

通常の再生に対してビデオファイルを検索した後、ファイルリストまたはタイムラインでビデオを再生できます。

このタスクは、ビデオファイルを再生する必要がある場合に実行します。

手順

1. リモート再生ページを開きます。
 2. ビデオファイルを検索します。
 3. ファイルリストまたはタイムラインでビデオを再生します。
- 検索結果リストからビデオファイルを選択し、ビデオファイルのをクリックするか、またはビデオファイルをダブルクリックして、再生表示ウィンドウでビデオを再生します。
 - タイムラインをクリックして、通常の再生に必要な特定の時間のビデオセグメントを配置します。

注記

- ・ タイムラインは、ビデオファイルの再生時間の長さを示します。また、それぞれのビデオファイルのタイプは色分けされます。
 - ・ マウスホイールを使用するか、または/をクリックして、タイムラインバーの拡大または縮小を行います。
-

7.2 アラーム入力再生

アラーム入力トリガーした場合、連動されたビデオでアラーム入力の再生を検索できます。この機能は接続デバイスに対応していることが必要となります。

アラーム入力の再生ツールバーおよび表示ウィンドウの右クリックメニューの説明については、「**通常の再生**」を参照してください。

注記

一部のアイコンはアラーム入力の再生に対して使用できない場合があります。

7.2.1 ビデオファイルの検索

日付でビデオファイルを検索することができ、アラーム入力の再生に対して一致した結果をフィルタリングするためにキーワードを入力することもできます。

アラーム入力の再生に対してビデオファイルを検索する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. リモート再生ページを開きます。

2. をクリックして、左側にアラーム入力パネルを表示させます。
3. **オプション:** をクリックして、検索期間の開始日と終了日を設定します。
4. 選択したアラーム入力のビデオファイルを検索するには、アラーム入力の再生を開始します。再生を開始するには、次のいずれかを実行します。
 - アラーム入力を表示ウィンドウにドラッグします。
 - 表示ウィンドウを選択して、開始するアラーム入力をダブルクリックします。選択したアラーム入力の一一致したビデオファイルが、リモート再生ページの右側に時系列順に表示されます。デフォルトでは、最初のビデオファイルが自動的に再生されます。
5. **オプション:** 結果をフィルタリングするには、**[フィルター]**フィールドにキーワードを入力します。

7.2.2 ビデオファイルを再生

アラーム入力の再生に対してビデオファイルを検索した後、ファイルリストまたはタイムラインでビデオを再生できます。

アラーム入力のビデオファイルを再生したい場合は、この作業を実行してください。

手順

1. リモート再生ページを開きます。
2. をクリックして、左側にアラーム入力パネルを表示させます。
3. アラーム入力のビデオファイルを検索します。

注記

アラーム入力のビデオファイルの検索の詳細については、「[ビデオファイルを検索する](#)」を参照してください。

4. ファイルリストまたはタイムラインでビデオを再生します。
 - 検索結果リストからビデオファイルを選択し、ビデオファイルの  をクリックするか、またはビデオファイルをダブルクリックして、再生表示ウィンドウでビデオを再生します。
 - タイムラインをクリックして、アラーム入力の再生に必要な特定の時間のビデオセグメントを配置します。

注記

- ・ タイムラインは、ビデオファイルの再生時間の長さを示します。また、それぞれのビデオファイルのタイプは色分けされます。
 - ・ マウスホイールを使用するか、または  /  をクリックして、タイムラインバーの拡大または縮小を行います。
-

7.3 イベント再生

モーション検知、VCA 検出、行動分析、またはアクセスコントロールイベント（ビデオアクセスコントロール端末用）などのイベントによってトリガーした記録済みビデオファイルを、イベント再生に対して検索できます。この機能は接続デバイスに対応していることが必要となります。

イベント再生ツールバーおよび表示ウィンドウの右クリックメニューの説明については、「**通常の再生**」を参照してください。

注記

一部のアイコンはイベント再生に対して使用できない場合があります。

7.3.1 ビデオファイルの検索

日付とイベントのタイプによってビデオファイルを検索することができます。また、キーワードを入力して一致した結果をイベント再生用にフィルタリングすることもできます。イベント再生に対してビデオファイルを検索したい場合は、この作業を実行してください。

手順

1. リモート再生ページを開きます。
 2. カメラを選択して通常再生を開始します。
-

注記

通常の再生開始については、「**ビデオファイルを再生する**」を参照してください。

3.  をクリックしてイベント再生を有効にします。
デフォルトでは、モーション検知に基づいて記録されたビデオファイルが検索されます。
 4. オプション:  をクリックして、検索期間の開始日と終了日を設定します。
-

注記

カレンダーのスケジュールで録画されたビデオファイルのある日付は、 でマークされます。また、イベントに基づいて録画したビデオファイルのある日付は、 でマークされます。

5. ドロップダウンリストからイベントタイプを選択して検索を開始します。
一致したビデオファイルが、リモート再生ページの右側に時系列順に表示されます。
デフォルトでは、最初のビデオファイルが自動的に再生されます。
 6. オプション: 結果をフィルタリングするには、**[フィルター]**フィールドにキーワードを入力します。
-

7.3.2 ビデオファイルを再生

イベント再生に対してビデオファイルを検索した後、ファイルリストまたはタイムラインでビデオを再生できます。

開始前

カメラの通常の再生を開始します。

イベントに基づいて記録されたビデオファイルを再生したい場合は、この作業を実行してください。

手順

1. リモート再生ページを開きます。
2. リモート再生ページのをクリックしてイベント再生を有効にします。
3. イベントに基づいて記録されたビデオファイルを検索します。
4. ビデオファイルを再生します。
 - 検索結果リストからビデオファイルを選択し、ビデオファイルのをクリックするか、またはビデオファイルをダブルクリックして、再生表示ウィンドウでビデオを再生します。
 - タイムラインをクリックして、イベント再生に必要な特定の時間のビデオセグメントを配置します。

注記

- ・ タイムラインは、ビデオファイルの再生時間の長さを示します。また、それぞれのビデオファイルのタイプは色分けされます。
 - ・ マウスホイールを使用するか、または/をクリックして、タイムラインバーの拡大または縮小を行います。
-

7.4 ATM 再生

ATM 再生に対して、ATM DVR のビデオファイルを検索することができます。この機能は、トランザクションルールで設定されている接続デバイスのサポートを必要とします。

ATM 再生ツールバーおよび表示ウィンドウの右クリックメニューの説明については、「**通常の再生**」を参照してください。

注記

一部のアイコンは ATM 再生に対して使用できない場合があります。

7.4.1 ビデオファイルの検索

ATM DVR のビデオファイルは、カード番号、トランザクションタイプ、トランザクション額、ファイルの種類、または日付で検索できます。また、キーワードを入力して一致した結果を ATM 再生用にフィルタリングすることもできます。

ATM 再生に対してビデオファイルを検索したい場合は、この作業を実行してください。

手順

1. リモート再生ページを開きます。
2. ATM DVR のカメラを選択して通常の再生を開始します。



注記

通常の再生開始については、「**ビデオファイルを再生する**」を参照してください。

3. をクリックして ATM 再生を有効にします。
4. 検索条件を設定します。

カード番号別

ATM 情報に含まれるカード番号を入力します。

トランザクションタイプおよびトランザクション額別

検索するトランザクションタイプを選択し、関連するトランザクション額を入力します。

ファイルタイプ別

検索するビデオファイルのタイプを選択します。

日付別

をクリックして、検索期間の開始日と終了日を設定します。

5. **[検索]**をクリックして検索を開始します。
選択した ATM DVR の一致したビデオファイルが、リモート再生ページの右側に時系列順に表示されます。デフォルトでは、最初のビデオファイルが自動的に再生されます。
6. オプション：結果をフィルタリングするには、**[フィルター]**フィールドにキーワードを入力します。

7.4.2 ビデオファイルを再生

ATM DVR に接続されているカメラのビデオファイルを検索した後、ファイルリストまたはタイムラインでビデオを再生できます。

開始前

ATM DVR に接続されているカメラの通常の再生を開始します。

ATM DVR に接続されているカメラのビデオファイルを再生したい場合は、この作業を実行してください。

手順

1. リモート再生ページを開きます。
2. リモート再生ページの をクリックして ATM 再生を有効にします。
3. ATM DVR に接続されているカメラのビデオファイルを検索します。
4. ビデオファイルを再生します。

- 検索結果リストからビデオファイルを選択し、ビデオファイルのをクリックするか、またはビデオファイルをダブルクリックして、再生表示ウィンドウでビデオを再生します。
- タイムラインをクリックして、ATM 再生に必要な特定の時間のビデオセグメントを配置します。

注記

- ・ タイムラインは、ビデオファイルの再生時間の長さを示します。また、それぞれのビデオファイルのタイプは色分けされます。
 - ・ マウスホイールを使用するか、または/をクリックして、タイムラインバーの拡大または縮小を行います。
-

7.5 POS 再生

POS 再生に対して、POS 情報を含むビデオファイルを検索することができます。この機能は、POS テキストオーバーレイで設定されている接続デバイスのサポートを必要とします。

POS 再生ツールバーおよび表示ウィンドウの右クリックメニューの説明については、「**通常の再生**」を参照してください。

注記

一部のアイコンは POS 再生に対して使用できない場合があります。

7.5.1 ビデオファイルの検索

POS 情報を含むビデオファイルをキーワードまたは日付で検索できます。POS 再生に対してビデオファイルを検索したい場合は、この作業を実行してください。

手順

1. リモート再生ページを開きます。
2. カメラを選択して通常再生を開始します。

注記

通常の再生開始については、「**ビデオファイルを再生する**」を参照してください。

3. をクリックして POS 再生を有効にします。
4. 検索条件を設定します。

キーワード別

ATM 情報に含まれるカード番号を入力します。

注記

一度に入力できるキーワードは **3** つまでです。また、**2** つのキーワードはそれぞれコンマで区切ります。

フィルター別

複数のキーワードの場合は、「または(**|**)」を選択して任意のキーワードを含む POS 情報を検索するか、もしくは「および(**&**)」を選択してすべてのキーワードを含む POS 情報を検索することができます。

大文字小文字識別

大文字と小文字を区別するキーワードで POS 情報を検索するには、**大文字小文字識別**にチェックを入れます。

日付別

をクリックして、検索期間の開始日と終了日を設定します。

5. [検索]をクリックして検索を開始します。

POS 情報を含むビデオファイルは、リモート再生ページの右側に時系列で表示されます。デフォルトでは、最初のビデオファイルが自動的に再生されます。

6. オプション：結果をフィルタリングするには、[フィルター]フィールドにキーワードを入力します。

7.5.2 ビデオファイルを再生

POS 情報を含むビデオファイルを検索した後、ファイルリストまたはタイムラインでビデオを再生できます。

開始前

POS 情報オーバーレイで設定されているカメラの通常の再生を開始します。

POS 情報を含むビデオファイルを再生したい場合は、この作業を実行してください。

手順

1. リモート再生ページを開きます。
 2. リモート再生ページの  をクリックして POS 再生を有効にします。
 3. POS 情報を含むビデオファイルを検索します。
 4. ファイルリストまたはタイムラインでビデオを再生します。
- 検索結果リストからビデオファイルを選択し、ビデオファイルの  をクリックするか、またはビデオファイルをダブルクリックして、再生表示ウィンドウでビデオを再生します。
 - タイムラインをクリックして、POS 再生に必要な特定の時間のビデオセグメントを配置します。

 注記

- ・ タイムラインは、ビデオファイルの再生時間の長さを示します。また、それぞれのビデオファイルのタイプは色分けされます。
 - ・ マウスホイールを使用するか、または  /  をクリックして、タイムラインバーの拡大または縮小を行います。
-

7.6 VCA 再生

検索したビデオファイルに **VCA** ルールを設定して、モーション、侵入、ラインクロスなど、**VCA** イベントが発生したビデオを探すことができます。この機能は、より関心があるビデオを探し出して、それに赤い色で印を付けるのに役立ちます。

VCA ルールを設定し、**VCA** イベントが発生したビデオを探す必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

 注記

一部のデバイスでは性別や年齢、眼鏡をかけているかどうかなど、アドバンス属性を設定して、検索したビデオファイルをフィルタリングできます。

1. リモート再生ページを開きます。
 2. カメラを選択して通常再生を開始します。
-

 注記

詳細については、「**ビデオファイルを再生する**」を参照してください。

3.  をクリックして **VCA** 再生インターフェイスに進みます。
4. **VCA** タイプを選択し、検出領域を描画して感度を設定します。

動体検知

事前定義された領域で発生したすべての関連するモーション検知イベントを取得します。

侵入検知

事前定義された領域に侵入する人、車、その他の移動物体があるかどうかを検出します。

ラインクロス検知

仮想ラインを横切る人、車、その他の移動物体を双方向で検出します。

モーションの検出領域を設定

 をクリックしてから再生ウィンドウをクリックして移動し、グリッド長方形を検出領域として設定します。

全領域をモーション検知領域に設定

をクリックして、カメラで撮影されたすべての領域を検出領域として設定します。

侵入検知領域の頂点設定

をクリックしてから再生ウィンドウをクリックし、検出領域の頂点を設定します。

ラインクロス検出ラインを設定

をクリックしてから再生ウィンドウでドラッグし、検出ラインを設定します。

描画された領域またはラインを削除

をクリックします。

注記

侵入とラインクロスの場合は、**[アドバンス属性]**をクリックして、性別や年齢、眼鏡をかけているかどうかなどのターゲット特徴を設定して、検索したビデオファイルをフィルタリングできます。この機能はデバイスに対応していません。

5. オプション: をクリックして、検索期間の開始日と終了日を設定します。

6. **[検索]**をクリックします。

定義された領域で発生した VCA イベントは、タイムライン上に赤いマークが付きます。

注記

- ・ デフォルトでは、関係するビデオの再生速度は 1 倍、関係のないビデオの再生速度は 8 倍になります。
 - ・ システム設定で VCA 再生中に関係ないビデオをスキップするように設定でき、VCA 再生中に関係ないビデオは再生されません。詳細については、「**ライブビューおよび再生パラメータを設定する**」を参照してください。
-

7. 検索後にビデオファイルを再生します。

注記

- ・ 再生コントロールツールバーと右クリックメニューの説明については、「**ビデオファイルを再生する**」を参照してください。
 - ・ 一部のアイコンは VCA 再生に対して使用できない場合があります。
-

7.7 同期再生

同期再生では、ビデオファイルを同期して再生できます。このタスクは、同期化にビデオファイルを再生する必要がある場合に実行します。

手順

注記

最大 16 台のカメラのビデオファイルを同時に再生できます。

1. リモート再生ページを開きます。
2. 少なくとも 2 台のカメラの通常の再生を開始します。



詳細については、「**ビデオファイルを再生する**」を参照してください。

3. ツールバーのをクリックして、同期再生を有効にします。
再生中のカメラが同期再生を開始します。
4. をクリックすると、同期再生が無効になります。

7.8 魚眼レンズの再生

魚眼カメラのビデオファイルは、魚眼レンズ拡張モードで再生できます。

魚眼カメラのビデオファイルを魚眼レンズ拡張モードで再生する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順



その他の再生制御方法については、「**通常の再生**」を参照してください。一部のアイコンは魚眼レンズの再生に対して使用できない場合があります。

1. リモート再生ページを開きます。
2. 魚眼カメラを選択して再生を開始します。



再生および再生制御に関する詳細な設定については、「**通常の再生**」を参照してください。

3. ビデオファイルを右クリックして**[魚眼レンズ拡張]**を選択し、魚眼レンズ拡張モードにアクセスします。



魚眼レンズ拡張の再生時の取り付けタイプは、ライブビューの取り付けタイプに従って設定されます。詳細については、「**魚眼レンズモードでライブビューを実行する**」を参照してください。

4. 必要に応じて再生の拡張モードを選択します。

魚眼レンズ

魚眼ビューモードでは、カメラの広角ビュー全体が表示されます。このビューモードは、魚の凸状の目の視界に近い**ため魚眼レンズ**と呼ばれています。レンズは広い範囲の曲線状の画像を生成する一方、画像内のオブジェクトの遠近感と角度を歪めます。

パノラマ/デュアル 180° パノラマ/360° パノラマ

パノラマビューモードでは、いくつかのキャリブレーション方法により歪んだ魚眼画像が通常の透視画像に変換されます。

PTZ

PTZ ビューは、魚眼ビューまたはパノラマビューで定義された領域のクローズアップビューであり、e-PTZ と呼ばれる電子 PTZ 機能に対応しています。

注記

各 PTZ ビューは、魚眼ビューとパノラマビューにおいて特定のナビゲーションボックスでマークされています。魚眼ビューまたはパノラマビューのナビゲーションボックスをドラッグして PTZ ビューを調整するか、または PTZ ビューをドラッグしてビューを目的の角度に調整できます。

-
5. オプション：再生中のウィンドウを右クリックして、選択したウィンドウを全画面モードに切り替えることができます。

注記

キーボードの **Esc** キーを押すか、またはウィンドウを右クリックして[全画面を終了]を選択し、全画面モードを終了できます。

第 8 章 ビデオファイルのダウンロード

再生中に、1 台または複数のカメラのビデオファイルをファイル別、日付別、またはタグ別にローカル PC にダウンロードできます。



Hik-Connect デバイスのビデオファイルをダウンロードすることはできません。

8.1 ファイル別にダウンロードする

再生中に、カメラのビデオファイルをファイル別にローカル PC にダウンロードできます。ファイル別にビデオファイルをダウンロードするには、次の手順を実行します。

手順

1. リモート再生ページにアクセスし、カメラを選択して再生を開始します。



再生開始の詳細については、「**リモート再生**」を参照してください。

2. ツールバーのをクリックしてファイルのダウンロードページを開きます。
3. ファイルのダウンロードページの**[ファイル別にダウンロード]**タブをクリックします。
選択したカメラのビデオファイルがページに表示されます。
4. ビデオファイルにチェックを入れます。
選択したファイルの合計サイズが計算され、下部に表示されます。
5. **[ダウンロード]**をクリックして、選択したファイルのローカル PC へのダウンロードを開始します。
6. オプション：フローを入力し、**[設定]**をクリックしてダウンロード速度を制御します。



フローは 0 Kbps から 32,768 Kbps の間でなければなりません。

7. オプション：ダウンロードを手動で停止するには、**[停止]**をクリックします。

8.2 日付別にダウンロードする

再生中に、カメラのビデオファイルを日付別にローカル PC にダウンロードできます。日付別にビデオファイルをダウンロードするには、次の手順を実行してください。

手順

1. リモート再生ページにアクセスし、カメラを選択して再生を開始します。

 注記

再生開始の詳細については、「**リモート再生**」を参照してください。

2. ツールバーのをクリックしてファイルのダウンロードページを開きます。
 3. ファイルのダウンロードページの**[日付別にダウンロード]**タブをクリックします。
 4. 有効にする期間を確認し、をクリックして開始時間と終了時間を設定します。
設定した期間内のビデオの合計サイズが計算され、下部に表示されます。
 5. **[ダウンロード]**をクリックして、設定した期間のビデオファイルのローカル PC へのダウンロードを開始します。
-

 注記

進行状況バーにダウンロードプロセスが表示されます。

6. オプション：フローを入力し、**[設定]**をクリックしてダウンロード速度を制御します。
-

 注記

フローは 0 Kbps から 32,768 Kbps の間でなければなりません。

7. オプション：ダウンロードを手動で停止するには、**[停止]**をクリックします。
-

 注記

ある期間のビデオファイルをダウンロードするときは、設定した期間内にダウンロードしたビデオファイルをマージするように設定できます。ダウンロードしたビデオファイルをマージする場合は、「**ライブビューおよび再生パラメータを設定する**」を参照してください。

8.3 タグ別にダウンロードする

再生中に、カメラのビデオファイルをタグ別にローカル PC にダウンロードできます。タグ別にビデオファイルをダウンロードするには、次の手順を実行します。

手順

1. リモート再生ページにアクセスし、カメラを選択して再生を開始します。
-

 注記

再生開始の詳細については、「**リモート再生**」を参照してください。

2. ツールバーのをクリックしてファイルのダウンロードページを開きます。
 3. ファイルのダウンロードページの**[タグ別にダウンロード]**タブをクリックします。
追加されたすべてのタグがページに表示されます。
 4. タグを確認して、タグ時間の前後 30 秒間にビデオファイルを選択します。
選択したビデオファイルの合計サイズが計算され、下部に表示されます。
-

5. **[ダウンロード]**をクリックして、選択したファイルのローカル PC へのダウンロードを開始します。
6. オプション：フローを入力し、**[設定]**をクリックしてダウンロード速度を制御します。



フローは 0 Kbps から 32,768 Kbps の間でなければなりません。

7. オプション：ダウンロードを手動で停止するには、**[停止]**をクリックします。

8.4 日付別に複数のカメラをダウンロードする

複数のカメラの再生中は、複数のカメラのビデオファイルを日付で同時にダウンロードできます。

以下の手順は、複数のカメラのビデオファイルを日付で同時にダウンロードするために実行します。

手順

1. リモート再生ページにアクセスし、複数のカメラを選択して再生を開始します。



再生開始の詳細については、「**リモート再生**」を参照してください。

2.  をクリックして、複数カメラのダウンロードページを開きます。
3. カメラにチェックを入れて、対応するビデオ継続期間設定を有効化します。
4. 各カメラのビデオの再生時間の開始時間と終了時間を設定します。
5. オプション：**[プレーヤーのダウンロード]**にチェックを入れ、プレーヤーをダウンロードします。
6. **[ダウンロード]**をクリックし、設定した再生時間のビデオファイルのローカル PC へのダウンロードを開始します。
進行状況バーにダウンロードプロセスが表示されます。
7. オプション：フローを入力し、**[設定]**をクリックしてダウンロード速度を制御します。



フローは 0 Kbps から 32,768 Kbps の間でなければなりません。

8. オプション：ダウンロードを手動で停止するには、**[停止]**をクリックします。



最大 16 台のカメラのビデオファイルを同時にダウンロードできます。

第9章 イベントとアラーム

追加したリソースのアラームを設定し、アラームがトリガーしたときにアラームの詳細を表示できるようにリンケージアクションを設定できます。

9.1 アラームの設定

カメラ、アラーム入力、デバイス、アクセスコントロールなどの追加されたリソースのイベント検出を追加し、イベントが発生したときにリンケージアクションをトリガーさせることができます。例えば、モーションが検出されると、警告音が表示されたり、ビデオ記録が開始されたりします。

注記

- イベント検出は、設定する前にデバイスに対応していなければなりません。
 - カメライベントのイベントタイプはデバイスによって異なります。ここでは、いくつかのイベントタイプの設定を例に挙げます。その他のタイプについては、デバイスのユーザーマニュアルを参照してください。
-

9.1.1 モーション検知アラームを設定する

クライアントソフトウェアが定義された領域内で動作を検出すると、モーション検知アラームがトリガーされます。警報出力、チャンネル記録、アラームのクライアントアクションを含むリンケージアクションを設定できます。

モーション検知アラームを設定する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

注記

設定はデバイスによって異なります。詳細については、各デバイスのユーザーマニュアルを参照してください。

1. イベント管理ページを開き、**[カメライベント]**タブをクリックします。
2. 設定するカメラを選択し、イベントタイプとして**[モーション検知]**を選択します。
3. **[有効化]**にチェックを入れて、モーション検知を有効にします。
4. **[動的解析を有効にする]**にチェックを入れると、ライブビューおよび再生で検出されたオブジェクトに緑色の長方形が付きます。
5. **[警備スケジュール]**フィールドから警備スケジュールテンプレートを選択します。
全日テンプレート

全日の継続的な警備用。

平日テンプレート

午前 8 時から午後 8 時までの勤務時間の連続警備。

テンプレート 01~09

特定のスケジュール用の固定テンプレート。必要に応じて、テンプレートを編集できます。

カスタム

必要に応じてテンプレートをカスタマイズします。詳細については、「**警備スケジュールを設定する**」を参照してください。

6. オプション：一部のカメラの設定タイプとして**[通常]**または**[エキスパート]**を選択します。



注記

エキスパートモードは主に、異なるデイ/ナイト切替に対して、各領域の領域上のオブジェクトの感度と比率を設定するために使用されます。詳細については、デバイスのユーザーマニュアルを参照してください。

7. トリガーカメラを選択します。



注記

選択したイベントが発生したときにトリガーカメラの画像をキャプチャするには、ストレージスケジュール内でキャプチャスケジュールとストレージを設定することもできます。詳細については、「**リモートストレージ設定**」を参照してください。

モーション検知アラームが発生すると、トリガーカメラからの画像またはビデオがポップアップ表示されるか、またはビデオウォールに表示されます。

8. 警備領域に定義された領域を描画します。
- マウスをドラッグして描画します。
 - をクリックして、ビデオ領域全体を検出領域として設定します。



注記

をクリックして、すべての検出領域を消去することができます。

9. 感度バーのスライダーをドラッグして、モーション検知の感度を調整します。



注記

値が大きいほど、検出の感度が大きくなります。

10. アラームのリンケージアクションを確認します。

アラーム出力

警報出力機能を有効にします。警報出力ポートを選択すると、ポートに接続されている外部デバイスを制御できます。

チャンネル記録

アラームがトリガーした際、選択したカメラの記録を開始します。

音声警告

アラームがトリガーすると、クライアントソフトウェアが警告音を発します。音声警告のアラーム音は選択可能です。アラーム音の設定については、「**アラーム音を設定する**」を参照してください。

電子メールリンクエージ

アラーム情報のメール通知を 1 人以上の受信者に送信します。

E マップアラーム

E マップにアラーム情報を表示します。

アラーム発生ポップアップ画像

アラームがトリガーすると、アラーム情報を含む画像がポップアップ表示されます。

注記

初めにトリガーカメラを設定する必要があります。詳細については、この作業のステップ 7 を参照してください。

アラームによってトリガーするビデオウォール表示

アラームがトリガーしたときに、ビデオウォールにトリガーカメラのビデオを表示します。

注記

初めにトリガーカメラを設定する必要があります。詳細については、この作業のステップ 7 を参照してください。

11. [コピー先]をクリックして、録画スケジュール設定を他のチャンネルにコピーします。
をクリックして、アラームのパラメータを他のチャンネルにコピーします。

12. [保存]をクリックします。

9.1.2 ビデオタンパリングアラームを設定する

ビデオタンパリングアラームは、カメラが覆われて監視領域が表示されないときにトリガーされます。警報出力およびクライアントアクションを含むリンクエージアクションを設定できます。

ビデオタンパリングアラームを設定する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

注記

設定はデバイスによって異なります。詳細については、各デバイスのユーザーマニュアルを参照してください。

1. イベント管理ページを開き、**[カメライベント]**タブをクリックします。
2. 設定するカメラを選択し、イベントタイプとして**[ビデオタンパリング検出]**を選択します。
3. **[有効化]**にチェックを入れて、ビデオタンパリング検出を有効にします。
4. **[警備スケジュール]**フィールドから警備スケジュールテンプレートを選択します。

全日テンプレート

全日の継続的な警備用。

平日テンプレート

午前 8 時から午後 8 時までの勤務時間の連続警備。

テンプレート 01~09

特定のスケジュール用の固定テンプレート。必要に応じて、テンプレートを編集できます。

カスタム

必要に応じてテンプレートをカスタマイズします。詳細については、「**警備スケジュールを設定する**」を参照してください。

5. トリガーカメラを選択します。



注記

選択したイベントが発生したときにトリガーカメラの画像をキャプチャーするには、ストレージスケジュール内でキャプチャスケジュールとストレージを設定することもできます。詳細については、「**リモートストレージ設定**」を参照してください。

ビデオタンパリングアラームが発生すると、トリガーカメラからの画像またはビデオがポップアップ表示されるか、またはビデオウォールに表示されます。

6. 警備領域に定義された領域を描画します。
 - マウスをドラッグして描画します。
 - をクリックして、ビデオ領域全体を検出領域として設定します。



注記

をクリックして、検出領域を消去します。

7. 感度バーのスライダーをドラッグして、タンパリングアラームの感度を調整します。
8. アラームのリンケージアクションを確認します。

アラーム出力

警報出力機能を有効にします。警報出力ポートを選択すると、ポートに接続されている外部デバイスを制御できます。

音声警告

アラームがトリガーすると、クライアントソフトウェアが警告音を発します。音声警報のアラーム音は選択可能です。アラーム音の設定については、「**アラーム音を設定する**」を参照してください。

電子メールリンケージ

アラーム情報のメール通知を 1 人以上の受信者に送信します。

E マップアラーム

E マップにアラーム情報を表示します。

アラーム発生ポップアップ画像

アラームがトリガーすると、トリガーカメラの画像がポップアップ表示されます。



初めにトリガーカメラを設定する必要があります。詳細については、この作業のステップ 5 を参照してください。

アラームによってトリガーするビデオウォール表示

アラームがトリガーしたときに、ビデオウォールにトリガーカメラのビデオを表示します。



初めにトリガーカメラを設定する必要があります。詳細については、この作業のステップ 5 を参照してください。

9. オプション: **[コピー先]**をクリックして、録画スケジュール設定を他のチャンネルにコピーします。をクリックして、アラームのパラメータを他のカメラにコピーします。
10. **[保存]**をクリックします。

9.1.3 ビデオロスアラームを設定する

クライアントソフトウェアがフロントエンドデバイスからビデオ信号を受信できない場合は、ビデオロスアラームがトリガーされます。警報出力およびアラームのクライアントアクションを含むリンケージアクションを設定できます。

ビデオロスアラームを設定する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順



設定はデバイスによって異なります。詳細については、各デバイスのユーザーマニュアルを参照してください。

1. イベント管理ページを開き、**[カメライベント]**タブをクリックします。
2. 設定するカメラを選択し、イベントタイプとして**[ビデオロス]**を選択します。
3. **[有効化]**にチェックを入れて、ビデオロスアラームを有効にします。
4. **[警備スケジュール]**フィールドから警備スケジュールテンプレートを選択します。

全日テンプレート

全日の継続的な警備用。

平日テンプレート

午前 8 時から午後 8 時までの勤務時間の連続警備。

テンプレート 01~09

特定のスケジュール用の固定テンプレート。必要に応じて、テンプレートを編集できます。

カスタム

必要に応じてテンプレートをカスタマイズします。詳細については、「**警備スケジュールを設定する**」を参照してください。

5. トリガーカメラを選択します。



注記

選択したイベントが発生したときにトリガーカメラの画像をキャプチャーするには、ストレージスケジュール内でキャプチャスケジュールとストレージを設定することもできます。詳細については、以下を参照してください。

ビデオロスアラームが発生すると、トリガーカメラからの画像またはビデオがポップアップ表示されるか、またはビデオウォールに表示されます。

6. アラームのリンケージアクションを確認します。

アラーム出力

警報出力機能を有効にします。警報出力ポートを選択すると、ポートに接続されている外部デバイスを制御できます。

音声警告

アラームがトリガーすると、クライアントソフトウェアが警告音を発します。音声警報のアラーム音は選択可能です。アラーム音の設定については、「**アラーム音を設定する**」を参照してください。

電子メールリンケージ

アラーム情報のメール通知を 1 人以上の受信者に送信します。

E マップアラーム

E マップにアラーム情報を表示します。

アラーム発生ポップアップ画像

アラームがトリガーすると、トリガーカメラの画像がポップアップ表示されます。



注記

初めにトリガーカメラを設定する必要があります。詳細については、この作業のステップ 5 を参照してください。

アラームによってトリガーするビデオウォール表示

アラームがトリガーしたときに、ビデオウォールにトリガーカメラのビデオを表示します。

注記

初めにトリガーカメラを設定する必要があります。詳細については、この作業のステップ 5 を参照してください。

7. オプション: **[コピー先]**をクリックして、録画スケジュール設定を他のチャンネルにコピーします。をクリックして、アラームのパラメータを他のカメラにコピーします。
8. **[保存]**をクリックします。

9.1.4 異常音声アラームを設定する

無音、環境騒音、現在の騒音などの異常音を検出できます。異常音声アラームを設定する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

注記

異常音声アラームには、接続デバイスのサポートが必要です。

1. イベント管理ページを開き、**[カメライベント]**タブをクリックします。
2. 設定するカメラを選択し、イベントタイプとして**[オーディオ異常検知]**を選択します。
3. 音声検出アラームの関連機能を有効にするには、次の操作を実行してください。

音声入力 検出	音声入力状態の例外を検出するには、 [音声入力検出] をチェックします。
音の強さ の突然の 増加	音の強さの突然の増加を検出するには、 [音の強さの突然の増加] をチェックします。これは感度と音の強さの閾値の設定からなります。

注記 感度

範囲[1~100]。値が小さいほど、検出をトリガーさせるための変更がより厳しくなります。

音の強さの閾値

範囲[1~100]。環境内の音をフィルタリングすることができ、環境音が大きくなればなるほど、値は高くなるはずです。実環境に合わせて調整できます。

音の強さ の突然の 減少	音の強さの突然の減少を検出するには、 音の強さの突然の減少 をチェックします。これにより異常な無音を探すことができます。例えば、発電機は稼働しているときに大きな音を立てるので、騒音が突然消える場合は注意が必要です。
--------------------	--

4. [警備スケジュール]フィールドから警備スケジュールテンプレートを選択します。

全日テンプレート

全日の継続的な警備用。

平日テンプレート

午前 8 時から午後 8 時までの勤務時間の連続警備。

テンプレート 01~09

特定のスケジュール用の固定テンプレート。必要に応じて、テンプレートを編集できます。

カスタム

必要に応じてテンプレートをカスタマイズします。詳細については、「**警備スケジュールを設定する**」を参照してください。

5. トリガーカメラを選択します。



注記

選択したイベントが発生したときにトリガーカメラの画像をキャプチャするには、ストレージスケジュール内でキャプチャスケジュールとストレージを設定することもできます。詳細については、「**リモートストレージ設定**」を参照してください。

異常音声アラームが発生すると、トリガーカメラからの画像またはビデオがポップアップ表示されるか、またはビデオウォールに表示されます。

6. アラームのリンケージアクションを確認します。

アラーム出力

警報出力機能を有効にします。警報出力ポートを選択すると、ポートに接続されている外部デバイスを制御できます。

記録

アラームがトリガーした際、選択したカメラの記録を開始します。

音声警告

アラームがトリガーすると、クライアントソフトウェアが警告音を発します。音声警報のアラーム音は選択可能です。アラーム音の設定については、「**アラーム音を設定する**」を参照してください。

メールリンケージ

アラーム情報のメール通知を 1 人以上の受信者に送信します。

E マップアラーム

E マップにアラーム情報を表示します。

アラーム発生ポップアップ画像

アラームがトリガーすると、トリガーカメラの画像がポップアップ表示されます。



注記

初めにトリガーカメラを設定する必要があります。詳細については、この作業のステップ 5 を参照してください。

アラームによってトリガーするビデオウォール表示

アラームがトリガーしたときに、ビデオウォールにトリガーカメラのビデオを表示します。



注記

初めにトリガーカメラを設定する必要があります。詳細については、この作業のステップ 5 を参照してください。

7. オプション: **[コピー先]**をクリックして、録画スケジュール設定を他のチャンネルにコピーします。をクリックして、アラームのパラメータを他のカメラにコピーします。
8. **[保存]**をクリックします。

9.1.5 顔検出アラームを設定する

顔検出は、監視領域内の人物の顔を自動的に検出するのに役立ちます。そして、オブジェクトが検出されると一連のリンケージアクションがトリガーされます。

顔検出アラームを設定する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順



注記

顔検出機能には、接続デバイスのサポートが必要です。

1. イベント管理ページにアクセスし、**[カメライベント]**タブをクリックします。
2. 設定するカメラを選択し、イベントタイプとして**[顔検出]**を選択します。
3. **[有効化]**にチェックを入れて、顔検出アラームを有効にします。
4. **[警備スケジュール]**フィールドから警備スケジュールテンプレートを選択します。

全日テンプレート

全日の継続的な警備用。

平日テンプレート

午前 8 時から午後 8 時までの勤務時間の連続警備。

テンプレート 01~09

特定のスケジュール用の固定テンプレート。必要に応じて、テンプレートを編集できます。

カスタム

必要に応じてテンプレートをカスタマイズします。詳細については、「**警備スケジュールを設定する**」を参照してください。

5. トリガーカメラを選択します。

注記

選択したイベントが発生したときにトリガーカメラの画像をキャプチャーするには、ストレージスケジュール内でキャプチャスケジュールとストレージを設定することもできます。詳細については、「**リモートストレージ設定**」を参照してください。

顔検出アラームが発生すると、トリガーカメラからの画像またはビデオがポップアップ表示されるか、またはビデオウォールに表示されます。

6. 顔検出の感度を設定します。

7. オプション：ライブビューで検出された顔を長方形でマークするには、**[顔検出の動的解析を有効にする]**にチェックを入れます。

8. アラームのリンケージアクションを確認します。

アラーム出力

警報出力機能を有効にします。警報出力ポートを選択すると、ポートに接続されている外部デバイスを制御できます。

チャンネル記録

アラームがトリガーした際、選択したカメラの記録を開始します。

音声警告

アラームがトリガーすると、クライアントソフトウェアが警告音を発します。音声警報のアラーム音は選択可能です。アラーム音の設定については、「**アラーム音を設定する**」を参照してください。

電子メールリンケージ

アラーム情報のメール通知を 1 人以上の受信者に送信します。

E マップアラーム

E マップにアラーム情報を表示します。

アラーム発生ポップアップ画像

アラームがトリガーすると、トリガーカメラの画像がポップアップ表示されます。

注記

初めにトリガーカメラを設定する必要があります。詳細については、この作業のステップ 5 を参照してください。

アラームによってトリガーするビデオウォール表示

アラームがトリガーしたときに、ビデオウォールにトリガーカメラのビデオを表示します。



注記

初めにトリガーカメラを設定する必要があります。詳細については、この作業のステップ 5 を参照してください。

9. オプション: **[コピー先]**をクリックして、録画スケジュール設定を他のチャンネルにコピーします。をクリックして、アラームのパラメータを他のカメラにコピーします。
10. **[保存]**をクリックします。

9.1.6 ラインクロス検知アラームを設定する

ラインクロス検知は、事前定義された仮想ラインを横切る人、車両、オブジェクトを検出するために使用することができます。クロス方向は、左から右へ、または右から左への双方向に設定できます。そして、オブジェクトが検出されると一連のリンケージアクションがトリガーされます。

ラインクロス検知アラームを設定する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順



注記

ラインクロス検知機能には、接続デバイスのサポートが必要です。

1. イベント管理ページにアクセスし、**[カメライベント]**タブをクリックします。
 2. 設定するカメラを選択し、イベントタイプとして**[ラインクロス検知]**を選択します。
 3. **[有効化]**にチェックを入れて、ラインクロス検知アラームを有効にします。
-



注記

特定のスピードドームの場合、設定中にスピードドームが自動的に動かないようにするために**[ロック]**をクリックできます。

4. **[警備スケジュール]**フィールドから警備スケジュールテンプレートを選択します。

全日テンプレート

全日の継続的な警備用。

平日テンプレート

午前 8 時から午後 8 時までの勤務時間の連続警備。

テンプレート 01~09

特定のスケジュール用の固定テンプレート。必要に応じて、テンプレートを編集できます。

カスタム

必要に応じてテンプレートをカスタマイズします。詳細については、「**警備スケジュールを設定する**」を参照してください。

5. トリガーカメラを選択します。

 注記

選択したイベントが発生したときにトリガーカメラの画像をキャプチャするには、ストレージスケジュール内でキャプチャスケジュールとストレージを設定することもできます。詳細については、「**リモートストレージ設定**」を参照してください。

リンククロス検知アラームが発生すると、トリガーカメラからの画像またはビデオがポップアップ表示されるか、またはビデオウォールに表示されます。

6. 警備ラインを設定します。

1) 仮想ラインの ID を選択します。

 注記

特定のスピードドームの場合、**[PTZ]**をクリックしてスピードドームを仮想ライン ID に対応する目的のシーンに移動させることができます。このようにして、複数のビューに対して異なるリンククロス検知アラームを設定できます。

2) 仮想ラインの方向を A<->B、A ->B、または B->A として選択します。

A<->B

オブジェクトが両方向でラインを横切っているときに検出可能で、アラームがトリガーされます。

A->B

オブジェクトが仮想ラインを A 側から B 側へ横切る場合にのみ検出可能です。

B->A

オブジェクトが仮想ラインを B 側から A 側へ横切る場合にのみ検出可能です。

3) をクリックして、プレビューウィンドウに仮想ラインを引きます。

 注記

- 別の仮想ラインを引きたい場合は、別の仮想ラインの ID を選択する必要があります。
- 最大 4 行まで引くことができます。

4) オプション： をクリックし、仮想ラインをドラッグしてその位置を調整します。

5) オプション： をクリックして、選択した仮想ラインを削除します。

7. 感度を 1~100 に設定します。

8. アラームのリンケージアクションを確認します。

アラーム出力

警報出力機能を有効にします。警報出力ポートを選択すると、ポートに接続されている外部デバイスを制御できます。

チャンネル記録

アラームがトリガーした際、選択したカメラの記録を開始します。

音声警告

アラームがトリガーすると、クライアントソフトウェアが警告音を発します。音声警報のアラーム音は選択可能です。アラーム音の設定については、「**アラーム音を設定する**」を参照してください。

電子メールリンケージ

アラーム情報のメール通知を 1 人以上の受信者に送信します。

E マップアラーム

E マップにアラーム情報を表示します。

アラーム発生ポップアップ画像

アラームがトリガーすると、トリガーカメラの画像がポップアップ表示されます。



注記

初めにトリガーカメラを設定する必要があります。詳細については、この作業のステップ 5 を参照してください。

アラームによってトリガーするビデオウォール表示

アラームがトリガーしたときに、ビデオウォールにトリガーカメラのビデオを表示します。



注記

初めにトリガーカメラを設定する必要があります。詳細については、この作業のステップ 5 を参照してください。

9. オプション: **[コピー先]**をクリックして、録画スケジュール設定を他のチャンネルにコピーします。をクリックして、アラームのパラメータを他のカメラにコピーします。
10. **[保存]**をクリックします。

9.1.7 警報入力アラームを設定する

デバイスのアラーム入力に煙探知機、ドアベルなどの外部アラームデバイスから信号を受信すると、クライアントソフトウェアは通知するためにリンケージアクションをトリガーさせることができます。

開始前

クライアントにアラーム入力を追加し、管理に対してアラーム入力をグループ化します。警報入力アラームを設定する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. イベント管理ページにアクセスし、**[アラーム入力]**タブをクリックします。
 2. 設定するアラーム入力チャンネルを選択します。
 3. **[有効化]**にチェックを入れて、警報入力アラームを有効にします。
 4. アラームに名前を付けます。
 5. アラーム入力デバイスに合わせて、アラーム状態を設定します。
 6. **[警備スケジュール]**フィールドから警備スケジュールテンプレートを選択します。
-

全日テンプレート

全日の継続的な警備用。

平日テンプレート

午前 8 時から午後 8 時までの勤務時間の連続警備。

テンプレート 01~09

特定のスケジュール用の固定テンプレート。必要に応じて、テンプレートを編集できます。

カスタム

必要に応じてテンプレートをカスタマイズします。詳細については、「**警備スケジュールを設定する**」を参照してください。

7. トリガーカメラを選択します。



注記

選択したイベントが発生したときにトリガーカメラの画像をキャプチャーするには、ストレージスケジュール内でキャプチャスケジュールとストレージを設定することもできます。詳細については、「**リモートストレージ設定**」を参照してください。

警報入力アラームが発生すると、トリガーカメラからの画像またはビデオがポップアップ表示されるか、またはビデオウォールに表示されます。

8. アラームのリンケージアクションを確認します。

アラーム出力

警報出力機能を有効にします。警報出力ポートを選択すると、ポートに接続されている外部デバイスを制御できます。

チャンネル記録

アラームがトリガーした際、選択したカメラの記録を開始します。

音声警告

アラームがトリガーすると、クライアントソフトウェアが警告音を発します。音声警報のアラーム音は選択可能です。アラーム音の設定については、「**アラーム音を設定する**」を参照してください。

電子メールリンケージ

アラーム情報のメール通知を 1 人以上の受信者に送信します。

E マップアラーム

E マップにアラーム情報を表示します。

アラーム発生ポップアップ画像

アラームがトリガーすると、トリガーカメラの画像がポップアップ表示されます。



注記

初めにトリガーカメラを設定する必要があります。詳細については、この作業のステップ 7 を参照してください。

アラームによってトリガーするビデオウォール表示

アラームがトリガーしたときに、ビデオウォールにトリガーカメラのビデオを表示します。



注記

初めにトリガーカメラを設定する必要があります。詳細については、この作業のステップ 7 を参照してください。

9. オプション: **[コピー先]**をクリックして、録画スケジュール設定を他のチャンネルにコピーします。をクリックして、アラームのパラメータを他のアラーム入力にコピーします。
10. **[保存]**をクリックします。

9.1.8 デバイス異常アラームを設定する

HDD フル、HDD 例外、不正ログイン、デバイスオフラインなど、有効なデバイスタイプの例外が発生すると、通知するためにリンケージアクションがトリガーされます。必要に応じて、リンケージアクションを設定できます。

デバイス異常アラームを設定する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. イベント管理ページにアクセスし、**[例外]**タブをクリックします。
2. 設定するデバイスを選択します。
3. HDD フル、HDD 例外、不正ログイン、デバイスオフラインなどデバイス異常の種類を選択します。
4. **[有効化]**にチェックを入れて、デバイス検出アラームを有効にします。
5. アラームのリンケージアクションを確認します。

アラーム出力

警報出力機能を有効にします。警報出力ポートを選択すると、ポートに接続されている外部デバイスを制御できます。



注記

警報出力は、デバイスオフライン例外には使用できません。

警告音

アラームがトリガーすると、クライアントソフトウェアが警告音を発します。音声警報のアラーム音は選択可能です。アラーム音の設定については、「**アラーム音を設定する**」を参照してください。

電子メールリンケージ

アラーム情報のメール通知を 1 人以上の受信者に送信します。

6. オプション: **[コピー先]**をクリックして、録画スケジュール設定を他のチャンネルにコピーします。をクリックして、アラームのパラメータを他のデバイスにコピーします。
7. **[保存]**をクリックします。

9.1.9 警備スケジュールを設定する

クライアントは、2つのデフォルトの警備スケジュールテンプレートを提供します。全日テンプレートと平日テンプレート。これはまた9つの事前定義されたテンプレートを提供します。曜日ごとに期間を設定し、その設定を事前定義された警備スケジュールとして保存できます。

事前定義した警備スケジュールを設定する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. イベント管理ページを開き、**[カメライベント]**タブをクリックします。
2. 設定するカメラを選択し、イベントタイプを選択します。
3. 選択したイベントタイプの検出を有効にするには、**[有効化]**にチェックを入れます。
4. **[編集]**をクリックして、テンプレート管理ページにアクセスします。
5. タイムラインでカーソルをドラッグして期間を設定します。



注記

1日に最大8つの期間を設定できます。

6. オプション：期間を管理するには、次の操作を実行します。

移動	ある期間にカーソルを移動し、カーソルが  に変わったら、期間をドラッグして移動させます。
延長または短縮	カーソルを期間の一方の端に移動し、カーソルが  に変わったら、ドラッグして期間を長くしたり短くしたりします。
削除	期間を選択し、  をクリックして削除します。
すべて削除	 をクリックして、すべての期間を削除します。
他の日付にコピー	期間を選択し、  をクリックして期間設定を他の日付にコピーします。

7. **[OK]**をクリックします。

9.1.10 カスタム警備スケジュールを設定する

必要に応じて、カスタム警備スケジュールを設定できます。

カスタム警備スケジュールを設定する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. イベント管理ページを開き、**[カメライベント]**タブをクリックします。
2. 設定するカメラを選択し、イベントタイプを選択します。
3. 選択したイベントタイプの検出を有効にするには、**[有効化]**にチェックを入れます。
4. 警備スケジュールから**[カスタム]**を選択して、カスタムスケジュールページを開きます。

5. タイムラインでカーソルをドラッグして期間を設定します。

 注記

1 日に最大 8 つの期間を設定できます。

6. オプション：期間を管理するには、次の操作を実行します。

移動	ある期間にカーソルを移動し、カーソルが  になったら、期間をドラッグして移動させます。
延長または短縮	カーソルを期間の一方の端に移動し、カーソルが  になったら、ドラッグして期間を長くしたり短くしたりします。
削除	期間を選択し、  をクリックして削除します。
すべて削除	 をクリックして、すべての期間を削除します。
他の日付にコピー	期間を選択し、  をクリックして期間設定を他の日付にコピーします。

7. [スケジュールテンプレートとして保存]をクリックします。

カスタムテンプレートがテンプレート 01、02、03...または 09 として保存されます。

8. [OK]をクリックします。

9.2 アラームとイベント情報を表示する

すべての追加デバイスおよび起動デバイスから新たに受信したアラームとイベントを、アラームイベントセンターに表示させることができます。そして、これらの情報を表示および管理することができます。

9.2.1 デバイスからのアラーム受信を有効にする

クライアントがデバイスからアラーム情報を受信する前に、まずデバイスを起動する必要があります。

デバイスからアラームを受信する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. [ツール→デバイス警備コントロール]の順にクリックして、デバイス警備コントロールページを開きます。

追加されたすべてのデバイスがページに表示されます。

2. デバイスをチェックして、選択したデバイスを起動します。

警戒状態列のアイコンがに変わり、アラームがトリガーすると、警備デバイスのアラームが自動的にクライアントにアップロードされます。

9.2.2 アラーム情報を表示する

モーション検知、ビデオ/オーディオ例外、アラーム入力、デバイス例外、VCA アラーム、CID アラーム、アクセスコントロールアラーム、その他のアラームなど、さまざまなタイプのアラームをアラームおよびイベントセンターに表示できます。

開始前

イベント管理でアラームを設定します。詳細については、異なるアラームの設定（例：「**モーション検知アラームを設定する**」）を参照してください。

受信したアラーム情報を表示する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. アラームイベントのページにアクセスします。
 - クライアントソフトウェアの右下にある  をクリックしてアラームとイベントパネルを表示し、次に  をクリックします。
 - コントロールパネルの **[アラームイベント]** をクリックします。
2. **[アラーム]** タブをクリックします。

注記

アラームが発生すると、左上の  アイコン が点滅して注意を促します。

アラーム時刻、発信元、詳細、内容など、受信したアラーム情報がページに表示されます。

3. オプション：アラームの表示をフィルタリングするには、さまざまなアラームタイプを確認します。
4. アラーム情報をダブルクリックすると、アラームの詳細が表示されます。
5. オプション：希望するアラーム情報を表示した後、以下の操作を行ってください。

トリガーカメラ
のライブビデオ
を見る

トリガーカメラで設定したアラームの場合、ライブビュー列の  をクリックして、トリガーカメラのライブビデオとアラーム画像を表示します。詳細については、「**ポップアップアラーム情報を表示する**」を参照してください。

メール通
知を送信

メール送信列の  をクリックして、アラームのメール通知を 1 人以上の受信者に送信します。

注記

最初にメール設定を構成します。詳細については、「**メールのパラメータを設定する**」を参照してください。

ビデオウォール
にビデオを
表示する

ライブビュー列の  をクリックして、アラームでトリガーカメラのビデオをビデオウォールに表示します。ビデオウォールページに進み、画面上でアラームがトリガーしたビデオを確認できます（これはアラームウィンドウとして設定されています）。物理的なビデオウォールにもビデオが表示されます。

注記

デコード装置を追加し、最初にビデオウォールを設定します。詳細については、「**ビデオウォール**」のトピックを参照してください。

アラームメモを書く ノート列をクリックして、アラームの詳細を入力します。

アラームのクリア  をクリックするか、またはアラームを右クリックして**[消去]**を選択します。

警告音を有効/無効にする 警告音で設定されたアラームの場合、 または  をクリックしてアラームの警告音を有効または無効にします。

注記

アラームの警告音を設定するには、それぞれのアラームの設定を参照してください（例：**モーション検知アラームを設定する**）。

9.2.3 イベント情報を表示する

ライブビューの失敗やデバイスの切断などのクライアントソフトウェアの例外を、アラームおよびイベントセンターに表示することができます。

この作業を実行して、クライアントのイベント情報を表示します。

手順

1. アラームイベントのページにアクセスします。
 - クライアントソフトウェアの右下にある  をクリックしてアラームとイベントパネルを表示し、次に  をクリックします。
 - コントロールパネルの**[アラームイベント]**をクリックします。
2. **[イベント]**タブをクリックします。

発生時刻や詳細など、受信したイベント情報がページに表示されます。

3. オプション：イベント情報を消去します。
 -  をクリックします。
 - イベント情報を右クリックしてから、**[消去]**をクリックします。

9.2.4 ポップアップアラーム情報を表示する

ポップアップ画像で設定されたアラームの場合、対応するアラームがトリガーしたときにアラームのビデオと画像をポップアップウィンドウに表示できます。

開始前

アラームのリンケージアクションをアラームトリガーポップアップ画像として設定します。

詳細については、それぞれのアラーム設定（例：「**モーション検知アラームを設定する**」）を参照してください。

ポップアップアラーム情報を表示する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. アラームイベントのページにアクセスします。
 - クライアントソフトウェアの右下にあるをクリックしてアラームとイベントパネルを表示し、次にをクリックします。
 - コントロールパネルの**[アラームイベント]**をクリックします。
2. **[アラーム]**タブをクリックします。
3. をクリックして、アラームトリガーポップアップ機能を有効にします。
4. アラームをトリガーします。

アラームのビデオ、アラームの画像、アラームの詳細を示すアラームウィンドウがポップアップ表示されます。

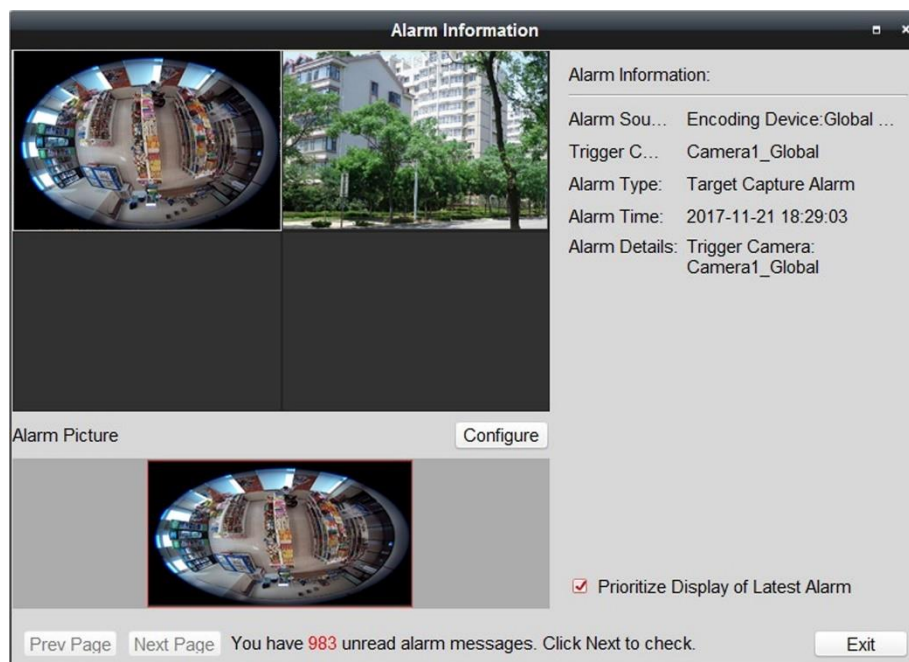


図 9-1 アラームのポップアップウィンドウ

5. 画像をポップアップ表示した後、次の操作を実行してください。

アラーム
ビデオを
表示する

デフォルトでは、アラームビデオは4レイアウトモードで表示されます。

注記

サーマルカメラとターゲットキャプチャカメラの場合、両方のライブビデオが同時に表示されます。

アラーム
画像を表
示する

ストレージサーバーの画像ストレージで設定されたアラームトリガーカメラの場合、アラーム画像はアラームビデオの下フィールドに表示されます。**[設定]**を直接クリックして、パラメータを設定することもできます。

注記

画像保存の設定については、「**画像とビデオをストレージデバイスに保存する**」を参照してください。

最新のアラ
ームを表示
する

[最新のアラームの表示を優先する]にチェックを入れると、最も古いアラームが最新のアラームに置き換えられ、最新のアラームウィンドウが表示されます。それ以外の場合は、現在のアラーム情報が表示されます。

前または次
のアラーム
を表示する

[前のページ]または**[次のページ]**をクリックして、前または次のアラーム情報を表示します。

9.2.5 火元検知アラームを確定する

スキャン中にサーマルデバイスが火源を検出すると、火元検知アラームがトリガーし、デバイスの移動が停止します。アラームビデオとアラーム画像を含むアラームの詳細を見ることができます。アラームが処理されると、アラームを確定することができ、デバイスは設定されたパスに従って動き続けます。

開始前

- クライアントで火元検知アラームを設定します。詳細については、それぞれのアラームの設定（例：**モーション検知アラームを設定する**）を参照してください。
- デバイス上で火源確定モードを設定します。詳細については、デバイスのユーザーマニュアルを参照してください。

火元検知アラームを設定する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. 火元検知アラームをトリガーします。
2. アラームの詳細を表示するには、次の操作のいずれかを実行します。
 - アラームイベントページに進み、火元検知アラームをクリックして詳細ウィンドウを

開きます。

- 火元検知アラーム用のポップアップ画像リンクを設定します。その後アラームがトリガーする際にアラームウィンドウが自動的に提示されます。

注記

アラームポップアップ画像のリンクを設定するには、それぞれのアラームの設定を参照してください（例：「**モーション検知アラームを設定する**」）。

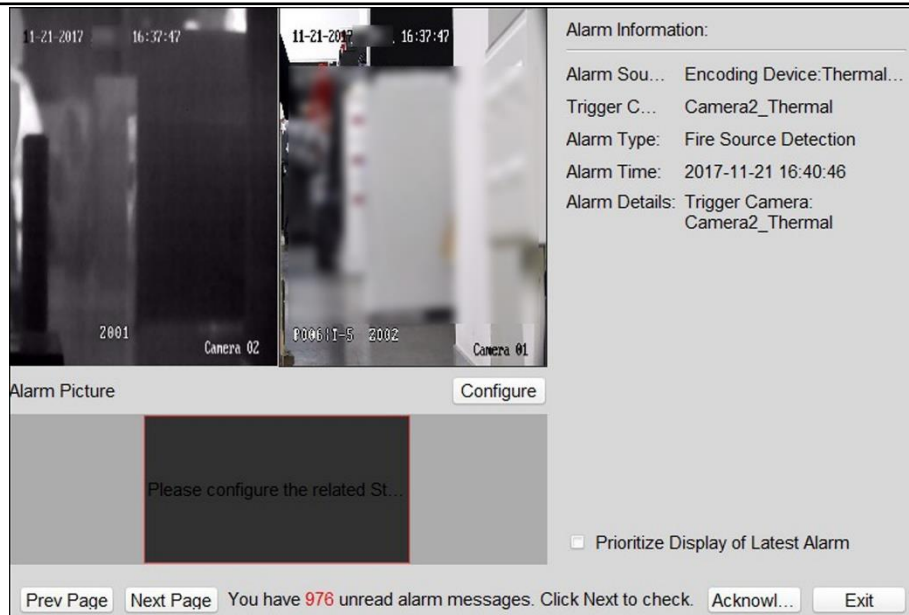


図 9-2 アラームの詳細ウィンドウ

3. **[確定]**をクリックします。

注記

確定モードが自動に設定されている場合、設定された確定期間内にアラームが確定されないと、デバイスは自動的にスキャンを続行します。確定期間を設定する場合は、デバイスのユーザーマニュアルを参照してください。

確定モードの場合、デバイスは設定されたパスに従ってスキャンを続行します。

第 10 章 マップの管理

E マップ機能は、設置されているカメラ、アラーム入力デバイス、警報出力デバイス、ゾーン、アクセスコントロールポイントの位置と分布の概要を視覚的に示します。カメラのライブビューをマップ上で取得することができ、アラームがトリガーした際にマップから通知メッセージを受け取れます。

10.1 マップを追加する

ホットスポットとホット領域の親マップとしてマップを追加する必要があります。マップを追加する必要があるときに、この作業を実行してください。

手順

注記

1 つのグループに追加できるマップは 1 つだけです。

1. E マップページを開きます。
2. マップに追加したいグループを選択します。

注記

グループ設定の詳細については、「[グループ管理](#)」を参照してください。

3. マップ表示領域のをクリックして、マップ追加ウィンドウを開きます。
4. 必要に応じて、追加したマップにわかりやすい名前を入力します。
5. をクリックして、ローカルパスからマップの画像を選択します。

注記

マップの画像フォーマットは PNG、JPG または BMP のみです。

6. [OK]をクリックします。
7. オプション：マップを追加したら、次の作業を実行してください。

拡大/縮小	マウスホイールを使用するか、  または  をクリックしてマップを拡大または縮小します。
マップ領域を調整する	右下にある黄色のウィンドウをドラッグするか、方向ボタンとズームバーを使用して、表示するマップ領域を調整します。

10.2 ホットスポットを管理する

カメラ、アラーム入力、警報出力はマップに追加でき、ホットスポットと呼ばれています。ホットスポットには、カメラの位置、アラーム入力、警報出力が表示されます。

また、ホットスポットから監視シナリオのライブビューとアラーム情報を取得することもできます。

注記

- ゾーンホットスポットの管理およびプレビューの詳細については、「**マップ上にゾーンを表示する**」を参照してください。
 - アクセスコントロールポイントのホットスポットの管理とプレビューの詳細についての詳細先：
-

10.2.1 ホットスポットとしてカメラを追加する

カメラをホットスポットとしてマップに追加できます。

カメラをマップ上のホットスポットとして追加する場合は、この作業を実行してください。

手順

1. E マップページにアクセスします。
 2. E マップツールバーの**[編集]**をクリックして、マップ編集モードにアクセスします。
 3. ツールバーのをクリックして、ホットスポットを追加するウィンドウを開きます。
 4. チェックボックスを選択して、追加したいカメラを選択します。
 5. **オプション**：ホットスポットの名前を編集し、名前の色を選択し、対応するフィールドをダブルクリックしてホットスポットアイコンを選択します。
 6. **[OK]**をクリックして設定を保存します。
-

注記

また、グループリストからカメラアイコンを直接マップにドラッグして、ホットスポットを追加することもできます。

カメラのアイコンがホットスポットとしてマップに追加され、グループリストに追加されたカメラのアイコンがからに変わります。

10.2.2 ホットスポットとしてアラーム入力を追加する

アラーム入力をホットスポットとしてマップに追加できます。

アラーム入力をマップ上のホットスポットとして追加するには、次の手順を実行します。

手順

1. E マップモジュールにアクセスします。
 2. E マップツールバーの**[編集]**をクリックして、マップ編集モードにアクセスします。
 3. ツールバーのをクリックして、ホットスポットを追加するウィンドウを開きます。
 4. チェックボックスを選択して、追加したいアラーム入力を選択します。
 5. **オプション**：ホットスポットの名前を編集し、名前の色を選択し、対応するフィールドをダブルクリックして
-

ホットスポットアイコンを選択します。

6. [OK]をクリックします。

 注記

また、アラーム入力リストからマップにアラーム入力アイコンを直接ドラッグして、ホットスポットを追加することもできます。

アラーム入力のアイコンがホットスポットとしてマップに追加され、グループリストに追加されたアラーム入力のアイコンが  から  に変わります。

10.2.3 ホットスポットとして警報出力を追加する

警報出力をホットスポットとしてマップに追加できます。

警報出力をマップ上のホットスポットとして追加するには、次の手順を実行します。

手順

1. E マップモジュールにアクセスします。
2. E マップツールバーの**[編集]**をクリックして、マップ編集モードにアクセスします。
3. ツールバーの  をクリックして、ホットスポットを追加するウィンドウを開きます。
4. チェックボックスを選択して、追加する警報出力を選択します。
5. オプション：ホットスポットの名前を編集し、名前の色を選択し、対応するフィールドをダブルクリックして
ホットスポットアイコンを選択します。
6. **[OK]**をクリックします。

 注記

また、警報出力リストからマップに警報出力アイコンを直接ドラッグして、ホットスポットを追加することもできます。

警報出力のアイコンがホットスポットとしてマップに追加され、グループリストに追加された警報出力のアイコンが  から  に変わります。

10.2.4 ホットスポットを編集する

名前、色、アイコンなどマップに追加されたホットスポットの情報を編集できます。

ホットスポットのパラメータを編集するには、次の手順を実行します。

手順

1. E マップモジュールにアクセスします。
2. 左下にある**[編集]**をクリックして、マップ編集モードにアクセスします。
3. ホットスポットの変更ウィンドウを開きます。
 - マップ上のホットスポットアイコンを選択し、E マップツールバーの  をクリックしてホットスポットの変更ウィンドウを開きます。
 - マップ上のホットスポットアイコンを右クリックし、右クリックメニューの**[変更]**を選択して、ホットスポットの変更ウィンドウを開きます。

- マップ上のホットスポットアイコンをダブルクリックして、ホットスポットの変更ウィンドウを開きます。
- 4. テキストフィールドでホットスポットの名前を編集し、ホットスポットの色、アイコン、連動ゾーンを選択します。
- 5. **[OK]**をクリックします。
- 6. **オプション**：ホットスポットを削除します。
 - ホットスポットアイコンを選択し、ツールバーのをクリックしてホットスポットを削除します。
 - ホットスポットアイコンを右クリックし、**[削除]**を選択してホットスポットを削除します。

10.2.5 ホットスポットをプレビューする

カメラのホットスポットのライブビューとホットスポットのトリガーしたアラーム情報をマップ上に表示できます。

カメラのホットスポットのライブビューとホットスポットのトリガーしたアラーム情報をマップ上に表示するには、次の手順を実行します。

手順

1. E マップモジュールにアクセスします。
2. E マップツールバーの**[編集モードの終了]**をクリックして、マッププレビューモードにアクセスします。
3. カメラのライブビューを取得します。
 - マップ上のカメラのホットスポットをダブルクリックします。
 - マップ上のカメラのホットスポットを右クリックして、**[ライブビュー]**をクリックします。
4. **オプション**：カメラのホットスポットの場合、アラームがトリガーすると、が表示され、ホットスポットの近くで点滅します（10 秒間点滅）。以下の操作ができます。

アラーム
情報を表
示する

をクリックして、アラームタイプやトリガー時間などのアラーム情報を表示します。

インスタン
ト再生を表
示する

マップ上のカメラのホットスポットを右クリックし、**[ライブビュー]**をクリックして 30 秒のインスタント再生を表示します。

注記

- ・ DeepinMind デバイスの場合、アラームがトリガーすると、ホットスポットの近くにアラーム画像が表示されます。をクリックし、アラームをダブルクリックして、アラームの詳細を表示させ、アラーム記録されたビデオを再生することができます。
 - ・ マップ上にアラーム情報を表示するには、アラームのリンケージアクションとして **E マップ上のアラーム**を選択する必要があります。詳細については、「**アラームの設定**」を参照してください。
-

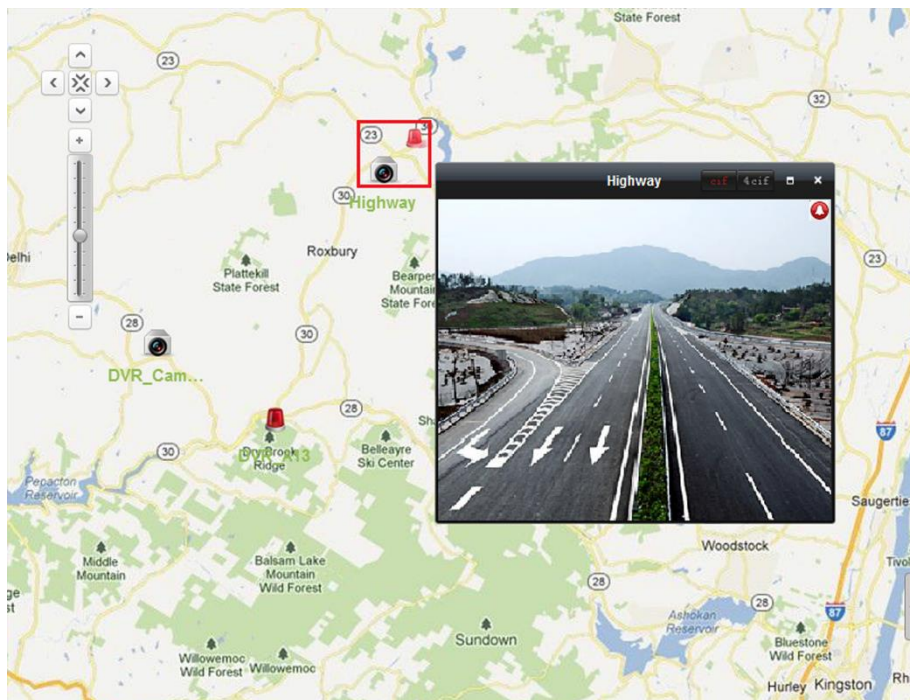


図 10-1 カメラのホットスポットのプレビュー

5. オプション：警報出力のホットスポットの場合、それがトリガーすると、が表示されてホットスポットの近くで点滅します（10 秒間点滅）。マップ上の警報出力のホットスポットを右クリックし、**[閉じる]**または**[開く]**をクリックして警報出力のステータスを制御します。

10.3 ホット領域を管理する

ホット領域機能は、マップを別のマップにリンクします。

ホット領域の追加、編集、削除など、ホット領域を管理できます。ホット領域をプレビューすることもできます。

10.3.1 ホット領域の追加

ホット領域としてマップを別のマップに追加すると、追加されたマップへのリンクのアイコンがメインマップに表示されます。追加されたマップは子マップと呼び、ホット領域を追加したマップは親マップと呼びます。

開始前

少なくとも 2 つのマップを追加する必要があります。マップの追加については、「**マップを追加する**」を参照してください。

ホット領域を追加する必要があるときに、この作業を実行してください。

手順

注記

マップはホット領域として一度だけ追加できます。

1. E マップページにアクセスします。
2. E マップツールバーの**[編集]**をクリックして、マップ編集モードにアクセスします。
3. 追加されたマップを親マップとして選択します。
4. ツールバーのをクリックして、ホット領域の追加ウィンドウを開きます。
5. チェックボックスを選択して、子マップを選択します。
6. オプション：ホット領域名を編集し、対応するフィールドをダブルクリックしてホット領域のカラーとアイコンを選択します。
7. **[OK]**をクリックします。
子マップアイコンは親マップ上でホット領域として追加されます。

10.3.2 ホット領域を編集する

名前、色、アイコンなど、親マップ上のホット領域の情報を編集できます。ホット領域を編集する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. E マップモジュールにアクセスします。
2. E マップツールバーの**[編集]**をクリックして、マップ編集モードにアクセスします。
3. ホット領域の変更ウィンドウを開きます。
 - 親マップのホット領域アイコンを選択して、ツールバーのをクリックします。
 - ホット領域アイコンを右クリックして、**[変更]**を選択します。
 - ホット領域アイコンをダブルクリックします。
4. ホット領域名を編集し、必要に応じて色、アイコン、連動された子マップを選択します。
5. **[OK]**をクリックします。
6. オプション：ホット領域を削除します。
 - ホット領域アイコンを選択して、ツールバーのをクリックします。
 - ホット領域アイコンを右クリックして、**[削除]**を選択します。

10.3.3 ホット領域をプレビューする

ホット領域のホットスポットを表示することができます。

ホット領域をプレビューする必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. E マップページにアクセスします。

注記

マップ編集モードになっている場合は、E マップツールバーの**[編集モードの終了]**をクリックしてマッププレビューモードに進みます。

ホット領域のホットスポットを表示することができます。

2. ホット領域アイコンをクリックして、連動されている子マップに進みます。
3. オプション：ツールバーの  をクリックして、親マップに戻ります。
4. オプション：ツールバーの  をクリックしてアラーム情報を消去します。

第 11 章 Hik-Connect

クライアントソフトウェアは、Hik-Connect アカウントの登録、Hik-Connect アカウントへのログイン、Hik-Connect サービスをサポートするデバイスの管理にも対応しています。

11.1 Hik-Connect アカウントを登録する

クライアントソフトウェアは、Hik-Connect サービスに対応するデバイスを管理するための Hik-Connect アカウントの登録に対応しています。

クライアントソフトウェアから Hik-Connect アカウントを登録したい場合は、この作業を実行してください。

手順

1. デバイス管理ページに入ります。
2. [デバイス]→[Hik-Connect デバイス]の順にクリックして、Hik-Connect へようこそページにアクセスします。
3. デバイスが配置されている領域を選択します。
4. [ログイン]をクリックしてログインページを開きます。
5. [登録]をクリックしてアカウントの登録ウィンドウを開きます。

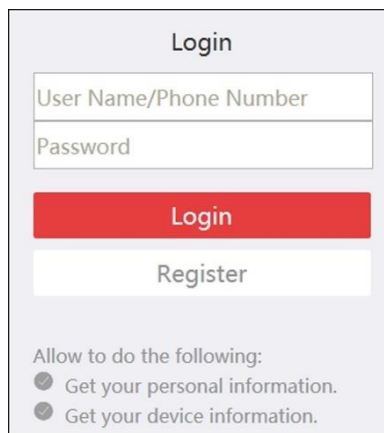
A screenshot of the Hik-Connect login and registration interface. It features a light gray background with a white border. At the top, the word "Login" is centered. Below it are two input fields: "User Name/Phone Number" and "Password". A prominent red button labeled "Login" is positioned below the password field. Underneath the red button is a white button labeled "Register". At the bottom, there is a section titled "Allow to do the following:" with two radio button options: "Get your personal information." and "Get your device information.".

図 11-1 Hik-Connect アカウントの登録



注記

Web ブラウザーは、Internet Explorer バージョン 9 以降を使用する必要があります。

6. ユーザー名、パスワード、確認パスワード、電話番号/メールアドレスなどの必要な情報を入力します。



注意

デバイスのパスワードの強度は、自動的に確認されます。お使いの製品のセキュリティを強化するために、自分で選択したパスワード（大文字、小文字、数字

および特殊文字のうち少なくとも **3 種類** のカテゴリを含む **8 文字以上** の使用) に変更することを強く推奨しています。また、高度なセキュリティシステムでは特に、定期的にパスワードをリセットすることをお勧めします。パスワードを月次または週次でリセットすると、製品をより安全に保護できます。

すべてのパスワード設定やその他のセキュリティ設定は、インストール実行者とエンドユーザーの責任です。

7. **[メッセージの送信]** をクリックして確認コードを取得します。

システムは、電話または E メールに確認コードを送信します。

8. 受け取った検証コードを **[検証コード]** テキストフィールドに入力します。

9. **[登録]** をクリックして、登録を終了します。

11.2 Hik-Connect アカウントにログインする

クライアントソフトウェアから Hik-Connect アカウントにログインできます。

開始前

Hik-Connect アカウントに登録します。



注記

詳細については、「**Hik-Connect アカウントに登録する**」を参照してください。

クライアントソフトウェアから登録済みの Hik-Connect アカウントにログインする場合は、この作業を実行してください。



注記

ログインは 7 日で期限切れになります。ログインが期限切れになったときは、再度アカウントにログインする必要があります。

手順

1. デバイスの管理ページにアクセスします。
2. **[デバイス]→[Hik-Connect デバイス]** の順にクリックして、Hik-Connect へようこそページにアクセスします。
3. **[ログイン]** をクリックしてログインページに進みます。
4. ユーザー名/電話番号とパスワードを入力します。
5. **[ログイン]** をクリックしてアカウントにログインします。
6. オプション: **[ログアウト]** をクリックして、アカウントからログアウトします。

11.3 デバイス管理

Hik-Connect デバイスを Hik-Connect アカウントに追加し、追加したデバイスをアカウントから削除することができます。Hik-Connect アカウントのデバイスに対して、リモート設定とグループ管理を行うこともできます。

11.3.1 Hik-Connect アカウントにデバイスを追加する

手動での追加とオンラインでの追加による 2 つの方法で、Hik-Connect デバイスを Hik-Connect アカウントに追加することができます。

注記

1 つの Hik-Connect アカウントに追加できるデバイスは最大 256 台（1024 台のカメラ）です。

オンラインデバイスの追加

クライアントを実行している PC と同じローカルサブネットにある Hik-Connect オンラインデバイスを Hik-Connect アカウントに追加できます。

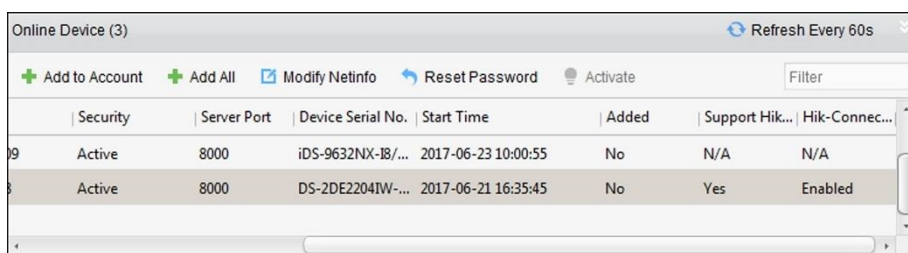
Hik-Connect アカウントにオンラインデバイスを追加する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. デバイス管理ページに入ります。
2. **[デバイス]→[Hik-Connect デバイス]**の順にクリックして、Hik-Connect アカウントにログインします。

クライアントソフトウェアと同じローカルサブネットにある有効なオンラインデバイスが、オンラインデバイス領域に表示されます。**[60 秒ごとに更新]**をクリックすることで、オンラインデバイスの情報を更新できます。

3. オンラインデバイスリストで Hik-Connect サービスに対応しているデバイスを選択します。



	Security	Server Port	Device Serial No.	Start Time	Added	Support Hik...	Hik-Connect...
9	Active	8000	iDS-9632NX-18/...	2017-06-23 10:00:55	No	N/A	N/A
3	Active	8000	DS-2DE2204IW-...	2017-06-21 16:35:45	No	Yes	Enabled

図 11-2 オンラインデバイスリスト

注記

非アクティブなデバイスの場合、デバイスを正しく追加する前に、パスワードを作成し、それに対して Hik-Connect サービスを有効にする必要があります。詳細については、「**デバイスを有効化する**」を参照してください。

4. **[アカウントに追加]**をクリックして、デバイス追加ダイアログボックスを開きます。
5. 5. 検証コードを入力します。

検証コードは、Hik-Connect サービスを有効にしたときに作成されます。詳細については、「**デバイスを有効化する**」を参照してください。

6. **[OK]**をクリックして、デバイスを追加します。
7. オプション：デバイス管理ページからデバイスを選択し、**[削除]**をクリックして Hik-Connect アカウントからデバイスを削除します。

次にすること

デバイスを Hik-Connect アカウントに追加した後、デバイスをローカルクライアントソフトウェアに追加したい場合は、Hik-Connect からデバイスを追加する必要があります。詳細については、「**Hik-Connect でデバイスを追加する**」を参照してください。

手動でデバイスを追加する

シリアル番号と検証コードを入力して、Hik-Connect デバイスを Hik-Connect アカウントに手動で追加できます。

デバイスを手動で追加する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

注記

- Hik-Connect サービスに対応しているデバイスのみが追加可能です。
 - 1 つの Hik-Connect アカウントに対して、1 台のデバイスのみを追加できます。
-

1. デバイス管理ページに入ります。
2. **[デバイス]**→**[Hik-Connect デバイス]**の順にクリックして、Hik-Connect アカウントにログインします。
3. **[デバイスを追加する]**をクリックして、デバイス追加ウィンドウを開きます。
4. デバイスのシリアル番号と認証コードを入力します。

シリアル番号

お使いのデバイスのラベルにマークされています。

検証コード

Hik-Connect サービスを有効にしたときに作成されます。詳細については、「**デバイスを有効化する**」を参照してください。

5. **[OK]**をクリックして、デバイスを追加します。
正常に追加されたデバイスは、デバイス管理ページに表示されます。

次にすること

デバイスを Hik-Connect アカウントに追加した後、デバイスをローカルクライアントソフトウェアに追加したい場合は、Hik-Connect からデバイスを追加する必要があります。詳細については、「**Hik-Connect でデバイスを追加する**」を参照してください。

11.3.2 カメラのパラメータを編集する

Hik-Connect のデバイスをローカルクライアントソフトウェアに追加した後、カメラのパラメータを編集してストリームキーを設定できます。

開始前

Hik-Connect のデバイスをローカルクライアントソフトウェアに追加します。

注記

詳細については、「**手動でデバイスを追加する**」または「**オンラインデバイスを追加する**」を参照してください。

Hik-Connect アカウントに追加されたカメラを編集する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. デバイスの管理ページにアクセスします。
2. **[グループ]** タブをクリックします。
3. リソースリストでカメラを選択します。
4. **[変更]** をクリックして、カメラの変更ダイアログをポップアップ表示させます。
5. 名称、回転、プロトコルタイプなどのカメラ情報を編集します。

回転

必要に応じて、ライブビューの回転タイプまたはカメラの再生を選択します。

ストリームキー

Hik-Connect デバイスの場合、ストリームキーは Hik-Connect サービスを有効にした際に作成される検証コードと同じです。

Hik-Connect デバイスのライブビューまたはビデオファイルが暗号化されている場合、デバイスのライブビューまたはビデオファイルを表示する前に、カメラの変更ウィンドウでストリームキーを入力する必要があります。

注記

Hik-Connect のモバイルクライアントソフトウェアで、Hik-Connect のデバイスのライブビューまたはビデオファイルを暗号化するかどうかを設定できます。詳細については、「**Hik-Connect のモバイルクライアントソフトウェアのユーザーマニュアル**」を参照してください。

6. オプション: **[コピー先]** をクリックし、設定したパラメータをその他のカメラにコピーします。
7. **[OK]** をクリックしてカメラを編集します。

第 12 章 ストリームメディアサーバーを介したビデオストリームの転送

デバイスのリモートアクセス番号には常に制限があります。ライブビューを取得するためにデバイスにリモートアクセスしたいユーザーが多い場合は、ストリームメディアサーバーを追加し、ストリームメディアサーバーからビデオデータストリームを取得することで、デバイスの負荷を減らすことができます。

注記

ストリームメディアサーバーのアプリケーションソフトウェアをインストールする必要があります。これはクライアントインストールパッケージに含まれています。インストールパッケージを実行したら、**[ストリームメディアサーバー]**にチェックを入れてストリームメディアサーバーのインストールを有効にします。

12.1 証明書をストリームメディアサーバーにインポートする

ストリームメディアサーバーをクライアントへ追加する前に、まずクライアントのセキュリティ証明書をストリームメディアサーバーにインポートしてセキュリティ認証を実行し、データセキュリティを確保する必要があります。

セキュリティ証明書をストリームメディアサーバーにインポートするには、次の手順を実行します。

手順

1. クライアントから証明書をエクスポートします。
 - 1) **[システム設定]**→**[サービス証明書]**にアクセスします。
 - 2) **[エクスポート]**をクリックします。
2. ストリームメディアサーバーをインストールした PC に証明書をコピーします。
3. ストリームメディアサーバーをインストールした PC のデスクトップ上のをクリックして実行します。
4. 証明書をストリームメディアサーバーにインポートします。
 - 1) タスクバーのを右クリックして、**[表示]**をクリックします。
 - 2) **[設定]**をクリックして、設定ウィンドウに進みます。
 - 3) セキュリティ証明書フィールドで、**[インポート]**をクリックし、手順 1 でクライアントからエクスポートした証明書ファイルを選択します。
 - 4) **[OK]**をクリックします。
5. 有効にするためにストリームメディアサーバーを再起動します。

注記

クライアントのセキュリティ証明書が更新された場合、新しい証明書をクライアントからエクスポートし、それをストリームメディアサーバーに再度インポートして更新する必要があります。

12.2 ストリームメディアサーバーを追加する

IP アドレスまたは IP セグメントでストリームメディアサーバーをクライアントに追加できます。

IP アドレスでストリームメディアサーバーを追加する場合、毎回クライアントに 1 つのストリームメディアサーバーを追加でき、また毎回クライアントに複数のストリームメディアサーバーも追加できます。

12.2.1 IP アドレスでストリームメディアサーバーを追加する

IP アドレスでストリームメディアサーバーを 1 つずつ追加できます。

IP アドレスでストリームメディアサーバーを追加するには、以下の手順を実行します。

手順

注記

1 つのクライアントに対して、最大 16 のストリームメディアサーバーを追加できます。

1. デスクトップのをクリックして、ストリームメディアサーバーを実行します。

注記

- ・他の PC にインストールされているストリームメディアサーバーを介してビデオを転送することもできます。
- ・ストリームメディアサーバーのポート（値：554）が他のサービスによって占有されている場合は、ダイアログが提示されます。ストリームメディアサーバーが正しく動作するように、ポート番号を他の値に変更する必要があります。

2. クライアントソフトウェアでデバイス管理ページにアクセスし、**[デバイス]**をクリックします。

3. **[デバイス]**タブで新しいデバイスタイプを追加します。

1) **[新しいデバイスタイプを追加]**をクリックします。

2) **[ストリームメディアサーバー]**を選択します。

3) **[OK]**をクリックします。

4. リストの**[ストリームメディアサーバー]**をクリックし、**[追加]**をクリックして追加ウィンドウを開きます。

5. 追加モードとして**[IP アドレス]**を選択します。

6. ストリームメディアサーバーのニックネームと IP アドレスを入力します。

注記

デフォルトのポート値は 554 です。

7. **[追加]**をクリックします。

注記

追加したメディアサーバーのセキュリティ証明書がクライアントのものと一致しない場合は、サーバーのニックネームの後に  と表示されます。 に移動して例外メッセージを表示し、証明書の一貫性を保つために提供された手順に従ってください。

12.2.2 IP セグメントでストリームメディアサーバーを追加する

IP セグメントで複数のストリームメディアサーバーをまとめて追加
できます。IP セグメントでストリームメディアサーバーを追加する
には、以下の手順を実行します。手順

注記

1 つのクライアントに対して、最大 **16** のストリームメディアサーバーを追加できます。

1. デスクトップのをクリックして、ストリームメディアサーバーを実行します。

注記

- ・他の PC にインストールされているストリームメディアサーバーを介してビデオを転送することもできます。
- ・ストリームメディアサーバーのポート（値：554）が他のサービスによって占有されている場合は、ダイアログが提示されます。ストリームメディアサーバーが正しく動作するように、ポート番号を他の値に変更する必要があります。

-
2. クライアントソフトウェアでデバイス管理ページにアクセスし、**[デバイス]**をクリックします。
 3. **[デバイス]**タブで新しいデバイスタイプを追加します。
 - 1) **[新しいデバイスタイプを追加]**をクリックします。
 - 2) **[ストリームメディアサーバー]**を選択します。
 - 3) **[OK]**をクリックします。
 4. リストの**[ストリームメディアサーバー]**をクリックし、**[追加]**をクリックして追加ウィンドウを開きます。
 5. 追加モードとして**[IP セグメント]**を選択します。
 6. 開始 IP アドレスと終了 IP アドレスを入力します。

注記

デフォルトのポート値は **554** です。

7. **[追加]**をクリックします。

注記

追加したメディアサーバーのセキュリティ証明書がクライアントのものと一致しない場合は、サーバーのニックネームの後にと表示されます。に移動して例外メッセージを表示し、証明書の一貫性を保つために提供された手順に従ってください。

IP アドレスが開始 IP と終了 IP の間にあるストリームメディアサーバーがクライアントに追加されます。

12.3 カメラをストリームメディアサーバーに追加して、ビデオストリームを転送する

ストリームメディアサーバーを介してカメラのビデオストリームを取得するには、カメラをストリームメディアサーバーに接続する必要があります。

ビデオストリームを転送するためにカメラをストリーミングメディアサーバーに追加するには、以下の手順を実行します。

手順

1. デバイス管理ページに入ります。
2. **[デバイス]**をクリックして、デバイスタブにアクセスします。
3. デバイスタイプパネルで**[ストリームメディアサーバー]**を選択します。
4. デバイス管理リストから、ストリームメディアサーバーを選択します。
5. **[設定]**をクリックして、メディアサーバーのページにアクセスします。
6. ビデオストリームをストリームメディアサーバー経由で転送するカメラを選択します。
7. **[OK]**をクリックします。
8. メインビューページに移動し、カメラのライブビューを再開します。

ストリームメディアサーバーのコントロールパネルで、ストリームメディアサーバーを介して転送または送信されるビデオストリームのチャンネル番号を確認します。

注記

- ・ 1 台のストリームメディアサーバーでは、最大 **64** チャンネルのビデオストリームを転送でき、最大 **200** チャンネルのビデオストリームをクライアントに送信できます。
 - ・ カメラがオフラインの場合でも、クライアントはストリームメディアサーバーを介してライブビデオを取得できます。
-

第 13 章 ビデオウォール

ビデオウォールモジュールはビデオのデコーディング機能を提供し、注意を引きそうなパフォーマンスに対してデコードされたビデオをビデオウォールに表示させることができます。

13.1 エンコーディングデバイスを管理する

ビデオウォールにデコードして表示させるには、エンコードデバイスをクライアントに追加する必要があります。

13.1.1 エンコーディングデバイスを追加する

デコードしてビデオウォールに表示するためのエンコーディングデバイスを追加する必要があります。デバイス管理ページでエンコーディングデバイスを追加しない場合は、それらをビデオウォールページで追加できます。

ビデオウォールページにエンコーディングデバイスを追加する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. ビデオウォールモジュールにアクセスします。
2. カメラ領域で  をクリックして、デバイス追加ウィンドウを開きます。
3. 追加モードを選択して、デバイスに対応するパラメータを設定します。
 - **IP/ドメインモード**については、「**IP アドレスまたはドメイン名でデバイスを追加する**」を参照してください。
 - **IP セグメントモード**については、「**IP セグメントでデバイスを追加する**」を参照してください。
 - **IP サーバーモード**については、「**IP サーバーでデバイスを追加する**」を参照してください。
 - **HiDDNS** モードについては、「**HiDDNS でデバイスを追加する**」を参照してください。

13.1.2 他社製のエンコーディングデバイスを追加する

他社製のエンコーディングデバイスをクライアントに追加することができます。

IP アドレス、ドメイン、または IP セグメントによる他社製のエンコードデバイスの追加に対応しています。

IP アドレスまたはドメイン名で他社製のエンコーディングデバイスを追加する

デコードしてビデオウォールに表示するために、IP アドレスまたはドメイン名で他社製のエンコードデバイスをクライアントに追加できます。

他社製のエンコーディングデバイスをクライアントに追加する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. コントロールパネルの**[デバイス管理]**をクリックして、デバイス管理モジュールに進みます。
2. **[デバイス]**→**[新しいデバイスタイプを追加]**の順にクリックし、**[他社製のエンコーディングデバイス]**を選択します。
3. **[他社製のエンコーディングデバイス]**をクリックして、他社製のエンコーディングデバイス管理ページに進みます。
4. **[追加]**をクリックして、デバイス追加ウィンドウを開きます。
5. 追加モードを **IP/ドメイン**として選択します。
6. 必要な情報を入力します。

チャンネル番号

チャンネル数。

開始番号

開始チャンネル番号からエンコーディングデバイスのチャンネルを追加します。

例

開始番号テキストフィールドに **4** を入力した場合、開始チャンネル番号は **4** です。

7. オプション：デバイス名でグループを作成するには、**[グループにエクスポート]**にチェックを入れます。



注記

デフォルトでは、デバイスのすべてのチャンネルを関連するグループにインポートできます。

8. **[追加]**をクリックしてデバイスを追加します。

IP セグメントで他社製のエンコーディングデバイスを追加する

ビデオウォールでデコードおよび表示するために IP アドレスが IP セグメント内にある他社製のエンコーディングデバイスを追加する場合は、開始 IP アドレスと終了 IP アドレス、ユーザー名、パスワード、その他のパラメータを指定してそれらを追加できます。

IP セグメントで複数の他社製のエンコーディングデバイスをクライアントに追加する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. コントロールパネルの**[デバイス管理]**をクリックして、デバイス管理モジュールに進みます。

2. **[デバイス]→[新しいデバイスタイプを追加]**の順にクリックし、**[他社製のエンコーディングデバイス]**を選択します。

左側のデバイスタイプのパネルに、他社製のエンコーディングデバイスが表示されます。

3. **[他社製のエンコーディングデバイス]→[追加]**の順にクリックして、デバイス追加ウィンドウを開きます。
4. 追加モードとして**[IP セグメント]**を選択します。
5. 必要な情報を入力します。

開始 IP

開始 IP アドレスを入力します。

終了 IP

開始 IP と同じネットワークセグメントの終了 IP アドレスを入力します。

チャンネル番号

チャンネル数。

開始番号

開始チャンネル番号からエンコーディングデバイスのチャンネルを追加します。

6. オプション：デバイス名でグループを作成するには、**[グループにエクスポート]**にチェックを入れます。



注記

デフォルトでは、デバイスのすべてのチャンネルを関連するグループにインポートできます。

7. **[追加]**をクリックしてデバイスを追加します。

IP アドレスが開始 IP と終了 IP の間にあるデバイスがデバイスリストに追加されます。

13.2 デコード装置を管理する

エンコーディングデバイスのビデオをデコードし、デコードされたビデオをビデオウォールに表示するために、デコード装置をクライアントに追加する必要があります。

13.2.1 デコード装置を追加する

エンコーディングデバイスのビデオをデコードし、デコードされたビデオをビデオウォールに表示するために、デコード装置を追加する必要があります。デバイス管理ページでデコード装置を追加しない場合は、それらをビデオウォールページで追加できます。

ビデオウォールページにデコード装置を追加する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. ビデオウォールモジュールにアクセスします。
2. **[ビデオウォール設定の入力]**をクリックして、デコード装置とビデオウォール設定のインターフェイスにアクセスします。
3. デコード出力領域で  をクリックして、デコード装置のクイック追加ウィンドウを有効にします。
4. 追加モードを選択して、デバイスに対応するパラメータを設定します。
 - **IP/ドメインモード**については、「**IP アドレスまたはドメイン名でデバイスを追加する**」を参照してください。
 - **IP セグメントモード**については、「**IP セグメントでデバイスを追加する**」を参照してください。

13.2.2 デコード装置の出力を編集する

追加したデコード装置のデコード出力を編集できます。

開始前

デコード装置をクライアントに追加します。詳細については、「**デコード装置を追加する**」を参照してください。

デコード装置のデコード出力を編集する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順



注記

拡張 HDMI 出力ボードを使用することで、NVR もデコーディング機能に対応します。

- これはビデオ入力と連動し、デコード装置を介さずにビデオウォールにそれらを表示させることができます。
- これは HDMI 出力を介して直接、カメラの映像のビデオウォール表示、ウィンドウイングおよびローミングを作動させることができます。
- デコード出力のパラメータを編集することもできます。
- 詳細については、NVR のユーザーマニュアルを参照してください。

-
1. ビデオウォールモジュールにアクセスします。
 2. **[ビデオウォール設定の入力]**をクリックして、デコード装置とビデオウォール設定のインターフェイスにアクセスします。
 3. デコード出力領域で、デコード装置の前にある  をクリックして、その出力を一覧表示します。
 4. デコード出力の変更ウィンドウを開きます。
 - デコード出力をダブルクリックします。
 - ビデオウォール領域のデコード出力を右クリックして、**[デコード出力の設定]**を選択します。
 5. 表示形式と解像度を設定します。



HDMI および VGA 出力の場合は、解像度を編集構成できます。BNC 出力の場合は、ビデオ規格を設定できます。

6. オプション：バッチ設定を確認し、設定をコピーする他の出力を選択できます。
7. [OK]をクリックして設定を保存します。

13.3 ビデオウォール設定を構成する

エンコーディングデバイスとデコード装置をクライアントに追加したら、ビデオ表示用のビデオウォールのパラメータを設定する必要があります。

13.3.1 ビデオウォールを追加する

デコーダ出力をビデオウォールに連動し、ビデオウォールにライブビューを表示するなどの追加操作を実行する前に、クライアントに仮想ビデオウォールを追加し、実際のニーズに応じてビデオウォールのレイアウトを設定する必要があります。

クライアントにビデオウォールを追加する場合は、この作業を実行してください。

手順



最大 4 つのビデオウォールをクライアントに追加できます。

1. ビデオウォールモジュールにアクセスします。
2. [ビデオウォール設定の入力]をクリックして、デコード装置とビデオウォール設定のインターフェイスにアクセスします。
クライアントは、レイアウトが 4*4 のデフォルトのビデオウォールを事前定義します。必要に応じてこれを編集できます。
3. ビデオウォールの追加ウィンドウを開きます。
 - ビデオウォールを右クリックして、[ビデオウォールの追加]を選択します。
 -  をクリックします。
4. 必要に応じて、ビデオウォールの名前を作成します。
5. ビデオウォールの行と列を設定します。
 - フレームをドラッグして、行と列を設定します。
 - フィールドに行と列を入力します。



- ・ 行番号と列番号の範囲は、どちらも 1 から 10 です。
 - ・ ビデオウォールの表示ウィンドウの総数は 100 以下でなければなりません。
-

6. ビデオウォールの比率を選択します。
 7. [追加]をクリックします。
 8. ビデオウォールを追加した後は、必要に応じて編集または削除できます。
-

ビデオウォールの編集	ビデオウォールを右クリックして、 [ビデオウォールの変更] を選択し、ビデオウォールの名前、行番号、列番号、比率を編集します。
ビデオウォールの削除	ビデオウォールを右クリックして、 [ビデオウォールの削除] を選択するか、またはビデオウォールタブの  をクリックして削除します。

13.3.2 ビデオウォールでデコード出力を連動する

追加したデコード装置のデコード出力を、作成したビデオウォールのウィンドウに連動する必要があります。

開始前

- デコード装置をクライアントに追加します。デコード装置の追加に関する詳細な設定については、「**デバイスを追加する**」を参照してください。
- ビデオウォールをクライアントに追加します。詳細については、「**ビデオウォールを追加する**」を参照してください。

デコード出力をビデオウォールと連動する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. ビデオウォールモジュールにアクセスします。
2. **[ビデオウォール設定の入力]**をクリックして、デコード装置とビデオウォール設定のインターフェイスにアクセスします。

追加されたデコード装置のデコード出力が左側に表示され、追加されたビデオウォールは右側に表示されます。

3. 左側のリストのデコード出力をビデオウォールの表示ウィンドウにドラッグして、**1 対 1**の対応を設定します。

注記

Ctrl キーまたは **Shift** キーを押したまま複数の出力を選択し、その後ビデオウォールにドラッグして、リンケージを一括設定することもできます。

4. オプション：リンケージを解除するには、表示ウィンドウの右上にあるをクリックします。

13.4 ビデオウォールにビデオを表示する

エンコーディングデバイス、デコード装置、ビデオウォールを設定した後、エンコーディングデバイスからのビデオストリームをデコードしてビデオウォールに表示できます。

デコーディングと表示を有効にした後、エンコーディングデバイスのビデオからキャプチャーされた画像はビデオウォールページのウィンドウに表示されます。また、リアルタイムビデオは物理的なビデオウォールにも表示されます。

注記

いくつかの種類のデコーダの場合、信号ソースからのビデオストリーム（ローカル API を介してデコーダに接続されたビデオ信号（例えば PC）を指す）もビデオウォールに表示させることができます。詳細については、デバイスのユーザーマニュアルを参照してください。

13.4.1 デコードと表示

デコード装置とビデオウォールを追加した後、エンコーディングデバイスからビデオストリームのデコードを開始し、ビデオウォールにビデオを表示できます。

開始前

エンコーディングおよびデコード装置を追加し、デコーダ出力をビデオウォールと連動します。

ビデオストリームのデコーディングとビデオウォールへのビデオの表示を有効にする場合は、この作業を実行してください。

手順

1. ビデオウォールモジュールにアクセスします。
2. **[操作ページに戻る]**をクリックして、ビデオウォールの操作インターフェイスに戻ります。
3. デコーディングと表示を開始するには、次の操作のいずれかを実行してください。
 - 左側パネルのカメラリストからカメラをデコーディングウィンドウにドラッグするか、またはデコーディングウィンドウを選択してからカメラをダブルクリックします。
 - キーボードの **Ctrl** キーまたは **Shift** キーを押しながらクリックして複数のカメラを選択し、選択したカメラをビデオウォールにドラッグします。

注記

DS-6400HDI-T および DS-6900UDI デコーダの場合、ビデオウォール表示用の信号ソースパネルで信号ソースを選択できます。

4. オプション：シーンの設定を保存するには、次の操作のいずれかを実行します。



ビデオウォールには最大 8 つのシーンを設定できます。各シーンは異なる設定とレイアウトで構成できます。

- ビデオウォールツールバーの をクリックして、現在のシーンの設定を保存します。
 - (の隣) をクリックして、設定を保存するシーンを選択します。
5. オプション：シーンパネルの をクリックして、シーンを有効にします。
6. オプション：プレビューウィンドウでカメラのライブビデオを取得します。
- 1) ビデオウォールの右下にある をクリックして、プレビューウィンドウを開きます。
 - 2) 再生中のウィンドウを選択するか、またはカメラをプレビューウィンドウに直接ドラッグします。
 - 3) オプション：プレビューウィンドウをダブルクリックすると、ライブビデオがフルスクリーンモードで表示されます。
7. オプション：カメラの PTZ コントロールを作動させるには、左側の PTZ パネルを展開します。



カメラは PTZ コントロールに対応していなければなりません。

8. オプション：再生ウィンドウを右クリックして、デコーディングを管理し、右クリックメニューで表示します。



メニューはデバイスにより異なります。

連続デコーディングの開始/一時停止

自動切替デコーディングを開始/一時停止します。この機能はデコーダでのみサポートされています。

ウィンドウを拡大

全画面モードでウィンドウを表示します。

デコーディングチャンネルのステータス

デコード状態、ストリームタイプなど、デコーディングチャンネルのステータスを表示します。

ロゴのアップロード

ビデオウィンドウにロゴとして画像をアップロードし、その表示パラメータを設定します。設定後、ロゴは物理的なビデオウォール上のウィンドウの定義された位置に表示されます。

ロック

ローミング機能を無効にするには、ウィンドウをロックしてください。

アラームウィンドウの設定

イベントまたはアラーム入力によってトリガーしたビデオをビデオウォールに表示します。

デコーディングの遅延

実際の必要に応じて、デコーディングの遅延度を設定します。

13.4.2 ウィンドウイングとローミングを実行する

ウィンドウイングとは、画面上に新しいウィンドウを開くことです。ウィンドウは画面内にあっても複数の画面にまたがっていてもかまいません。必要に応じて、ビデオウォール内で再生ウィンドウを移動できます。この機能はローミングと呼ばれます。

開始前

デコーダ出力はビデオウォールにリンクしています。

ウィンドウイングとローミングを設定する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

注記

ウィンドウイングとローミング機能は、デコード装置に対応していなければなりません。

1. **[ビデオウォール設定の入力]**をクリックして、デコード装置とビデオウォール設定のインターフェイスにアクセスします。
 2. デコーディングと表示を開始します。詳細については、「**デコードと表示**」を参照してください。
 3. デコーダ出力に連動している画面をドラッグしてウィンドウを開きます。
-

注記

- ・ 開いているウィンドウの上にウィンドウを開く場合は、ウィンドウをドラッグして **Ctrl** キーを押しながら作成します。
 - ・ ウィンドウを開く前に、少なくとも **1** 台のカメラを選択してください。
-



ウィンドウは画面内に表示されるか、または複数の画面にまたがって表示されます。

4. オプション：開いているウィンドウを調整します。

- 1) カーソルがになったら、ウィンドウを動かして位置を調整します。

注記

ウィンドウを移動している間、点の枠線が表示されます。点の枠線の近くにウィンドウを移動させると、ウィンドウは枠線に合わせて調整されます。

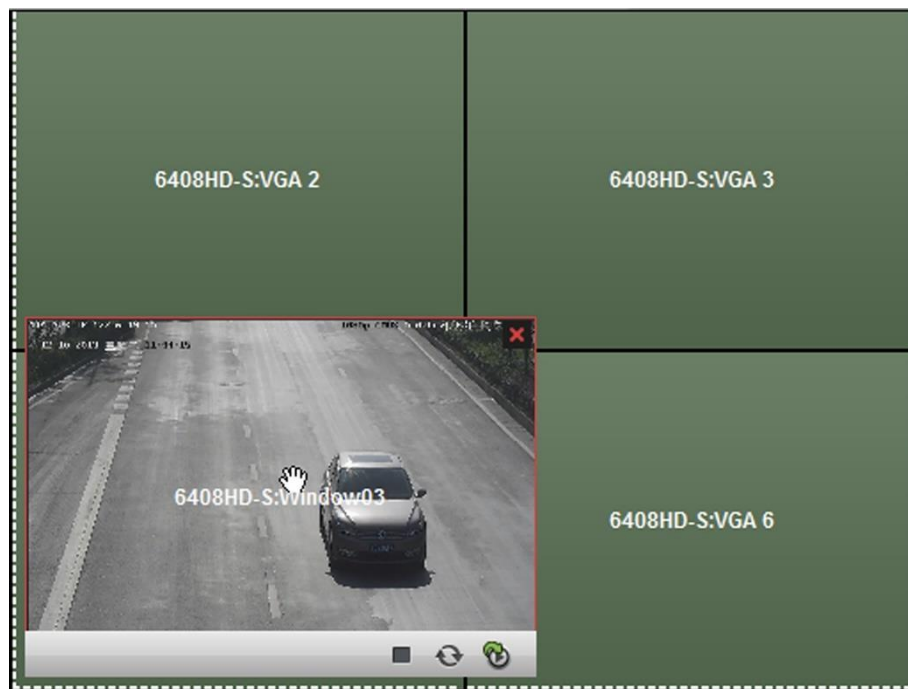


図 13-2 ウィンドウの移動

- 2) カーソルが方向矢印に変わったら、ウィンドウサイズを調整します。

 注記

Shift キーを押しながらウィンドウを拡大/縮小することもできます。

- 3) ウィンドウをダブルクリックすると、ウィンドウが拡大して全画面に表示され、最上層に表示されます。もう一度ダブルクリックすると元に戻ります。
5. レイアウトを設定します。
- 1) ウィンドウを選択して  をクリックし、レイアウトを設定します。
- 2)  をクリックして、この設定を保存します。
6. オプション：次のうち 1 つ以上を実行できます。

ローミ
ング機
能を無
効にす
る

ウィンドウを右クリックして右クリックメニューの【ロック】を選択すると、ウィンドウの右上に  のアイコンが表示されます。この場合、ウィンドウを移動したりサイズを変更したりすることはできません。

 注記

ロックされているウィンドウの場合は、クリックアンドドラッグして新しいウィンドウを作成できます。

ローミ
ング機
能を復
元する

ウィンドウを右クリックして、右クリックメニューの【ロック解除】を選択します。

ウィンドウ
のデコーデ
ィングを停
止する

ウィンドウを右クリックして、右クリックメニューの[デコーディングの停止]を選択するか、またはマウスをウィンドウに移動して右上のをクリックします。ウィンドウとこれが閉じます。

ローミ
ングウ
ィンド
ウをす
べて閉
じる

をクリックしてすべてのローミングウィンドウを閉じます。

最新のキャプ
チャー画像を
表示する

ウィンドウを右クリックして、右クリックメニューの[更新]を選択するか、またはマウスをウィンドウに移動して右下のをクリックします。

デジタルズーム

ウィンドウを右クリックして、右クリックメニューの[デジタルズームを開く]（使用可能な場合）を選択すると、カーソルがに変わります。デジタルズームを実現するには、マウスを使ってビデオをドラッグします。

 注記

物理的なビデオウォールへの影響を確認できます。

ビデオのプ
レビューを
入手する

再生ウィンドウを選択してアイコンのをクリックすると、画面の右下にビデオのプレビューが表示されます。または、ライブビュー用のプレビューウィンドウにカメラを直接ドラッグすることもできます。

 注記

プレビューウィンドウをダブルクリックして、全画面表示にすることもできます。

13.4.3 ビデオウォールに再生を表示する

記録したビデオファイルはビデオウォールで再生できます。

開始前

ビデオファイルとデコーダに保存されているエンコーディングデバイスを追加し、デコーダ出力をビデオウォールに編集します。

ビデオウォールに再生を表示したい場合は、この作業を実行してください。

手順

注記

再生機能はデコーダでのみ対応します。

1. ビデオウォールモジュールにアクセスします。
 2. 左パネルのカメラリストから、カメラをビデオウォールの表示ウィンドウにドラッグします。
 3. 再生モードに移動します。
 - 表示ウィンドウにカーソルを移動してクリックすると、が右上に表示されます。
 - 表示ウィンドウを右クリックして、右クリックメニューの**[再生する]**を選択します。当日のビデオファイルがあるカメラの場合、再生は自動的に開始します。それ以外の場合は、次の手順を実行して、再生に対してビデオファイルを検索します。
 4. **オプション**：期間やその他の検索条件を設定し、再生モードページの左側にある**[検索]**をクリックしてビデオファイルを検索します。
検索されたビデオファイルが自動的に再生を開始します。
 5. **オプション**：再生を制御します。
 - 再生ウィンドウにカーソルを移動させると、ウィンドウにアイコンが表示されます。表示されたアイコンを介して、再生の一時停止、再生の停止、キャプチャー、記録の開始、ライブビューモードへの戻り、再生速度の調整などの機能を実現できます。
 - 表示ウィンドウを右クリックして、一時停止、停止、早送り、スロー再生、キャプチャー、記録の開始、全画面などの右クリックメニューで再生を制御します。
-

注記

キャプチャーした画像と記録したファイルの保存パスは、システム設定ページで設定できます。詳細については、「**ファイルの保存パスを設定する**」を参照してください。

13.4.4 自動切替デコーディングを設定する

自動切替デコーディングとは、エンコーディングデバイスの複数のビデオストリームを1つのデコーダ出力に設定し、デコーディングの切り替え間隔を設定できることを意味します。

開始前

エンコーディングデバイスおよびデコーダを追加し、デコーダ出力をビデオウォールと連動します。

ビデオウォールに自動切替デコーディングを設定する場合は、この作業を実行してください。

手順

注記

自動切替デコーディングは、デコーダでのみ対応します。

1. ビデオウォールの操作ページにアクセスします。
 2. ビデオウォールツールバーの横にあるをクリックして、自動切替デコードの切り替え間隔を設定します。
 3. 左パネルのカメラリストから、カメラをビデオウォールの表示ウィンドウにドラッグします。
-

注記

自動切替デコーディングは、DS-6400HDI-T および DS-6900UDI の信号ソースに対応していません。

4. カメラグループノードにカーソルを移動し、ノードの横にあるをクリックすると、自動切替デコーディングが開始されます。
自動切替デコーディング中のデコーダ出力の表示ウィンドウは、右上にとマークされます。

第 14 章 セキュリティコントロールパネル

セキュリティコントロールパネルのモジュールはクライアントソフトウェアを介してパーティションおよびゾーンのリモート制御と設定を提供します。

注記

セキュリティコントロールパネルの権限を持つユーザーは、セキュリティコントロールパネルとリアルタイムアラームを管理するため、セキュリティコントロールパネルモジュールにアクセスすることができます。セキュリティコントロールパネルモジュールのユーザー権限の設定については、「**アカウントの管理**」を参照してください。

14.1 ゾーンイベント用クライアントリンケージを設定する

セキュリティコントロールパネルのトリガーゾーンイベントに対して、サイレン、リレー、クライアントリンケージおよびトリガーカメラを含むリンケージを設定できます。

セキュリティコントロールパネルゾーンのイベントのリンケージを設定する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

注記

ゾーンイベントリンケージを設定する前に、ゾーンを解除する必要があります。

1. **[イベント管理]→[ゾーンイベント]**の順にクリックします。
2. リストからゾーンを選択します。
3. ゾーンに名前を付けます。
4. ゾーンのタイプを選択します。
5. 連動するリレーとサイレンを選択します。
6. チェックボックスを選択して、クライアントリンケージを設定します。

音声警告

アラームがトリガーすると、クライアントソフトウェアが警告音を発します。音声警報のアラーム音は選択可能です。

注記

アラーム音の設定については、「**アラーム音を設定する**」を参照してください。

電子メールリンケージ

アラーム情報のメール通知を 1 人以上の受信者に送信します。

E マップアラーム

E マップにアラーム情報を表示します。

アラーム発生ポップアップ画像

アラームがトリガーすると、アラーム情報を含む画像がポップアップ表示されます。



注記

最初に、トリガーカメラを設定する必要があります。

アラームによってトリガーするビデオウォール表示

アラームがトリガーしたときに、ビデオウォールにビデオを表示します。



注記

最初に、トリガーカメラを設定する必要があります。

7. アラームがトリガーしたときに画像を表示したり、ビデオウォールにビデオを表示したりするためにトリガーカメラを選択します。
-



注記

- ・ イベントが発生したときにトリガーカメラの画像をキャプチャするには、ストレージスケジュール内でキャプチャスケジュールとストレージを設定しなければなりません。詳細については、「**リモートストレージ設定**」を参照してください。
 - ・ トリガーカメラは最大 4 台まで設定できます。
-

8. オプション: **[コピー先]**をクリックして、イベント設定を他のゾーンにコピーします。

9. **[保存]**をクリックします。
-

14.2 セキュリティコントロールパネルをリモート制御する

セキュリティコントロールパネルをリモート制御し、パーティションとゾーンの両方に対して、警備、解除、バイパス、グループバイパスなどの操作を実行できます。

14.2.1 パーティションをリモート制御する

遠隔警備、常警備、即時警備、解除、アラーム消去、グループバイパスやグループバイパスのリカバリーなど、セキュリティコントロールパネルのパーティションをリモート制御することができます。

クライアントソフトウェアのパーティションをリモートで制御する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. コントロールパネルの**[セキュリティコントロールパネル]**をクリックして、セキュリティコントロールパネルのモジュールにアクセスします。
2. オプション: ページの右上にある  または  をクリックして、表示モードをタイルまたはリストモードに切り替えます。
3. オプション: **[変更]**をクリックし、必要に応じてパーティション名を編集し、パーティションの表示

ステータスを表示または非表示に変更します。

4. タイルモードで、**[操作]**をクリックして、パーティション操作ウィンドウを開きます。
一括してパーティションを制御することができます。

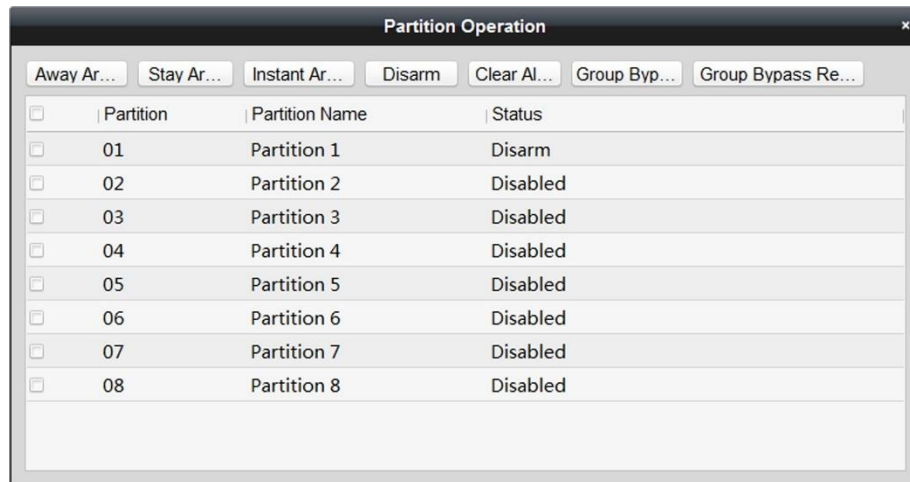


図 14-1 パーティション操作ウィンドウ

5. 操作するパーティションを選択します。
6. 選択したパーティションを制御するには、操作ボタン（遠隔警備、常時警備、即時警備、解除、アラーム消去、グループバイパスやグループバイパスのリカバリーなど）をクリックします。
7. パーティションがアラームのステータスにある場合は、パーティションのゾーンステータスを表示します。
 - タイルモードの場合は、の上にカーソルを合わせるとパーティションのゾーンステータスが表示されます。
 - リストモードの場合は、の上にカーソルを合わせるとパーティションのゾーンステータスが表示されます。

注記

トリガーゾーンのアラームの詳細については、「**アラームの処理**」を参照してください。

14.2.2 ゾーンをリモート制御する

バイパスを含むセキュリティコントロールパネルのゾーンをリモート制御したり、バイパスをリカバリーしたりできます。クライアントソフトウェアのゾーンをリモート制御する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. コントロールパネルの**[セキュリティコントロールパネル]**をクリックします。
2. **オプション**：ページの右上にあるまたはをクリックして、表示モードをタイルまたはリストモードに切り替えます。
3. をクリックしてゾーンの操作ウィンドウを開きます。
このウィンドウでパーティションのすべての連動ゾーンを表示し、ゾーンのステータスを確認できます。
4. 操作するゾーンを選択します。
5. **起動、解除、バイパス**または、**バイパスのリカバリー**をクリックして、選択したゾーンを制御します。
6. **オプション**：**[ライブビュー]**列でをクリックして、ゾーン内でトリガーカメラのライブビューを表示します。

注記

イベント管理モジュールでゾーンのトリガーカメラを設定することができます。詳細については、「**ゾーンイベント用クライアントリンクージを設定する**」を参照してください。

14.3 マップ上にゾーンを表示する

E マップ上にゾーンを追加することができ、そのゾーン内のアラームがトリガーしたときに、E マップ上にアラーム通知を表示してアラームの詳細を確認することができます。

E マップ上のセキュリティコントロールパネルのゾーンを管理する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

注記

E マップの詳しい操作については、「**マップの管理**」を参照してください。

1. E マップモジュールにアクセスします。
2. ホットスポットとして E マップにゾーンを追加します。
 - 1) ツールバーの**[編集]**をクリックして、マップ編集モードにアクセスします。
 - 2) E マップツールバーのをクリックしてホットスポットを追加するウィンドウを開きます。または、左側のパネルのグループリストからゾーンアイコンを直接マップにドラッグします。
 - 3) 追加するゾーンを選択します。
 - 4) **[OK]**をクリックします。ゾーンアイコンがホットスポットとしてマップに追加され、左側のパネルのグループリストに追加されたゾーンのアイコンがからに変わります。
3. 追加されたホットスポットをプレビューします。
 - 1) ツールバーの**[編集モードの終了]**をクリックして、マッププレビューモードにアクセスします。

- 2) オプション：ゾーン内でトリガーしたアラームがある場合、のアイコンが表示され、ホットスポットの近くで点滅します（10 秒間点滅）。アラームアイコンをクリックするか、ホットスポットアイコンを右クリックして**[アラーム情報の表示]**を選択し、アラームの種類やトリガー時刻などのアラーム情報を確認します。

注記

- ・マップにアラーム情報を表示させるには、E マップ上のアラーム機能をアラーム連動アクションとして設定する必要があります。詳細については、「**ゾーンイベント用クライアントリンクージを設定する**」を参照してください。
- ・リアルタイムアラームモジュールで、ゾーンアラーム情報を確認することもできます。詳細については、「**アラームを処理する**」を参照してください。

14.4 アラームを処理する

セキュリティコントロールパネルのリアルタイムトリガーCID アラーム情報を表示して、アラームを処理することができます。また、履歴アラームを時間またはアラームのタイプで検索することもできます。

14.4.1 リアルタイムアラームを表示する

アラームのタイプ、アラーム時刻、デバイス名、CID コード、ゾーン、パーティション、アラームの説明など、リアルタイムでトリガーしたアラーム情報を確認できます。また、アラームを登録して確定するか、トリガーカメラのライブビューを確認して E マップ上のリンクされたホットスポットを表示させることもできます。

追加したセキュリティコントロールパネルのリアルタイムトリガーアラーム情報を表示する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. リアルタイムアラームページを開きます。
このページにはすべてのリアルタイムでトリガーするアラームが表示され、アラームのタイプ、アラームの時刻、デバイス名、ユーザー、CID コード、ゾーン、パーティション、アラームの説明などを確認できます。
2. オプション：対応するタイプのアラームを表示するには**アラーム**、**例外**、**復元**、または**操作**にチェックを入れます。

注記

- ・アラームのタイプはでマークされています。例外のタイプはでマークされています。復元のタイプはでマークされています。そして、操作のタイプはでマークされています。
- ・アラームのタイプの後に続く数字は、このタイプのアラーム数を示します。

3. アラームを確定します。

- **[操作]**列のをクリックして、選択したアラームを確定します。
- リアルタイムでトリガーするすべてのアラームを確定するには、**[一括確定]**をクリックします。

確定されたアラームがリストから消えます。

4. オプション：**[操作]**列でをクリックして、トリガーカメラのライブビューを表示します。

注記

連動したライブビューを取得する前に、ゾーンに対してトリガーカメラを設定する必要があります。トリガーカメラの設定に関する詳細については、「**ゾーンイベント用クライアントリンケージを設定する**」を参照してください。

5. オプション：操作列のをクリックして、ゾーンをマップ上のホットスポットとして確認します。

マップ上のゾーンを確認する前に、ゾーンをホットスポットとしてマップに追加する必要があります。ホットスポットとしてゾーンを追加する詳細については、「**マップ上にゾーンを表示する**」を参照してください。

6. オプション：希望のアラームを受信するためにアラームタイプを登録します。

- 1) **[登録]**をクリックして、登録ウィンドウを開きます。
- 2) **アラーム**、**例外**、**復元**、または**操作**をクリックして、主要アラームのタイプを選択します。
- 3) チェックボックスを選択して、補助アラームのタイプを選択します。
- 4) **[OK]**をクリックして選択を保存します。

14.4.2 履歴アラームを検索する

履歴アラームを時間で検索し、検索結果をアラームのタイプでフィルタリングすることができます。一致したアラームを処理することもできます。

セキュリティコントロールパネルの履歴アラームを検索する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順



注記

アラームの操作の詳細については、「**リアルタイムアラームを表示する**」を参照してください。

1. リアルタイムアラームページを開きます。
2. リアルタイムアラームモジュールで、**[履歴アラーム]**タブをクリックして履歴アラームページにアクセスします。
3. をクリックして、期間の開始時間と終了時間を設定します。
4. **[検索]**ボタンをクリックすると、一致したアラームがこのページに表示されます。
5. オプション：アラームのタイプで検索結果をフィルタリングします。

- 1) [フィルター]ボタンをクリックして、フィルターダイアログを提示します。
- 2) [アラーム]、[例外]、[復元]、または[操作]タブをクリックして、主要アラームのタイプを選択します。

 注記

アラームのタイプはでマークされています。例外のタイプはでマークされています。復元のタイプはでマークされています。そして、操作のタイプはでマークされています。

- 3) タブの下にあるチェックボックスを選択して、補助アラームのタイプを選択します。
- 4) [OK]をクリックして、アラームのタイプによる履歴アラームのフィルタリングを開始します。
6. オプション：検出されたアラームについては、をクリックするか、または[一括確定]をクリックして未確定のアラームを確定します。
確定されたアラームの項目が灰色に変わります。
7. オプション：とをクリックして、アラームのリンクされたライブビューを確認し、リンクされたホットスポットを E マップに表示します。

 注記

アラームの操作の詳細については、「リアルタイムアラームを表示する」を参照してください。

14.4.3 パニックアラームを処理する

パニックアラームステーションの場合、パニックアラームがトリガーすると、クライアントを介してアラームを処理することができます。ユーザーがパニックアラームステーションからセンターに電話をかけると、パニックアラームがトリガーされます。

パニックアラームステーションからトリガーするパニックアラームを処理する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. リアルタイムアラームモジュールにアクセスします。
2. ポップアップのパニックアラームウィンドウでをクリックして電話に応答します。

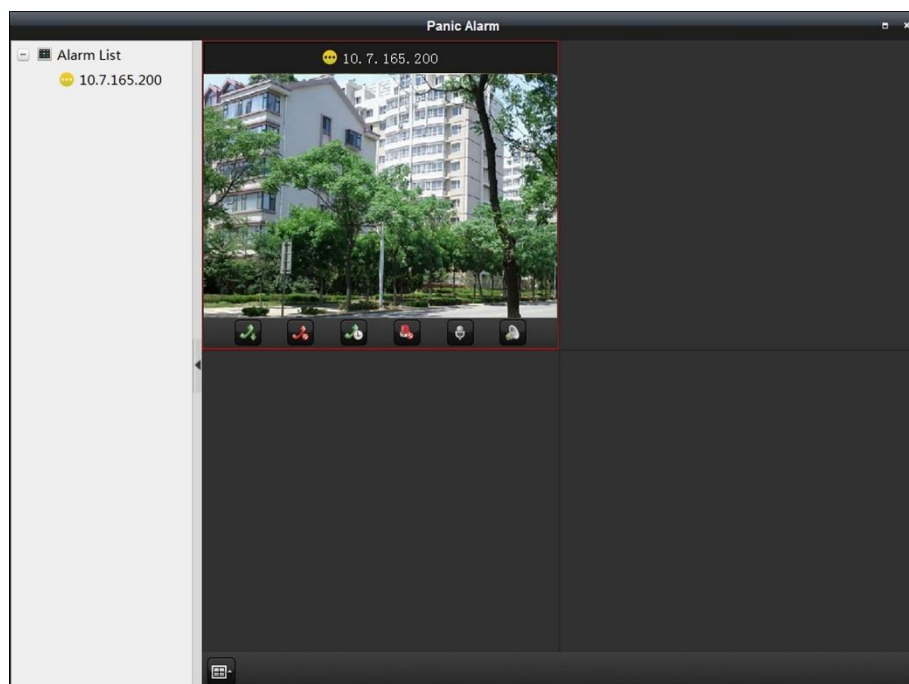


図 14-2 パニックアラームの処理

3. オプション：ライブビューウィンドウを右クリックして右クリックメニューを開き、以下の操作を行います。

画像をキャプチャする

をクリックして画像をキャプチャします。

記録を開始/停止する

をクリックして記録を開始または停止します。

 注記

ビデオファイルは PC に保存されます。

PTZ コントロール ゾーンがスピードドームに連動されている場合は、をクリックしてディスプレイウィンドウで PTZ コントロール機能を有効にします。機能を無効化するには、もう一度をクリックします。

 注記

トリガーカメラの設定に関しては、「ゾーンイベント用クライアントリンクageを設定する」を参照してください。

第 15 章 Pyronix コントロールパネル

管理および制御に対して、Pyronix コントロールパネルを追加することができます。追加した Pyronix コントロールパネルのパーティション、ゾーン、警報出力を制御できます。Pyronix コントロールパネルのゾーンイベントを設定した後、デバイスがアラームモードになっていると、クライアントは Pyronix コントロールパネルによってトリガーしたアラームを受信できます。

E マップに Pyronix コントロールパネルのゾーンを追加することができ、そのゾーン内のアラームがトリガーしたときに、E マップ上にアラーム通知を表示してアラームの詳細を確認することができます。E マップにゾーンを追加するための詳細な操作については、「**マップ上にゾーンを表示する**」を参照してください。

Pyronix コントロールパネルに保存されている操作ログを検索することもできます。詳細については、「**ログの管理**」を参照してください。



注記

Pyronix コントロールパネルの権限を持つユーザーは、Pyronix コントロールパネルとリアルタイムアラームを管理するため、Pyronix コントロールパネルモジュールにアクセスすることができます。Pyronix コントロールパネルモジュールのユーザー権限の設定については、「**アカウントの管理**」を参照してください。

15.1 Pyronix コントロールパネルを追加する

デバイス管理モジュールで、Pyronix コントロールパネルをクライアントに追加できます。PyronixCloud サービスのデバイス管理者によって承認されたデバイスは、クライアント経由で管理および制御できます。

Pyronix コントロールパネルをクライアントに追加するには、以下の作業を行ってください。

手順

1. デバイス管理ページを開きます。
2. デバイスタイプパネルに[Pyronix コントロールパネル]タブを表示します。
 - 1) [デバイス]→[新しいデバイスタイプを追加]の順にクリックします。
 - 2) [Pyronix コントロールパネル]にチェックを入れ、[OK]をクリックします。Pyronix コントロールパネルがデバイスタイプパネルに表示されます。
3. [Pyronix コントロールパネル]タブをクリックして、Pyronix コントロールパネルの管理ページに進みます。
4. [追加]をクリックします。

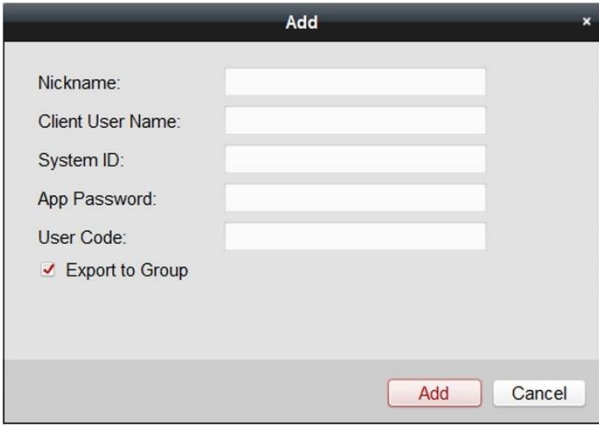


図 15-1 Pyronix コントロールパネルの追加

5. ダイアログに Pyronix コントロールパネルを追加するために必要な情報を入力します。
クライアントユーザー名

PyronixCloud から権限を適用するために、使用されるユーザー名を設定します。



詳細については、「**PyronixCloud を介してクライアントを認証する**」を参照してください。

システム ID

Pyronix コントロールパネルのシステム ID。各コントロールパネルに対して固有のシリアル番号です



デバイスを介してコントロールパネルの ID を取得することができます。詳細については、指定されたデバイスのユーザーマニュアルを参照してください。

アプリのパスワード

ユーザークラウドアカウントの ID と共にコントロールパネルを識別するために使用されるパスワード。



アプリのパスワードはデバイスから設定する必要があります。詳細については、指定されたデバイスのユーザーマニュアルを参照してください。

ユーザーコード

優先順位の異なるすべてのユーザーがコントロールパネルを起動/解除し、許可された操作を実行するためのコード。



デバイスを介してユーザーコードを設定する必要があります。ユーザーコードの設定については、各デバイスのユーザーマニュアルを参照してください。

6. オプション：デバイス名でグループを作成するには、[グループにエクスポート]にチェックを入れます。

デフォルトで、Pyronix コントロールパネルのすべてのゾーンを対応するグループにインポートすることができます。

7. [追加]をクリックして、Pyronix コントロールパネルを追加します。

8. オプション：Pyronix コントロールパネルを追加した後に、以下の操作を実行してください。

変更 デバイスを選択し、[変更]をクリックしてデバイスパラメータを編集します。

削除 デバイスを選択し、[削除]をクリックしてデバイスを削除します。



Pyronix コントロールパネルをクライアントに追加するのが初めての場合は、Pyronix コントロールパネルを追加した後、そのネットワークステータスはオフラインになります。管理者が PyronixCloud 経由でクライアントを認証するまで、コントロールクライアント経由で管理および操作することはできません。

次にすること

管理者に連絡し、PyronixCloud を介してクライアントを認証してください。詳細については、「PyronixCloud を介してクライアントを認証する」を参照してください。

15.2 PyronixCloud を介してクライアントを認証する

管理者は、ユーザーがクライアントソフトウェアを介して Pyronix コントロールパネルを操作および制御できるように、PyronixCloud のウェブサイトにログインしてクライアントを認証する必要があります。



1 台のコンピュータの場合、Pyronix コントロールパネルを追加するのが初めての場合は認証を依頼する必要があります。

15.2.1 PyronixCloud アカウントを作成する

クライアントを認証する前に、PyronixCloud アカウントを登録し、Pyronix コントロールパネルを PyronixCloud に接続する必要があります。

次の手順を実行して、PyronixCloud アカウントを作成してください。

手順

1. PC から <http://www.pyronixcloud.com> にアクセスして、アカウントを登録します。

The image shows a web form for creating a Pyronix Cloud account. At the top is the Pyronix Cloud logo, which consists of a blue cloud shape with the word 'Pyronix' in white and 'Cloud' in blue. Below the logo are two input fields: the first is labeled 'Email Address' and the second is empty. To the right of the second input field is a circular button with a right-pointing arrow. Below these fields is a link that says 'Create an account | Reset Password'. At the bottom, there is a 'Language:' label followed by a dropdown menu currently showing 'English (UK)'.

図 15-2 PyronixCloud アカウントの作成

2. [アカウントを作成]をクリックして、フォームを完了します。

 注記

フォームが完了すると、**admin@pyronixcloud.com** から確認リンクを記載したメールを受信します。このリンクをクリックすると、PyronixCloud にログインしてデバイスを接続できます。

3. PyronixCloud のホームページに戻ってログインします。

15.2.2 デバイスを PyronixCloud に接続する

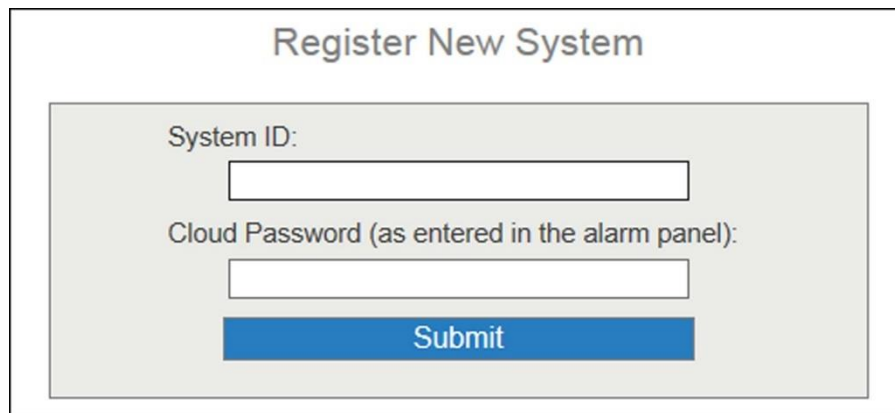
PyronixCloud 経由でクライアントを認証する前に、デバイスを PyronixCloud に接続する必要があります。PyronixCloud にデバイスを接続するには、以下の手順を実行します。

手順

1. **<http://www.pyronixcloud.com>** にアクセスして、PyronixCloud アカウントにログインします。

 注記

PyronixCloud アカウントを持っていない場合は、まずアカウントを作成してください。詳細については、「**PyronixCloud アカウントを作成する**」を参照してください。

A screenshot of a web form titled "Register New System". The form is contained within a light gray box. It has two input fields: "System ID:" and "Cloud Password (as entered in the alarm panel):". Below the password field is a blue "Submit" button.

Register New System

System ID:

Cloud Password (as entered in the alarm panel):

Submit

図 15-3 PyronixCloud にデバイスを接続

2. システム ID フィールドに Pyronix コントロールパネルのシステム ID を入力します。

 注記

システム ID はデバイスの一意の ID です。デバイスを介してシステム ID を取得することができます。詳細については、指定されたデバイスのユーザーマニュアルを参照してください。

3. Pyronix デバイスに入力したクラウドのパスワードを入力します。

 注記

クラウドのパスワードはデバイスから設定する必要があります。詳細については、指定されたデバイスのユーザーマニュアルを参照してください。

4. [送信]をクリックします。
5. システム参照を入力して、デバイスに別の名前を設定します。
6. [送信]をクリックして、操作を完了します。

 注記

[送信]ボタンをクリックすると、メールが届きます。メール内の確認リンクをクリックして、続行します。

コントロールパネルが、システムの表示インターフェイスに表示されます。インターフェイスの右上にあるチェックマークをクリックして、デバイスが正しく接続されていることを確認できます。

15.2.3 クライアントを認証する

Pyronix コントロールパネルをクライアントに追加するのが初めての場合は、Pyronix コントロールパネルを追加した後、そのネットワークステータスはオフラインになります。管理者が PyronixCloud 経由でクライアントを認証するまで、コントロールクライアント経由で管理および操作することはできません。

クライアントソフトウェアを認証するには、次の手順を実行します。

手順

1. PyronixCloud アカウントを登録し、Pyronix コントロールパネルを PyronixCloud に接続します。



詳細については、「**PyronixCloud アカウントを作成する**」および「**デバイスを PyronixCloud に接続する**」を参照してください。

2. システムの表示ページで、[ユーザー]列のユーザーをクリックし、そのユーザーが許可したいクライアントのユーザーであることを確認します。



ユーザー列のユーザー名は、Pyronix コントロールパネルを追加するときに入力したクライアントユーザー名です。詳細については、「**Pyronix コントロールパネルを追加する**」を参照してください。

3. 選択したユーザーの横にある ☒ をクリックします。
4. [今すぐ保存] をクリックして、設定を保存します。
アイコンが ☒ に変わります。
その後、クライアントを介してデバイスへ正常にアクセスできます。

User	Last Connected	Permission	Notifications
1111	28/03/2017 13:49:58	☒ On ☐ Off	☒ Enabled

図 15-4 PyronixCloud を介したクライアントの認証

15.3 Pyronix コントロールパネルイベント用のクライアントリンケージを設定する

Pyronix コントロールパネルのゾーンのトリガーイベント、または Pyronix コントロールパネルのデバイスイベントに対してクライアントリンケージとトリガーカメラを設定できます。

Pyronix コントロールパネルのイベントのリンケージアクションを設定する必要がある場合は、次の手順を実行します。

手順

1. イベント管理ページを開きます。
2. [Pyronix コントロールパネルのイベント] をクリックします。
追加した Pyronix コントロールパネルが左側のリストに表示されます。
3. をクリックしてゾーンリストを展開し、 を選択してそのゾーンイベントリンケージを設定します。

注記

また、 をクリックして **Pyronix** コントロールパネルのデバイスのイベントリンケージを設定することもできます。

4. トリガーカメラのフィールドで、アラームがトリガーしたときに画像を表示させるためにトリガーカメラを選択します。
-

注記

- ・ 選択したイベントが発生したときにトリガーカメラの画像をキャプチャーするには、ストレージスケジュール内でキャプチャスケジュールとストレージを設定しなければなりません。詳細については、「**リモートストレージ設定**」を参照してください。
 - ・ トリガーカメラは最大 **1** 台まで設定できます。
-

5. クライアントアクションのトリガーをオンにし、クライアントリンケージアクションを有効にします。

クライアントリンケージとして詳細な操作を確認できます。詳しくは以下の詳細な操作を参照してください。

音声警告

アラームがトリガーすると、クライアントソフトウェアが警告音を発します。音声警報のアラーム音は選択可能です。アラーム音の設定については、「**アラーム音を設定する**」を参照してください。

電子メールリンケージ

アラーム情報のメール通知を **1** 人以上の受信者に送信します。

アラーム発生ポップアップ画像

アラームがトリガーすると、アラーム情報を含む画像がポップアップ表示されます。

注記

最初に、トリガーカメラを設定する必要があります。

E マップアラーム

E マップにゾーンのアラーム情報を表示します。

注記

このリンケージはデバイスイベントに対してのみ使用可能です。

6. オプション: **[コピー先]** をクリックして、イベント設定を他のゾーンにコピーします。
 7. **[保存]** をクリックして設定を保存します。
-

15.4 Pyronix コントロールパネルをリモート制御する

このセクションでは、Pyronix コントロールパネルをリモート制御し、パーティションやゾーンに対して警備、解除、バイパスのリカバリーなどの操作を実行できます。Pyronix コントロールパネルに接続されている警報出力を制御することもできます。

15.4.1 パーティションをリモート制御する

追加した Pyronix コントロールパネルのパーティションを起動および解除することができます。パーティションのステータスはリアルタイムで表示されます。

パーティションをリモート制御する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. コントロールパネルの**[Pyronix コントロールパネル]**をクリックして、Pyronix コントロールパネルのページにアクセスします。

追加したすべての Pyronix コントロールパネルとパーティションが表示されます。



注記

- ・ オフラインの場合、デバイス名はグレーになります。
- ・ パーティションが障害状態の場合、がパーティション名の近くに表示されます。パーティションが障害ステータスになっている場合、にカーソルを合わせると障害状態が表示されます。

2. オプション：**[変更]**をクリックして、必要に応じて希望するパーティション名を編集し、パーティションの表示ステータスを**[表示]**または**[非表示]**に変更します。
3. 各パーティションのスイッチをクリックして、パーティションを起動または解除します。
4. オプション：前回の操作を表示するには、の上にカーソルを合わせます。

15.4.2 ゾーンをリモート制御する

追加した Pyronix コントロールパネルのゾーンのリアルタイムステータスを表示し、バイパスおよびバイパスのリカバリー操作を実行してゾーンを制御できます。

Pyronix コントロールパネルのゾーンをリモート制御する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. コントロールパネルの**[Pyronix コントロールパネル]**をクリックして、Pyronix コントロールパネルモジュールにアクセスします。
2. **[ゾーン]**をクリックして、ゾーンの制御ウィンドウを開きます。

ゾーンが表示されます。

ゾーン番号、名前、その場所など、ゾーンの詳細を表示できます。ゾーンのバイパスステータスと実行ステータスがリアルタイムで表示されます。

3. バイパス制御を行います。

バイパス ゾーンを選択し、**[バイパス]**をクリックしてゾーンをバイパスします。

復元 ゾーンを選択し、**[バイパスの復元]**をクリックしてバイパスを復元します。

15.4.3 接続済み警報出力をリモート制御する

Pyronix コントロールパネルがサイレンやアラームランプなどの警報出力に接続されているとき、警報出力ステータスを制御することができます。

接続されている警報出力をリモート制御するには、次の手順を実行します。

手順

1. コントロールパネルの**[Pyronix コントロールパネル]**をクリックして、Pyronix コントロールモジュールにアクセスします。

2. **[出力]**をクリックして、警報出力の制御ウィンドウを開きます。

接続されている警報出力が表示されます。

番号、名前、タイプ、パルス持続時間などの警報出力の詳細を表示できます。

警報出力の稼働状態がリアルタイムで表示されます。

3. 警報出力制御を行います。

- 警報出力を選択し、**[開く]**をクリックして警報出力をオンにします。



注記

パルス時間でカウントダウンが始まります。カウントダウンが終了すると、出力ステータスが自動的に**オフ**になります。

- 警報出力を選択し、**[閉じる]**をクリックして警報出力をオフにします。
-

第 16 章 アクセスコントロール

アクセスコントロールモジュールは、アクセスコントロールデバイスおよびビデオインターコムに適用できます。個人およびカードの管理、権限の設定、アクセスコントロールのステータス管理、ビデオインターコム、その他の高度な機能など複数の機能を提供します。アクセスコントロールのイベント設定を設定したり、アクセスコントロールポイントとゾーンを E マップ上に表示したりすることもできます。

注記

アクセスコントロールモジュールのアクセス権限を持つユーザーは、アクセスコントロールモジュールにアクセスしてアクセスコントロール設定を構成できます。アクセスコントロールモジュールのユーザー権限の設定については、「[アカウントの管理](#)」を参照してください。

16.1 アプリケーションシナリオを選択する

アクセスコントロールモジュールに初めてアクセスする場合、実際のニーズに応じてアクセスコントロールの適用シナリオを居住用または非居住用を選択する必要があります。

初めてアクセスコントロールモジュールにアクセスする際にアクセスコントロールのアプリケーションシナリオを選択する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

注記

シーンが設定されたら、それを変更することはできません。

1. アクセスコントロールモジュールにアクセスします。
シーン選択ウィンドウが提示されます。

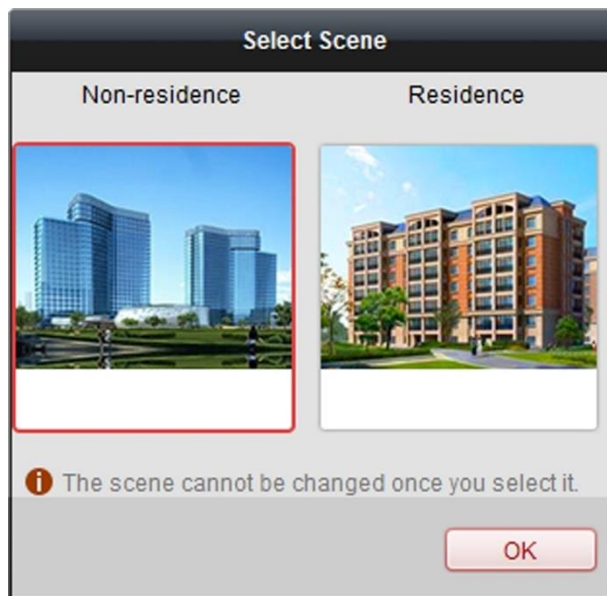


図 16-1 アクセスコントロールアプリケーションシナリオの選択

2. 実際のニーズに応じて、シーンを住居または非住居として選択します。

 注記

居住者モードを選択した場合、個人を追加するときに個人の出勤ルールを設定することはできません。

3. [OK]をクリックします。

16.2 デバイスパラメータを設定する

アクセスコントロールデバイスを追加した後、ネットワークパラメータ、キャプチャーパラメータ、RS-485 パラメータ、Wiegand パラメータなどのパラメータを設定できます。

16.2.1 ネットワークパラメータを設定する

アクセスコントロールデバイスを追加した後、デバイスログのアップロードモードを設定し、有線または無線ネットワークを介して EHome アカウントを作成できます。

ログアップロードモードを設定する

EHome プロトコルを介してログをアップロードするためのモードを設定できます。

アクセスコントロールデバイスのログアップロードモードを設定する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. [アクセスコントロール→デバイス管理]の順にクリックして、デバイス管理ページにアクセスします。

2. デバイスリストでデバイスを選択し、**[変更]**をクリックします。
3. **[ネットワーク設定→アップロードモード]**の順にクリックして、アップロードモードページにアクセスします。
4. ドロップダウンリストからセンターグループを選択します。
5. **[有効化]**にチェックを入れ、アップロードモードの設定を有効にします。
6. ドロップダウンリストからアップロードモードを選択します。
 - メインチャンネルとバックアップチャンネルで **N1** または **G1** を有効にします。
 - **[閉じる]**を選択して、メインチャンネルまたはバックアップチャンネルを無効にします。

注記

メインチャンネルとバックアップチャンネルで同時に **N1** または **G1** を有効にすることはできません。

7. **[保存]**をクリックします。

有線通信モードで EHome アカウントを作成する

EHome プロトコルのアカウントを有線通信モードで設定できます。EHome プロトコル経由でデバイスの追加を行うことができます。

アクセスコントロールデバイス用に EHome アカウントを有線通信モードで作成する必要がある場合、この作業を実行してください。

手順

注記

この機能はデバイスに対応していなければなりません。

1. **[アクセスコントロール→デバイス管理]**の順にクリックして、デバイス管理ページにアクセスします。
2. デバイスリストでデバイスを選択し、**[変更]**をクリックします。
3. **[ネットワーク設定]→[ネットワークセンター]**の順にクリックして、ネットワークセンターのページにアクセスします。
4. ドロップダウンリストからセンターグループを選択します。
5. アドレスタイプを **IP アドレス** または **ドメイン名** として選択します。
6. アドレス種別に従い、IP アドレスもしくはドメイン名を入力します。
7. プロトコルのポート番号を入力します。

注記

無線ネットワークと有線ネットワークのポート番号は、EHome のポート番号と一致していなければなりません。

8. プロトコルタイプを **EHome** として選択します。
9. ネットワークセンターのアカウント名を設定します。
10. **[保存]**をクリックします。

無線通信モードで EHome アカウントを作成する

EHome プロトコルのアカウントを無線通信モードで設定できます。EHome プロトコル経由でデバイスの追加を行うことができます。

アクセスコントロールデバイス用に EHome アカウントを無線通信モードで作成する必要がある場合、この作業を実行してください。

手順

注記

この機能はデバイスに対応していなければなりません。

1. [アクセスコントロール→デバイス管理]の順にクリックして、デバイス管理ページにアクセスします。
 2. デバイスリストでデバイスを選択し、[変更]をクリックします。
 3. [ネットワーク設定]→[無線通信センター]の順にクリックして、無線通信センターのページにアクセスします。
 4. APN 名を **CMNET** または **UNINET** として選択します。
 5. SIM カード番号を入力します。
 6. ドロップダウンリストからセンターグループを選択します。
 7. IP アドレスとポート番号を入力します。
-

注記

- ・ デフォルトでは、EHome のポート番号は **7660** です。
 - ・ 無線ネットワークと有線ネットワークのポート番号は、EHome のポート番号と一致していなければなりません。
-

8. プロトコルタイプを **EHome** として選択します。
 9. ネットワークセンターのアカウント名を設定します。
 10. [保存]をクリックします。
-

16.2.2 デバイスキャプチャーパラメータを設定する

手動キャプチャーや連動キャプチャーなどのデバイスキャプチャーパラメータを設定できます。

注記

- ・ このキャプチャー機能はデバイスに対応していなければなりません。
 - ・ キャプチャー設定を設定する前に、ストレージサーバーを画像保存用に設定する必要があります。
- 詳細については、「**リモートストレージ設定**」を参照してください。
-

トリガーキャプチャーパラメータを設定する

キャプチャー機能を使用して、デバイスのトリガーキャプチャーパラメータを設定できます。

開始前

キャプチャー設定を設定する前に、ストレージサーバーを画像保存用に設定する必要があります。詳細

については、「[リモートストレージ設定](#)」を参照してください。

トリガーキャプチャーパラメータを設定する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

注記

この機能はデバイスに対応していなければなりません。

1. **[アクセスコントロール→デバイス管理]**の順にクリックして、デバイス管理ページにアクセスします。
2. デバイスリストでデバイスを選択し、**[変更]**をクリックします。
3. **[キャプチャー設定]→[連動キャプチャー]**の順にクリックして、連動キャプチャーのページにアクセスします。
4. 画像のサイズと品質を設定します。
5. 一度トリガーするキャプチャー時間を設定します。
6. キャプチャー時間に従ってキャプチャー間隔を設定します。
7. **[保存]**をクリックします。

手動キャプチャーパラメータを設定する

キャプチャー機能を使用して、デバイスの手動キャプチャーパラメータを設定できます。

開始前

キャプチャー設定を設定する前に、ストレージサーバーを画像保存用に設定する必要があります。詳細

については、「[リモートストレージ設定](#)」を参照してください。

手動キャプチャーパラメータを設定する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

注記

この機能はデバイスに対応していなければなりません。

1. **[アクセスコントロール→デバイス管理]**の順にクリックして、デバイス管理ページにアクセスします。

2. デバイスリストでデバイスを選択し、**【変更】**をクリックします。

3. **[キャプチャー設定]**→**[手動キャプチャー]**の順にクリックして、手動キャプチャーのページにアクセスします。
4. ドロップダウンリストからキャプチャーした画像の解像度を選択します。
5. 画質を**高**、**中**、または**低**から選択します。
6. **[保存]**をクリックします。
7. オプション：パラメータをデフォルト設定に戻すには、**[デフォルト設定に戻す]**をクリックします。

16.2.3 RS-485 パラメータを設定する

ボーレート、データビット、ストップビット、パリティタイプ、フロー制御タイプ、通信モード、作業モード、接続モードなどアクセスコントロールデバイスの **RS-485** パラメータを設定できます。

アクセスコントロールデバイスの **RS-485** パラメータを設定する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順



RS-485 設定は、デバイスに対応していなければなりません。

1. **[アクセスコントロール→デバイス管理]**の順にクリックして、デバイス管理ページにアクセスします。
2. デバイスリストでデバイスを選択し、**[変更]**をクリックします。
3. **[RS-485 設定]**をクリックして、**RS-485** 設定ページにアクセスします。
4. ドロップダウンリストからシリアルポート番号を選択して、**RS-485** パラメータを設定します。
5. ドロップダウンリストでボーレート、データビット、ストップビット、パリティタイプ、通信モード、動作モード、接続モードを設定します。
6. **[保存]**をクリックします。
 - ・ 設定されたパラメータは自動でデバイスに適用されます。
 - ・ 動作モードを変更した後、デバイスは自動的に再起動します。

16.2.4 Weigand パラメータを設定する

アクセスコントロールデバイスの **Wiegand** チャンネルと通信モードを設定できます。アクセスコントロールデバイスの **Weigand** パラメータを設定する必要がある場合は、この作業を実行してください。手順



この機能はデバイスに対応していなければなりません。

1. **[アクセスコントロール→デバイス管理]**の順にクリックして、デバイス管理ページにアクセスします。

2. デバイスリストでデバイスを選択し、**[変更]**をクリックします。
3. **[Wiegand 設定]**をクリックして、Wiegand 設定ページにアクセスします。
4. ドロップダウンリストから Wiegand チャンネル番号と通信モードを選択します。



注記

通信方向を送信に設定した場合、**Wiegand モード**を
Wiegand26 または **Wiegand34** に設定する必要があります。

5. **[保存]**をクリックします。
 - ・ 設定されたパラメータは自動でデバイスに適用されます。
 - ・ 通信方向を変更した後、デバイスは自動的に再起動します。

16.2.5M1 カード暗号化を認証する

M1 カード暗号化は認証セキュリティレベルを向上させることができます。カードの発行後、クライアントソフトウェアで M1 カードの暗号化機能を有効にできます。

開始前

カードを発行するには、指定されたカード登録ステーションを使用してください。詳細については、「**一般カードを個人に発行する**」を参照してください。

M1 カードの暗号化機能を有効にする必要がある場合は、この作業を実行してください。



注記

この機能は、アクセスコントロールデバイスとカードリーダーに対応していなければなりません。

手順

1. **[アクセスコントロール]**→**[デバイス管理]**の順にクリックして、アクセスコントロールデバイスのページにアクセスします。
2. デバイスリストでデバイスを選択し、**[変更]**をクリックして変更ウィンドウをポップアップ表示させます。
3. **[M1 カード暗号化]**タブをクリックして、M1 カード暗号化のページにアクセスします。
4. M1 カード暗号化機能を有効にするには、**[有効化]**のチェックボックスを選択します。
5. セクターID を設定します。
セクターID の範囲は 1 から 100 です。
6. **[保存]**をクリックして設定を保存します。

16.3組織を管理する

組織の追加、編集、削除など、必要に応じて組織を管理できます。組織を管理する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. **[アクセスコントロール]**→**[個人およびカード]**の順にクリックして、個人およびカードの管理ページにアクセスします。
2. **[追加]**をクリックして、組織の追加ウィンドウをポップアップ表示させます。
3. 組織に名前を付けます。
4. **[OK]**をクリックします。



注記

最大 10 レベルの組織を追加できます。

5. オプション：組織を追加したら、次の操作を 1 つ以上実行できます。

組織を編集

追加した組織を選択し、**[変更]**をクリックしてその名前を変更しま

組織を削除

す。追加した組織を選択し、**[削除]**をクリックしてそれを削除しま

す。



注記

- ・ 組織を削除すると、下位レベルの組織も削除されます。
 - ・ 組織の下に追加された人がいないことを確認してください。そうでない場合は、組織を削除することはできません。
-

16.4 個人情報管理する

組織を追加した後は、組織に個人を追加してカードの一括発行、個人情報の一括インポートおよび一括エクスポートなど、追加した個人を管理することができます。



注記

10,000 名まで追加またはカードを追加することができます。

16.4.1 個人を追加する

クライアントソフトウェアに 1 名ずつ個人を追加して、基本情報、詳細情報、アクセスコントロールの権限、カードの連動、顔画像の連動、指紋の連動、出勤ルールなどの個人情報を入力できます。

個人の基本情報を設定する

クライアントソフトウェアに 1 名ずつ個人を追加し、名前、性別、電話番号など個人の基

本情報を設定できます。

個人を追加するときに個人の基本情報を設定する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. **[アクセスコントロール]**→**[個人およびカード]**の順にアクセスします。
2. 組織リストで組織を選択して、個人を追加します。
3. **[追加]**をクリックして、個人追加ウィンドウを開きます。
個人番号は自動的に生成され、編集することはできません。
4. 個人名、性別、電話番号、誕生日の詳細、メールアドレスなどの基本情報を入力します。
5. オプション：個人の画像を設定します。
 - **[画像のアップロード]**をクリックし、ローカル PC から個人の画像を選択してクライアントにアップロードします。
 - **[写真を撮る]**をクリックして、PC のカメラで個人の写真を撮ります。
6. 確認して個人を追加します。
 - **[OK]**をクリックして個人を追加し、個人の追加ウィンドウを閉じます。
 - **[保存して続行]**をクリックして個人を追加し、引き続き他の人を追加します。

個人の詳細情報を設定する

個人を追加する際、実際のニーズに応じて、個人の ID タイプ、ID 番号、国など個人の詳細情報を設定できます。

個人の詳細情報を設定する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. **[アクセスコントロール]**→**[個人およびカード]**の順にアクセスします。
2. 組織リストの組織で個人を追加し、**[追加]**をクリックします。



注記

最初に個人の基本情報を入力します。個人の基本情報の設定の詳細については、「**個人の詳細情報を設定する**」を参照してください。

3. **[詳細]**タブをクリックします。
4. 実際のニーズに応じて、個人の ID タイプ、ID 番号、国などを含む個人の詳細情報を入力します。

連動デバイス

屋内ステーションを個人に結びつけます。



注記

アナログインドアステーションを選択した場合は、**[ドアステーション]**フィールドが表示され、アナログインドアステーションと通信するにはドアステーションを選択する必要があります。

5. 確認して個人を追加します。
 - **[OK]**をクリックして個人を追加し、個人の追加ウィンドウを閉じます。
 - **[保存して続行]**をクリックして個人を追加し、引き続き他の人を追加します。

個人に権限を割り当てる

個人を追加するときに、その個人に権限（アクセスコントロールデバイスの操作権限およびアクセスコントロール権限を含む）を割り当てることができます。

アクセスコントロールの権限を個人に割り当てる必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

注記

アクセスコントロールの権限の設定については、「**個人に権限を割り当てる**」を参照してください。

1. **[アクセスコントロール]**→**[個人およびカード]**の順にアクセスします。
2. 組織リストで組織を選択して、個人を追加します。
3. **[追加]**をクリックします。
4. 個人の基本情報を設定します。

注記

個人の基本情報の設定の詳細については、「**個人の詳細情報を設定する**」を参照してください。

5. **[権限]**タブをクリックします。
6. 選択リストの権限で、権限チェックボックスを選択し、>をクリックして選択済み権限リストに追加します。
7. 確認して個人を追加します。
 - **[OK]**をクリックして個人を追加し、個人の追加ウィンドウを閉じます。
 - **[保存して続行]**をクリックして個人を追加し、引き続き他の人を追加します。

一般カードを個人に発行する

個人を追加するときは、その人に固有のカード番号を付けた一般カードを発行できます。

個人に一般カードを発行する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. **[アクセスコントロール]**→**[個人およびカード]**の順にアクセスします。
2. 組織リストの組織で個人を追加し、**[追加]**をクリックします。

注記

最初に個人の基本情報を入力します。個人の基本情報の設定の詳細については、「**個人の詳細情報を設定する**」を参照してください。

3. **[認証情報]**→**[カード]**タブをクリックして、カード認証情報設定ページにアクセスします。
 4. **[追加]**をクリックして**[一般カード]**タブを選択し、一般カード設定ページにアクセスしま
-

す。

5. カードパラメータ

を設定します。

1) 一般カードのカードタイプを選択します。

身障者用カード

カードホルダーに対して設定された期間、ドアは開いたままになります。

ブラックリストのカード

カードスワイプアクションがアップロードされ、ドアを開けることができません。

巡回カード

検査スタッフの作業状況を確認するために、カードスワイプアクションを使用することができます。検査スタッフのアクセス許可は設定可能です。

デュレスカード

強制があった際は、デュレスカードをスワイプすることでドアが解錠されます。同時に、クライアントはデュレスイベントを報告することができます。

スーパーカード

カードは設定されたスケジュールの間、コントローラーのすべてのドアに対して有効です。

ビジターカード

ビジターカードは、訪問客用として付与されます。ビジターカードの場合、**最大スワイプ時間**を設定することができます。



このカードスキャン最大回数は、**0** から **255** までとなります。**0** に設定すると、カードのスワイプは無制限になります。

解除カード

カードはカードリーダーのブザーを止めることができます。

2) オプション：必要に応じて、備考フィールドにカードの備考情報を入力します。



備考フィールドには最大 **32** 文字まで入力できます。

3) カードパスワードフィールドに、カード自体のパスワード（4～8桁）を作成します。



カードリーダー認証モードでパスワードが必要な場合、カード所有者がカードをスワイプしてドアを出入りするときにパスワードが必要になります。詳細については、「**カードリーダーの認証モードとスケジュールを設定する**」を参照してください。

4) カードの開始期限と終了期限を設定します。

6. カードの読み取りモードを選択してカード番号を入力します。

- アクセスコントローラーリーダー

a. アクセスコントローラーのリーダーにカードを置きます。

b. カード番号を取得するために、**[読み取り]**をクリックします。

- カード登録ステーション

- a. クライアントを実行している PC に、カード登録ステーションを接続します。
- b. **[カード登録ステーションの設定]**をクリックして、カード登録ステーションのパラメータを設定します。
- c. カード登録ステーションのタイプを選択します。

 注記

現在対応しているカードリーダーのタイプは、DS-K1F100-D8、DS-K1F100-M、DS-K1F100-D8E、DS-K1F180-D8E です。

- d. シリアルポート番号、ボーレート、タイムアウト値、ブザー、またはカード番号のタイプを設定します。
- e. オプション：カードが M1 カードで、M1 カード暗号化機能を有効にする必要がある場合は、M1 カード暗号化の**[有効化]**をオンにし、**[変更]**をクリックしてセクターを選択します。

 注記

M1 カード暗号化機能は、DS-K1F100-D8、DS-K1F100-D8E、DS-K1F180-D8E に対応しています。

- f. **[保存]**をクリックします。
- g. カードをカード登録ステーションに置きます。
- h. カード番号を取得するために、**[読み取り]**をクリックします。

- 手動入力

- a. カード番号を手動で入力します。
- b. カード番号を入力するには、**[Enter]**をクリックします。

7. **[OK]**をクリックします。

カードが個人に発行されます。

8. オプション：個人に発行した後、以下のうち 1 つ以上を行うことができます。

QR コード
の生成

[QR コード]をクリックして、QR コード認証用の QR コードを生成します。

 注記

デバイスは QR コード認証機能に対応していなければなりません。QR コード認証機能の設定の詳細については、各デバイスのユーザーマニュアルを参照してください。

指紋の連
動

[指紋の連動]をクリックして、カードを個人の指紋と連動します。ドアを通過するときに、カードをスワイプする代わりに、個人がスキャナーに指を置くことができます。

顔画像
の連動

[顔画像の連動]をクリックして、カードを顔画像と連動します。ドアを通過するときに、カードをスワイプする代わりに、個人がデバイスを介して顔をスキャンさせてドアを通過することができます。

9. 確認して個人を追加します。

- **[OK]**をクリックして個人を追加し、個人の追加ウィンドウを閉じます。
- **[保存して続行]**をクリックして個人を追加し、引き続き他の人を追加します。

スマートカードを個人に発行する

スマートカードに指紋と ID カードの情報を保存できます。認証時に、デバイスのスマートカードをスワイプした後で、指紋をスキャンするか、またはデバイスの ID カードをスワイプすることができます。デバイスはスマートカード内の指紋または ID カード情報を収集されたものと比較します。スマートカードを認証に使用する場合は、指紋や ID カードの情報を事前にデバイスに保存する必要はありません。

個人にスマートカードを発行する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. **[アクセスコントロール]**→**[個人およびカード]**の順にアクセスします。
2. 組織リストの組織で個人を追加し、**[追加]**をクリックします。

注記

最初に個人の基本情報を入力します。個人の基本情報の設定の詳細については、「**個人の詳細情報を設定する**」を参照してください。

3. **[認証情報]**→**[カード]**タブをクリックして、カード認証情報設定ページにアクセスします。
4. **[追加]**をクリックして**[スマートカード]**タブを選択し、スマートカード設定ページにアクセスします。
5. 周辺機器を設定します。
 - 1) **[周辺機器の設定]**をクリックして、周辺機器の設定ページにアクセスします。
 - 2) 発行カードモードをもう一度選択します。
 - 3) カード登録ステーションを選択します。
 - 4) 選択した発行カードモードに従って周辺機器モードを選択します。
 - 5) **[OK]**をクリックします。
6. スマートカードを個人に発行します。
 - 1) スマートカードのカード種別を選択します。

身障者用カード

カードホルダーに対して設定された期間、ドアは開いたままになります。

ブラックリストのカード

カードスワイプアクションがアップロードされ、ドアを開けることができません。

巡回カード

検査スタッフの作業状況を確認するために、カードスワイプアクションを使用することができます。検査スタッフのアクセス許可は設定可能です。

デュレスカード

強制があった際は、デュレスカードをスワイプすることでドアが解錠されます。同時に、クライアントはデュレスイベントを報告することができます。

スーパーカード

カードは設定されたスケジュールの間、コントローラーのすべてのドアに対して有効です。

ビジターカード

ビジターカードは、訪問客用として付与されます。ビジターカードの場合、**最大スワイプ時間**を設定することができます。



注記

このカードスキャン最大回数は、**0** から **255** までとなります。**0** に設定すると、カードのスワイプは無制限になります。

解除カード

カードはカードリーダーのブザーを止めることができます。

- 2) **オプション**：必要に応じて、備考フィールドにカードの備考情報を入力します。
-



注記

備考フィールドには最大 **32** 文字まで入力できます。

- 3) カードパスワードフィールドに、カード自体のパスワード（**4～8** 桁）を作成します。
-



注記

カードリーダー認証モードでパスワードが必要な場合、カード所有者がカードをスワイプしてドアを出入りするときにパスワードが必要になります。詳細については、「**カードリーダーの認証モードとスケジュールを設定する**」を参照してください。

- 4) カードの開始期限と終了期限を設定します。
5) 指紋をスキャンし、指示に従って **ID** カードをスワイプします。
6) スマートカードを読み取らせます。

追加されたカード情報が下のリストに表示されます。

- 7) **[OK]**をクリックします。

カードが個人に発行されます。

QR コード の生成

[QR コード]をクリックして、QR コード認証用の QR コードを生成します。



注記

デバイスは QR コード認証機能に対応していなければなりません。QR コード認証機能の設定の詳細については、各デバイスのユーザーマニュアルを参照してください。

顔画像 の連動

[顔画像の連動]をクリックして、カードを顔画像と連動します。

ドアを通過するときに、カードをスワイプする代わりに、個人がデバイスを介して顔をスキャンさせてドアを通過することができます。

7. 確認して個人を追加します。

- **[OK]**をクリックして個人を追加し、個人の追加ウィンドウを閉じます。
- **[保存して続行]**をクリックして個人を追加し、引き続き他の人を追加します。

ローカルで個人の顔画像を収集する

個人を追加する場合、クライアントを実行している PC に接続された顔画像スキャナーを介して、その人物の顔画像を収集できます。

顔画像スキャナーを介して個人の顔画像を収集する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. **[アクセスコントロール]**→**[個人およびカード]**の順にアクセスします。
2. 組織リストの組織で個人を追加し、**[追加]**をクリックします。



注記

最初に個人の基本情報を入力します。個人の基本情報の設定の詳細については、「**個人の詳細情報を設定する**」を参照してください。

3. **[認証情報]**→**[顔画像]**タブをクリックして、カード認証情報設定ページにアクセスします。
4. 収集モードを**ローカル収集**として選択します。
5. クライアントを実行している PC へ顔画像スキャナーを接続します



注記

[初期化]をクリックして、顔画像スキャナーを初期化することができます。

6. 顔画像を収集します。
 - 1) **[収集]**をクリックして、顔画像をキャプチャーします。
 - 2) オプション: **[再収集]**をクリックして、画像を再度キャプチャーします。
 - 3) オプション: **[削除]**をクリックして、キャプチャーした画像を削除します。
7. 確認して個人を追加します。
 - **[OK]**をクリックして個人を追加し、個人の追加ウィンドウを閉じます。
 - **[保存して続行]**をクリックして個人を追加し、引き続き他の人を追加します。

リモートで個人の顔画像を収集する

個人を追加する際、顔認識機能に対応しているアクセスコントロール端末を介してその人物の顔画像を収集できます。

アクセスコントロール端末を介して個人の顔画像を収集する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. **[アクセスコントロール]**→**[個人およびカード]**の順にアクセスします。
-

2. 組織リストの組織で個人を追加し、**[追加]**をクリックします。

 注記

最初に個人の基本情報を入力します。個人の基本情報の設定の詳細については、「**個人の詳細情報を設定する**」を参照してください。

3. **[認証情報]**→**[顔画像]**タブをクリックして、カード認証情報設定ページにアクセスします。
4. 収集モードをリモート**収集**として選択します。
5. **[デバイスの選択]**をクリックして、顔認識機能に対応しているアクセスコントロール端末を選択します。
6. 顔画像を収集します。
 - 1) **[収集]**をクリックして、顔画像をキャプチャーします。
 - 2) オプション：**[再収集]**をクリックして、画像を再度キャプチャーします。
 - 3) オプション：**[削除]**をクリックして、キャプチャーした画像を削除します。
7. 確認して個人を追加します。
 - **[OK]**をクリックして個人を追加し、個人の追加ウィンドウを閉じます。
 - **[保存して続行]**をクリックして個人を追加し、引き続き他の人を追加します。

ローカルで個人の指紋を収集する

個人を追加する場合、クライアントを実行している PC に接続された指紋認証装置を介して、その人物の指紋情報を収集できます。

クライアントを実行している PC に接続されている指紋認証装置を介して個人の指紋を収集する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. **[アクセスコントロール]**→**[個人およびカード]**の順にアクセスします。
2. 組織リストの組織で個人を追加し、**[追加]**をクリックします。

 注記

最初に個人の基本情報を入力します。個人の基本情報の設定の詳細については、「**個人の詳細情報を設定する**」を参照してください。

3. **[認証情報]**→**[指紋]**タブをクリックして、カード認証情報設定ページにアクセスします。
4. 収集モードをローカル**収集**として選択します。
5. 指紋認証装置を PC に接続し、そのパラメータを設定します。
 - 1) **[指紋認証装置の設定]**をクリックして、指紋認証装置の設定ウィンドウを開きます。
 - 2) デバイスタイプを選択します。

 注記

現在対応している指紋認証装置のタイプには、DS-K1F800-F、DS-K1F300-F、DS-K1F810-F、DS-K1F820-F があります。

- 3) オプション：指紋認証装置タイプ DS-K1F800-F の場合、指紋認証装置のシリアルポート番号、ボーレート、時間外勤務パラメータを設定できます。

 注記

- ・ シリアルポートナンバーは、コンピューターのシリアルポートナンバーに対応している必要があります。
 - ・ ボーレートは、外部の指紋カードリーダーに従って設定する必要があります。デフォルト値は 19200 です。
 - ・ **[タイムアウト計数]**フィールドは、有効な指紋収集時間を表します。ユーザーが指紋を入力しない場合、または指紋の入力を誤った場合は、デバイスは指紋の収集が終了したことを示します。
-

4) **[保存]**をクリックします。

6. 指紋を収集します。

1) **[開始]**をクリックします。

2) 手の画像の指紋を選択して収集を開始します。

3) 指紋を収集するため、該当する指を上げて指紋スキャナーの上に 2 回置きます。

7. 確認して個人を追加します。

- **[OK]**をクリックして個人を追加し、個人の追加ウィンドウを閉じます。

- **[保存して続行]**をクリックして個人を追加し、引き続き他の人を追加します。

リモートで個人の指紋を収集する

個人を追加する際、リモートアクセスコントロールデバイスの指紋モジュールを介して、その人の指紋情報を収集できます。

アクセスコントロールデバイスの指紋モジュールを介して、個人の指紋を収集する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. **[アクセスコントロール]**→**[個人およびカード]**の順にアクセスします。

2. 組織リストの組織で個人を追加し、**[追加]**をクリックします。

 注記

最初に個人の基本情報を入力します。個人の基本情報の設定の詳細については、「**個人の詳細情報を設定する**」を参照してください。

3. **[認証情報]**→**[指紋]**タブをクリックして、カード認証情報設定ページにアクセスします。

4. 収集モードを**リモート収集**として選択します。

5. **[デバイスの選択]**をクリックして、指紋を収集するためのアクセスコントロールデバイスを選択します。

 注記

この機能はデバイスに対応していなければなりません。

6. 指紋を収集します。
 - 1) 手の画像の指紋を選択して収集を開始します。
 - 2) 指紋を収集するため、該当する指を上げてデバイスの指紋モジュールの上に置きます。
7. 確認して個人を追加します。
 - **[OK]**をクリックして個人を追加し、個人の追加ウィンドウを閉じます。
 - **[保存して続行]**をクリックして個人を追加し、引き続き他の人を追加します。

個人の出勤ルールを設定する

個人を追加する際、アプリケーションシナリオが非居住者モードで、勤怠管理に対して個人を加える場合は、個人の出勤ルールを設定することができます。

個人を加える際に個人の出勤ルールを設定する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

注記

出勤の設定およびアプリケーションについての詳細については、「**勤怠管理**」を参照してください。

1. **[アクセスコントロール]**→**[個人およびカード]**の順にアクセスします。
2. 組織リストの組織で個人を追加し、**[追加]**をクリックします。
3. 個人の基本情報を設定します。

注記

個人の基本情報の設定の詳細については、「**個人の詳細情報を設定する**」を参照してください。

4. **[出勤ルール]**タブをクリックします。

注記

このタブページは、ソフトウェアの初回実行時にアプリケーションシーンとして、**[非居住者]**モードを選択したときに表示されます。詳細については、「**アプリケーションシナリオの選択**」を参照してください。

5. 個人が勤怠管理に加わっている場合、**[勤怠管理]**をチェックして、その人物に対してこの機能を有効にします。

個人のカードのスワイプ記録が記録され、勤怠管理用に分析されます。
6. 個人用の出勤ルールを設定します。

注記

勤怠管理の詳細については、**[その他]**をクリックして勤怠管理モジュールにアクセスします。

7. 確認して個人を追加します。

- **[OK]**をクリックして個人を追加し、個人の追加ウィンドウを閉じます。
- **[保存して続行]**をクリックして個人を追加し、引き続き他の人を追加します。

16.4.2 個人情報を一括でインポートおよびエクスポートする

複数人の情報と画像を一括してクライアントソフトウェアにインポートすることができます。その間、個人情報と画像をエクスポートしてお使いの PC に保存することもできます。

個人情報をインポートする

ローカル PC から Excel ファイルをインポートすることで、複数人の情報（識別情報、指紋データ、指紋の連動先カード番号）をクライアントソフトウェアに一括してインポートすることができます。

個人情報を一括してクライアントにインポートする必要がある場合は、この作業を実行をしてください。

手順

1. **[アクセスコントロール]**→**[個人およびカード]**の順にアクセスします。
2. **[個人のインポート]**をクリックして、インポートするコンテンツとして**[個人情報]**を選択します。
3. ポップアップウィンドウで、**[個人インポート用テンプレートのダウンロード]**をクリックして最初にテンプレートをダウンロードします。
4. ダウンロードしたテンプレートに個人情報を入力します。

f1 から f10

個人の指紋データ。

f1 カードから f10 カード

指紋の連動先のカード番号。カードに連動していない場合は、空のままにします。



注記

カードが複数ある場合は、カード番号をセミコロンで区切ります。

5. 個人情報を含む Excel ファイルを選択します。

6. **[OK]**をクリックしてインポートを開始します。
-



注記

個人番号がクライアントソフトウェアのデータベースにすでに存在する場合、インポート後に自動的に個人情報が置き換えられます。

個人画像をインポートする

個人を追加した後、画像付きの ZIP ファイルをクライアントソフトウェアにインポートすることで、複数人の画像を一括してインポートすることができます。

個人の画像を一括してクライアントにインポートする必要がある場合は、この作業を実行をしてください。

手順

1. 個人名に基づいて個人の画像名を付けます。



画像は JPG 形式で、200 KB 未満でなければなりません。

2. 個人の画像が含まれているファイルを ZIP 形式に圧縮します。
3. **[アクセスコントロール]**→**[個人およびカード]**モジュールにアクセスします。
4. **[個人のインポート]**をクリックして、インポートするコンテンツとして**[個人の画像]**を選択します。
5. ポップアップウィンドウで、ZIP ファイルを選択します。
6. **[OK]**をクリックしてインポートを開始します。



デフォルトでは、インポートされた個人の画像は、その人物の最初のカードに連動されています。インポートの進行状況と結果が表示されます。

個人情報エクスポートする

追加した個人情報を Excel ファイルでローカル PC にエクスポートできます。追加した個人情報を一括してエクスポートする必要がある場合は、この作業を実行をしてください。

手順

1. **[アクセスコントロール]**→**[個人およびカード]**モジュールにアクセスします。
2. **[個人のエクスポート]**をクリックして、エクスポートするコンテンツとして**[個人情報]**を選択します。
3. エクスポートした Excel ファイルを保存するためのパスを選択します。
4. エクスポートする個人情報の項目を選択してください。
5. **[OK]**をクリックしてエクスポートを開始します。

f1 から f10

個人の指紋データ。

f1 カードから f10 カード

指紋の連動先のカード番号。カードに連動していない場合は、空のままにします。

個人画像をエクスポートする

追加した個人の画像をエクスポートして、お使いの PC に保存することができます。追加した個人の画像をエクスポートしたい場合は、この作業を実行をしてください。

手順

1. **[アクセスコントロール]**→**[個人およびカード]**モジュールにアクセスします。
2. **[個人のエクスポート]**をクリックし、エクスポートするコンテンツとして**[個人の画像]**を選択します。
3. エクスポート用の ZIP ファイルを保存するためのパスを選択します。
4. **[OK]**をクリックしてエクスポートを開始します。



注記

- ・ エクスポート用のファイルは ZIP 形式です。
 - ・ 個人の画像は、個人名に基づいて命名されています。
-

16.4.3 アクセスコントロールデバイスから個人情報を取得する

追加されたアクセスコントロールデバイスが個人情報（個人の詳細、指紋、発行されたカード情報を含む）で設定されている場合、デバイスから個人情報を取得してクライアントにインポートし、さらなる操作ができます。

アクセスコントロールデバイスから設定済みの個人情報を取得する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順



注記

- ・ この機能は、デバイス追加時の接続方法が TCP/IP のデバイスでのみ対応します。
 - ・ デバイスに保存されている個人名が空の場合、その人物の名前はクライアントにインポートした後に発行されたカード番号で割り当てられます。
 - ・ 個人の性別はデフォルトで**男性**になります。
-

1. **[アクセスコントロール]**→**[個人およびカード]**の順にアクセスします。
2. 個人をインポートする組織を選択します。
3. **[個人を取得する]**をクリックして、デバイスの選択ウィンドウを開きます。
追加されたアクセスコントロールデバイスが表示されます。
4. 個人情報を取得し始めます。
 - デバイスを選択し、**[OK]**をクリックしてデバイスから個人情報を取得します。
 - デバイス名をダブルクリックして、個人情報の取得を開始します。個人情報、個人の指紋情報（設定されている場合）、連動済みカード（設定されている場合）を含む個人情報が、選択した組織にインポートされます。

16.4.4 個人に複数のカードをまとめて発行する

1 人に対して複数のカードをまとめて発行できます。

1 人に対して複数のカードを発行する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. [アクセスコントロール]→[個人およびカード]の順にアクセスします。

2. [カードの一括発行]をクリックします。

「カードが発行されていない人」というリスト内に発行済カードのない、追加済の人員がすべて表示されます。

3. カードのパラメータを設定します。

1) 実際のニーズに合わせてカードタイプを選択します。



カードタイプの詳細については、「**一般カードを個人に発行する**」を参照してください。

2) カードパスワードフィールドに、カード自体のパスワード（4～8 桁）を作成します。



カードリーダー認証モードでパスワードが必要な場合、カード所有者がカードをスワイプしてドアを出入りするときにパスワードが必要になります。詳細については、「**カードリーダーの認証モードとスケジュールを設定する**」を参照してください。

3) 各人に対して発行されたカードの数量を入力します。

例

カードの数量が 3 の場合、1 人につき 3 つのカード番号を読み取るか、入力することができます。

4) カードの開始期限と終了期限を設定します。

4. 左側のカード未発行者リストで、カードを発行する個人を選択します。

5. カードの読み取りモードを選択してカード番号を入力します。

アクセスコントローラーリーダー

カードをアクセスコントロールのリーダーに置き、**[読み取り]**をクリックしてカード番号を取得します。

カード登録ステーション

カードをカード登録ステーションに置き、**[読み取り]**をクリックしてカード番号を取得します。



カード登録ステーションは、クライアントソフトウェアを起動するコンピューターと接続する必要があります。**[カード登録ステーションの設定]**をクリックして、カード登録ステーションのパラメータを設定することができます。詳細については、

「一般カードを個人に発行する」を参照してください。

手動入力

カード番号を手動で入力し、**[Enter]**をクリックしてカード番号を入力します。
カードを個人に発行した後、本人とカードの情報がカード発行者リストに表示されます。

6. **[OK]**をクリックします。

16.4.5 個人情報を検索する

個人情報をクライアントに追加した後、検索条件を設定してその人物を検索できます。
これは個人を検索するための通常の検索と高度な検索を提供します。

通常の検索

個人情報をクライアントに追加した後、個人名またはカード番号で個人を検索することができます。

個人情報を個人名またはカード番号で検索する場合は、この作業を実行してください。

手順

1. **[アクセスコントロール]**→**[個人およびカード]**モジュールにアクセスします。
2. 検索条件を設定します。
 - 個人を名前で検索するには、検索フィールドにその個人名のキーワードを入力します。
 - カード番号で個人を検索するには、検索フィールドにカード番号のキーワードを手動で入力するか、または**[読み取り]**をクリックしてカード登録ステーションで特定のカードからカード番号を読み取ります。

注記

カード登録ステーションで読み取る前に、最初にクライアントを実行している PC にカード登録ステーションを接続する必要があります。**[読み取り]**→**[カード登録ステーションの設定]**の順をクリックして、そのパラメータを設定できます。詳細については、「**一般カードを個人に発行する**」を参照してください。

3. **[検索]**をクリックします。

検索結果が個人リストに表示されます。

詳細検索

クライアントに個人情報を追加した後、カード番号、個人名、個人番号、性別など、より正確な検索条件を設定することで対象の個人を検索できます。

より正確な検索条件で対象の個人を検索する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. **[アクセスコントロール]**→**[個人およびカード]**モジュールにアクセスします。
2. **[高度な検索]**をクリックして検索条件を表示します。
3. 検索条件を設定します。

カード番号

カード番号のキーワードを入力するか、または**[読み取り]**をクリックし、カード登録ステーションで特定のカードからカード番号を読み取ります。



注記

カード登録ステーションで読み取る前に、最初にクライアントを実行している PC にカード登録ステーションを接続する必要があります。**[読み取り]**→**[カード登録ステーションの設定]**の順にクリックして、そのパラメータを設定できます。詳細については、「**一般カードを個人に発行する**」を参照してください。

個人番号

個人番号のキーワードを入力します。

個人名

個人名のキーワードを入力します。



注記

個人名は大文字と小文字で区別されます。

4. **[検索]**をクリックします。
検索結果が個人リストに表示されます。
5. オプション：**[リセット]**をクリックして検索条件を消去します。

16.4.6 カード紛失をレポートする

個人が自分のカードを紛失した場合、カードの紛失をレポートして、関連するアクセスコントロール権限を削除することができます。

カードを紛失した個人に対してカードの紛失をレポートする必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. **[アクセスコントロール]**→**[個人およびカード]**モジュールにアクセスします。
2. オプション：カードの紛失をレポートしたい個人を検索します。



注記

個人の検索については、「**個人情報を検索する**」を参照してください。

3. 個人を選択し、**[変更]**をクリックして個人の編集ウィンドウを開きます。
 4. **[認証情報]**→**[カード]**タブをクリックして、個人のカード情報を表示します。
 5. 紛失したカードを選択して、**[カード紛失のレポート]**をクリックします。
-

カードのステータスが紛失に変わります。

6. オプション：紛失したカードが見つかった場合は、カードを選択し、**[カード紛失のキャンセル]**をクリックして紛失をキャンセルできます。

カードのステータスが通常に変わります。

7. オプション：個人にアクセス権限を割り当てた場合、有効にするためにその権限をデバイスに再度適用するように通知するウィンドウが提示します。**[今すぐ適用]**または**[後で適用]**をクリックして、権限の変更をデバイスに適用できます。

16.5 スケジュールとテンプレートを設定する

週間スケジュールと休日スケジュールを含むテンプレートを設定することができます。テンプレートを設定した後、権限を設定するときにアクセスコントロールの権限に設定済みのテンプレートを採用して、テンプレートの期間中にアクセスコントロールの権限を有効にさせることができます。

注記

アクセスコントロールの権限の設定については、「**個人に権限を割り当てる**」を参照してください。

16.5.1 週間スケジュールを追加する

カスタムの週間スケジュールを追加し、設定した週間スケジュールでアクセスコントロールの権限を有効または無効にすることができます。

カスタム週間スケジュールを追加する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. **[アクセスコントロール]**→**[スケジュールとテンプレート]**→**[週間スケジュール]**の順にクリックして、週間スケジュールの管理ページにアクセスします。

注記

デフォルトの週間スケジュールは2つあります。週全体のスケジュールと空白のスケジュールがあり、それらを編集または削除することはできません。

週全体のスケジュール

カードの読み込みが週の各曜日に対し有効です。

空のスケジュール

カードのスワイプは曜日ごとに無効です。

2. 週間スケジュールを追加します。
 - 1) **[週間スケジュールを追加する]**をクリックして、週間スケジュールの追加ダイアログを開きます。
 - 2) **[週間スケジュール名]**フィールドに希望する名前を入力します。

- 3) **[OK]**をクリックして、週間スケジュールを追加します。
3. 左側のリストに追加された週間スケジュールをクリックして、右側にそのプロパティを表示します。
4. 曜日を選択し、タイムラインバーに期間を描画します。



注記

週間スケジュールでは、1日に最大8つの期間を設定できます。

5. オプション：描画時間を編集するには、次のいずれかの操作を実行します。
- カーソルを期間に移動し、これがに変わったら、タイムラインバーの期間を目的の位置までドラッグします。
 - 期間をクリックし、表示されたダイアログで開始/終了時刻を直接編集します。
 - カーソルを期間の終わりに移動し、これがに変わったら、ドラッグして期間を長くしたり短くしたりします。
6. オプション：タイムスケジュールを設定した後、次のうち1つ以上を実行できます。
- | | |
|-------------|--|
| 日課スケジュールの削除 | 日を選択し、 [期間の削除] をクリックして選択した日のスケジュールを削除します。 |
| 週間スケジュールの消去 | 週全体のスケジュールを削除するには、 [消去] をクリックします。 |
| 週全体にコピー | [週にコピー] をクリックして、この日のスケジュールを週全体にコピーします。 |
7. **[保存]**をクリックして設定を保存し、週間スケジュールの追加を終了します。

16.5.2 休日スケジュールを追加する

休日のスケジュールを作成し、開始日、終了日、休日の期間など、休日スケジュールに日ごとに設定できます。

休日を事前定義するために休日スケジュールを追加する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. **[アクセスコントロール]**→**[スケジュールとテンプレート]**→**[週間スケジュール]**の順にクリックして、休日グループの管理ページにアクセスします。
2. 休日グループを追加します。
 - 1) 左側の**[休日グループを追加する]**をクリックして、休日グループの追加ウィンドウを開きます。
 - 2) 休日グループに名前を付けます。
 - 3) **[OK]**をクリックします。
3. 休日グループに休日期間を追加し、休日期間を設定します。

 注記

1 つの休日グループに最大 16 日の休日期間を追加できます。

- 1) **[休日を追加する]**をクリックします。
 - 2) ドラッグして期間を描画します。つまり、その期間内に、設定された権限が有効になります。
-

 注記

1 つの休日期間に最大 8 つの期間を設定できます。

- 3) **オプション**：カーソルが  に変わったら、編集したばかりの時間バーを移動できます。
また、画面に表示されているタイムポイントを編集して正確な日時の期間を設定することも可能です。
 - 4) **オプション**：カーソルが  に変わったら、選択した時間を延長したり短縮したりできます。
4. **[保存]**をクリックします。

16.5.3 テンプレートを追加する

週間スケジュールと休日グループの設定後、週間スケジュールと休日のグループスケジュールを含むテンプレートを追加して設定することができます。

テンプレートを追加して設定する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. **[アクセスコントロール]→[スケジュールとテンプレート]→[テンプレート]**の順にクリックして、テンプレート管理のページにアクセスします。
-

 注記

デフォルトのテンプレートは 2 つあります。週全体のテンプレートと空白のテンプレートがあり、それらを編集または削除することはできません。

週全体のテンプレート

カードの読み込みがその週の各曜日に対し有効であり、休日グループスケジュールはありません。

空白のテンプレート

カードのスワイプは曜日ごとに無効であり、休日のグループスケジュールはありません。

2. テンプレートを追加します。
 - 1) **[テンプレートを追加する]**をクリックして、デバイス追加ウィンドウを開きます。
 - 2) **[テンプレート名]**フィールドに名前を入力します。
 - 3) **[OK]**をクリックして、テンプレートを追加します。
 3. 左側のリストに追加されたテンプレートをクリックして、右側にそのプロパティを表示
-

します。

4. テンプレートに適用する週間スケジュールを追加します。
- 1) 右側の[週間スケジュール]タブをクリックします。
 - 2) 週間スケジュールフィールドで、設定した週間スケジュールを選択します。
 - 3) オプション：[週間スケジュールを追加する]をクリックして、新しい週間スケジュールを追加します。

 注記

週間スケジュール追加に関する詳細については、「週間スケジュールを追加する」を参照してください。

5. テンプレートに適用する休日グループのスケジュールを追加します。

 注記

1つのテンプレートに最大4つの休日グループを追加できます。

- 1) [休日グループ]タブをクリックします。
- 2) リストから休日グループを選択します。
- 3) オプション：[休日グループを追加する]をクリックして、新しい休日グループのスケジュールを追加します。

 注記

休日グループ追加に関する詳細については、「休日スケジュールを追加する」を参照してください。

- 4) [追加]をクリックして、選択した休日グループのスケジュールを右側のリストに追加します。
 - 5) オプション：右側のリストで選択した休日グループを選択し、[削除]をクリックして選択した休日グループを削除します。
6. [保存]をクリックして設定を保存し、テンプレートの追加を終了します。

16.6 権限を管理する

個人を追加して、その人物の認証を設定した後、アクセス権限を作成して、どの人物がどのドアにアクセスできるのかを定義できます。

16.6.1 個人に権限を割り当てる

割り当てられた権限に従って、個人がアクセスコントロールポイント（ドア）に出入りできるように、個人に権限を割り当てることができます。

アクセス権限を個人に割り当てる必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

- 1つのデバイスのアクセスコントロールポイント1か所に対し、最大4個の許可を追加できます。

- 総計で最大 128 個の許可が追加できます。
 - 権限設定を変更した場合、デバイスに権限を再適用して有効にする必要があります。権限の変更には、スケジュールとテンプレートの変更、権限の設定、個人の権限の設定、関連人物の詳細（カード番号、指紋、顔画像、カード番号と指紋のリンケージ、カードのパスワード、カードの有効期限など）の変更が含まれます。
1. **[アクセスコントロール]**→**[権限]**の順にクリックして、権限管理インターフェイスにアクセスします。
 2. **[追加]**をクリックして、権限追加ウィンドウを開きます。
 3. **[権限名]**テキストフィールドに、必要に応じて権限の名前を作成します。
 4. 権限のスケジュールテンプレートを選択します。

 注記

許可設定を行う前にテンプレートの構成を行う必要があります。**[テンプレートを追加する]**をクリックして、テンプレートを追加します。詳細については、「**スケジュールとテンプレートを設定する**」参照してください。

5. 個人リストで権限を割り当てる人物を選択し、>をクリックして選択済み個人リストに追加します。
6. アクセスコントロールポイント/デバイスリストで、選択した人物がアクセスするためのドアまたはドアステーションを選択し、>をクリックして選択したリストに追加します。
7. **[OK]**をクリックします。
選択された人物は、連動したカードまたは指紋を使って選択したドア/ドアステーションに出入りする権限を得ます。
8. アクセス権限の追加後、それらをアクセスコントロールデバイスに適用して有効にする必要があります。
 - 1) 許可を選択し、アクセスコントロールデバイスに適用させます。
複数の権限を選択するには、**Ctrl** または **Shift** キーを押しながら権限を選択します。
 - 2) **[すべて適用]**をクリックして、選択したすべての権限をアクセスコントロールデバイスまたはドアステーションに適用します。

 注記

[変更の適用]をクリックして、選択した権限の変更部分をデバイスに適用することもできます。

16.6.2 割り当てられた権限を検索する

アクセス権限の追加後、検索条件を設定して既存の権限を検索することができます。

割り当てられたアクセス権限を検索する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. **[アクセスコントロール]**→**[権限]**の順にクリックして、権限管理インターフェイスにアクセスします。
2. **[高度な検索]**をクリックして、検索ウィンドウを開きます。
3. 検索条件を設定します。

個人番号

個人番号のキーワードを入力します。

個人名

個人名のキーワードを入力します。



注記

個人名は大文字と小文字で区別されます。

カード番号

カード番号のキーワードを入力します。

権限名

権限名は大文字と小文字で区別されます。

4. **[検索]**をクリックします。
検索結果が下に表示されます。
5. **[リセット]**をクリックして検索条件を消去します。

16.7 高度な機能を設定する

個人、テンプレート、アクセス権限の設定後、アクセスコントロールパラメータ、認証パスワード、ファーストカードでドアを開く、アンチパスバックなど、アクセスコントロールアプリケーションの高度な機能を設定することができます。



注記

この高度な機能はデバイスに対応していなければなりません。

16.7.1 アクセスコントロールパラメータを設定する

アクセスコントロールデバイスの追加後、アクセスコントロールポイント（ドアまたはフロア）、アラーム入力、警報出力、カードリーダーのパラメータを設定することができます。

ドア（フロア）のパラメータを設定する

アクセスコントロールデバイスの追加後、そのアクセスコントロールポイント（ドアまたはフロア）のパラメータを設定することができます。

アクセスコントロールデバイスのドア（フロア）のパラメータを設定したい場合は、この作業を実行してください。

手順

1. **[アクセスコントロール]→[高度な機能]→[アクセスコントロールパラメータ]**をクリックして、パラメータ設定のページにアクセスします。
2. アクセスコントローラーを選択して  をクリックすると、選択したアクセスコントロールデバイスのドアまたはフロアが表示されます。
3. 右側にパラメータを表示するには、ドアまたはフロアを選択します。
4. ドアまたはフロアのパラメータを編集します。

ドア施錠時間

通常のカードとリレーアクションをスワイプした後、ドアをロックするためのタイマーが作動し始めます。

身障者のカードによるドア開放時間

身障者がカードをスワイプした後、適切な遅延によりドアの磁気を有効にすることができます。

ドア開口タイムアウトアラーム

設定した時間内にドアが閉じていない場合、アラームがトリガーすることがあります。

ドアが閉じているときにドアのロックを有効にする

ドアロック時間に達していなくても、ドアを閉じるとドアをロックできます。

デュレスコード

強制があるときに、デュレスコードを入力してドアを開くことができます。同時に、クライアントはデュレスイベントを報告することができます。

スーパーパスワード

スーパーパスワードを入力することで、特定の人物がドアを開くことができます。

解除コード

カードリーダーのブザーを停止させるために使用できる解除コードを作成します（キーパッドに解除コードを入力）。

エレベーター制御の遅延時間

エレベーターを使用している訪問者の期間。エレベーターコントローラーでのみ利用可能です。



注記

- ・デュレスコード、スーパーコードおよび解除コードが同じであってははいけません。
 - ・デュレスコード、スーパーパスワードおよび解除コードは認証パスワードと異なっていなければなりません。
 - ・デュレスコード、スーパーパスワードおよび解除コードは 4～8 桁でなければなりません。
-

5. **[保存]**をクリックします。
6. オプション：**[コピー先]**をクリックしてドア/フロアを選択し、パラメータを他のドア/フロアにコピーします。

**注記**

ドアまたはフロアのステータス期間の設定は、選択されたドア/フロアにもコピーされます。

ドアステータスの期間スケジュールを設定する

アクセスコントロールデバイスのアクセスコントロールポイント（ドア）の週単位のスケジュールを開いたままにするか、閉じたままにするかを設定できます。

ドアステータスの期間スケジュールを設定する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. **[アクセスコントロール]**→**[高度な機能]**→**[アクセスコントロールパラメータ]**をクリックして、パラメータ設定のページにアクセスします。
2. 右側にパラメータを表示するには、ドアを選択します。
3. **[ステータス期間の設定]**をクリックして、ステータス期間のウィンドウを開きます。
4. ドアステータスブラシを開いたままにするまたは閉じたままにするとして選択します。
 - 開いたままにする：ドアは設定された期間中、ロック解除されたままになります。ブラシはとしてマークされています。
 - 閉じたままにする：ドアは設定された期間中、ロックされたままになります。ブラシはとしてマークされています。
5. タイムラインをドラッグしてスケジュール上にカラーバーを描画し、期間を設定します。
6. オプション：スケジュール時間バーを選択し、**[週全体にコピー]**をクリックして、時間バーの設定をその週の他の日にコピーします。
7. **[保存]**をクリックして、ステータス期間スケジュールを保存します。
8. **[保存]**をクリックして、ドアのパラメータを保存します。

エレベーターステータスの期間スケジュールを設定する

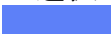
特定のフロアへのエレベーターの権限に関する週の期間スケジュールを解放または無効に設定できます。

エレベーターステータスの期間スケジュールを設定する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. **[アクセスコントロール]**→**[高度な機能]**→**[アクセスコントロールパラメータ]**をクリックして、パラメータ

設定のページにアクセスします。

2. 右側にパラメータを表示するには、フロアを選択します。
3. **[ステータス期間の設定]**をクリックして、ステータス期間のウィンドウを開きます。
4. ステータスブラシを、**開放**または**無効**として選択します。
 - **開放**：エレベーターで選択したフロアのボタンは、設定した期間中ずっと有効です。ブラシはとしてマークされています。
 - **無効**：エレベーターで選択したフロアのボタンは無効になり、設定された期間中は選択したフロアに移動することができません。ブラシはとしてマークされています。
5. タイムラインをドラッグしてスケジュール上にカラーバーを描画し、期間を設定します。
6. **オプション**：スケジュール時間バーを選択し、**[週全体にコピー]**をクリックして、時間バーの設定をその週の他の日にコピーします。
7. **[保存]**をクリックして、ステータス期間スケジュールを保存します。
8. **[保存]**をクリックして、フロアのパラメータを保存します。

カードリーダーのパラメータを設定する

アクセスコントロールデバイスの追加後、そのカードリーダーのパラメータを設定することができます。アクセスコントロールのカードリーダーのパラメータを設定したい場合は、この作業を実行してください。
表示されます。

手順

1. **[アクセスコントロール]→[高度な機能]→[アクセスコントロールパラメータ]**をクリックして、パラメータ設定のページにアクセスします。
2. アクセスコントローラーを選択してをクリックすると、選択したアクセスコントロールコントローラーのカードリーダーが表示されます。
3. 右側にパラメータを表示するには、カードリーダーを選択します。
4. カードリーダーのパラメータを編集します。

OK LED 極性/エラーLED 極性/ブザー極性

カードリーダーのパラメータに従って、メインボードの **OK LED 極性/エラーLED 極性/ブザーLED 極性**を設定します。通常はデフォルト設定を使用します。

最小カードスワイプ間隔

同じカードのカード読み取りの間隔が設定された値未満の場合、そのカードは無効となります。これは **0～255** まで設定できます。

パスワード入力時の最大間隔

カードリーダーでパスワードを入力する際、**2**桁の数字を押す間隔が設定値より大きいと、それまでに押した数字は自動的に消去されます。

カード読み取りの失敗した制限を有効にする

カードの読み取り試行回数が設定値に達すると、アラームを報告するようにします。

カードスワイプ失敗の最大回数

カード読み取りの最大失敗回数を設定します。

カードリーダーがオフラインのときに検出

アクセスコントロールデバイスが設定時間以上カードリーダーと接続できない場合、カードリーダーは自動でオフラインになります。

ブザー時間

カードリーダーのブザー時間を設定します。利用可能な時間範囲は 0～5999 秒です。0 は連続ブザーを示します。

カードリーダーのタイプ/カードリーダーの説明

カードリーダーのタイプと説明を取得します。これらは読み取り専用です。

指紋認識レベル

ドロップダウンリストから指紋認識レベルを選択します。デフォルトでは、レベルは低です。

顔の認識間隔

認証時の 2 つの連続した顔の認識間の時間間隔。デフォルトでは、2 秒となっています。

ライブ顔検出

ライブ顔検出機能を有効または無効にします。機能を有効にすると、デバイスはその人物が生体であるかどうかを認識することができます。

1:1 セキュリティレベル

1:1 照合モードで認証する場合は、マッチングセキュリティレベルを設定します。

1:N セキュリティレベル

1:N 照合モードで認証する場合は、マッチングセキュリティレベルを設定します。

5. [保存]をクリックします。

6. オプション: [コピー先]をクリックしてカードリーダーを選択し、パラメータを他のカードリーダーにコピーします。

ゾーンのパラメータを設定する

アクセスコントロールデバイスの追加後、そのゾーンのパラメータを設定することができます。アクセスコントロールデバイスのゾーンパラメータを設定する必要がある場合は、この作業を実行してください。手順

注記

ゾーンが起動している場合、そのパラメータを編集することはできません。まずそれを解除してください。

-
1. [アクセスコントロール]→[高度な機能]→[アクセスコントロールパラメータ]の順にクリックして、パラメータ設定のページにアクセスします。
 2. デバイスを選択して  をクリックすると、選択したアクセスコントロールデバイスのゾーンが表示されます。
-

3. ゾーンのパラメータを設定します。

連動リレー

ゾーンイベントがトリガーしたときにトリガーする警報出力。

4. **[保存]**をクリックします。
5. **オプション**：右上にあるスイッチをクリックして、ゾーンを起動または解除します。

警報出力のパラメータを設定する

アクセスコントロールデバイスを追加した後、デバイスが警報出力にリンクしている場合は、パラメータを設定できます。

アクセスコントロールデバイスのアラーム出力のパラメータを設定する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. **[アクセスコントロール]**→**[高度な機能]**→**[アクセスコントロールパラメータ]**をクリックして、パラメータ設定のページにアクセスします。
2. デバイスを選択して  をクリックすると、選択したアクセスコントロールデバイスの警報出力が表示されます。
3. 警報出力パラメータを設定します。

出力遅延

警報出力がトリガーするまでの遅延時間。

4. **[保存]**をクリックします。
5. **オプション**：警報出力をトリガーさせるには、右上のスイッチを**[オン]**に設定します。

レーンコントローラーのパラメータを設定する

レーンコントローラーをクライアントに追加した後、レーンを通過するためのパラメータを設定できます。

レーンコントローラーのパラメータを設定するには、この作業を実行してください。

手順

1. **[アクセスコントロール]**→**[高度な機能]**→**[アクセスコントロールパラメータ]**をクリックして、パラメータ設定のページにアクセスします。
2. 左側のデバイスリストで、 をクリックしてドアを広げ、レーンコントローラーを選択します。
右側のレーンコントローラーのパラメータを編集できます。
3. パラメータを編集します。

通過モード

デバイスのバリアステータスを制御するコントローラーを選択します。

- ・ **[レーンコントローラーの DIP 設定に従う]**を選択すると、デバイスはレーンコントローラーの DIP 設定に従ってバリアを制御します。ソフトウェアの設定は無効になります。
- ・ **[メインコントローラーの設定に従う]**を選択すると、デバイスはソフトウェアの設定に従ってバリアを制御します。レーンコントローラーの DIP 設定は無効になります。

フリーパス認証を有効にする

チェックボックスを選択した場合、入口と出口の両方のバリアモードが開いたままである場合、歩行者はレーンを通過するたびに認証を受ける必要があります。そうでない場合は、アラームがトリガーされます。

ドアの開/閉スピード

バリアの開閉スピードを設定します。1 から 10 まで選択できます。値が大きいほど、スピードが速くなります。



推奨値は 6 です。

アラーム音声プロンプトの継続時間

アラーム音声プロンプトの再生時間を設定します。



0 はアラームが終了するまでアラーム音声再生が再生されることを示します。

温度単位

デバイス状態に表示されている温度単位を選択します。

4. [保存]をクリックします。

16.7.2 カードリーダーの認証モードとスケジュールを設定する

実際のニーズに応じて、アクセスコントロールデバイスのカードリーダーに通過ルールを設定できます。

カードリーダーの認証モードとスケジュールを設定する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. **[アクセスコントロール]→[高度な機能]→[カードリーダーの認証]**の順にクリックして、カードリーダーの認証設定のページにアクセスします。
2. 左側のカードリーダーを選択して、設定します。
3. カードリーダーの認証モードを設定します。
 - 1) **[設定]**をクリックします。

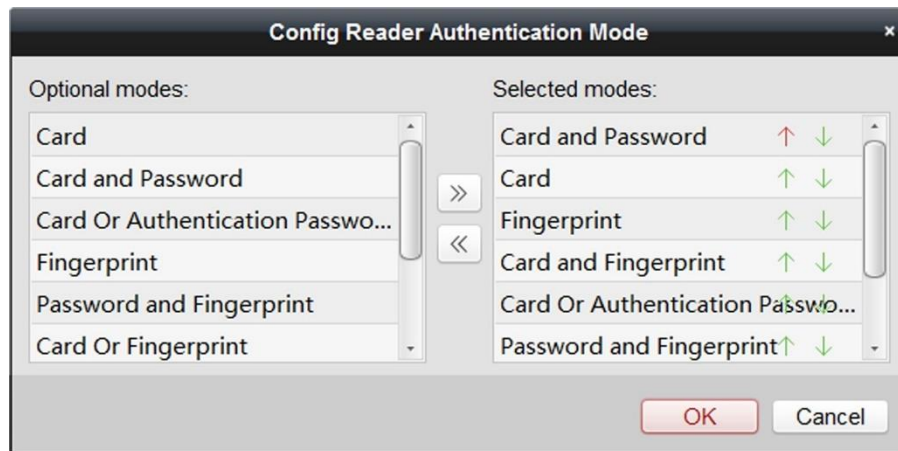


図 16-2 カードリーダー認証モードを選択する

注記

- ・ パスワードとは、個人にカードを発行するときに設定されたカードのパスワードを指します。詳細については、「**個人を追加する**」を参照してください。
- ・ 認証パスワードとは、ドアを開けるために設定されたパスワードを指します。「**認証パスワードを設定する**」を参照してください。

- 2) モードを選択し、**»**をクリックして選択したモードリストに追加します。
- 3) オプション：**↑**または**↓**をクリックして表示順序を調整します。
- 4) **[OK]**をクリックします。

モードを選択すると、選択したモードがアイコンとして表示されます。

4. アイコンをクリックしてカードリーダー認証モードを選択し、日付にドラッグしてスケジュールにカラーバーを描画します。
これは、その期間中はカードリーダー認証が有効であることを意味します。
5. 他の期間を設定するには、上記の手順を繰り返します。
6. オプション：設定した日を選択し、**[週にコピー]**をクリックして同じ設定を週全体にコピーします。
7. オプション：**[コピー先]**をクリックして、設定を他のカードリーダーにコピーします。
8. **[保存]**をクリックします。

16.7.3 複数の認証を設定する

カードをグループで管理し、1つのアクセスコントロールポイント（ドア）の複数のカードに対して認証を設定できます。

開始前

カードの権限を設定し、権限の設定をアクセスコントロールデバイスに適用します。詳細については、

「**個人に権限を割り当てる**」を参照してください。

1つのアクセスコントロールポイント（ドア）の複数のカードに対して認証を設定したい場合は、この作業を実行してください。

手順

1. [アクセスコントロール]→[高度な機能]→[複数の認証]の順にクリックして、複数の認証ページにアクセスします。
2. コントローラーリストパネルのリストでアクセスコントロールデバイスを選択します。
3. アクセスコントロールデバイス用のカードグループを追加します。
 - 1) カードグループの設定パネルで、[追加]をクリックします。
 - 2) 必要に応じて、グループに名前を付けます。
 - 3) カードグループの有効期間の開始時刻と終了時刻を指定します。
 - 4) カードグループに追加するカードを選択します。
 - 5) [OK]をクリックします。
4. 認証グループの設定パネルで、選択したデバイスのアクセスコントロールポイント（ドア）を選択します。
5. カードをスワイプする時間間隔を入力します。
6. 選択したアクセスコントロールポイント用の認証グループを追加します。
 - 1) 認証グループの設定パネルで、[追加]をクリックします。
 - 2) ドロップダウンリストから認証グループ用の設定済みテンプレートを選択します。

 注記

テンプレートの設定については、「スケジュールとテンプレートを設定する」を参照してください。

- 3) ドロップダウンリストから認証タイプをローカル認証、ローカル認証およびドアをリモートドア解錠またはローカル認証およびスーパーパスワードを選択します。

ローカル認証

アクセスコントロールデバイスによる認証。

ローカル認証およびドアをリモートドア解錠

アクセスコントロールデバイスとクライアントによる認証。個人がデバイスのカードをスワイプすると、ウィンドウが提示します。クライアントを介してドアをロック解除することができます。

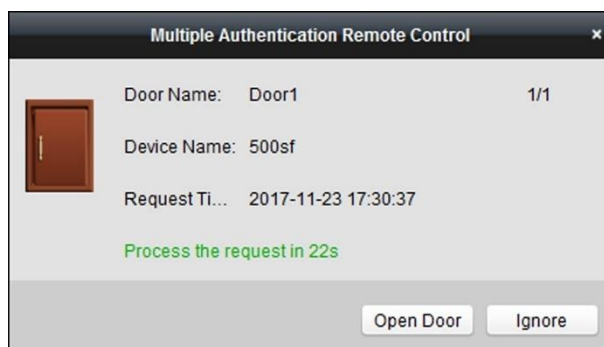


図 16-3 リモートドア解錠

 注記

アクセスコントロールデバイスの接続がクライアントから切断された際、**[オフライン認証]**にチェックを入れて、スーパーパスワード認証を有効にします。

ローカル認証およびスーパーパスワード

アクセスコントロールデバイスとスーパーパスワードによる認証。

- 4) 下の左側のリストで追加したカードグループを選択し、**+**をクリックして、選択したカードグループを認証グループとして右側のリストに追加します。
 - 5) **オプション**：**↑**または**↓**をクリックして、カードのスワイプ順序を設定します。
 - 6) 右側のリストに追加された認証グループをクリックして、カードのスワイプ回数を設定します。
-

 注記

- ・ カードのスワイプ回数は **0** 以上で、カードグループ内の追加されたカードの数量より少なくする必要があります。
 - ・ カードのスワイプ回数の最大値は **16** です。
-

- 7) **[OK]**をクリックします。
-

 注記

- ・ 各アクセスコントロールポイント（ドア）に対して、最大 **4** つの認証グループを追加できます。
 - ・ 認証タイプが**ローカル認証**の認証グループの場合、最大 **8** つのカードグループを認証グループに追加できます。
 - ・ 認証タイプが**ローカル認証およびスーパーパスワード**または**ローカル認証およびリモートドア解錠**の場合、最大 **7** つのカードグループを認証グループに追加できます。
-

7. **[保存]**をクリックします。

16.7.4ファーストカードでドア解錠を設定する

1つのアクセスコントロールポイントに複数のファーストカードを設定することができます。ファーストカードのスワイプ後、複数の人がドアにアクセスすることやその他の認証アクションができます。

開始前

カードの権限を設定し、権限の設定をアクセスコントロールデバイスに適用します。詳細については、

「**個人に権限を割り当てる**」を参照してください。

ファーストカードでドア解錠を設定したい場合は、この作業を実行してください。

手順

1. **[アクセスコントロール]**→**[高度な機能]**→**[ファーストカードでドア解錠]**の順にクリックして、ファーストカードでドア解錠ページにアクセスします。
2. コントローラーリストパネルのリストでアクセスコントロールデバイスを選択します。
3. 選択したデバイスの各アクセス制御ポイントのドロップダウンリストから、ファーストカードモードをファーストカードで開いたままにする、ファーストカードで開いたままにするを無効にするまたはファーストカードの認証として選択します。

ファーストカードで開いたままにする

ファーストカードをスワイプした後、開いたままの状態が終了するまでドアは設定された期間、開いたままになります。このモードを選択した場合は、開放の残り時間を設定する必要があります。



開放の残り時間は 0～1440 分です。デフォルトでは、開放の残り時間は 10 分になっています。

ファーストカードで開いたままにするを無効にする

ファーストカードで開いたままにする機能を無効にします。

ファーストカードの認証

すべての認証（スーパーカード、スーパーパスワード、デュレスカードおよびデュレスコードの認証を除く）は、ファーストカードの認証後にのみ許可されています。



ファーストカードの認証は当日のみ有効です。認証は当日の 24:00 以降に期限切れになります。



ファーストカードを再度スワイプすると、ファーストカードモードを無効にすることができます。

4. ファーストカードリストのパネルで、**[追加]**をクリックします。
5. リストからカードを選択し、**[OK]**をクリックして選択したカードをドアのファーストカードとして追加します。
追加されたファーストカードが、ファーストカードリストのパネルに表示されます。
6. オプション：リストからファーストカードを選択し、**[削除]**をクリックしてファーストカードリストからそのカードを削除します。
7. **[保存]**をクリックします。

16.7.5 アンチパスバックを設定する

指定したパスに従って、アクセスコントロールポイントのみを通過できるように設定でき、カードをスワイプした後に 1 人だけがアクセスコントロールポイントを通過することができます。

開始前

アクセスコントロールデバイスのアンチパスバック機能を有効にします。

アクセスコントロールデバイスのアンチパスバックを設定したい場合は、この作業を実行してください。

手順

注記

アンチパスバックまたはマルチドアインターロック機能のいずれかを、アクセスコントロールデバイスに対して同時に設定することができます。マルチドアインターロックの設定については、「**マルチドアインターロックを設定する**」を参照してください。

1. **[アクセスコントロール]**→**[高度な機能]**→**[アンチパスバック]**の順にクリックして、アンチパスバックの設定ページにアクセスします。
 2. リストでアクセスコントロールデバイスを選択します。
 3. **[ファーストカードリーダー]**フィールドでパスの先頭として、カードリーダーを選択します。
 4. **[アフターワードカードリーダー]**欄で選択したファーストカードリーダーのテキストフィールドをクリックして、カードリーダーの選択ダイアログを開きます。
 5. ファーストカードリーダーに対して、アフターワードカードリーダーを選択します。
-

注記

1 つのカードリーダーに対して最大 4 つのアフターワードカードリーダーを追加できます。

6. ダイアログで**[OK]**をクリックして選択を保存します。
7. アンチパスバックページの右上にある**[保存]**をクリックし、設定を保存して有効にします。

例

カードスワイプパスの設定

開始点として **Reader In_01** を選択し、リンク先カードリーダーとして **Reader In_02**、**Reader Out_04** を

選択した場合。Reader In_01、Reader In_02、Reader Out_04 の順にカードをスワイプするだけで

アクセス制御ポイントを通過できます。

16.7.6 クロスコントローラーアンチパスバックを設定する

複数のアクセスコントロールデバイスのカードリーダーに対して、アンチパスバックを設定することができます。設定されているカードのスイブルートに従って、カードをスワイプする必要があります。カードをスワイプした後にアクセスコントロールポイントを通過できるのは1人だけです。



これはデバイスに対応していなければなりません。

カードに基づいてルートアンチパスバックを設定する

ルートアンチパスバックは、カードのスイブルートによって異なります。ファーストカードリーダーとアフターワードカードリーダーを設定する必要があります。カードの入室および退室記録に従って、アンチパスバックを判断します。

ルートアンチパスバックを設定し、カードの入室および退室記録に従ってアンチパスバックを判断する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順



現時点では M1 カードに対応しており、セクターを暗号化することはできません。セクターの暗号化の詳細については、「**M1 カード暗号化を認証する**」を参照してください。

1. **[アクセスコントロール]→[高度な機能]→[クロスコントローラーアンチパスバック]**の順にクリックして、クロスコントローラーアンチパスバックの設定ページにアクセスします。
 2. **[クロスコントローラーアンチパスバックを有効にする]**にチェックを入れて、機能を有効にします。
 3. アンチパスバックモードとして、**[カードに基づく]**を選択します。
 4. ルールとして、**[ルートアンチパスバック]**を選択します。
 5. セクターID を設定します。
 6. **[アクセスコントローラーの選択]**をクリックして、アンチパスバック用のデバイスを選択します。
-



アンチパスバック機能を備えた最大 64 台のデバイスを追加することができます。

7. ファーストカードリーダーとアフターカードリーダーを設定します。
 - 1) カードリーダー領域で、カードリーダー列の左側にあるアイコンをクリックし、ファーストカードとして設定します。

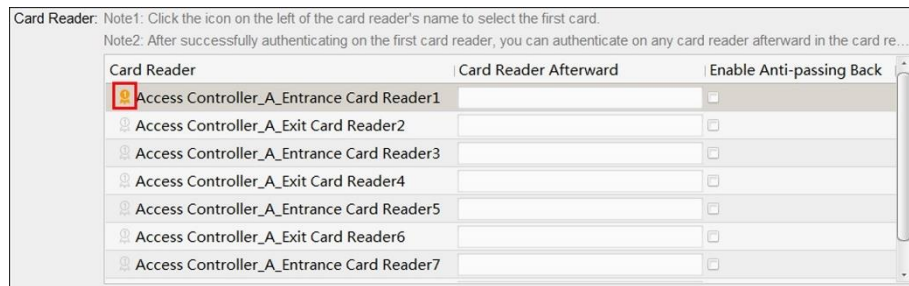


図 16-4 ファーストカードの選択

アイコンが  に変わります。

- 2) アフターワードカードの[入力]フィールドをクリックし、ポップアップウィンドウでアフターワードカードリーダーを選択します。

注記

- ・ 各カードリーダーに対して、最大で **16** のアフターワードカードリーダーを追加することができます。
- ・ アフターワードカードリーダーの入力フィールドに表示されているカードリーダーは、
認証順になっています。

- 3) **[アンチパスバックを有効にする]**列のチェックボックスを選択して、アンチパスバック機能を有効にします。

8. **[保存]**をクリックします。

ネットワークに基づいてルートアンチパスバックを設定する

ルートアンチパスバックは、カードのスイブルートによって異なります。ファーストカードリーダーとアフターワードカードリーダーを設定する必要があります。カードリーダーに保存されている入室および退室の情報に従って、アンチパスバックを認証します。

ルートアンチパスバックを設定し、カードリーダーに保存されている入退場情報に従ってアンチパスバックの結果を認証する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. **[アクセスコントロール]**→**[高度な機能]**→**[クロスコントローラーアンチパスバック]**の順にクリックして、
クロスコントローラーアンチパスバックの設定ページにアクセスします。
2. **[クロスコントローラーアンチパスバックを有効にする]**にチェックを入れて、機能を有効にします。
3. アンチパスバックモードとして、**[ネットワークに基づく]**を選択します。
4. ルールとして、**[ルートアンチパスバック]**を選択します。
5. アンチパスバックを判断するため、ドロップダウンリストからサーバーを選択します。

注記

- ・ **[カードスワイプ記録の削除]**をクリックして、ポップアップウィンドウでカードを選択すると、すべてのデバイスのカードスワイプ情報を削除することができます。
- ・ 選択したサーバーには、最大 **5000** 枚のカードのスワイプ記録を保存できます。

6. **[アクセスコントローラーの選択]**をクリックして、アンチパスバック用のデバイスを選択します。

注記

アンチパスバック機能を備えた最大 **64** 台のデバイスを追加することができます。

7. ファーストカードリーダーとアフターカードリーダーを設定します。
- 1) カードリーダー領域で、カードリーダー列の左側にあるアイコンをクリックし、ファーストカードとして設定します。

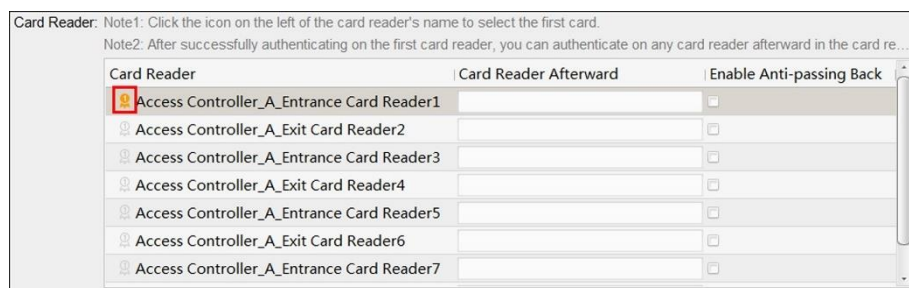


図 16-5 ファーストカードの選択

アイコンが  に変わります。

- 2) アフターワードカードリーダーの[入力]フィールドをクリックし、ポップアップウィンドウでアフターワードカードリーダーを表示されます。

注記

- ・ 各カードリーダーに対して、最大で **16** のアフターワードカードリーダーを追加することができます。
- ・ アフターワードカードリーダーの入力フィールドに表示されているカードリーダーは、認証順になっています。

- 3) **[アンチパスバックを有効にする]**列のチェックボックスを選択して、アンチパスバック機能を有効にします。
8. **[保存]**をクリックします。

カードに基づいて入室/退室アンチパスバックを設定する

ファーストカードリーダーとアフターワードカードリーダーを設定することなく、入室カードリーダーと退室カードリーダーを入退室専用を設定することができます。カードの入室および退室記録に従って、アンチパスバックを判断します。

入室/退出アンチパスバックを設定し、カードの入室および退室記録に従ってアンチパスバックを判断する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

注記

現時点では **M1** カードに対応しており、セクターを暗号化することはできません。セクターの暗号化の詳細については、「**M1 カード暗号化を認証する**」を参照してください。

1. **[アクセスコントロール]→[高度な機能]→[クロスコントローラーアンチパスバック]**の順にクリックして、クロスコントローラーアンチパスバックの設定ページにアクセスします。
2. **[クロスコントローラーアンチパスバックを有効にする]**にチェックを入れて、機能を有効にします。
3. アンチパスバックモードとして、**[カードに基づく]**を選択します。
4. ルールとして、**入室/退出アンチパスバック**を選択します。
5. セクターID を設定します。
6. **[アクセスコントローラーの選択]**をクリックして、アンチパスバック用のデバイスを選択します。

注記

アンチパスバック機能を備えた最大 **64** 台のデバイスを追加することができます。

7. カードリーダー領域で、**[アンチパスバックを有効にする]**列のチェックボックスを選択して、入室カードリーダーと退出カードリーダーを選択します。
-

注記

最大 **1** つの入室カードリーダーと **1** つの退出カードリーダーを確認する必要があります。

8. **[保存]**をクリックします。

ネットワークに基づいて入室/退室アンチパスバックを設定する

ファーストカードリーダーとアフターワードカードリーダーを設定することなく、入室カードリーダーと退室カードリーダーを入退室専用を設定することができます。カードリーダーの入室および退室の情報に従って、アンチパスバックを認証します。

入室/退出アンチパスバックを設定し、カードリーダーに保存されている入室および退室情報に従ってアンチパスバックを判断する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. **[アクセスコントロール]→[高度な機能]→[クロスコントローラーアンチパスバック]**の順にクリックして、クロスコントローラーアンチパスバックの設定ページにアクセスします。
2. **[クロスコントローラーアンチパスバックを有効にする]**にチェックを入れて、機能を有効にします。
3. アンチパスバックモードとして、**[ネットワークに基づく]**を選択します。
4. ルールとして、**入室/退出アンチパスバック**を選択します。
5. アンチパスバックを判断するため、ドロップダウンリストからサーバーを選択します。

 注記

- ・ **[カードスワイプ記録の削除]**をクリックして、ポップアップウィンドウでカードを選択すると、すべてのデバイスのカードスワイプ情報を削除することができます。
- ・ 選択したサーバーには、最大 **5000** 枚のカードのスワイプ記録を保存できます。

-
6. **[アクセスコントローラーの選択]**をクリックして、アンチパスバック用のデバイスを選択します。

 注記

アンチパスバック機能を備えた最大 **64** 台のデバイスを追加することができます。

-
7. カードリーダー領域で、**[アンチパスバックを有効にする]**列のチェックボックスを選択して、入室カードリーダーと退出カードリーダーを選択します。

 注記

最大 **1** つの入室カードリーダーと **1** つの退出カードリーダーを確認する必要があります。

-
8. **[保存]**をクリックします。

16.7.7 マルチドアインターロックを設定する

同じアクセスコントロールデバイスの複数のドア間で、マルチドアインターロックを設定できます。ドアの **1** つを開くには、他のドアを閉じておく必要があります。これはインターロック複合ドアグループにおいて、同時に **1** つまでのドアを開くことができることを意味します。

複数のドアの間にインターロックを作動させたい場合、この作業を実行してください。

手順

 注記

- ・ マルチドアインターロック機能は、複数のアクセスコントロールポイント（ドア）を持つアクセスコントロールデバイスでのみ対応しています。

- アンチパスバックまたはマルチドアインターロック機能のいずれかを、アクセスコントロールデバイスに対して同時に設定することができます。アンチパスバック機能の設定については、「**アンチパスバックを設定する**」を参照してください。

-
1. **[アクセスコントロール]→[高度な機能]→[マルチドアインターロック]**の順にクリックして、マルチドアインターロックのページにアクセスします。
 2. コントローラーリストパネルのリストでアクセスコントロールデバイスを選択します。
 3. マルチドアインターロックリストのパネルで**[追加]**をクリックして、インターロックにアクセスコントロールポイントを追加するウィンドウを表示されます。
 4. リストからアクセスコントロールポイントを選択します。
-

注記

1つのマルチドアインターロックの組み合わせで最大 **4** つのドアを追加できます。

5. **[OK]**をクリックして、選択したアクセスコントロールポイントをインターロック用に追加します。
設定したマルチドアインターロックの組み合わせは、マルチドアインターロックリストのパネルに表示されます。
6. **オプション**：リストから追加したマルチドアインターロックの組み合わせを選択し、**[削除]**をクリックして組み合わせを削除します。
7. **[保存]**をクリックします。

16.7.8 認証パスワードを設定する

認証パスワードの設定後、カードリーダーのキーパッドに認証パスワードを入力してドアを開くことができます。

ドアを開放するために認証パスワードを設定したい場合は、この作業を実行してください。

注記

- 認証パスワード機能は、アクセスコントロールデバイスに対応していなければなりません。
 - 認証パスワード付きのカードを最大 **500** 枚まで、**1** つのアクセスコントロールデバイスに追加できます。すべてのパスワードは一意である必要があり、互いに同じにすることはできません。
-

手順

1. **[アクセスコントロール]→[高度な機能]→[認証パスワード]**の順にクリックして、認証パスワードの設定ページにアクセスします。
2. コントローラーリストパネルのリストでアクセスコントロールデバイスを選択します。
適用されたすべてのカードと人物がカードリストパネルに表示されます。

 注記

デバイスへの権限の設定および適用については、「**個人に権限を割り当てる**」を参照してください。

3. 認証パスワードを入力するには、パスワード列の各カードのフィールドをクリックします。
-

 注記

認証パスワードは 4～8 桁にする必要があります。

4. 認証パスワードの右上にある**[保存]**をクリックし、設定を保存します。
カードの認証パスワード機能が自動的に有効になります。また、アクセスコントロールデバイスのカードリーダー認証モードを**カードまたは認証パスワード**として設定することができます。詳細については、「**カードリーダーの認証モードとスケジュールを設定する**」を参照してください。

16.7.9 エレベーターコントローラー用のリレーを設定する

エレベーターコントローラーの場合、フロアとリレー間の関係を管理し、フロアのリレータイプを設定することができます。

リレーとフロア間の関係を設定する

対象フロアに異なる種類のリレーを割り当てることができるので、リレーとフロア間の関係に従ってエレベーターを制御することができます。

開始前

エレベーターコントローラーをクライアントに追加します。

次の手順を実行して、リレーをフロアに割り当てます。

手順

 注記

- エレベーターコントローラーは、最大 24 台の分散型エレベーターコントローラーにリンクできます。分散型エレベーターコントローラーは最大 16 個のリレーを連動できます。
 - デフォルトでは、リレーの総数は追加フロア数*3（3 種類のリレー）です。
 - ドアグループ管理でフロア番号を変更すると、リレー設定インターフェイスのすべてのリレーがデフォルト設定に戻ります。
-

1. **[アクセスコントロール]→[高度な機能]→[エレベーター設定]**の順にクリックして、リレー設定のページにアクセスします。
 2. 左側のエレベーターコントローラーを選択します。
 3. 右側の未設定リレーパネルで未設定のリレーを選択します。
-

利用可能なリレーは 3 種類あります。

ボタンリレー

各フロアのボタンの有効性を制御します。



注記

 はボタンリレーを示します。

コールエレベーターリレー

指定されたフロアに移動するようにエレベーターの呼び出しを制御します。



注記

 はコールエレベーターリレーを示します。

自動ボタンリレー

ユーザーがエレベーター内でカードをスワイプするときにボタンを押すように制御します。フロアのボタンはユーザーの権限に従って自動的に押されます。



注記

 は自動ボタンリレーを示します。

例

 を例とします。番号 1-2 において、1 は分散型エレベーターコントローラー番号、2 はリレーを示し、アイコン  はリレーのタイプを表します。リレーのタイプを変更できます。詳細については、「[リレーのタイプを設定する](#)」を参照してください。

4. リレーとフロア間関係を設定します。

- 未設定のリレーを未設定リレーのパネルから、フロアリストパネルの対象フロアにドラッグします。
- リレーをフロアリストパネルから、未設定リレーのパネルにドラッグします。
- フロアリストのパネルで、リレーをあるフロアから別のフロアにドラッグします。



注記

対象フロアがドラッグされたフロアと同じタイプのリレーですすでに設定されている場合、既存の同じタイプフロアに置き換えられます。



図 16-6 既存のリレータイプの置き換え

5. [保存]をクリックして、選択したエレベーターコントローラーに設定を適用します。

リレーのタイプを設定する

いくつかの理由で、リレーのタイプを変更する必要があります。ボタンリレー、コールエレベーターリレー、自動ボタンリレーを相互に変更できます。

リレーのタイプを変更するには、次の手順を実行してください。

手順

1. **[アクセスコントロール]**→**[高度な機能]**→**[エレベーター設定]**の順にクリックして、リレー設定のページにアクセスします。
2. ページ左側のコントローラーリストで、エレベーターコントローラーを選択します。
3. **[リレーのタイプ]**をクリックし、リレーのタイプの設定ウィンドウを開きます。

注記

- ・ リレーのタイプ設定ウィンドウのリレーはすべて未設定のリレーです。
- ・ 3 種類のリレー（ はボタンリレー、 はコールエレベーターリレー、 自動ボタンリレーを示す）があります。

-
4. リレーを 1 つのリレータイプパネルから対象とするものにドラッグします。
 5. **[OK]**をクリックします。

16.7.10 カスタム Wiegand ルールを設定する

他社製の Wiegand のアップロードルールの知識に基づいて、デバイスと他社製のカードリーダーの間で通信するためにカスタマイズされた複数の Wiegand ルールを設定することができます。

開始前

他社製のカードリーダーをデバイスに接続します。

この作業を実行して、他社製のカードリーダー用のカスタム Wiegand ルールを設定します。

手順

注記

- ・ デフォルトでは、デバイスはカスタム Wiegand 機能を無効にします。デバイスがカスタム Wiegand 機能を有効にしている場合、デバイス内のすべての Wiegand インターフェイスは、カスタマイズされた Wiegand プロトコルを使用します。
- ・ 最大 5 つのカスタム Wiegand を設定できます。
- ・ カスタム Wiegand の詳細については、「**カスタム Wiegand ルールの説明**」を参照してください。

-
1. **[アクセスコントロール]**→**[高度な機能]**→**[カスタム Wiegand]**の順にクリックして、カスタム Wiegand の設定ページにアクセスします。
 2. 左側のカスタム Wiegand を選択します。

3. [有効化]にチェックを入れて、カスタム Wiegand を有効にします。
4. Wiegand に名前を付けます。



注記

カスタム Wiegand 名には最大 32 文字まで使用できます。

5. [デバイスの選択]をクリックして、カスタム Wiegand を設定するためのアクセスコントロールデバイスを選択します。
6. 他社製カードリーダーのプロパティに従ってパリティを設定します。



注記

- ・ 最大長さは 80 ビットです。
- ・ 奇数パリティ開始ビット、奇数パリティ長さ、偶数パリティ開始ビットおよび偶数パリティ長さは、
1～80 ビットの範囲です。
- ・ カード ID、メーカーコード、サイトコード、OEM の開始ビットは、
1～80 ビットの範囲でなければなりません。

7. 出力変換ルールを設定します。

- 1) [ルールの設定]をクリックして、出力変換ルールの設定ウィンドウを開きます。

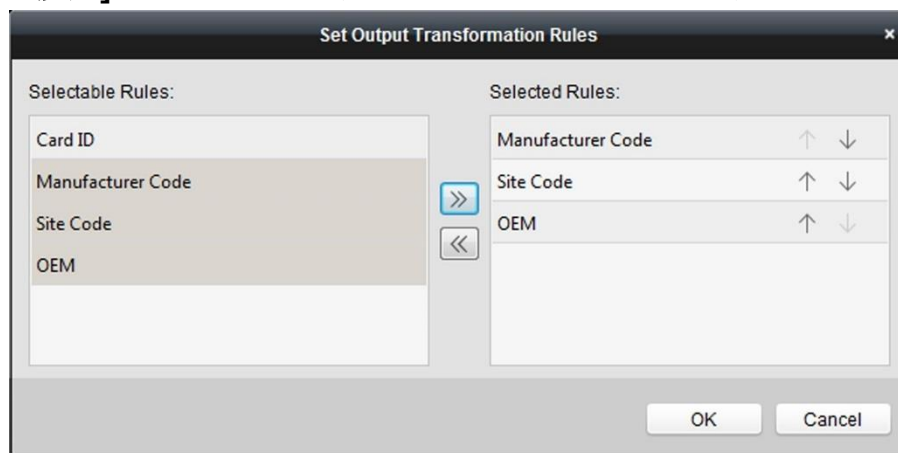


図 16-7 出力変換ルールの設定

- 2) 左側のリストからルールを選択します。
 - 3) 選択したルールを右側のリストに移動するには、>>をクリックします。
 - 4) オプション：↓または↑をクリックしてルールの順序を変更します。
 - 5) [OK]をクリックします。
 - 6) カスタム Wiegand タブで、ルールの開始ビット、長さ、10 進数を設定します。
8. [保存]をクリックします。

16.7.11 ブラックリストの個人を設定する

ブラックリストの個人情報を管理し、そのブラックリスト情報をアクセスコントロールデバイスに適用して有効にすることができます。

ブラックリストに個人を追加する

ブラックリストに個人を追加し、その人物の顔画像、性別、ID 番号を設定できます。

アクセスコントロールデバイスのブラックリストに個人情報を設定する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. **[アクセスコントロール]**→**[高度な機能]**→**[ブラックリスト]**の順にクリックして、ブラックリストの個人の管理ページにアクセスします。
2. **[個人]**をクリックして、個人管理ページにアクセスします。
3. **[追加]**をクリックします。
4. **[画像の選択]**をクリックして、ローカル PC から個人の顔画像を選択します。



画像は JPG 形式で、1 MB 未満でなければなりません。

5. 名前、性別、ID 番号などの個人情報を設定します。
6. **[保存]**をクリックします。
7. オプション：追加した個人を選択して**[削除]**をクリックすると、その人物がブラックリストから削除されます。
8. 有効にするには、デバイスにブラックリストの個人情報を適用します。
 - 1) デバイスに適用する個人を選択します。
 - 2) **[適用]**をクリックします。
 - 3) **[すべて適用]**を選択して、選択したすべての権限をアクセスコントロールデバイスまたはドアステーションに適用します。



[変更の適用]を選択して、選択した権限の変更部分をデバイスに適用することもできます。

- 4) **[OK]**をクリックして適用を開始します。

ブラックリストの個人のアプリケーション結果を管理する

設定した個人情報をブラックリストに適用した後、アプリケーション結果を表示したり、適用した個人を管理したりできます。

ブラックリストの個人情報アプリケーション結果を管理する必要がある場合は、この作業を実行をしてください。

手順

1. **[アクセスコントロール]**→**[高度な機能]**→**[ブラックリスト]**の順にクリックして、ブラックリストの個人の管理ページにアクセスします。

2. **[アプリケーション結果]**をクリックしてアプリケーション結果管理ページにアクセスします。
ブラックリストの適用記録を確認し、アプリケーション結果を表示することができます。
3. **オプション**：ブラックリストに登録されている個人をデバイスから削除します。
 - 1) **[個人を削除]**をクリックします。
ブラックリストの個人に対応したすべてのデバイスが表示されます。
 - 2) 個人を削除したいデバイスを選択します。
 - 3) **[次へ]**をクリックします。
デバイスに適用されたブラックリストのすべての人物が表示されます。
 - 4) デバイスから削除したい個人（複数可）を選択します。
 - 5) **[OK]**をクリックして、デバイスのブラックリストから選択した個人を削除します。
4. **オプション**：**[個人の消去]**をクリックしてデバイスを選択し、デバイスのブラックリストにあるすべての人物を表示されます。

16.8 アクセスコントロールイベントを検索する

リモートイベントやクライアントソフトウェア経由のローカルイベントなどのアクセス管理履歴イベントを検索することができます。

16.8.1 ローカルのアクセスコントロールイベントを検索する

クライアントのデータベースからアクセスコントロールイベントを検索し、そのイベントをローカル PC にエクスポートすることができます。

ローカルアクセスコントロールイベントを検索してエクスポートする場合は、この作業を実行してください。

手順

1. **[アクセスコントロール]→[検索]→[アクセスコントロールイベント]**の順にクリックして、アクセスコントロールイベントページにアクセスします。
2. イベントソースをローカルイベントとして選択します。
3. デバイス名、イベントタイプ、発生時刻などの検索条件を必要に応じて設定します。
4. **[検索]**をクリックして、アクセスコントロールイベントの検索を開始します。
一致したアクセスコントロールイベントが表示されます。

5. オプション：イベントを検索したら、次の操作を 1 つ以上実行できます。

カード所有者の詳細を見る

カード所有者によってトリガーするアクセスコントロールイベントの場合、イベントをクリックして個人番号、個人名、組織、電話番号、連絡先、写真などのカード所有者の詳細を表示します。

キャプチャーした画像を見る

イベントに連動された画像が含まれている場合、**[キャプチャー]**列をクリックし、アラームがトリガーしたときにトリガーカメラからキャプチャーされた画像を表示します。



注記

トリガーカメラの設定に関しては、「**アクセスコントロールアラームのクライアントリンケージを設定する**」を参照してください。

連動されたビデオを見る

イベントに連動されたビデオが含まれている場合、**[再生]**列をクリックし、アラームがトリガーしたときにトリガーカメラから記録されたビデオを表示します。



注記

トリガーカメラの設定に関しては、「**アクセスコントロールアラームのクライアントリンケージを設定する**」を参照してください。

イベントのエクスポート

[エクスポート]をクリックして、検索結果を CSV ファイルでローカル PC にエクスポートします。

16.8.2 リモートアクセスコントロールイベントを検索する

アクセスコントロールデバイスに保存されているアクセスコントロールイベント記録を検索できます。

アクセスコントロールデバイスに保存されているアクセスコントロールイベントを検索する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. **[アクセスコントロール]**→**[検索]**→**[アクセスコントロールイベント]**の順にクリックして、リモートアクセスコントロールイベントのページにアクセスします。
2. イベントソースをリモートイベントとして選択します。
3. 必要に応じて、検索条件を設定します。
4. オプション：アラーム画像付きのイベントを検索するには、**[アラーム画像付き]**にチェックを入れます。
5. **[検索]**をクリックします。
一致したアクセスコントロールイベントが表示されます。

6. オプション：[エクスポート]をクリックして、検索結果を CSV ファイルでローカル PC にエクスポートします。

16.9 アクセスコントロールアラームのリンケージを設定する

追加したアクセスコントロールデバイスに対し、クライアントリンケージ、デバイスリンケージ、またはデバイス間リンケージなどのリンケージアクションを設定することができます。

16.9.1 アクセスコントロールアラームのクライアントリンケージを設定する

ルールを設定して、クライアントリンケージアクションをアクセスコントロールアラームに割り当てることができます。例えば、アクセスコントロールイベントが検出されると、警告音が表示されたり、他のリンケージアクションが作動します。

アクセスコントロールアラームのクライアントリンケージを設定する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

注記

ここでのリンケージとはポップアップ画像、警告音、メールリンケージなど、クライアントソフトウェア自身のアクションに関するリンケージを指します。

1. [イベント管理]→[アクセス管理イベント]の順にクリックします。

左側のアクセスコントロールデバイスパネルに、追加されたアクセスコントロールデバイスが表示されます。

2. アクセスコントロールデバイス、アラーム入力、アクセスコントロールポイント（ドア）またはカードリーダーを選択して、イベントリンケージを設定します。
 3. イベントタイプを選択し、リンケージを設定します。
 4. トリガーカメラを選択します。
-

注記

選択したイベントが発生したときにトリガーカメラの画像をキャプチャーするには、ストレージスケジュール内でキャプチャースケジュールとストレージを設定することもできます。詳細については、「[リモートストレージ設定](#)」を参照してください。

このカメラが撮影した画像やビデオは選択したイベントは発生した時点にポップアップされます。

5. クライアントリンケージアクションを設定します。

音声警告

アラームがトリガーすると、クライアントソフトウェアが警告音を発します。音声警報のアラーム音は選択可能です。



注記

アラーム音の設定については、「**アラーム音を設定する**」を参照してください。

電子メールリンケージ

アラーム情報のメール通知を 1 人以上の受信者に送信します。

E マップアラーム

E マップにアラーム情報を表示します。



注記

このリンケージは、アクセスコントロールポイントとアラーム入力に対してのみ利用可能です。

アラーム発生ポップアップ画像

アラームがトリガーすると、アラーム情報を含む画像がポップアップ表示されます。



注記

最初に、トリガーカメラを設定する必要があります。

6. **[保存]**をクリックします。

7. **オプション : [コピー先]**をクリックして、リンケージ設定を他のアクセスコントロールデバイス、アラーム入力、アクセスコントロールポイント、またはカードリーダーにコピーします。

16.9.2 アクセスコントロールアラームのデバイスリンケージを設定する

アクセスコントロール装置のトリガーアラームに対して、アクセスコントロール装置のリンケージアクションを設定することができます。アラームがトリガーすると、同じデバイス上で警報出力、ホストブザー、その他のアクションをトリガーさせることができます。

デバイスのアクセスコントロールアラームに対して、アクセスコントロールデバイスリンケージを設定する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順



注記

これはデバイスに対応していなければなりません。

1. **[イベント管理]→[イベントカードのリンケージ]**の順にクリックします。
 2. 左側のリストからアクセスコントロールデバイスを選択します。
 3. **[追加]**ボタンをクリックして、新しいリンケージを追加します。
 4. イベントソースを**イベントリンケージ**として選択します。
 5. アラームのタイプと詳細なアラームを選択してリンケージを設定します。
 6. リンケージ対象パネルで、プロパティのスイッチをオンに設定してこのアクションを有効にします。
-

ホストブザー

アクセスコントロールデバイスの警告音がトリガーされます。

キャプチャー

リアルタイムキャプチャーがトリガーされます。

記録

記録がトリガーされます。



デバイスは記録に対応していなければなりません。

カードリーダーブザー

カードリーダーの音声警報が発生します。

アラーム出力

警報出力が通知に対してトリガーされます。

ゾーン

ゾーンを起動または解除します。



デバイスはゾーン機能に対応していなければなりません。

アクセスコントロールポイント

ドアを開く、閉じる、開いたままにする、閉じたままにするのステータスを同時にトリガーすることはできません。



- ・ ドアを開く、閉じる、開いたままにする、閉じたままにするのステータスを同時にトリガーすることはできません。
 - ・ 対象のドアとソースのドアを同じにすることはできません。
-

音声の再生

音声プロンプトが発生します。また、選択された音声インデックス関連の音声のコンテンツは、設定された再生モードに従って再生されます。

7. **[保存]**をクリックします。

8. **オプション**：デバイスリンケージの追加後、次の操作を 1 つ以上実行できます：

リンケージ設定の編集

デバイスリストで設定済みのリンケージ設定を選択すると、イベントソースとリンケージ対象を含むそのイベントソースのパラメータを編集することができます。

リンケージ設定の削除

デバイスリストで設定したリンケージ設定を選択し、**[削除]**をクリックして、これを削除します。

16.9.3 カードスワイプに対してデバイス連動アクションを設定する

指定したカードのスワイプに対して、アクセスコントロールデバイスのリンケージアクションを設定することができます。指定のカードをスワイプすると、同じデバイス上で警報出力、ホストブザー、その他のアクションがトリガーさせることができます。

カードのスワイプアクションに対して、アクセスコントロールデバイスリンケージを設定する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

注記

これはデバイスに対応していなければなりません。

1. **[イベント管理]**→**[イベントカードのリンケージ]**の順にクリックします。
2. 左側のリストからアクセスコントロールデバイスを選択します。
3. **[追加]**ボタンをクリックして、新しいリンケージを追加します。
4. イベントソースを**カードリンケージ**として選択します。
5. カード番号を入力するか、またはドロップダウンリストからカードを選択します。
6. 連動アクションのトリガーに対してカードをスワイプするカードリーダーを選択します。
7. リンケージ対象パネルで、プロパティのスイッチをオンに設定してこのアクションを有効にします。

ホストブザー

アクセスコントロールデバイスの警告音がトリガーされます。

キャプチャー

リアルタイムキャプチャーがトリガーされます。

記録

記録がトリガーされます。

注記

デバイスは記録に対応していなければなりません。

カードリーダーブザー

カードリーダーの音声警報が発生します。

アラーム出力

警報出力が通知に対してトリガーされます。

ゾーン

ゾーンを起動または解除します。

注記

デバイスはゾーン機能に対応していなければなりません。

アクセスコントロールポイント

ドアを開く、閉じる、開いたままにする、閉じたままにするのステータスを同時にトリガーすることはできません。



ドアを開く、閉じる、開いたままにする、閉じたままにするのステータスを同時にトリガーすることはできません。

音声の再生

音声プロンプトが発生します。また、選択された音声インデックス関連の音声のコンテンツは、設定された再生モードに従って再生されます。

8. [保存]をクリックします。

(手順 5 で設定した) カードが (手順 6 で設定した) カードリーダーをスワイプすると、(手順 7 で設定した) 連動アクションがトリガーされます。

9. オプション: デバイスリンケージの追加後、次の操作を 1 つ以上実行できます:

リンケージ設定の削除	デバイスリストで設定したリンケージ設定を選択し、 [削除] をクリックして、これを削除します。
------------	--

リンケージ設定の編集	デバイスリストで設定済みのリンケージ設定を選択すると、イベントソースとリンケージ対象を含むそのイベントソースのパラメータを編集することができます。
------------	---

16.9.4 携帯端末の MAC アドレスに対してデバイスリンケージを設定する

携帯端末の指定された MAC アドレスに対して、アクセスコントロールデバイスのリンケージアクションを設定することができます。アクセスコントロールデバイスが指定された MAC アドレスを検出すると、同じデバイス上で警報出力、ホストブザー、その他のアクションをトリガーさせることができます。

MAC アドレスに対して、アクセスコントロールデバイスリンケージを設定する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順



これはデバイスに対応していなければなりません。

1. [イベント管理]→[イベントカードのリンケージ]の順にクリックします。
2. 左側のリストからアクセスコントロールデバイスを選択します。
3. [追加]ボタンをクリックして、新しいリンケージを追加します。
4. イベントソースを **MAC リンケージ**として選択します。
5. トリガーする MAC アドレスを入力します。

 注記

MAC アドレスのフォーマット : AA:BB:CC:DD:EE:FF。

6. リンケージ対象パネルで、プロパティのスイッチをオンに設定してこのアクションを有効にします。

ホストブザー

アクセスコントロールデバイスの警告音がトリガーされます。

キャプチャー

リアルタイムキャプチャーがトリガーされます。

記録

記録がトリガーされます。

 注記

デバイスは記録に対応していなければなりません。

カードリーダーブザー

カードリーダーの音声警報が発生します。

アラーム出力

警報出力が通知に対してトリガーされます。

ゾーン

ゾーンを起動または解除します。

 注記

デバイスはゾーン機能に対応していなければなりません。

アクセスコントロールポイント

ドアを開く、閉じる、開いたままにする、閉じたままにするのステータスを同時にトリガーすることはできません。

 注記

ドアを開く、閉じる、開いたままにする、閉じたままにするのステータスを同時にトリガーすることはできません。

7. **[保存]**をクリックして設定を保存します。
8. **オプション** : デバイスリンケージの追加後、次の操作を 1 つ以上実行できます :

リンケージ設定の編集

デバイスリストで設定済みのリンケージ設定を選択すると、イベントソースとリンケージ対象を含むそのイベントソースのパラメータを編集することができます。

リンケージ設定の削除

デバイスリストで設定したリンケージ設定を選択し、**[削除]**をクリックして、これを削除します。

16.9.5 デバイス間リンケージを設定する

アクセスコントロールデバイスがトリガーしたときにルールを設定することにより、他のアクセスコントロールデバイスのアクションがトリガーするように割り当てることができます。



これはデバイスに対応していなければなりません。

アクセスコントロールイベントのデバイス間リンケージを設定する

アクセスコントロールイベントがトリガーして検出されると、警報出力、ドアの開放など他のアクセスコントロールデバイスのリンケージアクションをトリガーさせることができます。イベントはデバイスイベント、アラーム入力、ドアイベントおよびカードリーダーイベントの 4 種類に分類できます。

アクセスコントロールイベントに対して他のアクセスコントロールデバイスのリンケージアクションを設定する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順



デバイスはこの機能に対応していなければなりません。

1. **[イベント管理]→[デバイス間リンケージ]**の順にクリックして、デバイス間リンケージの設定インターフェイスにアクセスします。
2. **[追加]**をクリックして、新しいデバイス間リンケージを追加します。
3. リンケージタイプを**イベントリンケージ**として選択します。
4. イベントソースを設定します。
 - 1) イベントソースデバイスとしてアクセスコントロールデバイスを選択します。
 - 2) アクセスコントロールイベントのタイプを選択します。

デバイスイベント

ドロップダウンリストから詳細なイベントタイプを選択します。

アラーム入力

詳細イベントタイプをゾーンイベントまたはアラーム入力イベントとして選択し、ドロップダウンリストからゾーン名またはアラーム入力名を選択します。

ドアイベント

詳細なイベントタイプを選択し、ドロップダウンリストからアクセスコントロールポイントを選択します。

カードリーダーイベント

詳細なイベントタイプを選択し、ドロップダウンリストからカードリーダーを選択します。

5. 対象のアクセスコントロールデバイスをリンケージ対象に設定します。

- 1) リンケージ先として、ドロップダウンリストからアクセスコントロールデバイスを選択します。
- 2) リンケージアクションを有効にするには、スイッチをオンに設定します。

アラーム出力

対象デバイスの警報出力が通知に対してトリガーされます。

アクセスコントロールポイント

ドアを開く、閉じる、開いたままにする、閉じたままにするのステータスを同時にトリガーすることはできません。



注記

ドアを開く、閉じる、開いたままにする、閉じたままにするのステータスを同時にトリガーすることはできません。

6. [保存]をクリックします。

カードスワイプに対してデバイス間リンケージを設定する

個人が指定されたカードリーダー上で指定されたカードをスワイプすると、警報出力やドアの開放など他のアクセスコントロール装置のリンケージアクションをトリガーさせることができます。

カードスワイプに対して他のアクセスコントロールデバイスのリンケージアクションを設定する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. [イベント管理]→[デバイス間リンケージ]の順にクリックして、デバイス間リンケージの設定インターフェイスにアクセスします。
2. [追加]をクリックして、新しいデバイス間リンケージを追加します。
3. リンケージタイプをカードリンケージとして選択します。
4. イベントソースを設定します。
 - 1) ドロップダウンリストからカードを選択します。
 - 2) イベントソースデバイスとしてアクセスコントロールデバイスを選択します。
 - 3) トリガーするカードリーダーを選択します。
5. 対象のアクセスコントロールデバイスをリンケージ対象に設定します。
 - 1) リンケージ先として、ドロップダウンリストからアクセスコントロールデバイスを選択します。
 - 2) リンケージアクションを有効にするには、スイッチをオンに設定します。

アラーム出力

対象デバイスの警報出力が通知に対してトリガーされます。

アクセスコントロールポイント

ドアを開く、閉じる、開いたままにする、閉じたままにするのステータスを同時にトリガーすることはできません。



注記

ドアを開く、閉じる、開いたままにする、閉じたままにするのステータスを同時にトリガーすることはできません。

6. [保存]をクリックします。

16.10 アクセスコントロールポイントのステータスを管理する

追加したアクセスコントロールデバイスのアクセスコントロールポイントのステータスがリアルタイムに表示されます。選択したアクセスコントロールポイントのステータスと連動イベントを確認することができます。ステータスを制御したり、アクセスコントロールポイントのステータス期間を設定したりすることも可能です。

16.10.1 アクセスコントロールポイントをグループ化する

ドアのステータスを制御したり、ステータスの期間を設定したりする前に、アクセスコントロール装置のアクセスコントロールポイントをグループにまとめて管理しやすくする必要があります。

便利な管理に対してアクセスコントロールポイントをグループ化する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順



注記

- アクセスコントロールデバイスのアラーム入力をグループにインポートすることもできます。
 - ビデオアクセスコントロール端末の場合は、カメラをグループにインポートできます。
 - 操作の詳細については、「**グループ管理**」を参照してください。
-

1. **[デバイス管理→グループ]**の順にクリックして、グループ管理ページにアクセスします。
2. 新しいグループを追加します。
 - 1) をクリックしてグループの追加ウィンドウを開きます。
 - 2) グループに名前を付けます。
 - 3) オプション：選択したデバイスで新しいグループを作成するには、**デバイス名でグループを作成**
 - 4) **[OK]**をクリックします。
3. アクセスコントロールポイントをグループにインポートします。
 - 1) **[インポート]**をクリックします。
 - 2) **[アクセスコントロールポイント]**タブをクリックします。
 - 3) リストでアクセスコントロールポイントを選択します。
 - 4) グループリストからグループを選択します。
 - 5) **[インポート]**をクリックして、選択したアクセスコントロールポイントをグループにインポートします。

16.10.2 ドアのステータスを制御する

ドアを開ける、ドアを閉じる、開いたままにする、閉じたままにするなど、単一のアクセスコントロールポイント（ドア）のステータスを制御することができます。

ドアのステータスを制御する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. **[モニターのステータス]→[ドアのステータス]**の順にクリックして、ドアのステータス監視ページにアクセスします。
2. 左側のアクセスコントロールグループを選択します。

注記

アクセスコントロールグループ管理については、「**アクセスコントロールポイントをグループ化する**」を参照してください。

選択済アクセスコントロールグループのアクセスコントロールポイントが右側に表示されます。

3. ステータス情報パネルの  をクリックして、ドアを選択します。
4. ステータス情報パネルに表示されている次のボタンをクリックして、ドアを制御します。

ドアを開ける

ドアを一度開けます。

ドアを閉じる

ドアを一度閉じます。

開いたままにする

ドアを開いたままにします。

閉じたままにする

ドアを閉じたままにします。

キャプチャー

手動で画像をキャプチャーします。

注記

[キャプチャー]ボタンは、デバイスがキャプチャー機能に対応している場合に限り利用できます。また、これはストレージサーバーが設定されるまで実行することができません。キャプチャースケジュールを設定するには、「**リモートストレージ設定**」を参照してください。

16.10.3 エレベーターのステータスを制御する

エレベーターのドアを開く、制御済み、開放、コールエレベーターなど、エレベーターコントローラーのエレベーターステータスを制御することができます。

開始前

エレベーターのステータスを制御する前に、リレーを対象フロアに分配する必要があります。詳細については、「[リレーとフロア間の関係を設定する](#)」を参照してください。

エレベーターのステータスを制御する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

注記

- 他のクライアントで起動していない場合、現行のクライアントからエレベーターを制御することができます。エレベーターのステータスが変わると、他のクライアントソフトウェアでエレベーターを制御することができません。
- 一度に 1 つのクライアントソフトウェアのみがエレベーターを制御できます。
- エレベーターを制御したクライアントは、アラーム情報を受信してエレベーターのリアルタイムのステータスを表示させることができます。

-
1. [モニターのステータス]→[ドアのステータス]の順にクリックして、ドアのステータス監視ページにアクセスします。
 2. 左側のアクセスコントロールグループを選択します。

注記

アクセスコントロールグループ管理については、「[アクセスコントロールポイントをグループ化する](#)」を参照してください。

選択したアクセスコントロールグループのフロアがインターフェイスの右側に表示されます。

3. ステータス情報パネルの  をクリックして、フロアを選択します。
4. ステータス情報パネルに表示されている次のボタンをクリックして、ドアを制御します。

ドアを開ける

エレベーターのフロアのボタンは一定期間有効であり、エレベーターのドアは開いています。

制御済み

目的のフロアボタンを押す前に、カードをスワイプする必要があります。その後、エレベーターは目的のフロアに移動することができます。

開放

エレベーターで選択したフロアのボタンは、常に有効になります。

無効

エレベーターで選択したフロアのボタンは無効になり、目的のフロアに移動することができません。

エレベーターを呼び出し（訪問者用）

エレベーターが 1 階に下りてきます。訪問者は目的のフロアのボタンを押すことができません。

エレベーターを呼び出し（居住者用）

目的のフロアへのエレベーターを呼び出します。

16.10.4 リアルタイムカードスワイプ記録を確認する

すべてのアクセスコントロールデバイスのカードをスワイプした記録のログが、リアルタイムで表示されます。リアルタイムのカードスワイプ記録を確認する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. **[モニターのステータス]→[カードスワイプ記録]**の順にクリックして、リアルタイムカードのスワイプ記録ページにアクセスします。

カードをスワイプした記録のログが、リアルタイムで表示されます。カード番号、個人名、組織、イベント時間などを含む、カードスワイプのイベントの詳細を表示できます。

2. オプション：**[最新の記録を自動選択する]**にチェックを入れると、最新のカードスワイプの記録が選択され、記録リストの上部に表示されます。

3. オプション：イベントをクリックすると、キャプチャーした個人の画像（キャプチャーした画像とプロフィール）、個人番号、個人名、組織、電話番号、連絡先などを含むカード所有者の詳細が表示されます。

認証結果

カード番号未登録、登録済みなどのカードスワイプの結果。

16.10.5 リアルタイムアクセスコントロールアラームを確認する

デバイス例外、ドアイベント、カードリーダーイベント、アラーム入力などアクセスコントロールイベントのログがリアルタイムで表示されます。

リアルタイムのアクセスコントロールアラームを確認する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. **[モニターのステータス]→[アクセスコントロールアラーム]**の順にクリックして、リアルタイムアクセスコントロールアラームのページにアクセスします。

すべてのアクセスコントロールアラームがリアルタイムでリストに表示されます。アラームのタイプ、アラーム時間、場所などを表示できます。

2. をクリックすると E マップにアラームが表示されます。



E マップでアクセスコントロールポイントを設定するには、「**E マップ上にアクセスコントロールポイントを表示する**」を参照してください。

3. オプション：アラームがトリガーしたときに、またはをクリックしてトリガーカメラのライブビューまたはキャプチャーされた画像を表示します。



トリガーカメラの設定に関しては、「**アクセスコントロールアラームのクライアントリンケージを設定する**」を参照してください。

4. オプション：アラームがトリガーしたときにクライアントが受信できるアラームを選択します。
- 1) **[登録]**をクリックします。
 - 2) チェックボックスを選択して、デバイス例外アラーム、ドアイベントアラーム、カードリーダーアラーム、アラーム入力を含むアラームを選択します。
 - 3) **[OK]**をクリックして設定を保存します。

16.11 ライブビュー中にドアを制御する

ライブ中にドアを開く、ドアを閉じるなど、カメラの連動したアクセスコントロールポイント（ドア）を制御することができます。

ライブ中にカメラの連動したドアを開閉するように制御する必要がある場合、この作業を実行してください。

手順

1. ライブビューモジュールにアクセスし、1 台のカメラのライブビューを開始します。

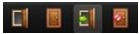


ライブビュー開始の詳細については、「**1 台のカメラのライブビューを開始する**」を参照してください。

2. カメラをアクセスコントロールポイントに連動します。
- 1) ライブビューウィンドウを右クリックし、**[アクセスコントロールポイントへの連動]**を選択して、連動済みアクセスコントロールポイントの設定ウィンドウを開きます。
 - 2) **[有効化]**にチェックを入れて、リンケージを有効にします。
 - 3) ドロップダウンリストからアクセスコントロールポイントを選択します。
 - 4) **[OK]**をクリックします。



1 台のカメラを 1 つのアクセスコントロールポイントのみに連動可能です。異なるカメラを同じアクセスコントロールポイントに連動させることができます。

3. カメラのライブビューを再開して、設定を有効にします。
ライブビュー中に、4つのドア制御ボタンがツールバーに表示されます。
4. ドアを開けたり、閉じたり、開けたままにしたり、閉じたままにするには、
をクリックして制御します。

16.12 E マップ上にアクセスコントロールポイントを表示する

E マップ上にアクセスコントロールポイントを追加できます。アクセスコントロールポイントのアラームがトリガーすると、E マップでアラーム通知を表示したり、アラームの詳細を確認したり、ドアを制御したりできます。

E マップにアクセスコントロールポイントをホットスポットとして表示する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

注記

- ビデオアクセスコントロール端末の場合、カメラを E マップに追加して、カメラのライブビューを表示させることもできます。
- E マップの詳しい操作については、「**マップの管理**」を参照してください。

1. E マップモジュールにアクセスします。
2. E マップツールバーの**[編集]**をクリックして、マップ編集モードにアクセスします。
3. ツールバーのをクリックして、ホットスポットを追加するウィンドウを開きます。
4. ホットスポットとして追加するアクセスコントロールポイントを選択します。
5. **オプション**: ホットスポットの名前を編集し、名前の色を選択し、対応するフィールドをダブルクリックしてホットスポットアイコンを選択します。
6. **[OK]**をクリックします。
ドアのアイコンがホットスポットとしてマップに追加され、追加されたアクセスコントロールポイントのアイコンがグループリスト内でからに変わります。アクセスコントロールポイントのアイコンをクリックアンドドラッグして、ホットスポットを目的の場所に移動できます。
7. ホットスポットとしてマップにアクセスコントロールポイントを追加した後は、アクセスコントロールポイントを制御し、トリガーしたアラームを表示させることができます。
 - 1) E マップツールバーの**[編集モードの終了]**をクリックして、マッププレビューモードにアクセスします。
 - 2) アクセスコントロールポイントを制御するには、マップ上の制御ポイントのアイコンを右クリックし、**[ドアを開く]**、**[ドアを閉じる]**、**[開いたままにする]**、**[閉じたままにする]**をクリックして、ドアを制御します。

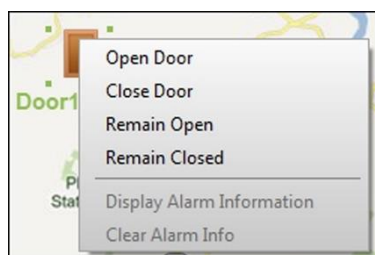


図 16-8 マップ上のアクセスコントロールポイントの制御

- 3) オプション：アラームがトリガーすると、アイコンが表示されてホットスポットの近くで点滅します（10 秒間点滅）。アラームアイコンをクリックして、アラームのタイプやトリガー時間を含むアラーム情報を確認します。

 注記

マップ上にアラーム情報を表示するには、アラームのリンケージアクションとして E マップ上に表示を設定する必要があります。詳細については、「[アクセスコントロールアラームのクライアントリンケージを設定する](#)」を参照してください。

第 17 章 勤怠管理

勤怠管理モジュールには、従業員がいつ仕事を開始したり終了したりするかを追跡・監視するための複数の機能、遅刻、早退、休憩時間、欠勤などの従業員の勤務時間を完全に制御する機能があります。

17.1 シフトスケジュールを管理する

シフト勤務とは、毎日 24 時間態勢で行われるように計画された雇用慣行です。実際には、その日をシフトに分割し、異なるシフトが職務を実行する時間帯を設定します。

部署のスケジュール、個人のスケジュール、一時的なスケジュールを設定できます。

17.1.1 時間帯を追加する

シフトスケジュールの時間帯を追加できます。時間帯を追加する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. 勤怠管理モジュールを入力し、**[シフトスケジュール管理]**タブをクリックします。
2. **[シフト設定]**→**[時間帯の設定]**の順にクリックして、時間帯の設定ウィンドウにアクセスします。
3. **[追加]**をクリックして、時間帯の追加ページにアクセスします。
4. 時間帯に関連するパラメータを設定します。

最低出勤時間

最小出勤時間を設定します。



注記

作業開始チェックポイントと作業終了チェックポイントとして異なるカードリーダーを設定している場合、**[欠勤時間を有効勤務時間に含めない]**にチェックを入れて勤務時間から欠勤時間を除外することができます。

チェックイン/チェックアウトが必要

チェックボックスを選択してチェックインおよびチェックアウトの有効期間を設定します。

遅刻としてマーク/早退としてマーク

遅刻または早退の時間帯を設定します。

作業時間から休憩時間を除外する

チェックボックスを選択して、除外する休憩時間を設定します。



注記

最大 3 つの休憩時間を設定できます。

時間給期間として設定

チェックボックスを選択して、賃金率と最小時間単位を設定します。

5. [保存]をクリックします。

追加された期間がウィンドウの左側のパネルに表示されます。

17.1.2 シフトを追加する

シフトスケジュールにシフトを追加できます。

開始前

最初に期間を追加します。詳細については、「**時間帯を追加する**」を参照してください。

シフトを追加する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. 勤怠管理モジュールにアクセスします。
2. [シフトスケジュール管理]→[シフト設定]→[シフト]の順にクリックして、シフト設定のウィンドウにアクセスします。
3. [追加]をクリックして、シフトを追加するのページにアクセスします。
4. シフト名を入力します。
5. ドロップダウンリストからシフトの時間帯を選択します。
6. 追加した時間帯を選択し、時間バーをクリックして時間帯を適用します。
7. [保存]をクリックします。

追加されたシフトがウィンドウの左側のパネルに表示されます。

17.1.3 部署のスケジュールを設定する

1 つの部署にシフトスケジュールを設定すると、その部署の全員にシフトスケジュールが割り当てられます。

開始前

勤怠管理モジュールにおいて、部署リストはアクセス制御モジュールの組織と同じです。最初にアクセスコントロールモジュールに部署と個人を追加する必要があります。詳細については、

「**組織を管理する**」および「**個人情報管理する**」を参照してください。

部署のスケジュールを設定する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. [勤怠管理]→[シフトスケジュール管理]の順にクリックして、シフトスケジュール管理ページにアクセスします。

2. 部署をクリックして**[部署のスケジュール]**をクリックすると、部署のスケジュールウィンドウがポップアップ表示されます。
 3. **[勤怠管理]**にチェックを入れます。
出勤から除外された人物を除く部署内の全員が、出勤スケジュールに適用されます。
 4. ドロップダウンリストからシフトを選択します。
 5. 開始日時と終了日時を設定します。
 6. チェックイン不要、チェックアウト不要、休日に有効、時間外に有効、または複数のシフトスケジュールに有効など、スケジュールに関するその他のパラメータを設定します。
-

注記

[複数のシフトスケジュールに有効]にチェックを入れた後、部門内の個人に対して追加時間帯から有効時間帯を選択できます。

複数のシフトスケジュール

複数の時間帯が含まれています。該当する個人はどの時間帯にもチェックイン/チェックアウトすることができ、出勤は有効になります。
複数のシフトスケジュールに 3 つの時間帯が含まれる場合：00:00 から 07:00、08:00 から 15:00、そして 16:00 から 23:00 です。この複数のシフトスケジュールを適用している人物の出勤は、3 つの時間帯のいずれにおいても有効になります。該当する人物が 07:50 にチェックインすると、その人の出勤に最も近い 08:00 から 15:00 の時間帯が適用されます。

7. オプション：**[部門内の全員に対してデフォルトとして設定]**にチェックを入れます。
部門内の全員がデフォルトでこのシフトスケジュールを使用します。
8. オプション：選択した部署に下位部署が含まれている場合、**[すべての下位部署のシフトスケジュールとして設定]**にチェックを入れると、部署のスケジュールをその下位部署に適用することができます。
9. **[保存]**をクリックします。

17.1.4 個人のスケジュールを設定する

シフトスケジュールを 1 名の個人に割り当てることができます。個人のスケジュールの詳細を表示およびエクスポートすることもできます。

開始前

アクセスコントロールモジュールに部署と個人を追加します。詳細については、「**組織を管理する**」と「**個人情報を追加する**」を参照してください。

個人のスケジュールを設定する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. 勤怠管理モジュールにアクセスします。
2. **[シフトスケジュール管理]**をクリックして、シフトスケジュール管理のページにアクセスします。

3. 部署を選択して1名の個人を選択します。
4. **[個人のスケジュール]**をクリックして、個人のスケジュールのウィンドウをポップアップ表示させます。
5. **[勤怠管理]**にチェックを入れます。
設定した個人に出勤スケジュールが適用されます。
6. ドロップダウンリストからシフトを選択します。
7. 開始日時と終了日時を設定します。
8. チェックイン不要、チェックアウト不要、休日に有効、時間外に有効、または複数のシフトスケジュールに有効など、スケジュールに関するその他のパラメータを設定します。



注記

[複数のシフトスケジュールに有効]にチェックを入れた後、部門内の個人に対して追加時間帯から有効時間帯を選択できます。

複数のシフトスケジュール

複数の時間帯が含まれています。該当する個人はどの時間帯にもチェックイン/チェックアウトすることができ、出勤は有効になります。

複数のシフトスケジュールに3つの時間帯が含まれる場合：00:00 から 07:00、08:00 から 15:00、そして 16:00 から 23:00 です。この複数のシフトスケジュールを適用している人物の出勤は、3つの時間帯のいずれにおいても有効になります。該当する人物が 07:50 にチェックインすると、その人の出勤に最も近い 08:00 から 15:00 の時間帯が適用されます。

9. **[保存]**をクリックします。

17.1.5 一時的なスケジュールを設定する

該当する個人に対して一時的なスケジュールを追加することができ、その人物には一時的にシフトスケジュールが割り当てられます。一時的なスケジュールの詳細を表示およびエクスポートすることもできます。

開始前

アクセスコントロールモジュールに部署と個人を追加し、その人物の出勤ルールを設定します。

詳細については、「**組織を管理する**」および「**個人情報管理する**」を参照してください。

一時的なスケジュールを設定する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順



注記

一時的なスケジュールは、部署のスケジュールおよび個人のスケジュールよりも優先度が高くなります。

1. 勤怠管理モジュールにアクセスします。
2. **[シフトスケジュール管理]**タブをクリックして、シフトスケジュール管理のページにアクセスします。
3. 部署を選択して1名の個人を選択します。
4. **[一時的なスケジュール]**をクリックして、一時的なスケジュールのウィンドウをポップアップ表示させます。
5. をクリックして、シフト日を設定します。
6. 時間帯を選択します。
7. 時間バーをクリックして、選択した日程の期間を適用させます。
8. オプション：**[高度な設定]**をクリックして、一時的なスケジュールの詳細な出勤ルールを選択します。
9. **[追加]**をクリックします。

17.1.6シフトスケジュールを確認および編集する

シフトスケジュールの詳細を確認し、スケジュールを編集することができます。シフトスケジュールを確認および編集する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. 勤怠管理モジュールにアクセスします。
2. **[シフトスケジュール管理]**タブをクリックして、シフトスケジュール管理のページにアクセスします。
3. 部署および関連する個人（複数可）を選択します。
4. **[表示]**をクリックして、シフトスケジュールの詳細ウィンドウを開きます。
シフトスケジュールの詳細が表示されます。
5. 通常のスケジュールの詳細を編集します。
 - 1) **[通常のスケジュール]**タブをクリックします。
 - 2) ドロップダウンリストからシフトを選択します。
 - 3) **[出勤ルールの設定]**をクリックして、出勤ルールの設定ウィンドウを開きます。
 - 4) 必要に応じて出勤ルールを選択し、**[OK]**をクリックします。
 - 5) をクリックして、有効日を設定します。
 - 6) **[保存]**をクリックします。
6. オプション：**[一時的なスケジュール]**をクリックして、以下のいずれかの操作を行います。

追加 選択した人物の一時的なスケジュールを追加します。



時間帯を編集します。



一時的なスケジュールを削除します。

17.2 チェックイン/アウトの記録を手動で修正する

出勤ステータスが正しくない場合、チェックインまたはチェックアウトの記録を手動で修正することができます。チェックインまたはチェックアウトの記録を編集、削除、検索またはエクスポートすることも可能です。

開始前

- アクセスコントロールモジュールに組織と個人を追加する必要があります。詳細については、「**組織を管理する**」および「**個人情報を管理する**」を参照してください。
- 個人の出勤ステータスが正しくない場合。

チェックインまたはチェックアウト記録を修正するには、次の手順を実行します。

手順

1. 勤怠管理モジュールにアクセスします。
2. **[出勤処理]**→**[チェックイン/チェックアウトの修正]**の順にクリックして、修正のページにアクセスします。
3. **[追加]**をクリックして、チェックイン/チェックアウトの修正の追加ウィンドウにアクセスします。
4. チェックイン/チェックアウトの修正パラメータを設定します。
 - **[チェックイン]**にチェックを入れて、実際の作業開始時間を設定します。
 - **[チェックアウト]**にチェックを入れて、実際の作業終了時間を設定します。
5. **[従業員名]**フィールドをクリックして、修正する個人を選択します。
6. オプション：必要に応じて、備考情報を入力します。
7. **[追加]**をクリックします。
8. オプション：チェックイン/アウトの修正を追加した後、次の操作のいずれかを実行します。

検索 検索条件を設定して、修正を検索します。

変更 選択したチェックイン/チェックアウト修正を編集します。

削除 選択したチェックイン/チェックアウト修正を削除します。

レポート チェックイン/チェックアウト修正レポートを生成して表示します。

エクスポート チェックイン/チェックアウト修正の詳細をローカル PC にエクスポートします。



注記

エクスポートされた詳細は CSV 形式で保存されます。

17.3 休暇と出張の追加

従業員が休暇を申請したり出張に行ったりするときに、休暇および出張申請書を追加できます。

開始前

アクセスコントロールモジュールに組織と個人を追加する必要があります。詳細については、「**組織を管理する**」および「**個人情報管理する**」を参照してください。

休暇申請または出張申請を追加する場合は、次の手順を実行してください。

手順

1. 勤怠管理モジュールにアクセスします。
2. **[出勤処理]**→**[休暇および出張]**の順にクリックして、休暇および出張のページを開きます。
アクセスします。
3. **[追加]**をクリックして、休暇および出張申請の追加ウィンドウを開きます。
4. ドロップダウンリストから休暇および出張のタイプを選択します。



注記

高度な設定で休暇のタイプを設定することができます。詳細については、「**休暇のタイプを設定する**」を参照してください。

5. をクリックして、休暇または出張の期間を設定します。
6. **[従業員名]**フィールドをクリックし、個人の追加ポップアップウィンドウで申請担当者を表示されます。
7. オプション：必要に応じて、備考情報を入力します。
8. **[追加]**をクリックします。
追加された休暇および出張が、休暇および出張ページに表示されます。
9. オプション：休暇および出張申請を追加した後、次の操作のいずれかを実行します。

変更 休暇および出張を選択し、**[変更]**をクリックして休暇および出張申請を編集します。

削除 休暇および出張を選択し、**[削除]**をクリックして休暇および出張申請を削除します。

レポート **[レポート]**をクリックして、休暇または出張レポートを生成します。

エクスポート **[エクスポート]**をクリックして、休暇または出張の詳細をローカル PC にエクスポートします。



注記

エクスポートされた詳細は **CSV** 形式で保存されます。

17.4 出勤データを計算する

出勤データ、従業員の詳細な出勤データ、従業員の変則出勤データ、従業員の時間外勤務データ、カードスワイプのログの概要を検索および表示する前に、出勤データを計算する必要があります。

17.4.1 出勤データを自動で計算する

毎日設定した時刻にクライアントが自動的に出勤データを計算できるようにスケジュールを設定することができます。

クライアントに出勤データを自動で計算させる時間を設定する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

注記

前日までの出勤データが計算されます。

1. 勤怠管理モジュールにアクセスします。
2. **[出勤処理]**→**[出勤計算]**の順にクリックして、出勤記録計算のページを開きます。
3. 出勤の自動計算パネルで、クライアントが毎日データを計算する時間を設定します。
4. **[保存]**をクリックします。

17.4.2 出勤データを手動で計算する

データ範囲を設定して、出勤データを手動で計算できます。出勤データを手動で計算するには、次の手順を実行してください。

手順

1. 勤怠管理モジュールにアクセスします。
2. **[出勤処理]**→**[出勤計算]**の順にクリックして、出勤記録計算のページを開きます。
3. 出勤の手動計算パネルで、開始時間と終了時間を設定して出勤データの範囲を定義します。
4. **[計算する]**をクリックします。

注記

これは 3 か月以内の出勤データを計算することができます。

17.5 高度な設定を構成する

出勤の基本設定、出勤ルールの設定、出勤チェックポイントの設定、休日設定および休暇タイプの設定など、出勤の高度な設定を構成できます。

17.5.1 基本パラメータを設定する

毎週の開始日、毎月の開始日、休業日など出勤の基本パラメータを設定できます。

出勤の基本パラメータを設定するには、次の手順を実行します。

手順

1. 勤怠管理モジュールにアクセスします。
2. **[詳細設定]**→**[基本設定]**の順にクリックして、基本設定のページにアクセスします。
3. ドロップダウンリストから、毎週の開始日と毎月の開始日を設定します。
4. 休業日の設定をします。

休業日として設定

チェックボックスを選択して、日付を休業日として設定します。

休業日の色をレポートに設定する

色の選択ウィンドウから色を選択します。レポート内の休業日が設定された色としてマークされます。

休業日のマークをレポートに設定する

マークを入力すると、レポートの休業日フィールドにマークが表示されます。

5. 認証タイプを設定します。これは、選択した認証タイプに基づいて記録された出勤データをクライアントが計算することを意味します。
6. **[保存]**をクリックします。

17.5.2 出勤ルールを設定する

シフトを設定する前に、すべてのシフトに対して出勤ルールを設定できます。出勤/欠勤、チェックイン/チェックアウトおよび時間外勤務に関するルールを設定することができます。

出勤ルールを設定するには、次の手順を実行します。

手順



注記

ここで設定したパラメータは、新しく追加された時間帯のデフォルトとして設定されます。既存のものには影響しません。

1. 勤怠管理モジュールにアクセスします。
2. **[詳細設定]**→**[出勤ルール設定]**の順にクリックして、出勤ルール設定のページにアクセスします。
3. 出勤/欠勤パラメータ、チェックイン/チェックアウトパラメータおよび時間外勤務パラメータを含むルールパラメータを設定します。
4. オプション：**[規定外労働日]**にチェックを入れ、休業日の時間外勤務ルールを設定します。
5. **[保存]**をクリックします。

17.5.3 出勤チェックポイントを設定する

アクセスコントロールポイントのカードリーダーを出勤チェックポイントとして設定し、カードリーダーでスワイプするカードが出勤に対して有効にさせることができます。

開始前

出勤チェックポイントを設定する前に、アクセスコントロールデバイスを追加する必要があります。詳細については、

「**デバイスを追加する**」を参照してください。

次の手順を実行して、アクセスコントロールポイントのカードリーダーを出勤チェックポイントとして設定します。

手順

注記

デフォルトでは、追加されたアクセスコントロールデバイスのすべてのカードリーダーが出勤チェックポイントとして設定されています。

1. 勤怠管理モジュールにアクセスします。
2. **[詳細設定]**→**[出勤チェックポイントの設定]**の順にクリックして、出勤チェックポイントの設定のページにアクセスします。
3. オプション: **[チェックポイントとしてすべてのカードリーダーを設定する]**のチェックを外します。
リスト内のカードリーダーのみが出勤チェックポイントとして設定されます。
4.  をクリックして、出勤チェックポイントの追加ウィンドウにアクセスします。
5. 関連するパラメータの設定を行います。

チェックポイント名

チェックポイント名をカスタマイズします。

カードリーダー

出勤チェックポイントとして、ドロップダウンリストからカードリーダーを選択します。

チェックポイント機能

ドロップダウンリストからチェックポイント機能を選択します。チェックポイントを作業開始/終了チェックポイント、作業開始チェックポイント、または作業終了チェックポイントとして設定することができます。

ドアの場所

ドアの場所の名前を入力します。

チェックポイントの説明

必要に応じて、チェックポイントの説明を入力します。

6. **[追加]**をクリックします。

追加した出勤チェックポイントがリストに表示されます。

7. オプション：出勤チェックポイントを追加した後、以下のいずれかの操作を行います。

-  出勤チェックポイント情報を編集します。
-  リストから出勤チェックポイントを削除します。

17.5.4 休日を設定する

チェックインまたはチェックアウト機能が無効になる休日を追加できます。

指定日で休日を追加する

一度だけ有効になる休日を設定できます。指定日で休日を設定したい場合は、この作業を実行してください。

手順

1. 勤怠管理モジュールにアクセスします。
2. [高度な設定]→[休日設定]の順にクリックして、休日設定ページにアクセスします。
3.  をクリックして、休日の追加ウィンドウをポップアップ表示させます。
4. [指定日]タブをクリックします。

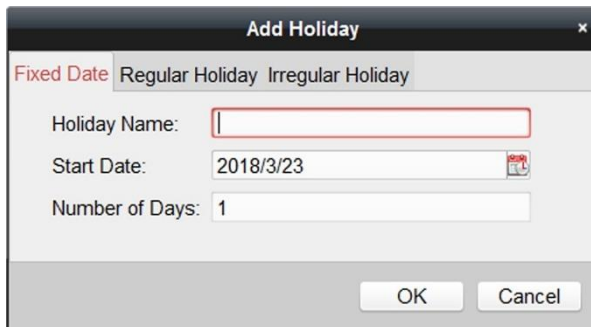
The image shows a dialog box titled "Add Holiday" with a close button (X) in the top right corner. It has three tabs: "Fixed Date" (selected), "Regular Holiday", and "Irregular Holiday". Under the "Fixed Date" tab, there are three input fields: "Holiday Name:" with an empty text box, "Start Date:" with the date "2018/3/23" and a calendar icon, and "Number of Days:" with the value "1". At the bottom right, there are "OK" and "Cancel" buttons.

図 17-1 指定日で休日を追加

5. 休日名をカスタマイズします。
6. 開始日を休日の初日に設定します。
7. 休日の日数を設定します。
8. オプション：休日を追加した後、以下のいずれかの操作を行います。

-  休日情報を編集します。
-  休日リストから休日を削除します。

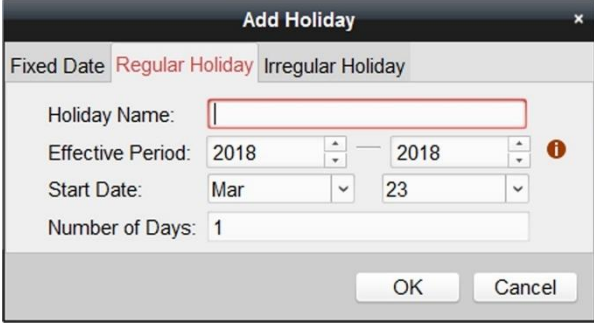
定休日を追加する

元旦、独立記念日、クリスマスなど、有効期間中の平日に毎年有効になる休日を設定できます。

定休日を追加する必要があるときに、この作業を実行してください。

手順

1. 勤怠管理モジュールにアクセスします。
2. [高度な設定]→[休日設定]の順にクリックして、休日設定ページにアクセスします。
3. をクリックして、休日の追加ウィンドウをポップアップ表示させます。
4. [定休日]タブをクリックします。



The image shows a dialog box titled "Add Holiday". It has three tabs: "Fixed Date", "Regular Holiday" (which is selected and highlighted in red), and "Irregular Holiday". The "Regular Holiday" tab contains the following fields: "Holiday Name:" with an empty text box; "Effective Period:" with two year dropdowns, both set to "2018"; "Start Date:" with a month dropdown set to "Mar" and a day dropdown set to "23"; and "Number of Days:" with a text box set to "1". There is a red border around the "Holiday Name" field and a red "i" icon next to the "Effective Period" year dropdowns. At the bottom right are "OK" and "Cancel" buttons.

図 17-2 定休日の追加

5. 休日のパラメータを設定します。

開始日

休日の初日。

有効期間

休日の開始日が有効になる年数。例えば、休日の有効期間が 2018 年から 2019 年に設定され、開始日が 12 月 31 日で日数が 3 に設定されている場合、休日は 2018 年 12 月 31 日から 2019 年 1 月 2 日まで、2019 年 12 月 31 日から 2020 年 1 月 2 日までとなります。

6. [OK]をクリックします。
7. オプション：休日を追加した後、以下のいずれかの操作を行います。

-  休日情報を編集します。
-  休日リストから休日を削除します。

不定休を追加する

祭日など、有効期間中の不規則な日に毎年有効になる休日を設定することができます。不定休を追加する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. 勤怠管理モジュールにアクセスします。
2. [高度な設定]→[休日設定]の順にクリックして、休日設定ページにアクセスします。
3. をクリックして、休日の追加ウィンドウをポップアップ表示させます。
4. [不定休]タブをクリックします。

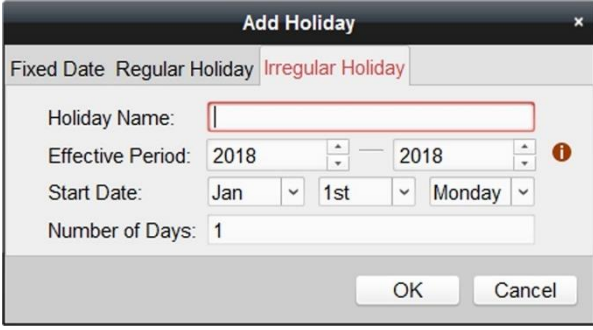


図 17-3 不定休の追加

5. 休日のパラメータを設定します。

開始日

休日の初日。

有効期間

休日の開始日が有効になる年数。例えば、休日の有効期間が **2018 年から 2019 年** に設定され、開始日が **12 月 31 日** で日数が **3** に設定されている場合、休日は **2018 年 12 月 31 日から 2019 年 1 月 2 日まで** および **2019 年 12 月 31 日から 2020 年 1 月 2 日まで** となります。



注記

ある休日が 2 年および有効期間をまたぐ場合

6. [OK]をクリックします。

7. オプション：休日を追加した後、以下のいずれかの操作を行います。

-  休日情報を編集します。
-  休日リストから休日を削除します。

17.5.5 休暇のタイプを設定する

実際のニーズに応じて、休暇のタイプをカスタマイズできます。デフォルトでは、**3 つ** のメジャー休暇タイプがあります。休暇、代休および出張。

休暇のタイプを追加、編集、または削除する場合は、次の手順を実行してください。

手順

1. 勤怠管理モジュールにアクセスします。
2. **[高度な設定]→[休暇タイプの設定]**の順にクリックして、休暇タイプの設定ページにアクセスします。
3.  をクリックして、左側のパネルにメジャー休暇タイプを追加します。
4. オプション：メジャー休暇については、次の操作のいずれかを実行してください。
 -  メジャー休暇を編集します。
 -  メジャー休暇を削除します。

5.  をクリックして、右側のパネルにマイナー休暇タイプを追加します。
6. オプション：メジャー休暇については、次の操作のいずれかを実行してください。
 -  マイナー休暇タイプを編集します。
 -  マイナー休暇タイプを削除します。

17.6 出勤レポートを表示する

出勤データを計算した後、計算された出勤データに基づいて出勤の概要、出勤の詳細、変則出勤、時間外勤務、カードスワイプのログおよびレポートを確認することができます。

17.6.1 従業員の出勤データの概要を把握する

ある期間における従業員の必要な出勤時間、実際の出勤時間、遅刻の時間、早退時間、欠勤の時間、時間外勤務時間、休暇時間などを検索して、従業員の出席データの概要を取得することができます。

開始前

- アクセスコントロールモジュールに組織と個人を追加し、該当する人物はスワイプするカードを所有していなければなりません。詳細については、「**組織を管理する**」および「**個人情報管理する**」を参照してください。
- 出勤データを計算します。

注記

- ・ クライアントは、翌日の午前 1 時に前日の出勤データを自動的に計算します。
- ・ 午前 1 時にクライアントを実行し続けると、前日の出勤データを自動で計算することはできません。自動的に計算されない場合は、出勤データを手動で計算することができます。詳細については、「**出勤データを手動で計算する**」を参照してください。

ある期間内の従業員の全出勤データを検索するには、次の手順を実行します。

手順

1. 勤怠管理モジュールにアクセスします。
2. **[出勤統計]**→**[出勤の概要]**の順にクリックして、出勤の概要ページにアクセスします。
3. ドロップダウンリストから部署を選択します。
4. オプション：検索する個人の名前を入力します。
5. 検索したい出勤開始日と終了日を選択します。
6. オプション：**[リセット]**をクリックしてすべての検索条件をリセットし、検索条件をもう一度編集します。
7. **[検索]**をクリックします。

結果がページに表示されます。従業員の必要な出勤時間、実際の出勤時間、遅刻の時間、早退時間、欠勤の時間、時間外勤務時間、休暇時間などを見ることができます。
8. オプション：結果を検索した後、以下のいずれかの操作を行います。

レポート出勤レポートを生成します。

エクスポート結果をローカル PC にエクスポートします。

17.6.2 従業員の詳細な出勤データを検索する

出勤日、該当するシフト、時間帯、作業開始ステータス、作業終了ステータス、チェックイン時間、チェックアウト時間、遅番、早退時間、出勤期間、欠勤期間、休暇期間および時間外勤務期間など、従業員のすべての出勤データを詳細に検索することができます。

開始前

- アクセスコントロールモジュールに組織と個人を追加し、該当する人物はスワイプするカードを所有していなければなりません。詳細については、「**組織を管理する**」および「**個人情報管理する**」を参照してください。
- 出勤データを計算します。

注記

- ・ クライアントは、翌日の午前 1 時に前日の出勤データを自動的に計算します。
 - ・ 午前 1 時にクライアントを実行し続けると、前日の出勤データを自動で計算することはできません。自動的に計算されない場合は、出勤データを手動で計算することができます。詳細については、「**出勤データを手動で計算する**」を参照してください。
-

従業員の詳細な出勤データを検索するには、次の手順を実行してください。

手順

1. 勤怠管理モジュールにアクセスします。
2. **[出勤統計→出勤の詳細]**の順にクリックして、出勤の詳細ページにアクセスします。
3. ドロップダウンリストから部署を選択します。
4. オプション：検索する個人の名前を入力します。
5. 検索したい出勤開始日と終了日を選択します。
6. オプション：検索したい出勤ステータスを確認します。
7. オプション：**[リセット]**をクリックしてすべての検索条件をリセットし、検索条件をもう一度編集します。
8. **[検索]**をクリックします。

出勤の詳細情報が以下に表示されます。出勤日、個人の該当するシフト、時間帯、作業開始ステータス、作業終了ステータス、チェックイン時間、チェックアウト時間、遅番、早退時間、出勤期間、欠勤期間、休暇期間および時間外勤務期間を見ることができます。

9. オプション：結果を検索した後、以下のいずれかの操作を行います。

レポート出勤レポートを生成します。

エクスポート結果をローカル PC にエクスポートします。

17.6.3 従業員の変則出勤データを検索する

従業員番号、氏名および部署、出勤の変則タイプ、開始/終了時刻を含む従業員の変則出勤データの統計を検索して取得できます。

開始前

- アクセスコントロールモジュールに組織と個人を追加し、該当する人物はスワイプするカードを所有していなければなりません。詳細については、「**組織を管理する**」および「**個人情報を管理する**」を参照してください。
- 出勤データを計算します。

注記

- ・ クライアントは、翌日の午前 1 時に前日の出勤データを自動的に計算します。
- ・ 午前 1 時にクライアントを実行し続けると、前日の出勤データを自動で計算することはできません。自動的に計算されない場合は、出勤データを手動で計算することができます。詳細については、「**出勤データを手動で計算する**」を参照してください。

従業員の変則出勤データを検索するには、次の手順を実行してください。

手順

1. 勤怠管理モジュールにアクセスします。
2. **[出勤統計]**→**[変則出勤]**の順にクリックして、変則出勤のページにアクセスします。
3. ドロップダウンリストから部署を選択します。
4. オプション：検索する個人の名前を入力します。
5. 検索したい出勤開始日と終了日を選択します。
6. オプション：**[リセット]**をクリックしてすべての検索条件をリセットし、検索条件をもう一度編集します。
7. **[検索]**をクリックします。
結果が下部に表示されます。従業員番号、氏名、所属部署、変則タイプ、変則開始時刻、変則終了時刻、変則日付を見ることができます。
8. オプション：結果を検索した後、以下のいずれかの操作を行います。

レポート出勤レポートを生成します。

エクスポート結果をローカル PC にエクスポートします。

17.6.4 従業員の時間外勤務データを検索する

指定した期間内に選択した従業員の時間外勤務ステータス統計を検索して取得することができます。従業員番号、氏名および部署、出勤日、時間外勤務の時間および時間外勤務のタイプを含む詳細な時間外勤務情報を確認することができます。

開始前

- アクセスコントロールモジュールに組織と個人を追加し、該当する人物はスワイプするカードを所有していなければなりません。詳細については、「**組織を管理する**」および「**個人情報を管理する**」を参照してください。

- 出勤データを計算します。

注記

- ・ クライアントは、翌日の午前 1 時に前日の出勤データを自動的に計算します。
 - ・ 午前 1 時にクライアントを実行し続けると、前日の出勤データを自動で計算することはできません。自動的に計算されない場合は、出勤データを手動で計算することができます。詳細については、「**出勤データを手動で計算する**」を参照してください。
-

時間外勤務データを検索するには、次の手順を実行してください。

手順

1. 勤怠管理モジュールにアクセスします。
2. **[出勤統計]**→**[時間外勤務の検索]**の順にクリックして、時間外勤務の検索ページにアクセスします。
3. ドロップダウンリストから部署を選択します。
4. オプション：検索する個人の名前を入力します。
5. 検索したい出勤開始日と終了日を選択します。
6. オプション：**[リセット]**をクリックしてすべての検索条件をリセットし、検索条件をもう一度編集します。
7. **[検索]**をクリックします。

時間外勤務の詳細情報が下部に表示されます。従業員番号、個人名、個人の所属部署、時間外勤務日、時間外勤務時間、および時間外勤務のタイプを見ることができます。

8. オプション：結果を検索した後、以下のいずれかの操作を行います。

レポート出勤レポートを生成します。

エクスポート結果をローカル PC にエクスポートします。

17.6.5 従業員のカードスワイプログを確認する

従業員のカードスワイプ詳細を確認したい場合は、従業員のカードスワイプログを検索して表示させることができます。

開始前

- アクセスコントロールモジュールに組織と個人を追加し、該当する人物はスワイプするカードを所有していなければなりません。詳細については、「**組織を管理する**」および「**個人情報管理する**」を参照してください。
- 出勤データを計算します。

注記

- ・ クライアントは、翌日の午前 1 時に前日の出勤データを自動的に計算します。
 - ・ 午前 1 時にクライアントを実行し続けると、前日の出勤データを自動で計算することはできません。自動的に計算されない場合は、出勤データを手動で計算することができます。詳細については、「**出勤データを手動で計算する**」を参照してください。
-

次の手順を実行して、ビューカードのスワイプログを検索します。

手順

1. 勤怠管理モジュールにアクセスします。
2. **[出勤統計]**→**[カードスワイプのログ]**の順にクリックして、カードスワイプのログページにアクセスします。
3. 従業員の部署、従業員の氏名または出勤日を含む検索条件を設定します。
4. オプション：リセットをクリックして、すべての検索条件をリセットします。
5. **[検索]**をクリックします。

このページに検索結果が表示されます。

従業員番号、従業員の氏名、部署、時間、認証モードおよびカード番号などの検索詳細を見ることができます。

6. オプション：カードスワイプのログを検索および表示した後、以下のいずれかの操作を行います。

レポート出勤レポートを生成します。

エクスポート結果をローカル PC にエクスポートします。

17.6.6 出勤レポートを生成する

出勤データが計算されたら、特定の期間における従業員の出勤ステータスを示すレポートを生成することができます。

インスタントレポートを生成する

従業員の出勤結果を表示するために、一連の出勤レポートの手動での作成に対応しています。

開始前

出勤データを計算します。



注記

出勤データを手動で計算したり、またはクライアントが毎日自動でデータを計算できるようにスケジュールを設定したりすることも可能です。詳細については、「**出勤データを計算する**」を参照してください。

出勤レポートを即座に生成するには、次の手順を実行してください。

手順

1. 勤怠管理モジュールにアクセスします。
2. **[出勤統計]**→**[レポート]**の順にクリックして、レポートのページにアクセスします。
3. インスタントレポートパネルで、ドロップダウンリストからレポートタイプを選択します。
4. 個人または部署を選択します。
5. 出勤データがレポートに表示される期間を設定します。
6. **[生成]**をクリックします。

定期レポートを設定する

これは5つのレポートタイプに対応し、レポート内容を事前に定義することができ、設定したメールアドレスに自動でレポートを送信します。

定期レポートを設定したい場合は、この作業を実行してください。

手順

注記

自動送信メール機能を有効にする前に、メールパラメータを設定します。詳細については、「**メールのパラメータを設定する**」を参照してください。

1. 勤怠管理モジュールにアクセスします。
2. **[出勤統計]**→**[レポート]**の順にクリックして、レポートのページにアクセスします。
3. 定期レポートパネルで、**[追加]**をクリックしてレポートを事前定義し、レポート内容を設定します。
4. レポート内容を設定します。

個人

追加した個人（複数可）を選択し、をクリックしてその人を追加します。

5. オプション：レポートをメールアドレスに自動的に送信するようにスケジュールを設定します。
 - 1) **[メールの自動送信]**スイッチをオンに設定して、この機能を有効にします。
 - 2) 選択した送信日にクライアントがレポートを送信する有効期間を設定します。
 - 3) クライアントがレポートを送信する日付を選択します。
 - 4) クライアントがレポートを送信する時刻を設定します。

例

有効期間を **2018 年 3 月 10 日から 2018 年 4 月 10 日** に設定し、送信日として **金曜日** を選択し、送信時刻を **20:00:00** に設定すると、クライアントは **2018 年 3 月 10 日から 2018 年 4 月 10 日の間の金曜日の午後 8 時** にレポートを送信します。

注記

出勤記録が送信時刻前に計算されていることを確認してください。出勤データを手動で計算したり、またはクライアントが毎日自動でデータを計算できるようにスケジュールを設定したりすることも可能です。詳細については、「**出勤データを計算する**」を参照してください。

- 5) 受信者のメールアドレスを入力します。

注記

 をクリックして、新しいメールアドレスを追加することができます。5 つまでのメールアドレスが許可されています。

6. **[保存]**をクリックします。
7. オプション：定期レポートの追加後、次の操作を 1 つ以上実行できます：

- レポートの変更** 追加したレポートを 1 つ選択し、**[変更]**をクリックして設定を編集します。
- レポートの削除** 追加したレポートを 1 つ選択し、**[削除]**をクリックしてこれを削除します。
- レポートの生成** 追加したレポートを 1 つ選択して**[生成]**をクリックすると、レポートが即座に生成され、レポートの詳細を表示できます。

第 18 章 ビデオインターコム

クライアントは、追加されたビデオインターコムデバイスによるビデオインターコム、通話記録の確認、居住者への通知の送信などのビデオインターコム機能を提供します。

デバイスをクライアントに追加して、アクセスコントロールモジュールでそのデバイスを連動するように個人を設定します。

注記

- 最大 16 個のドアステーションを追加でき、最大 512 個の屋内ステーションまたはマスターステーションを追加できます。ビデオインターコムの追加に関する詳細については、「**デバイスを追加する**」を参照してください。
 - アクセスコントロールモジュールで個人を設定する詳細については、以下を参照してください。
-

18.1 クライアントソフトウェアと屋内ステーション/ドアステーション間の通話を管理する

クライアントソフトウェアを介して居住者に電話をかけることが可能であり、また居住者は屋内ステーションやドアステーションを介してクライアントソフトウェアを呼び出すこともできます。

18.1.1 クライアントから屋内ステーションに電話をかける

クライアントを介して追加した屋内ステーションに電話をかけてビデオインターコムを実行することができます。クライアントを介して屋内ステーションに電話をかけたい場合は、この作業を実行してください。

手順

注記

- 1 つの屋内ステーションが接続できるのは、1 つのクライアントソフトウェアのみです。
 - 屋内ステーションのリモート設定を介して、15 秒～60 秒の範囲までの最大呼出時間と 120 秒～600 秒の範囲までの最大通話時間を設定することができます。
-

1. [アクセスコントロール]→[ビデオインターコム]ページにアクセスします。
 2. 左側のパネルで組織リストを開き、居住者グループを選択します。
選択したグループ内の全居住者の氏名、連動先のデバイス名およびデバイス IP アドレスなどの情報が右側のパネルに表示されます。
 3. 居住者を選択するか、またはフィルターフィールドにキーワードを入力して対象とする居住者を探します。
-

4. 世帯に電話をかける列の  をクリックして、選択した居住者に電話をかけます。

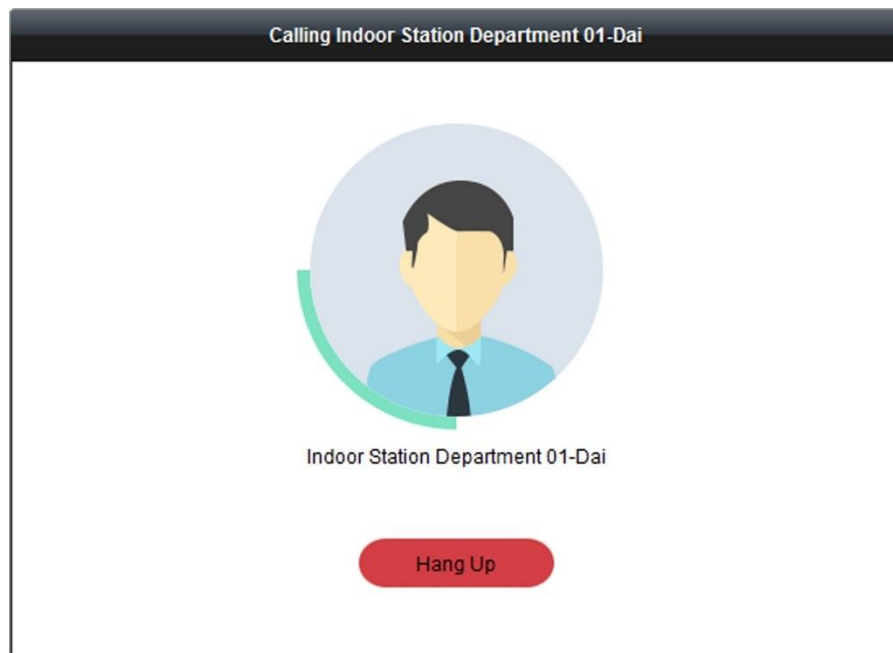


図 18-1 居住者に電話をかける

電話に出ると、通話中ウィンドウが表示されます。

5. オプション：電話に出ると、次の操作を 1 つ以上実行できます。
- 🔊 スピーカーの音量を調節します。
 - 📞 電話を切ります。
 - 🔊 マイクの音量を調節します。

18.1.2 屋内ステーション/ドアステーションからクライアントに電話をかける

居住者は、屋内ステーションまたはドアステーションを介してセキュリティセンターに電話をかけることができます。警備員はクライアントを介して居住者のビデオインターホンを実行することができます。

屋内ステーションまたはドアステーションから電話を受ける必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

注記

- 1 つのビデオインターコムデバイスが接続できるのは、1 つのクライアントソフトウェアのみです。
- ビデオインターコムデバイスのリモート設定を介して、最大呼出時間を 15 秒～60 秒に設定することができます。

- 屋内ステーションとクライアント間の最大通話時間は、屋内ステーションのリモート設定で 120 秒～600 秒に設定可能です。
 - ドアステーションとクライアント間の最大通話時間は、ドアステーションのリモート設定で 90 秒～120 秒に設定可能です。
-

1. [アクセスコントロール]→[ビデオインターコム]ページにアクセスします。
2. 屋内ステーションまたはドアステーションのデバイスのインターフェイスでクライアントソフトウェアを選択して、クライアントソフトウェアの呼び出しを開始します。
着信通話ダイアログがクライアントソフトウェアにポップアップ表示されます。

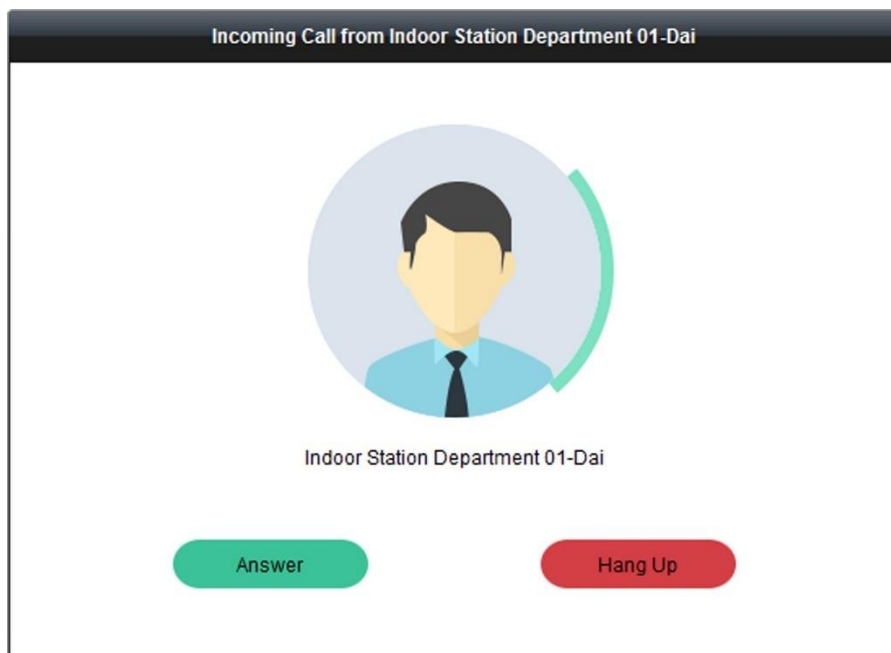


図 18-2 着信通話ウィンドウ

3. [応答]をクリックして、電話に出ます。
電話に出ると、通話中ウィンドウが表示されます。
4. オプション：通話中ウィンドウでは、次の操作を 1 つ以上実行できます。
 - 🔊 スピーカーの音量を調節します。
 - 📞 電話を切ります。
 - 🔊 マイクの音量を調節します。
 - 🔒 ドアステーションに対して遠隔でドアを開けます。

18.1.3 ドアステーションおよび屋外ドアステーションのライブビデオを表示する

メインビューモジュールでドアステーションと屋外ドアステーションのライブビューを取得し、ドアステーションまたは屋外ドアステーションをリモート制御することができます。

開始前

ドアステーションまたは屋外ドアステーションを追加します。詳細については、「**デバイスを追加する**」を参照してください。

メインビューモジュールでドアステーションまたは屋外ドアステーションのライブビデオを表示させるには、次の手順を実行します。

手順

1. メインビューのページにアクセスします。
2. ライブビューを起動します。
 - デバイスリストでドアステーションまたは屋外ドアステーションをダブルクリックします。
 - ドアステーションまたは屋外ドアステーションをディスプレイウィンドウにドラッグします。



注記

ライブビューの詳細な操作については、「**ライブビュー**」を参照してください。

3. オプション: ライブビューウィンドウを右クリックして右クリックメニューを開き、**[ロック解除]**をクリックしてドアをリモートで開きます。

18.2 リアルタイム通話ログを表示する

ダイヤルされた通話ログ、着信履歴、不在着信履歴など、すべてのリアルタイム通話履歴を表示できます。ログリストから直接ダイヤルしてログを消去することもできます。

リアルタイムのビデオインターコムの通話ログを表示する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. **[アクセスコントロール]→[ビデオインターコム]→[通話ログ]**ページにアクセスします。
すべての通話ログがこのページに表示され、通話ステータス、開始時刻、居住者の組織と名前、デバイス名および呼出音や通話時間などのログ情報を確認することができます。
2. オプション: 操作列の  をクリックして、居住者を再ダイヤルします。
3. オプション: 操作列の  をクリックして、通話ログを削除します。
4. 右上にある**[消去]**ボタンをクリックして、すべてのログを消去します。

 注記

リアルタイムの通話ログページで通話ログを削除または消去しても、削除されたログは**[検索]→[通話ログ]**ページで確認できます。詳細については、「**通話ログを検索する**」を参照してください。

18.3 居住者へ通知を出す

異なるタイプの通知を作成して、居住者に送信することができます。4 種類の通知タイプがあります。広告、プロパティ、アラームおよび通知情報。

クライアントソフトウェア上で居住者に通知を出す必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. **[アクセスコントロール]→[ビデオインターコム]→[通知を出す]**ページにアクセスします。
2. 左側のパネルの**[新しい通知]**をクリックして、新しい通知を作成します。
3. **[送信先]**フィールドで、をクリックし、居住者の選択ウィンドウで居住者を選択します。
4. 通知タイトルを入力します。

 注記

タイトルフィールドには最大 **63** 文字まで入力できます。

5. **[タイプ]**フィールドで、通知のタイプを選択します。
6. オプション：**[画像の追加]**をクリックして、通知のローカル画像を追加します。

 注記

- ・ 6 つまでの画像を **JPG** 形式で、1 つの通知に追加することができます。
 - ・ 1 画像の最大サイズは **512 KB** です。
-

7. 通知内容を入力します。

 注記

内容フィールドには最大 **1023** 文字まで入力できます。

8. **[送信]**をクリックして、選択した居住者に通知を送信します。
送信された通知情報が左側のパネルに表示されます。通知をクリックすると、右側のパネルに詳細を表示できます。

18.4 ビデオインターコム情報を検索する

クライアントソフトウェアとビデオインターコムデバイス間の通話ログ、デバイスロック解除ログ、送信された通知情報を検索できます。

18.4.1 通話ログを検索する

指定した期間内にビデオインターコムデバイスのログ履歴を検索できます。ビデオインターコムデバイスの通話ログを検索する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. **[アクセスコントロール]→[検索]→[通話ログ]**ページにアクセスします。
2. 通話ステータス、デバイスタイプ、開始時刻および終了時刻などの検索条件を設定します。
3. **[検索]**をクリックします。
一致したすべての通話ログが表示されます。
4. オプション：**[エクスポート]**をクリックして、通話ログを PC にエクスポートします。

18.4.2 ロック解除ログを検索する

指定した期間内のビデオインターコムデバイス（ドアステーションまたはドアステーション（V シリーズ））のロック解除ログを検索することができます。

ビデオインターコムデバイスのロック解除ログを検索する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. **[アクセスコントロール]→[検索]→[ロック解除ログ]**ページにアクセスします。
2. ロック解除タイプ、デバイスタイプ、開始時刻および終了時刻などの検索条件を設定します。

ロック解除タイプ

パスワードによるロック解除、強制ロック解除、カードによるロック解除、居住者によるロック解除またはセンターによるロック解除など、ドアのロックを解除するユーザーまたは方法を選択します。

3. **[検索]**をクリックします。
一致したすべてのロック解除ログが表示されます。
4. オプション：結果リストのキャプチャー列で、をクリックして、キャプチャーした画像を表示します。

注記

この機能はデバイスに対応していなければなりません。

5. オプション：**[エクスポート]**をクリックして、ロック解除ログを PC にエクスポートします。

18.4.3通知を検索する

指定した期間内に居住者に対して送信された通知を検索できます。居住者に対して送信された通知を検索する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. **[アクセスコントロール]→[検索]→[通知]**ページにアクセスします。
2. 通知タイプ、件名、受信者、開始時刻および終了時刻を含む検索条件を設定します。

通知タイプ

通知タイプを**広告情報**、**プロパティ情報**、**アラーム情報**、または**通知情報**から選択します。あるいは**[すべて]**を選択して、全タイプの通知を検索します。

3. **[検索]**をクリックします。
一致したすべての通知が表示されます。
4. **オプション**：操作列のをクリックして通知の詳細を表示および編集したり、送信に失敗した/送信に成功した/未読のユーザーを確認したり、送信に失敗した/未読のユーザーに対して通知を再送信します。
5. **オプション**：**[エクスポート]**をクリックして、通知を **PC** にエクスポートします。

第 19 章 顔画像比較アラームの表示

顔画像の比較に対応するデバイスの場合、キャプチャーされた顔画像と一致する顔画像を顔画像ライブラリで表示させることができます。また、顔キャプチャーアラームログと顔画像比較アラームログを表示させることも可能です。

19.1 キャプチャーした顔画像を表示する

キャプチャーされた顔画像をリアルタイムまたは履歴で表示することができます。ライブラリで結果が一致しない場合は、必要に応じて顔画像を顔画像ライブラリに追加することができます。

開始前

デバイスのキャプチャールールを設定します。詳細については、デバイスのユーザーマニュアルを参照してください。

キャプチャーした顔画像を表示する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. コントロールパネルの[顔画像比較アラーム]をクリックして、このモジュールにアクセスします。
2. をクリックしてレイアウトを設定します。
3. 表示ウィンドウをクリックしてからカメラ名をダブルクリックすると、ライブビューが起動します。

ライブビューの停止

をクリックして、ライブビューを停止します。

全画面表示

をクリックすると、全画面表示になります。



図 19-1 キャプチャーした顔画像の表示

キャプチャーした顔画像とキャプチャーした時間は、リアルタイムでリアルタイムキャプチャーリストに表示されます。

4. **[カメラをアラーム用にフィルタリング]**をクリックして、関連する選択したカメラのアラーム画像を表示します。
5. オプション：**[履歴でキャプチャー]**をクリックして、履歴でキャプチャーされた顔画像を表示します。

注記

- ・リアルタイムでキャプチャーされた顔画像のリストには最大 **5** つの画像が表示されます。
- ・履歴でキャプチャーされた顔画像のリストには最大 **100** の画像が表示されます。

6. オプション：キャプチャーした顔画像を顔画像ライブラリに追加します。
 - 1) キャプチャーした顔画像の左上にあるをクリックして、ウィンドウを開きます。

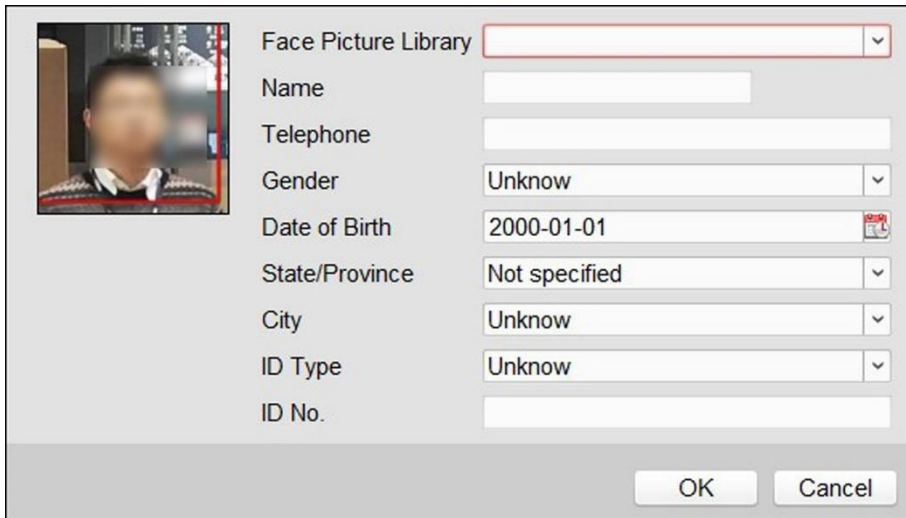


図 19-2 顔画像を顔画像ライブラリに追加

- 2) ドロップダウンリストから顔画像ライブラリを選択します。
- 3) 個人の詳細を入力します。
- 4) **[OK]**をクリックします。

注記

キャプチャーした顔画像がライブラリの顔画像と一致すると、キャプチャーした画像とライブラリ内の画像が右側のリアルタイム比較リストに表示されます。類似性、名前、性別、年齢など一致した人物の詳細を表示できます。

7. オプション：**[履歴で比較]**をクリックして、履歴で一致した顔画像を表示します。

注記

- ・リンクされた顔/人体画像リストには、リアルタイムで一致した **3** 件までの記録（キャプチャーされた顔とライブラリ内の顔）が表示されます。
- ・履歴リストには、履歴で一致した **100** 件までの記録（キャプチャーされた顔とライブラリ内の顔）が表示されます。

19.2 一致した顔画像を表示する

キャプチャーした顔画像が顔画像ライブラリ内の顔画像と一致する場合、一致した人物の詳細を表示できます。リアルタイムまたは履歴での顔画像比較の記録を表示することができます。

開始前

デバイスのキャプチャールールを設定します。詳細については、デバイスのユーザーマニュアルを参照してください。

一致した顔画像を表示する必要がある場合に、この作業を実行してください。

手順

1. コントロールパネルの**[顔画像比較アラーム]**をクリックして、このモジュールにアクセスします。
2. をクリックしてレイアウトを設定します。
3. 表示ウィンドウをクリックしてからカメラ名をダブルクリックすると、ライブビューが起動します。

ライブビューの停止

をクリックして、ライブビューを停止します。

全画面表示

をクリックすると、全画面表示になります。

注記

キャプチャーした顔画像がライブラリの顔画像と一致すると、キャプチャーした画像とライブラリ内の画像が右側のリアルタイム比較リストに表示されます。

4. 類似性、名前、性別、年齢など一致した人物の詳細を表示します。
5. **[カメラをアラーム用にフィルタリング]**をクリックして、関連する選択したカメラのアラーム画像を表示します。
6. オプション: **[履歴で比較]**をクリックして、履歴で一致した顔画像を表示します。

注記

- ・ リンクされた顔/人体画像リストには、リアルタイムで一致した **3** 件までの記録（キャプチャーされた顔とライブラリ内の顔）が表示されます。
- ・ 履歴リストには、履歴で一致した **100** 件までの記録（キャプチャーされた顔とライブラリ内の顔）が表示されます。

19.3 顔画像比較アラームログを表示する

顔キャプチャーアラームログと顔画像比較アラームログを表示することができます。ローカル PC にエクスポートすることもできます。

19.3.1 顔画像比較アラームログを検索する

現在のクライアント上の顔キャプチャアラームまたは顔画像比較アラームを含む、クライアントログを検索することができます。ローカル PC にログをエクスポートすることもできます。

クライアントログを検索する必要がある場合、またはログをローカル PC にエクスポートする必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. クライアントのメニューバーで[ツール]→[アラームログを検索]の順にクリックします。
2. ✱をクリックすると他の検索条件が表示されます。
3. 検索期間、アラームのタイプ、デバイス IP アドレス、デバイス名などの検索条件を設定します。
4. [検索]をクリックして、アラームログの検索を開始します。

注記

アラーム画像を保存するためにカメラがストレージサーバーに設定されている場合、アラームログを表示できます。ストレージサーバーへの画像ストレージの設定については、「[画像とビデオをストレージデバイスに保存する](#)」を参照してください。

一致したアラームログが表示されます。

5. オプション：アラーム画像、デバイス IP アドレス、デバイス名、アラーム時間、アラーム詳細などを含む、検索されたすべてのアラームログをエクスポートします。
 - 1) [すべてエクスポート]をクリックします。
 - 2) をクリックしてローカル PC の保存パスを選択し、エクスポートしたファイルの名前を付けます。
 - 3) [OK]をクリックします。

注記

エクスポートされるファイルは XML ファイルです。

6. オプション：アラーム画像、デバイス IP アドレス、デバイス名、アラーム時間、アラーム詳細などを含む、選択したアラームログをエクスポートします。
 - 1) エクスポートしたいログを選択します。
 - 2) [選択項目のエクスポート]をクリックします。
 - 3) をクリックしてローカル PC の保存パスを選択し、エクスポートしたファイルの名前を付けます。
 - 4) [OK]をクリックします。

注記

エクスポートされるファイルは XML ファイルです。

19.3.2 顔画像比較アラームログを開く

アラームの詳細を表示するための検索条件を設定することで、他のクライアントからエクスポートされたアラームログファイルを開き、アラームログを検索することができます。

開始前

ログをローカル PC にエクスポートします。「**顔画像比較アラームログを検索する**」を参照してください。

アラームログファイルを開く必要があるときに、この作業を実行してください。

手順

1. クライアントのメニューバーで**[ツール]→[アラームログを検索]**の順にクリックします。
2. エクスポートしたアラームログファイルを開きます。
 - 1) **[開く]**をクリックします。
 - 2) をクリックして、エクスポートしたログファイルを選択します。



注記

ログファイルは XML 形式です。

-
- 3) **[OK]**をクリックします。

ログファイル内のアラームログが表示されます。
 3. をクリックすると他の検索条件が表示されます。
 4. 検索期間、アラームのタイプ、デバイス IP アドレス、デバイス名などの検索条件を設定します。
 5. **[検索]**をクリックして、アラームログの検索を開始します。

一致したアラームログが表示されます。

第 20 章 ターゲットキャプチャーアラームの表示

ターゲットキャプチャーアラームに対応しているターゲットキャプチャーカメラの場合、顔、人体、車両などキャプチャーしたターゲット画像を表示することができます。

開始前

最初にデバイスのターゲットキャプチャーアラームのルールを設定する必要があります。詳細については、デバイスのユーザーマニュアルを参照してください。

キャプチャーしたターゲット画像を表示する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. ターゲットキャプチャーアラームモジュールにアクセスします。
2. カメラのライブビューを起動します。
 - 1) ライブビュー用のウィンドウを選択します。
 - 2) [カメラ]タブで、選択したウィンドウからカメラをダブルクリックしてライブビューを起動します。

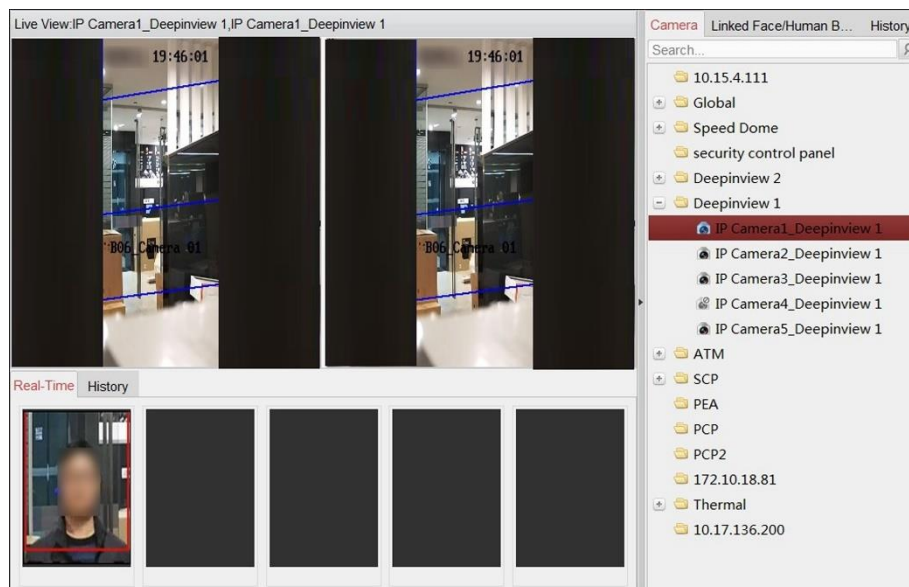


図 20-1 ライブビュー

キャプチャーしたターゲット画像が表示されます。

- 3) オプション：ライブビューウィンドウに移動し、ツールバーの  をクリックして画像をキャプチャーします。
 - 4) オプション：ライブビューウィンドウに移動し、ツールバーの  をクリックして画像をキャプチャーします。
3. 下部の[リアルタイム]または[履歴]タブをクリックして、リアルタイムでキャプチャーした画像または履歴の画像を表示します。

 注記

- ・ リアルタイムでキャプチャーされたターゲット画像のリストには最大 **5** つの画像が表示されます。
 - ・ 履歴でキャプチャーされたターゲット画像のリストには最大 **100** の画像が表示されます。
-

- 4.** キャプチャーしたターゲットが人体または顔の場合、右側の**[リンクされた顔/人体のリンク]**または**[履歴]**タブをクリックして、ターゲットのキャプチャーした顔と人体の画像を表示することができます。
-

 注記

- ・ リンクされた顔/人体画像リストには、最大 **3** つのリアルタイム記録（人体と顔）が表示されます。
 - ・ 履歴リストには最大 **100** 件の履歴記録（人体と顔）が表示されます。
-

第 21 章 統計

統計モジュールは、ソフトウェアを介したデータ統計（ヒートマップ、人数カウント、カウント、道路交通、顔画像検索、ナンバープレート検索、行動分析、キャプチャーされた顔の分析）に関する 8 つのモジュールを提供します。

21.1 ヒートマップレポート

ヒートマップは色で表示されたデータのグラフィカル表示であり、ヒートマップデータは折れ線グラフで表示できます。カメラのヒートマップ機能を使用して、設定された領域内の顧客の訪問時間と滞在時間を分析することができます。

開始前

ヒートマップネットワークカメラをソフトウェアに追加して、関連する領域を正しく設定します。

追加されたカメラはヒートマップルールで設定されている必要があります。ヒートマップネットワークカメラ追加の詳細については、「**デバイスを追加する**」を参照してください。

ヒートマップレポートを生成する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. コントロールパネルの**[ヒートマップ]**をクリックして、ヒートマップのページを開きます。
2. カメラリストでヒートマップカメラを選択します。
3. 必要に応じてレポートのタイプを選択し、開始時間を設定します。
4. **[ヒートマップを生成]**をクリックして、カメラのヒートマップを表示します。

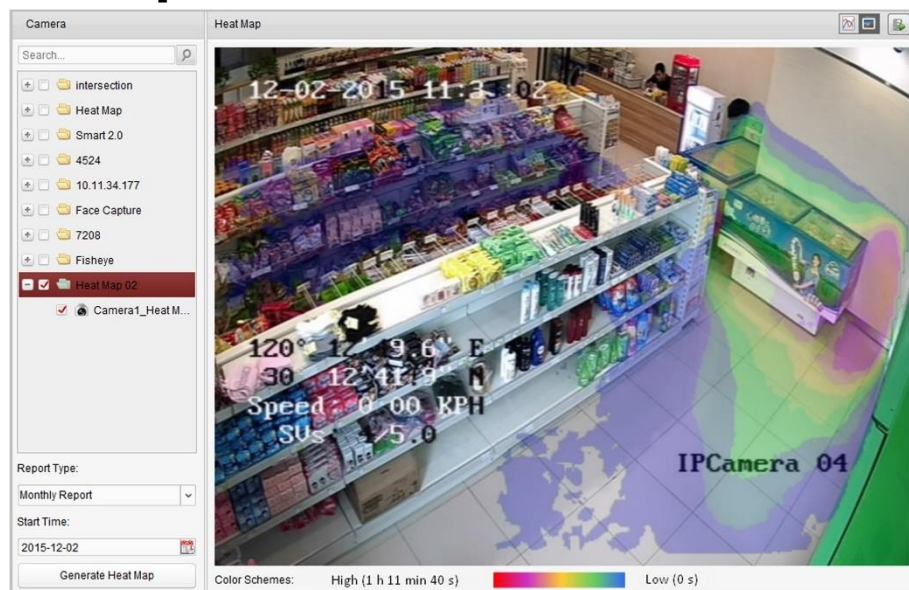


図 21-1 結果

5. オプション：ヒートマップレポートの作成後、次の操作を実行できます。

折れ線グラフで表示 をクリックして、統計情報を折れ線グラフで表示します。

画像モードで表示 をクリックして、統計を画像モードで表示します。
赤いカラーブロック（255、0、0）は、最も歓迎される領域を示し、青いカラーブロック（0、0、255）はそれほど人気のない領域を示します。

統計データを保存 をクリックすると、ヒートマップの詳細データが PC に保存されます。

21.2 人数カウントレポート

追加した人数カウントデバイスの人数カウント統計を確認でき、統計は折れ線グラフまたは棒グラフで表示できます。詳細データをローカルストレージにエクスポートできます。

開始前

人数カウントデバイスをソフトウェアに追加して、関連する領域を正しく設定します。追加されたデバイスは人数カウントルールで設定されている必要があります。人数カウントデバイス追加の詳細については、「**デバイスを追加する**」を参照してください。
人数カウントレポートを生成する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. コントロールパネルの**[人数カウント]**をクリックして、人数カウントのページを開きます。
2. 必要に応じてレポートのタイプを選択し、時間を設定します。
 - 1) レポートの時間タイプとして、日次レポート、週次レポート、月次レポートまたは年次レポートを選択します。
 - 2) 統計のタイプを選択します。

複数期間で 1 台のカメラ

2 つの期間で統計を生成するためのカメラを 1 台選択します。

1 期間で 1 台のカメラ

1 期間で統計を生成するためのカメラを 1 台選択します。

- 3) データのタイプを選択します。

入場

入場した人数がカウントされます。

終了

退場した人数がカウントされます。

入場および退場

入場および退場した両人数がカウントされます。

- 4) 時間帯を選択します。
3. レポートを生成するカメラを選択します。
4. **[検索]**をクリックして、1 時間ごと、1 日ごとまたは 1 か月ごとの人数カウント統計と詳細データを取得します。

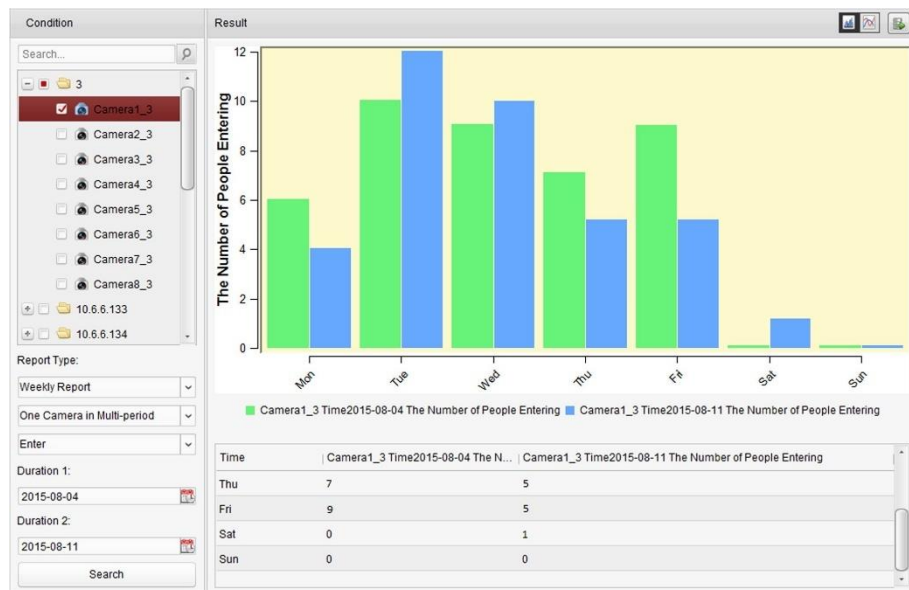


図 21-2 結果

統計は棒グラフ形式で表示されます。

5. オプション：検索後、以下の操作を実行してください。

折れ線グラフ
に切り替える

をクリックすると、折れ線グラフに切り替わります。

注記

デフォルトでは、統計は棒グラフ形式で表示されます。

ローカル PC
に保存

をクリックすると、人数カウントの詳細データが PC に保存されます。

21.3 カウントレポート

追加したカウントデバイスのカウント統計を確認でき、統計は折れ線グラフまたは棒グラフで表示できます。詳細データをローカルストレージにエクスポートできます。

開始前

カウントデバイスをソフトウェアに追加して、関連する領域を正しく設定します。追加した

デバイスはカウント設定で設定されている必要があります。カウントデバイス追加の詳細については、**デバイスを追加する**を参照してください。

カウントレポートを生成する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. コントロールパネルの**[カウント]**をクリックして、カウントのページを開きます。
2. 必要に応じてレポートのタイプを選択し、時間を設定します。
 - 1) レポートの時間タイプとして、日次レポート、週次レポート、月次レポートまたは年次レポートを選択します。
 - 2) 統計のタイプを選択します。

複数期間で 1 台のカメラ

2 つの期間で統計を生成するためのカメラを 1 台選択します。

1 期間で 1 台のカメラ

1 期間で統計を生成するためのカメラを 1 台選択します。

- 3) データのタイプを選択します。

入場

入場した人数がカウントされます。

退場：

退場した人数がカウントされます。

入場および退場

入場および退場した両人数がカウントされます。

- 4) 時間帯を選択します。
3. レポートを生成するカメラを選択します。
4. **[検索]**をクリックして、1 時間ごと、1 日ごとまたは 1 か月ごとの人数カウント統計と詳細データを取得します。

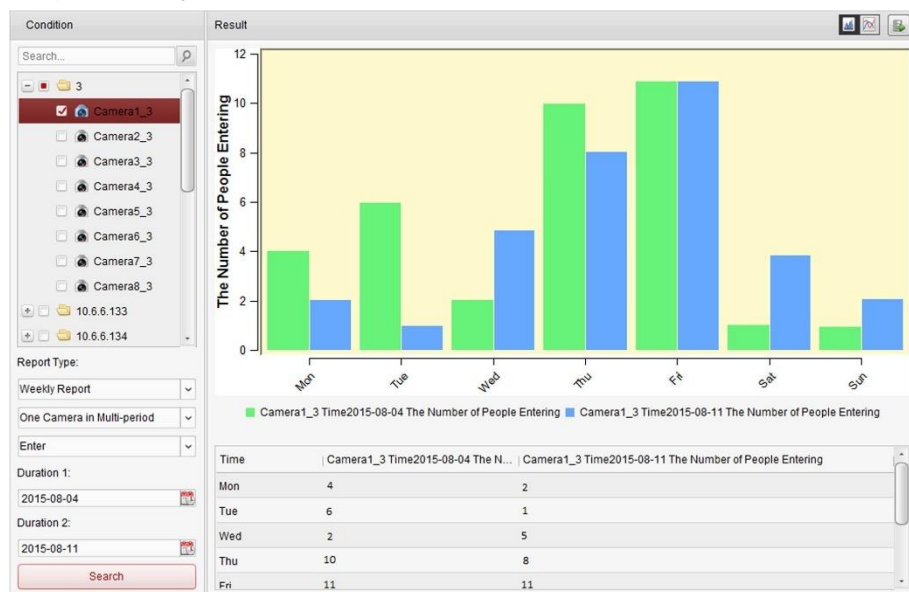


図 21-3 結果

統計は棒グラフ形式で表示されます。をクリックすると、折れ線グラフに切り替わります。

5. オプション：をクリックして、PC にカウントの詳細データを保存します。

21.4 道路交通レポート

道路交通監視デバイスをクライアントに追加すると、検出された車両またはナンバープレートのキャプチャー画像を検索して表示することができます。関連する画像の検索には3つのタイプがあります。車両検出、混合交通検出および交通違反。

開始前

- 道路交通監視デバイスをソフトウェアに追加して、関連する検出領域を正しく設定します。追加したデバイスは、画像キャプチャー用に関連する設定で構成されている必要があります。デバイスの追加に関する詳細については、「**デバイスを追加する**」を参照してください。
- 交通違反の場合、最初にストレージサーバーをソフトウェアに追加します。その場合は、デバイス用にストレージサーバーを設定し、**[画像の保存]**および**[追加情報の保存]**にチェックを入れる必要があります。詳細については、「**画像とビデオをストレージデバイスに保存する**」を参照してください。

道路交通レポートを生成する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. コントロールパネルの**[道路交通]**をクリックして、道路交通のページを開きます。
2. カメラパネルで道路交通監視カメラを選択します。
3. 関連画像を探すための検索条件を設定します。
 - 1) クエリのタイプを選択すると、そのイベントのタイプによってトリガーした画像が表示されます。

車両検出

通過した車両を検出し、そのナンバープレートの画像をキャプチャーします。その他に車両の色、車両のロゴおよびその他の情報を自動的に認識することができます。

混合交通検出

歩行者、自動車および非自動車を検索すると、物体の画像（歩行者/非自動車/ナンバープレートのない自動車）またはナンバープレート（ナンバープレート付きの自動車）が検出されることがあります。

交通違反

交通ルールに違反（違法駐車や渋滞など）している車両のキャプチャー画像を確認します。

- 2) 画像を検索するためにナンバープレート番号を入力します。
 - 3) をクリックして、開始時間と終了時間を設定します。
4. **[検索]**をクリックします。

注記

車両検出と混合交通検出の場合、ストレージサーバーが設定されていないと、ソフトウェアはローカルデバイスのストレージデバイスから関連する画像を検索します。

5. オプション：検索後、次の操作を実行できます。

画像詳細の
表示

をクリックして、画像プレビューウィンドウをポップアップ表示し、キャプチャーした画像と関連情報を表示します。

画像のダ
ウンロー
ド

[現在の画像を選択]または画像プレビューウィンドウで[すべてを選択]を選択し、[ダウンロード]をクリックするか、または道路交通ページで画像項目のチェックボックスを選択して[画像のエクスポート]をクリックします。

21.5 顔画像の検索

接続デバイス（NVR または HDVR）が顔検索に対応している場合、関連画像を検索して画像関連ビデオファイルを再生することができます。

21.5.1 アップロードした画像で顔画像を検索する

PC から顔画像をアップロードして、アップロードされた画像をキャプチャーされた顔画像と比較することができます。

開始前

デバイスをソフトウェアに追加して、関連する設定を正しく構成します。デバイス追加の詳細については、「**デバイスの追加**」を参照してください。

顔画像を画像ごとに検索する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

注記

この機能は関連するデバイスに対応していなければなりません。

1. コントロールパネルの**[顔画像の検索]**をクリックして、顔画像の検索ページを開きます。
 2. カメラパネルでデバイスを選択します。
 3. 検索する顔画像を選択します。
 - 1) **[画像]**にチェックを入れます。
 - 2) **[画像の選択]**をクリックして、PC から画像をアップロードします。
 - 3) キャプチャーした顔画像と照合するために、アップロードした画像から検出された顔を選択します。
-

注記

- ・ 画像は 4 MB 以下でなければなりません。
 - ・ 画像の解像度は 4096×4080 以下でなければなりません。
 - ・ JPG および JPEG 形式のみに対応しています。
-

4. 類似レベルを設定します。

例

類似度を **40** に設定した場合、キャプチャーした画像はアップロードされた画像と 40%以上の類似性があります。

5. 表示結果の最大数を設定します。
6.  をクリックして、キャプチャーした顔画像またはビデオファイルを検索するための開始時間と終了時間を設定します。
7. **[検索]** をクリックして検索を開始します。
画像の検索結果がリストで表示されます。
8. 画像をエクスポートして、PC に保存します。

画像のエクスポート

すべての画像検索をエクスポートします。

現在のページのエクスポート

現在のページの画像をエクスポートします。

セグメントのエクスポート

パッケージごとに画像をダウンロードすることができます。各パッケージには最大 1000 枚の画像が含まれています。

9. オプション：検索結果に基づいて二次検索を実行します。
 - 1) 検索した画像に移動して、 をクリックします。
この画像のすべての顔が分析されて、表示されます。
 - 2) 二次検索したい顔を選択します。
 - 3) 類似度と期間を設定します。
 - 4) **[検索]** をクリックします。

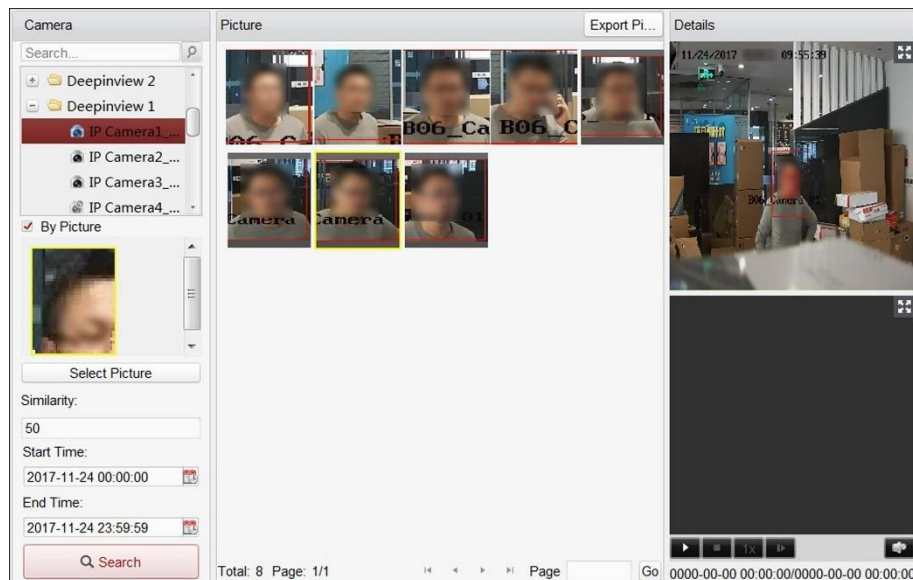


図 21-4 結果

クライアントは選択した顔画像に基づいて、キャプチャーした画像内の顔を検索して比較します。

10. オプション：検索後、次の操作を 1 つ以上実行できます。

- | | |
|----------|---|
| 詳細の表示 | リストから画像をクリックして、詳細を表示します。  をクリックして画像を拡大し、  をクリックして元に戻すこともできます。 |
| 関連ビデオの再生 |  をクリックして、右下の表示ウィンドウで動画の関連ビデオを再生します。 |

 注記

- ・  をクリックしてビデオを拡大し、 をクリックして元に戻すこともできます。
 - ・  をクリックして、再生の再生速度を調整し、 をクリックしてフレームごとにビデオファイルを再生し、 をクリックして音声を有効にし、再生ウィンドウをダブルクリックして、ウィンドウを最大化させることができます。
-

- | | |
|-------------|--|
| PC に画像を保存する | [画像のエクスポート] をクリックして、ローカル PC にエクスポートしたい画像を選択します。 |
|-------------|--|

21.5.2 イベントで顔画像を検索する

異なるイベントタイプをフィルタリングすることで、デバイスのキャプチャーされた顔画像を検索することができます。

開始前

デバイスをソフトウェアに追加して、関連する設定を正しく構成します。デバイス追加の詳細については、「**デバイスの追加**」を参照してください。

顔画像をイベントごとに検索する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

 注記

この機能は関連するデバイスに対応していなければなりません。

1. コントロールパネルの**[顔画像の検索]**をクリックして、顔画像の検索ページを開きます。
2. カメラパネルでデバイスを選択します。
3. 検索モードとして**イベントタイプ**を設定します。
4. 表示結果の最大数を設定します。
5.  をクリックして、キャプチャーした顔画像またはビデオファイルを検索するための開始時間と終了時間を設定します。

6. **[検索]**をクリックして検索を開始します。

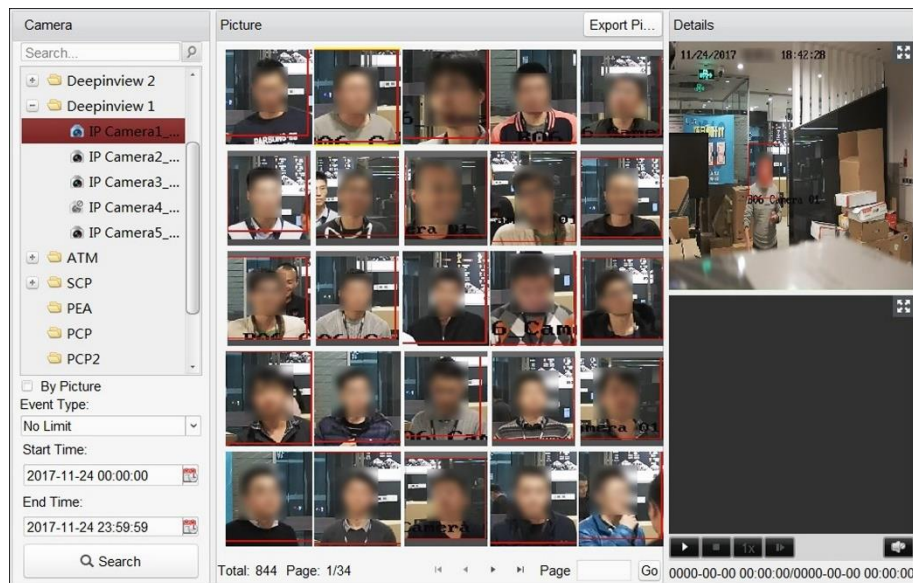


図 21-5 検索結果

画像の検索結果がリストで表示されます。

7. 画像をエクスポートして、PC に保存します。

画像のエクスポート

すべての画像検索をエクスポートします。

現在のページのエクスポート

現在のページの画像をエクスポートします。

セグメントのエクスポート

パッケージごとに画像をダウンロードすることができます。各パッケージには最大 1000 枚の画像が含まれています。

8. オプション：検索結果に基づいて二次検索を実行します。

1) 検索した画像に移動して、をクリックします。

この画像のすべての顔が分析されて、表示されます。

2) 二次検索したい顔を選択します。

3) 類似度と期間を設定します。

4) **[検索]**をクリックします。

クライアントは選択した顔画像に基づいて、キャプチャーした画像内の顔を検索して比較します。

9. オプション：検索後、次の操作を 1 つ以上実行できます。

詳細の表示

リストから画像をクリックして、詳細を表示します。をクリックして画像を拡大し、をクリックして元に戻すこともできます。

関連ビデオの再生

をクリックして、右下の表示ウィンドウで動画の関連ビデオを再生します。



注記

- ・  をクリックしてビデオを拡大し、 をクリックして元に戻すこともできます。
 - ・  をクリックして、再生の再生速度を調整し、 をクリックしてフレームごとにビデオファイルを再生し、 をクリックして音声を有効にし、再生ウィンドウをダブルクリックして、ウィンドウを最大化させることができます。
-

PC に画像
を保存する

[画像のエクスポート]をクリックして、ローカル PC にエクスポートしたい画像を選択します。

21.5.3 個人名で顔画像を検索する

個人名によりデバイスのキャプチャーされた顔画像を検索することができます。

開始前

デバイスをソフトウェアに追加して、関連する設定を正しく構成します。デバイス追加の詳細については、「[デバイスの追加](#)」を参照してください。

顔画像を個人名ごとに検索する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順



注記

この機能は関連するデバイスに対応していなければなりません。

1. コントロールパネルの[**顔画像の検索**]をクリックして、顔画像の検索ページを開きます。
2. カメラパネルでデバイスを選択します。
3. 検索モードとして**個人名**を設定します。
4. 個人名のキーワードを入力します。
5. 表示結果の最大数を設定します。
6.  をクリックして、キャプチャーした顔画像またはビデオファイルを検索するための開始時間と終了時間を設定します。
7. [**検索**]をクリックして検索を開始します。
画像の検索結果がリストで表示されます。
8. 画像をエクスポートして、PC に保存します。

画像のエクスポート

すべての画像検索をエクスポートします。

現在のページのエクスポート

現在のページの画像をエクスポートします。

セグメントのエクスポート

パッケージごとに画像をダウンロードすることができます。各パッケージには最大1000枚の画像が含まれています。

9. 検索結果に基づいて二次検索を実行します。

1) 検索した画像に移動して、をクリックします。

この画像のすべての顔が分析されて、表示されます。

2) 二次検索したい顔を選択します。

3) 類似度と期間を設定します。

4) **[検索]**をクリックします。

クライアントは選択した顔画像に基づいて、キャプチャーした画像内の顔を検索して比較します。

10. 検索後、次の操作を 1 つ以上実行できます。

詳細の表示

リストから画像をクリックして、詳細を表示します。をクリックして画像を拡大し、をクリックして元に戻すこともできます。

関連ビデオの再生

をクリックして、右下の表示ウィンドウで動画の関連ビデオを再生します。

注記

- ・ をクリックしてビデオを拡大し、をクリックして元に戻すこともできます。
- ・ をクリックして、再生の再生速度を調整し、をクリックしてフレームごとにビデオファイルを再生し、をクリックして音声を有効にし、再生ウィンドウをダブルクリックして、ウィンドウを最大化させることができます。

PC に画像を保存する

[画像のエクスポート]をクリックして、ローカル PC にエクスポートしたい画像を選択します。

21.6 ナンバープレートの検索

接続デバイスがナンバープレートの検索に対応している場合、関連画像を検索して画像関連ビデオファイルを再生することができます。

開始前

デバイスをソフトウェアに追加して、関連する設定を正しく構成します。デバイス追加についての詳細については、「**デバイスを追加する**」を参照してください。

ライセンスプレートを検索する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. コントロールパネルの**[ライセンスプレートの検索]**をクリックして、ライセンスプレートの検索ページを開きます。
2. カメラリストでデバイスを選択します。

 注記

この機能は接続デバイス（NVR または HDVR）に対応していなければなりません。

3. オプション：検索フィールドにナンバープレート番号を入力します。
4.  をクリックして、一致するナンバープレートの画像を検索するための開始時間と終了時間を設定します。
5. **[検索]** をクリックして検索を開始します。
画像の検索結果がリストで表示されます。
6. オプション：ナンバープレート検索後、次の操作を実行できます。

詳細の表示 リストから画像をクリックして、詳細を表示します。 をクリックして画像を拡大し、 をクリックして元に戻すこともできます。

関連ビデオの再生  をクリックして、右下の表示ウィンドウで動画の関連ビデオを再生します。

 注記

- ・  をクリックしてビデオを拡大し、 をクリックして元に戻すこともできます。
 - ・  をクリックして、再生の再生速度を調整し、 をクリックしてフレームごとにビデオファイルを再生し、 をクリックして音声を有効にし、再生ウィンドウをダブルクリックして、ウィンドウを最大化させることができます。
-

PC に画像を保存する **[画像のエクスポート]** をクリックして、ローカル PC にエクスポートしたい画像を選択します。

21.7 画像とビデオに関連する行動分析を表示する

接続デバイスが行動検索に対応している場合、関連画像を検索して関連画像とビデオファイルを表示することができます。

開始前

デバイスをソフトウェアに追加して、関連する設定を正しく構成します。デバイス追加についての詳細については、「**デバイスを追加する**」を参照してください。

行動分析関連の画像やビデオを表示する必要がある場合、この作業を実行してください。

手順

1. コントロールパネルの**[行動分析]** をクリックして、行動分析のページを開きます。
2. カメラパネルでデバイスを選択します。

 注記

この機能は接続デバイス（NVR または HDVR）に対応していなければなりません。

3. をクリックして、一致する画像を検索するための開始時間と終了時間を設定します。
4. **[検索]**をクリックして検索を開始します。
5. **オプション**：行動の検索後、次の操作を実行できます。

詳細の表示	リストから画像をクリックして、詳細を表示します。  をクリックして画像を拡大し、  をクリックして元に戻すこともできます。
関連ビデオの再生	 をクリックして、右下の表示ウィンドウで動画の関連ビデオを再生します。



注記

- ・ をクリックしてビデオを拡大し、をクリックして元に戻すこともできます。
- ・ をクリックして、再生の再生速度を調整し、をクリックしてフレームごとにビデオファイルを再生し、をクリックして音声を有効にし、再生ウィンドウをダブルクリックして、ウィンドウを最大化させることができます。

PC に画像を保存する	[画像のエクスポート] をクリックして、ローカル PC にエクスポートしたい画像を選択します。
-------------	--

21.8 キャプチャーした顔画像のレポートを表示する

追加した顔キャプチャーデバイスのキャプチャーした顔の統計を確認でき、統計は表、折れ線グラフ、円グラフ、または棒グラフで表示できます。詳細データをローカルストレージにエクスポートできます。

開始前

顔キャプチャーデバイスをソフトウェアに追加して、関連する設定を正しく構成します。詳細については、

「**デバイスを追加する**」を参照してください。

キャプチャーした顔画像のレポートを表示する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. コントロールパネルの**[キャプチャーした顔の分析]**をクリックします。
2. レポートの時間タイプとして、日次レポート、週次レポート、月次レポートまたは年次レポートを選択します。
3. レポートタイプ、統計タイプ、データタイプ、期間などの検索条件を設定します。
 - 1) 統計のタイプを選択します。

1 期間で複数のカメラ

1 つの期間に対して統計を生成するために、複数のカメラを選択することがで

きます。

- 2) データタイプとして、年齢、性別、または人数を選択します。
- 3) 時間帯を設定します。
4. レポートを生成するカメラを選択します。
5. **[検索]**をクリックして、1時間ごと、1日ごとまたは1か月ごとのキャプチャーした顔画像の統計と詳細データを取得します。
 - ・ 年齢と性別の統計の場合、統計は円グラフで表示されます。
 - ・ 人数の統計の場合、統計は棒グラフ形式で表示されます。をクリックすると折れ線グラフに切り替わります。
6. オプション：をクリックすると、キャプチャーされた顔画像の詳細データが PC に保存されます。

21.9 人体画像の検索

DeepinMind デバイスの場合、ローカル PC から画像をアップロードし、個人機能の設定などの検索条件を設定することによって、キャプチャーした人体画像を検索することができます。

21.9.1 アップロードした画像で人体画像を検索する

ローカル PC から人体画像をアップロードして、アップロードされた画像をデバイスのキャプチャーした人体画像と比較することができます。

開始前

デバイスをソフトウェアに追加して、関連する設定を正しく構成します。デバイス追加の詳細については、「**デバイスの追加**」を参照してください。

人体画像を画像ごとに検索する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順



注記

この機能は関連するデバイスに対応していません。

1. コントロールパネルの**[人体画像の検索]**をクリックして、人体画像の検索ページを開きます。
2. カメラパネルでデバイスを選択します。
3. 検索したい人体を選択します。
 - 1) 検索モードとして**[画像別]**を選択します。
 - 2) ローカル PC から比較する画像を選択するには、**[画像の選択]**をクリックします。

注記

- ・ 画像は 4 MB 以下でなければなりません。
- ・ 画像の解像度は 4096*4080 以下でなければなりません。
- ・ JPG および JPEG 形式のみに対応しています。

この画像のすべての人体が分析されて、表示されます。

4. 類似レベルを設定します。

例

類似度を 40 に設定した場合、キャプチャーした画像はアップロードされた人体画像と 40%以上の類似性があります。

5. 表示結果の最大数を設定します。
6.  をクリックして、キャプチャーした人体画像やビデオファイルを検索するための開始時間と終了時間を設定します。
7. **[検索]** をクリックして検索を開始します。
画像の検索結果がリストで表示されます。

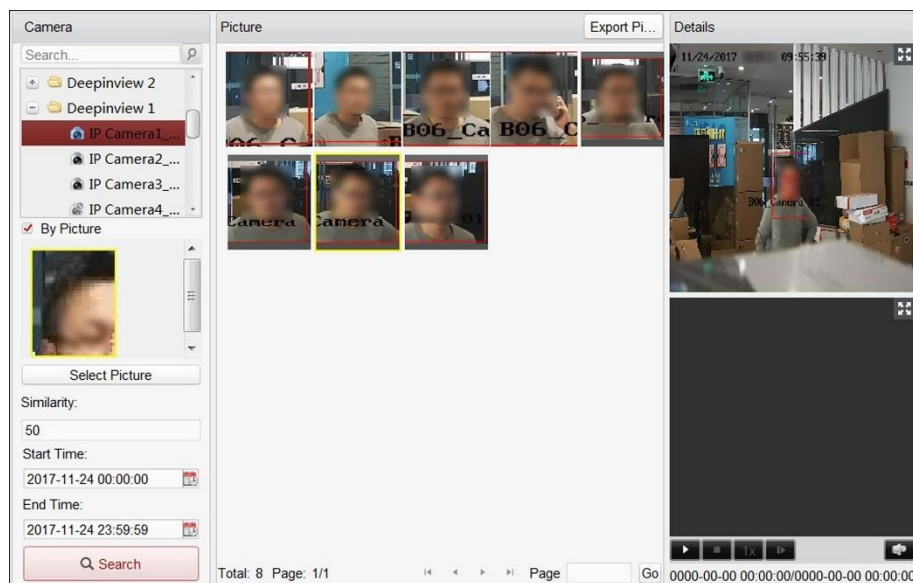


図 21-6 検索結果

8. オプション：検索結果に基づいて二次検索を実行します。
 - 1) 検索した画像に移動して、 をクリックします。
この画像のすべての人体が分析されて、表示されます。
 - 2) 二次検索したい人体を選択します。
 - 3) 類似度と期間を設定します。
 - 4) **[検索]** をクリックします。
クライアントは選択した人体画像に基づいて、キャプチャーした画像内の人体を検索して比較します。
9. オプション：人体の検索後、次の操作を 1 つ以上実行できます。

- | | |
|----------|---|
| 詳細の表示 | リストから画像をクリックして、詳細を表示します。  をクリックして画像を拡大し、  をクリックして元に戻すこともできます。 |
| 関連ビデオの再生 |  をクリックして、右下の表示ウィンドウで動画の関連ビデオを再生します。 |

 注記

- ・ をクリックしてビデオを拡大し、をクリックして元に戻すこともできます。
 - ・ をクリックして、再生の再生速度を調整し、をクリックしてフレームごとにビデオファイルを再生し、をクリックして音声を有効にし、再生ウィンドウをダブルクリックして、ウィンドウを最大化させることができます。
-

- | | |
|-------------|--|
| PC に画像を保存する | [画像のエクスポート] をクリックして、ローカル PC にエクスポートしたい画像を選択します。 |
|-------------|--|

21.9.2 個人の特徴で人体画像を検索する

年齢層、性別、服装などの検索条件として個人の特徴を設定することで、デバイスのキャプチャーした人体画像を検索することができます。

開始前

デバイスをソフトウェアに追加して、関連する設定を正しく構成します。デバイス追加の詳細については、「**デバイスの追加**」を参照してください。

個人の特徴で人体画像を検索する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

 注記

この機能は関連するデバイスに対応していません。

1. コントロールパネルの**[人体画像の検索]**をクリックして、人体画像の検索ページを開きます。
 2. カメラパネルでデバイスを選択します。
 3. 検索モードとして、**[個人の特徴]**にチェックを入れます。
 4. 年齢層、性別、トップの色、眼鏡をかけているかどうかなどの個人の特徴を設定します。
 5. 検索したい人体画像のイベントタイプを選択します。
 6. 表示結果の最大数を設定します。
 7. をクリックして、キャプチャーした人体画像やビデオファイルを検索するための開始時間と終了時間を設定します。
 8. **[検索]**をクリックして検索を開始します。
-

画像の検索結果がリストで表示されます。

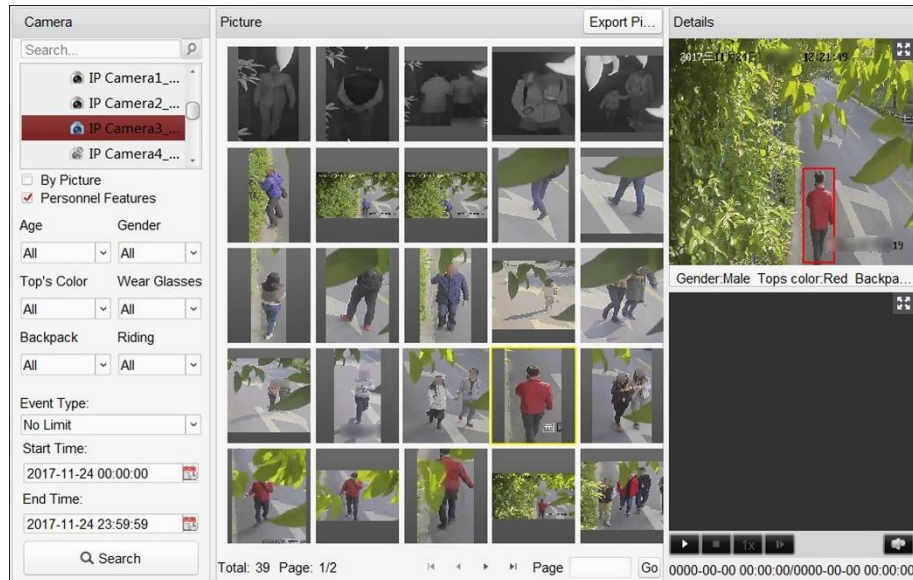


図 21-7 検索結果

9. オプション：検索結果に基づいて二次検索を実行します。

1) 検索した画像に移動して、をクリックします。

この画像のすべての人体が分析されて、表示されます。

2) 二次検索したい人体を選択します。

3) 類似度と期間を設定します。

4) [検索]をクリックします。

クライアントは選択した人体画像に基づいて、キャプチャーした画像内の人体を検索して比較します。

10. オプション：検索後、次の操作を 1 つ以上実行できます。

詳細の表示 リストから画像をクリックして、詳細を表示します。をクリックして画像を拡大し、をクリックして元に戻すこともできます。

関連ビデオの再生 をクリックして、右下の表示ウィンドウで動画の関連ビデオを再生します。

注記

- ・ をクリックしてビデオを拡大し、 をクリックして元に戻すこともできます。
- ・ 1x をクリックして、再生の再生速度を調整し、 をクリックしてフレームごとにビデオファイルを再生し、 をクリックして音声の有効にし、再生ウィンドウをダブルクリックして、ウィンドウを最大化させることができます。

PC に画像を保存する

[画像のエクスポート]をクリックして、ローカル PC にエクスポートしたい画像を選択します。

21.10 車両の検索

車両のブランド、色、タイプ、プレート番号などの検索条件として車両の特徴を設定することで、デバイスのキャプチャーされた車両の画像を検索することができます。

開始前

デバイスをソフトウェアに追加して、関連する設定を正しく構成します。デバイス追加についての詳細については、「**デバイスを追加する**」を参照してください。

車両を検索する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

注記

この機能は関連するデバイスに対応していなければなりません。

1. コントロールパネルの**[車両の検索]**をクリックして、車両の検索ページを開きます。
2. カメラパネルでデバイスを選択します。
3. **[車両の特徴]**にチェックを入れます。
4. 車両のブランド、色、タイプおよびプレート番号などの車両の特徴を設定します。
5. 表示結果の最大数を設定します。
6.  をクリックして、キャプチャーした車両の画像またはビデオファイルを検索するための開始時間と終了時間を設定します。
7. **[検索]**をクリックして検索を開始します。

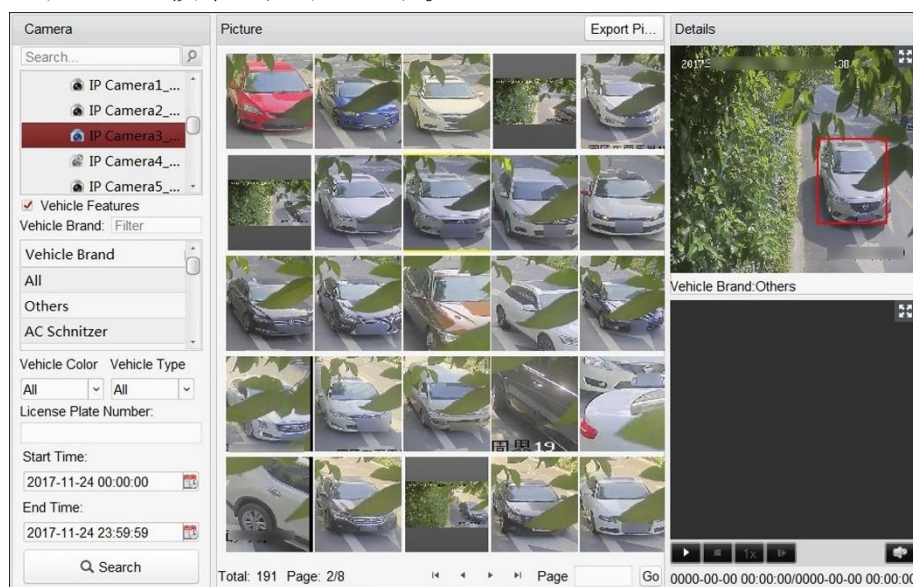


図 21-8 結果

画像の検索結果がリストで表示されます。

8. オプション：ナンバープレート検索後、次の操作を実行できます。

詳細の表示 リストから画像をクリックして、詳細を表示します。 をクリックして画像を拡大し、 をクリックして元に戻すこともできます。

**関連ビデオ
の再生**

をクリックして、右下の表示ウィンドウで動画の関連ビデオを再生します。

 注記

- ・ をクリックしてビデオを拡大し、をクリックして元に戻すこともできます。
 - ・ をクリックして、再生の再生速度を調整し、をクリックしてフレームごとにビデオファイルを再生し、をクリックして音声を有効にし、再生ウィンドウをダブルクリックして、ウィンドウを最大化させることができます。
-

**PC に画像
を保存する**

[画像のエクスポート]をクリックして、ローカル PC にエクスポートしたい画像を選択します。

第 22 章 ログの管理

ログ管理モジュールでは、ログファイル（クライアントログとリモートログ）を検索して結果をフィルタリングし、ログファイルをバックアップして、アラーム画像をエクスポートすることができます。

22.1 ログを検索する

ログファイルには、クライアントログとリモートログの 2 種類があります。クライアントログはクライアントのログファイルを参照し、ローカル PC に保存されます。リモートログは接続されているデバイスのログファイルを参照し、ローカルデバイスに保存されます。

22.1.1 クライアントログを検索する

クライアントのログファイル、またはリモートデバイスのログを検索できます。クライアントのログファイルを検索するには、次の手順を実行してください。

手順

1. ログ検索ページを開きます。
2. 検索対象のログタイプとして、**[クライアントログ]**を選択します。
3. をクリックして、開始時間と終了時間を指定します。

注記

1 か月以内のログを検索できます。

4. **[検索]**をクリックします。
開始時刻と終了時刻の間のログファイルがリストに表示されます。ログの操作時間、タイプやその他の情報を確認することができます。
5. **オプション**：ログファイルが多すぎる場合は、時間範囲を狭めるか、または検索用のログタイプをフィルタリングします。

注記

ログのフィルタリングに関する詳細については、「**ログをフィルタリングする**」を参照してください。

22.1.2 接続デバイスのログを検索する

リモートログ、つまり接続されているデバイスのログファイルを検索することができます。接続デバイスのログファイルを検索するには、次の手順を実行してください。

手順

1. ログ検索ページを開きます。
2. 検索対象のログタイプとして、**[リモートログ]**を選択します。
3. をクリックして、開始時間と終了時間を指定します。

注記

1 か月以内のログを検索できます。

4. **[検索]**をクリックします。

開始時刻と終了時刻の間のログファイルがリストに表示されます。ログの操作時間、タイプやその他の情報を確認することができます。

注記

ログファイルが多すぎる場合は、時間範囲を狭めるか、または検索用のログタイプをフィルタリングします。

22.2 ログをフィルタリングする

正常に検索された後、ログファイルはキーワードまたは条件でフィルタリングすることが可能なため、望んだとおりにログを見つけることができます。

開始前

ログを検索します。詳細については、「**クライアントログを検索する**」および「**接続デバイスのログを検索する**」を参照してください。

ログをフィルタリングするには、次の手順を実行してください。

手順

1. コントロールパネルの**[ログの検索]**をクリックして、ログの検索ページにアクセスします。
2. **[ログのフィルタリング]**またはログの検索ページで  をクリックして、ログのフィルタリングパネルを展開します。
3. フィルタリングモードを選択します。
 - **[キーワードでフィルタリング]**を選択し、テキストフィールドにフィルタリングするためのキーワードを入力します。
 - または、**[条件でフィルタリング]**を選択してから、ドロップダウンリストでログのタイプを指定します。
4. オプション：ログファイルをより正確にフィルタリングするには、**[別のフィルター条件]**をクリックします。
5. **[フィルター]**をクリックして、フィルタリングを開始します。

22.3 ログをバックアップする

クライアントログやサーバーログを含むログファイルを、バックアップ用にエクスポートすることができます。ログをバックアップする必要がある場合に、この作業を実行してください。

手順

1. コントロールパネルの**[ログの検索]**をクリックして、ログの検索ページを開きます。
2. 条件を設定してログファイルを検索します。
3. **[ログのバックアップ]**をクリックして、ログのバックアップウィンドウを開きます。
4. をクリックしてローカル保存パスを選択し、ファイルの名前を設定します。
5. **[バックアップ]**をクリックして、選択したログファイルをバックアップ用にエクスポートします。
6. オプション：ログファイルのバックアップ後、次の操作を実行できます。

ログファイルのバックアップ情報の確認

[ファイル]→[ログファイルを開く]の順にクリックして、ローカル PC のログファイルのバックアップ情報を確認します。

22.4 画像をエクスポートする

ストレージサーバーに保存されているアラーム画像は、ローカル PC にエクスポートすることができます。

開始前

追加したエンコーディングデバイスのビデオファイルと画像を保存するためのストレージデバイスをクライアントに追加するには、

「**画像とビデオをストレージデバイスに保存する**」を参照してください。

画像をエクスポートするには、次の手順を実行します。

手順

1. コントロールパネルの**[ログの検索]**をクリックして、ログの検索ページを開きます。
2. クライアントログを検索します。



注記

詳細については、「**クライアントログを検索する**」を参照してください。

3. 結果をフィルタリングする際のログタイプとして、**[アラームログ]**を選択します。



注記

詳細については、「**ログをフィルタリングする**」を参照してください。

4. アラーム画像を選択します。
5. **[画像のエクスポート]**をクリックして、画像のエクスポートウィンドウを開きます。

6. をクリックしてローカル保存パスを選択し、ファイルの名前を設定します。
7. **[エクスポート]**をクリックして、選択した画像をエクスポートします。

第 23 章 アカウソトの管理

クライアントソフトウェアには複数のユーザーアカウントを追加できます。また、必要に応じて、異なるユーザーに対してさまざまな権限を割り当てることができます。

この作業を実行して、ユーザーアカウントを追加します。

手順

注記

ソフトウェアにログインするために登録したユーザーアカウントが、スーパーユーザーとして設定されます。

1. アカウソトの管理ページにアクセスします。
2. **[ユーザーを追加する]**をクリックして、ユーザー追加ウィンドウを開きます。
3. ドロップダウンリストからユーザーのタイプを選択します。

管理者

デフォルトでは管理者アカウントにはすべての権限があり、すべてのオペレーターのパスワードと権限を独自に変更できます。

オペレーター

デフォルトではオペレーターアカウントには権限がありません。手動で権限を割り当てることができます。オペレーターは自分のアカウントのパスワードのみを変更できます。

4. 必要に応じてユーザー名、パスワードを入力し、パスワードを確認します。



注意

デバイスのパスワードの強度は、自動的に確認されます。製品のセキュリティを高めるため、パスワード（大文字、小文字、数字、特殊文字の中の最低でも 3 種類を含む 8 文字以上を使用）をユーザー自身で変更することを強くお勧めします。また、高度なセキュリティシステムでは特に、定期的にパスワードをリセットすることをお勧めします。パスワードを月次または週次でリセットすると、製品をより安全に保護できます。すべてのパスワード設定やその他のセキュリティ設定は、インストール実行者とエンドユーザーの責任です。

5. チェックボックスを選択して、作成したユーザーに権限を割り当てます。
6. **オプション**：ドロップダウンリストのコピーからユーザーを選択し、選択したユーザーの権限をコピーします。
7. **オプション**：このユーザーのデフォルトの権限を復元するには、**[デフォルトの権限]**をクリックします。
8. **[保存]**をクリックします。



注記

クライアントソフトウェアには最大 50 のユーザーアカウントを追加できます。

ユーザーアカウントが正常に作成されると、そのユーザーアカウントはアカウント管理ページのユーザーリストに追加されます。

9. オプション：ユーザーアカウントを作成した後、以下の操作を行ってください。

**ユーザー
の編集** リストからユーザーを選択し、**[ユーザーの編集]**をクリックしてユーザー情報を編集します。



スーパーユーザーのパスワードのみを編集できます。

**ユーザー
の削除** リストからユーザーを選択して、**[ユーザーの削除]**をクリックします。



スーパーユーザーを削除することはできません。

コピー先 スーパーユーザーおよび管理者ユーザーの場合、**[コピー先]**をクリックして他のユーザーに権限をコピーすることができます。

第 24 章 システム設定

一般パラメータ、ライブビューおよび再生のパラメータ、画像パラメータ、ファイル保存パス、ライブビューのアイコンと再生のツールバー設定、キーボードとジョイスティックのショートカット、アラーム音、メール設定、ビデオインターコムパラメータ、アクセスコントロール設定、セキュリティ証明書を設定することができます。

24.1 一般パラメータの設定

ログの有効期限、ネットワークパフォーマンスなど、頻繁に使用されるパラメータを設定できます。

以下のタスクは、上記のパラメータの設定を行う必要がある場合に行います。

手順

1. システム設定ページを開きます。
2. **[一般]**タブをクリックして、一般設定ページにアクセスします。
3. 一般パラメータを設定します。

ログの有効期限

ログファイルを保存するための時間。有効期限が切れると、ファイルが削除されます。

ネットワークパフォーマンス

ネットワークの状態を**正常**、**良好**、**最高**に設定します。

最大モード

最大化モードに従い、**最大化**または**フルスクリーン**を選択します。**最大化モード**は、画面を最大化し、タスクバーを表示します。**フルスクリーンモード**では、フルスクリーンモードでクライアントを表示できます。

オートログインの有効化

クライアントソフトウェアに自動的にログインします。

デフォルトのパスワードを使用する際にセキュリティプロンプトのポップアップ

追加したデバイスのデフォルトのパスワードが変更されていない場合は、通知のためのプロンプトがポップアップします。

アラームによるポップアップ画像を有効にする

アラームトリガー時に画像ポップアップを有効にします。アラームイベントのインターフェイスで、またはをクリックして、画像ポップアップを有効/無効にすることもできます。

アラームによるポップアップ画像機能が有効になっている場合の最小化されたクライアントのアラーム画像のポップアップ

アラームによるポップアップ画像機能が有効になっている場合、クライアントが最小化されたときにポップアップするアラーム画像を有効にします。



注記

アラームによるポップアップ画像を有効にするには、「**アラームの設定**」を参照してください。

自動時刻の同期

指定した時点でクライアントを動作させている PC の時間と、追加したデバイスの時間を自動的に同期します。

キーボードとジョイスティックを有効にする

キーボードまたはジョイスティックを有効にします。有効にしたら、キーボードとジョイスティックのショートカットを設定できます。



注記

詳細については、「**キーボードとジョイスティックのショートカットを設定する**」を参照してください。

登録管理サーバーのポート

登録管理サーバー用の EHome ポート。ポート番号は 2000～65535 です。デフォルトのポート番号は 7660 です。



注記

有効にするために、クライアントを再起動します。

アラーム管理サーバーのポート

アラーム管理サーバー用の EHome ポート。ポート番号は 2000～65535 です。デフォルトのポート番号は 7300 です。



注記

有効にするために、クライアントを再起動します。

Web サーバーのポート

Web サーバー経由のデバイスリモート設定用のポート。ポート番号は 1～65535 でなければなりません。デフォルトのポート番号は 80 です。



注記

有効にするために、クライアントを再起動します。

4. [保存]をクリックします。

24.2 ライブビューおよび再生パラメータの設定

画像の形式、プリプレイ期間など、ライブビュー、再生パラメータを設定できます。

以下のタスクは、ライブビューおよび再生パラメータを設定する必要がある場合に実行します。

手順

1. システム設定ページを開きます。
2. **[ライブビューおよび再生]**タブをクリックします。
3. ライブビューおよび再生パラメータを設定します。

ダウンロードしたビデオファイルのマージ

日付順にビデオファイルをダウンロードするために、結合するビデオファイルの最大サイズを設定します。

保存されているビデオファイルの検索

ローカルデバイス、ストレージサーバー、またはストレージサーバーとローカルデバイスの両方に保存されているビデオファイルを検索して再生します。

プリプレイ時間

イベント再生のプリプレイ時間を設定します。デフォルトでは **30 秒** です。

画面のツールバー表示の有効化

ライブビューまたは再生の各表示ウィンドウにツールバーを表示します。

ストレージサーバー上のビデオファイルの再生を優先する

ストレージサーバーに記録されているビデオファイルを優先して再生します。それ以外の場合は、ローカルデバイスに記録されているビデオファイルを再生します。

再起動後に最新のライブビューステータスを再開

クライアントに再びログインしたときに、最新のライブビューステータスを再開します。

単一のライブビューでのバックグラウンドビデオの切断

マルチウィンドウ分割モードで、ライブビデオをダブルクリックし、**1** ウィンドウ分割モードで表示すると、その他のライブビュービデオは、リソースを保存するために停止します。

ズーム用ホイールの有効化

PTZ モードでビデオのズームインまたはズームアウト、またはデジタルズームモードでビデオのズームインまたは復元にマウスホイールを使用します。これにより、マウスをスクロールしてライブビデオを直接ズームインまたはズームアウト（または復元）することができます。

VCA 再生中に関係のないビデオをスキップする

VCA 再生中に関係のないビデオをスキップすると、VCA 再生中に関係のないビデオを再生されません。

4. **[保存]**をクリックします。

24.3 画像のパラメータを設定する

表示スケール、再生パフォーマンスなど、クライアントの画像パラメータを設定できます。画像パラメータを設定する必要がある場合は、次の作業を実行してください。

手順

1. システム設定ページを開きます。
2. **[画像]**タブをクリックして、画像設定インターフェイスにアクセスします。
3. 画像パラメータを設定します。

表示スケール

ライブビューまたは再生のビデオの表示スケール。フルスクリーン、**4:3**、**16:9**、または元の解像度に設定できます。



注記

表示スケールは、ライブビューモジュールでも設定できます。詳細については、「**ライブビュー**」を参照してください。

再生パフォーマンス

ライブビデオの再生パフォーマンス。最短遅延、バランス、滑らかとして設定できます。

ストリームタイプの自動変更

表示ウィンドウのサイズに合わせて、ライブビューでのビデオストリーム（メインストリームまたはサブストリーム）を自動的に変更します。



注記

ウィンドウ分割が 9 よりも大きい場合は、サブストリームに自動的に切り替わります。

優先されるハードウェアデコーディング

ライブビューおよび再生のハードウェアデコーダの有効化を設定します。ハードウェアデコーダを利用することで、ライブビューまたは再生中に **HD** ビデオを再生する際にデコーディングパフォーマンスを向上し、**CPU** 使用率を低減させることができます。

ハイライトの有効化

ライブビューおよび再生で、緑色の長方形で検出したオブジェクトをマークします。

トランザクション情報の表示

ライブビュー画像にトランザクション情報が表示されます。

VCA ルール

ライブビューに **VCA** ルールが表示されます。

高速再生用フレーム抽出の有効化

ビデオを高速（8 倍速以上）で再生する際は、この機能を無効にして再生画像をより滑らかにして詳細を表示することができます。

キャプチャー画像の温度の表示

サーマルデバイスの場合、キャプチャーした画像に温度情報を表示するように設定します。



注記

この機能を有効にした後、[システム設定]→[ライブビューおよび再生]の画像フォーマットが JPEG に変わり、編集することができません。

4. [保存]をクリックします。

24.4 ファイルの保存パスの設定

マニュアル録画によるビデオファイル、キャプチャー画像とシステム構成ファイルは、ローカル PC に保存されます。これらのファイルの保存パスは設定できます。

以下のタスクは、ファイルの保存パスを設定する必要がある場合に実行します。

手順

1. システム設定ページを開きます。
2. [ファイル]タブをクリックして、ファイル保存パス設定ページにアクセスします。
3.  をクリックして、ファイルのローカルパスを選択します。
4. [保存]をクリックします。

24.5 ツールバーで表示されるアイコンの設定

ライブビューおよび再生ウィンドウのツールバーのアイコンと順序はカスタマイズできます。どのアイコンを表示し、アイコンの順序をセットするように設定することができます。

以下のタスクは、ツールバーに表示されるアイコンを設定する必要があるときに実行します。

手順

1. システム設定ページを開きます。
2. [ツールバー]タブをクリックして、ツールバー設定ページにアクセスします。
3. ツールバーに表示するアイコンを選択します。
4. オプション：ツールバーに表示するときにアイコンをドラッグして、アイコンの順序を設定します。

表 24-1 ライブビューツールバーのアイコン

	ライブビューの停止	表示ウィンドウのライブビューを停止します。
	キャプチャー	ライブビュープロセスで画像をキャプチャーします。キャプチャー画像は、PC に保存されます。
	録画	マニュアル録画を開始します。ビデオファイルは PC に保存されます。
	PTZ コントロール	スピードドームの PTZ モードを開始します。ビューでクリックしてドラッグし、PTZ コントロールを行います。
	双方向音声	ライブビューのデバイスとの双方向音声を開始します。
	デジタルズーム	デジタルズーム機能を有効化します。機能を無効化するには、もう一度クリックします。
	簡易再生	インスタント再生モードに切り替えます。
	リモート設定	ライブビューのカメラの遠隔設定ページを開きます。

表 24-2 再生ツールバーのアイコン

	キャプチャー	ライブビュープロセスで画像をキャプチャーします。キャプチャー画像は、PC に保存されます。
	録画	マニュアル録画を開始します。ビデオファイルは PC に保存されます。
	デジタルズーム	デジタルズーム機能を有効化します。機能を無効化するには、もう一度クリックします。
	ダウンロード	カメラのビデオファイルをダウンロードします。これらは PC に保存されます。ファイル別もしくは日付別でダウンロードすることを選択できます。

5. [保存]をクリックします。

24.6 キーボードとジョイスティックのショートカットを設定する

キーボードをクライアントに接続して、PTZ カメラを制御するために使用することができます。キーボードやジョイスティックのショートカットを設定すると、よく使用する操作に対してすばやく簡単にアクセスできます。

キーボードとジョイスティックを設定する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順



注記

この設定ページは、一般設定でキーボードとジョイスティックを有効にした後に表示されます。詳細については、「**一般パラメータを設定する**」を参照してください。

1. システム設定ページを開きます。
2. **[キーボードとジョイスティック]**のタブをクリックして、キーボードとジョイスティックのショートカット設定ページにアクセスします。
3. クライアントをインストール済みの PC にキーボードが接続されている場合、キーボードのドロップダウンリストから **COM** ポートを選択します。
4. キーボードとジョイスティックのショートカットを設定します。
 - 1) リストから特定の機能を選択します。
 - 2) **PC** キーボード、**USB** ジョイスティック、または **USB** キーボード列の下の項目フィールドをダブルクリックします。
 - 3) ドロップダウンリストから複数のキー操作または番号を選択して、キーボードまたは **USB** ジョイスティック機能のショートカットとして設定します。
5. **[保存]**をクリックします。

24.7 アラーム音を設定する

モーション検知アラーム、ビデオ例外アラームなどのアラームがトリガーすると、クライアントは警告音を出すように設定することができ、警告音の音を設定することも可能です。

警告音を設定する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. システム設定ページを開きます。
2. **[警告音]**タブをクリックして、警告音設定ページにアクセスします。
3. **オプション**：をクリックして、異なるアラームのローカルパスから音声ファイルを選択します。



注記

リストには **6** つの定義済みアラーム音タイプがあります。

4. **オプション**：カスタムアラーム音を追加します。
 - 1) **[追加]**をクリックして、カスタマイズしたアラーム音を追加します。
 - 2) **[タイプ]**フィールドをダブルクリックして、必要に応じてアラーム音の名称をカスタマイズします。
 - 3) をクリックして、異なるアラームのローカルパスから音声ファイルを選択します。
5. **オプション**：音声ファイルのテストに対しては、をクリックします。
6. **オプション**：追加したカスタムアラーム音を選択し、**[削除]**をクリックしてそれを削除します。

7. **[保存]**をクリックします。



音声ファイルのフォーマットは **WAV** のみです。

24.8 メールのパラメータを設定する

システムアラームが発生したときにメール通知を送信できます。特定の受信者にメールを送信するには、続行する前にメールの設定を構成する必要があります。

メールパラメータを設定する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. システム設定ページを開きます。
2. **[メール]**タブをクリックして、メール設定インターフェイスにアクセスします。
3. 必要な情報を入力します。

サーバー認証（オプション）

メールサーバーで認証が必要な場合は、このチェックボックスを選択して、認証を使用してサーバーにログインし、メールアカウントのログインユーザー名とパスワードを入力します。

暗号化のタイプ

無線をチェックして**非暗号化**、**SSL** または **STARTTLS** を選択できます。

ポート

メールサービスの通信ポートを入力してください。デフォルトのポートは **25** です。

ユーザー名

[サーバー認証]がチェックされている場合、送信者のメールアドレスのユーザー名を入力します。

パスワード

[サーバー認証]がチェックされている場合、送信者のメールアドレスのパスワードを入力します。

受信者 1～3

受信者のメールアドレスを入力します。最大 **3** 名までの受信者を設定できます。

4. オプション：メール送信のセキュリティを強化するには、**[SSL を有効にする]**にチェックを入れます。
5. オプション：テスト用に受信者にメールを送信するには、**[テストメールの送信]**をクリックします。
6. **[保存]**をクリックします。

24.9 ビデオインターコムのパラメータを設定する

実際のニーズに応じて、ビデオインターコムのパラメータを設定できます。ビデオインターコムのパラメータを設定する必要がある場合は、この作業を実行してください。

手順

1. システム設定ページを開きます。
2. **[ビデオインターコム]**タブをクリックして、ビデオインターコムの設定ページにアクセスします。
3. 必要な情報を入力します。

着信音

をクリックして、屋内ステーションの着信音のローカルパスから音声ファイルを選択します。オプションで、音声ファイルのテストに対して  をクリックすることができます。

4. **[保存]**をクリックします。

24.10 アクセスコントロールのパラメータを設定する

システムがアクセスコントロールデバイスからクライアントにアップロードされていないアクセスコントロールイベントを取得して、クライアントのデータベースに保存するように時間を設定することができます。例えば、デバイスが別のクライアント **B** によって警備している場合、警備期間中にトリガーしたイベントを現在のクライアント **A** へアップロードすることができません。クライアント **A** が再度デバイスを起動すると、この機能を介してデバイスからクライアント **A** にこれらのイベントを同期させることができます。

アクセスコントロールパラメータを設定するには、次の手順を実行します。

手順

1. システム設定ページを開きます。
2. **[アクセスコントロール]**タブをクリックして、アクセスコントロール設定インターフェイスにアクセスします。
3. この機能を有効にして同期の時間を設定するには、**[アクセスコントロールイベントの自動同期]**にチェックを入れます。
4. **[保存]**をクリックします。

24.11 セキュリティ証明書を管理する

データセキュリティの目的に対し、クライアントおよび追加されたサーバー（ストリームメディアサーバー）のセキュリティ証明書は同じでなければなりません。

ストリームメディアサーバーをクライアントに追加する前に、クライアントに保存されているサービス証明書をエクスポートし、それをストリームメディアサーバーにインポートする必要があります。複数のクライアントが同じサーバーを使用している場合は、クライアントとサーバーのセキュリティ証明書を同じにしなければなりません。

24.11.1 クライアントから証明書をエクスポートする

現在のクライアントからセキュリティ証明書をエクスポートし、エクスポートした証明書ファイルをサーバーまたは他のクライアントにインポートできます。

クライアントからセキュリティ証明書をエクスポートするには、次の手順を実行します。

手順

1. システム設定ページを開きます。
2. **[セキュリティ証明書]**をクリックして、セキュリティ証明書インターフェイスにアクセスします。
3. 証明書ファイルをローカル PC に保存します。



証明書ファイルは XML 形式です。

4. **[保存]**をクリックします。



- ・ 証明書をエクスポートした後、サービスと共にインストールされた PC に証明書をコピーして、ストリームメディアサーバーまたは他のクライアントにインポートできます。
 - ・ ストリームメディアサーバーをインポートするには、「**証明書をストリームメディアサーバーにインポートする**」を参照してください。
-

24.11.2 クライアントへ証明書をインポートする

同じサーバーにアクセスする複数のクライアントがある場合、同じ証明書をクライアントとサーバーにインポートする必要があります。

開始前

いずれかのクライアントからセキュリティ証明書をエクスポートする必要があります。



注記

詳細については、「**クライアントから証明書をエクスポートする**」を参照してください。

クライアントにセキュリティ証明書をインポートするには、次の手順を実行します。

手順

1. 他のクライアントからエクスポートされた証明書ファイルをローカル PC にコピーします。
 2. システム設定ページを開きます。
 3. **[セキュリティ証明書]**をクリックして、セキュリティ証明書インターフェイスにアクセスします。
 4. **[インポート]**をクリックします。
 5. ローカル PC から証明書ファイルを選択します。
 6. **[保存]**をクリックします。
-



注記

有効にするために、システムを再起動します。

付録 A カスタム Wiegand ルールの説明

Wiegand44 を例に挙げると、[カスタム Wiegand]タブの設定値は以下のとおりです。

カスタム Wiegand 名	Wiegand44				
全長	44				
変換ルール（10 進数）	byFormatRule[4]=[1][4][0][0]				
パリティモード	XOR パリティ				
奇数パリティスタートビット		長さ			
偶数パリティスタートビット		長さ			
XOR パリティスタートビット	0	1 グループあたりの長さ	4	全長	40
カード ID スタートビット	0	長さ	32	10 進数	10
サイトコードスタートビット		長さ		10 進数	
OEM スタートビット		長さ		10 進数	
メーカーコードスタートビット	32	長さ	8	10 進数	3

Wiegand データ

Wiegand データ = 有効データ + パリティデータ

全長

Wiegand データの長さ。

トランスポートルール

4 バイト。有効なデータの組み合わせのタイプを表示します。例では、カード ID とメーカーコードの組み合わせが表示されます。有効なデータは、単一のルール、または複数のルールの組み合わせです。

パリティモード

Wiegand データの有効なパリティ。奇数パリティまたは偶数パリティを選択できます。

奇数パリティスタートビットおよび長さ

奇数パリティを選択した場合、これらの項目が利用可能です。奇数パリティスタートビットが 1 で長さが 12 の場合、システムはビット 1 から奇数パリティの計算を開始します。これは 12 ビットを計算します。結果はビット 0 になります。（ビット 0 は最初のビットです）。

偶数パリティスタートビットおよび長さ

偶数パリティを選択した場合、これらの項目が利用可能です。偶数パリティスタートビットが 12 で長さが 12 の場合、システムはビット 12 から偶数パリティの計算を開始します。これは 12 ビットを計算します。結果は最後のビットになります。

XOR パリティスタートビット、グループあたりの長さおよび全長

XOR パリティを選択した場合、これらの項目が利用可能です。上記の表に応じてスタートビットは 0、グループあたりの長さは 4、全長は 40 です。これは、システムがビット 0 から計算して、4 ビットごとに計算し、計 40 ビット（合計 10 グループ）を計算することを意味します。結果は最後の 4 ビットになります。（結果の長さは、グループごとの長さと同じです）

カード ID スタートビット、長さ、10 進数

変換ルールを使用する場合、これらの項目が利用可能です。上記の表に応じてカード ID スタートビットは 0、長さは 32 および 10 進数は 10 です。これはビット 0 からカード ID を表す 32 ビットがあることを示します。（ここでの長さはビット単位で計算されます）また、10 進数の桁数は 10 ビットです。

サイトコードスタートビット、長さ、10 進数

変換ルールを使用する場合、これらの項目が利用可能です。詳細については、カード ID の説明を参照してください。

OEM スタートビット、長さ、10 進数

変換ルールを使用する場合、これらの項目が利用可能です。詳細については、カード ID の説明を参照してください。

メーカーコードスタートビット、長さ、10 進数

変換ルールを使用する場合、これらの項目が利用可能です。上記の表に応じてメーカーコードスタートビットは 32、長さは 8 および 10 進数は 3 です。これは、ビット 32 から 8 ビットがメーカーコードであることを表します。（ここでの長さはビット単位で計算されます）また、10 進数の長さは 3 です。

付録 B トラブルシューティング

クライアントソフトウェアを操作する際の一般的な症状は次のとおりです。問題を解決するために考えられる原因と対応する解決策を提供します。

B.1 特定のデバイスのライブビューを取得できませんでした。

問題

特定のデバイスのライブビューを取得できませんでした。

考えられる理由

- ネットワークが不安定であるか、またはネットワークパフォーマンスが十分ではありません。
- デバイスがオフラインになっています。
- リモートデバイスへのアクセスが多すぎるため、デバイスの負荷が高くなっています。
- 現在のユーザーにはライブビューに関する権限がありません。
- クライアントソフトウェアのバージョンが必要なバージョンより古いです。

解決策

- ネットワークの状態を確認し、PC 上の他の未使用プロセスを無効にしてください。
- デバイスのネットワーク状態を確認してください。
- デバイスを再起動するか、またはデバイスへの他のリモートアクセスを無効にしてください。
- 管理者ユーザーでログインして、もう一度やり直してください。
- 最新バージョンのクライアントソフトウェアをダウンロードしてください。

B.2 ローカル記録とリモート記録が混同しています。

問題

ローカル記録とリモート記録が混同しています。

解決策

- このマニュアルのローカル記録は、ローカルデバイスの HDD、SD/SDHC カードにビデオファイルを保存する記録を指します。
- リモート記録とは、リモートデバイス側のクライアントから指示された記録動作を指します。

B.3 ビデオファイルのダウンロードに失敗したか、ダウンロード速度が遅すぎます。

問題

ビデオファイルのダウンロードに失敗したか、ダウンロード速度が遅すぎます。

考えられる理由

- ネットワークが不安定であるか、またはネットワークパフォーマンスが十分ではありません。
- NIC タイプに互換性がありません。
- リモートデバイスへのアクセスが多すぎます。
- 現在のユーザーには再生に関する権限がありません。
- クライアントソフトウェアのバージョンが必要なバージョンより古いです。

解決策

- ネットワークの状態を確認し、PC 上の他の未使用プロセスを無効にしてください。
- クライアントを実行している PC をデバイスに直接接続して、NIC カードの互換性を確認してください。
- デバイスを再起動するか、またはデバイスへの他のリモートアクセスを無効にしてください。
- 管理者ユーザーでログインして、もう一度やり直してください。
- 最新バージョンのクライアントソフトウェアをダウンロードしてください。

付録 C FAQ（よくある質問）

クライアントソフトウェアを操作するときによく寄せられる質問は次のとおりです。ユーザーの問題解決に役立つよう、適切に対処致します。

C.1 ライブビュー中に、エラーコード 91 のエラーメッセージが表示されるのはなぜですか？

質問

ライブビュー中に、エラーコード 91 のエラーメッセージが表示されるのはなぜですか？

回答

複数のウィンドウでのライブビューの場合、チャンネルがサブストリームに対応していない可能性があります。[システム設定]→[画像]のストリームタイプの自動変更機能を無効にして、ライブビューに適切なストリームタイプを選択する必要があります。

C.2 ライブビュー中に、なぜ画像がぼやけていたり、滑らかではないのでしょうか？

質問

ライブビュー中に、なぜ画像がぼやけていたり、滑らかではないのでしょうか？

回答

ビデオカードのドライバーを確認してください。ビデオカードのドライバーを最新バージョンに更新することを強くお勧めします。

C.3 しばらく実行した後に、なぜメモリがリークしてクライアントがクラッシュしたのでしょうか？

質問

しばらく実行した後に、なぜメモリがリークしてクライアントがクラッシュしたのでしょうか？

回答

クライアントソフトウェアのインストールディレクトリからメモ帳で **Setup.xml** ファイルをノートパッドで開き、**EnableNetandJoystickCheck** の値を「**false**」に変更します。クライアントを再起動し、それでも問題が解決しない場合は、当社の技術サポートに連絡してください。

C.4 ライブ中にストリームメディアサーバーを介してストリームを得る際、エラーコード **17** のメッセージが表示されるのはなぜですか？

質問

ライブ中にストリームメディアサーバーを介してストリームを得る際、エラーコード **17** のメッセージが表示されるのはなぜですか？

回答

ストリームメディアサーバーのポートマッピング、特に **RTSP** ポートを確認してください。

付録 D エラーコード

コード	エラー名	説明
iVMS-4200		
317	ビデオがありません。	ユーザーに再生権限がない場合はプロンプトが表示されます。
HCNetSDK.dll		
1	ユーザー名またはパスワードが無効です。	
2	権限がありません。	デバイスのユーザーに十分な権限がありません。
4	チャンネル番号が無効です。	リモートスクリーン制御のライブビューでプロンプトが表示されます。
5	これ以上デバイスを接続できません。	
7	デバイスの接続に失敗しました	
23	対応していません。	
29	操作に失敗しました。	
43	バッファがありません。	デバイスを追加するときにプロンプトが表示され、デバイスポートが Web サーバーによって占有されています。
55	IP アドレスが無効です。	
56	MAC アドレスが無効です。	
91	チャンネルが操作に対応していません。	サブストリームの取得に失敗したときにプロンプトが表示されます。
96	デバイスが DDNS に登録されていません。	
153	ユーザーがロックされています。	
250	デバイスが有効化されていません。	
404	チャンネル番号のエラー、またはデバイスがサブストリームに対応していません。	サブストリームの取得に失敗した場合、またはサブストリームが存在しない場合はプロンプトが表示されます。
424	RTSP SETUP のデータを受信できませんでした。	外部ネットワーク経由でソフトウェア DVS のライブビューを追加するときにプロンプトが表示されます。

iVMS-4200 クライアン

800	これ以上帯域幅を使用することはできません。	
Playctrl.dll		

コード	エラー名	説明
2		ストリームが、ビデオ&オーディオストリームではありません。
6		64 ビットオペレーティングシステムで H.265 を採用すると、再生ウィンドウが黒くなります。
SMS		
3		ソフトウェアとストリームメディアサーバー間の接続問題。
17		ストリームメディアサーバーとデバイス間のストリーミング問題。



See Far! Go Further